野市町埋蔵文化財発掘調査報告書　第６集

下　ノ　坪　遺　跡　Ⅱ

ー農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事に伴う発掘調査報告書ー

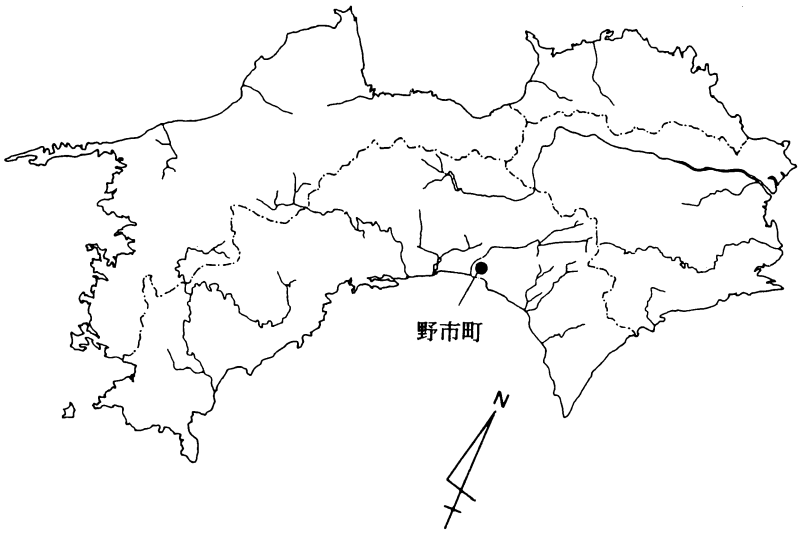
本　文　編

１９９８．３

高知県野市町教育委員会

下ノ坪遺跡 Ⅱ

本文編



1998. 3

高知県野市町教育委員会

序

21世紀を目前に現代社会はめまぐるしく変化をしています。

太陽と水と緑の町野市町が、人口増加の一途をたどり発展し続けていることはよろこばしい限りです。

開発の発展に伴い発掘調査も行われてまいりました。農業農村活性化、農業構造改善事業上岡地区区画整備工事に伴う発掘調査の結果、下ノ坪において四仙騎獣八稜鏡やガラス小玉が出土し遺構でも官衙的な掘立柱建物跡等が発見され野市の歴史を解明するうえでも重要な資料が発見されました。

ここに下ノ坪遺跡Ⅱを野市町埋蔵文化財発掘調査報告書の第6集として発刊する運びとなりました。関係者各位に深甚なる敬意を申しあげ、この報告書が町民の郷土愛へのつながりとなり、町発展の大事な糧となることを心から期待しております。

平成10年3月

野市町教育長　橋　田　速　生

例　　言

1　本書は、野市町教育委員会が平成６、７、８年度に実施した農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事に伴う下ノ坪遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2　下ノ坪遺跡は、高知県香美郡野市町上岡字下ノ坪に所在する。

3　発掘調査は平成６年１月５日から３月15日、同６月７日から平成８年３月28日、同４月８日から７月16日まで実施した。

4　総調査面積は6,230㎡であり、各年度、調査区ごとの面積は第Ⅲ章のとおりである。

5　調査体制

(1)　平成６、７年度

小松　大洋（野市町教育委員会社会教育課　社会教育主事）

池澤　俊幸（高知県文化財団埋蔵文化財センター　調査員）

(2)　平成８年度

小松　大洋（野市町教育委員会社会教育課　社会教育主事）

出原　恵三（高知県文化財団埋蔵文化財センター　調査第３係長）

池澤　俊幸（　　同　　調査員）

行藤たけし（　　同　　非常勤職員）

6　本書の編集は出原が行い、執筆は以下のように分担した。

第Ⅰ・Ⅱ章（小松）

第Ⅲ章（池澤）

第Ⅳ章Ｃ・Ｅ区、Ｆ区（池澤）、Ｈ区(1)（池澤）、Ｈ区(2)弥生時代（出原）、
Ｈ区(3)古代（池澤）、Ｊ区（小松）

第Ⅴ章　１．下ノ坪遺跡の弥生後期土器と集落（出原）
２．南四国における弥生時代の鉄器について（小松）
３．南四国における古代前期の土器様相
―下ノ坪遺跡の成果を中心として―（池澤）
４．下ノ坪遺跡出土の八稜鏡、「緑釉単彩陶器」、古代掘立柱建物（池澤）

第Ⅵ章　１．高知県下ノ坪遺跡出土の金属製品、赤彩土器の化学的調査（成瀬）
２．下ノ坪遺跡竪穴住居址出土の骨同定報告（パリノ・サーヴェイ㈱）

7　本報告書を作成するにあたっては、青銅製品及び赤色塗彩土師器の顔料について成瀬正和（宮内庁正倉院事務所保存課）の手を煩わせ、玉稿を頂いた。また、弥生土器について大久保徹也（香川県埋蔵文化財センター）、獣歯について松井章（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター）、鉄器について村上恭通（愛媛大学法文学部）よりそれぞれ貴重なご教示を頂いた（敬称略、五十音順）。八稜鏡の比較については長岡京市教育委員会・大宰府市教育委員会の多大な配慮を得た。

8　平成７年度の調査においては松村信博（高知県埋蔵文化財センター主任調査員）、本報告書作成においては山本純代（同調査補助員）、久家隆芳（同調査員）、更谷大介（野市町教育委員会臨時職員）の助力を得た。

9　発掘現場作業員は下記の方々である。記録的な暑夏と二度の冬を通して、精力的に作業に従事された方々に対し、記して敬意を表す。

貞岡重道・佐野宣重・佐々木龍男・吉川徳子・吉川誠喜・大黒貞之・町田恵子・森田彩子・岩崎一歩・近江川和成・楠瀬正人・田代　勝・田島一徳・浜田吉宏・松木宏史・竹村保夫・森本久美・村武　重・大和田延子・内田愛子・内田晴美・池宣　宏・小松一仁・石川　功・岡内美行・筒井　正・松崎邦久

10　重機による表土剝ぎ、排土運搬、埋め戻し、測量については共運工業の石川康人、石川武史、小松和則、森岡和信、秋山純一氏の便宜・助力を得た。

11　遺物整理、報告書作成においては下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

岩貞泰代・岩本須美子・大原喜子・尾崎富貴・小野山美香・川久保香・河村真美・高橋加奈・田村美鈴・浜田雅代・東村知子・松木富子・松山真澄・森　綾子・矢野　雅・山中美代子・山本由里・横飛美紀

12　検出遺構のナンバーは、平成８年度刊行の「下ノ坪遺跡Ⅰ」からの通しナンバーである。但し、ピットのナンバーは各調査区単位である。

13　出土遺物には年度毎に「94-29NS」「95-8NS」「96-8NS」と注記し、野市町教育委員会で保管している。

Ｈ区全景（北より）

凡　　例

1　図版縮尺

遺構：竪穴住居址（ST）1/60、土坑（SK）1/40、ピット（P）1/40、遺物出土状況1/20又は1/30。

遺物：弥生・古墳時代の土器1/4、古代の土器（煮炊具・貯蔵具を除く）1/3、土師器甕・カマド・須恵器甕1/4又は1/3、鉄滓1/3。

以上を原則として適当な縮尺を使用し、各図版に記した。

2　図版トーン

遺構：　焼土多含　　炭化物　　朱の散布

砂礫層　　石

遺物：被熱 又は
須恵器の暗発色部

3　赤彩土師器、黒色土器、緑釉陶器は図版ではそれぞれ赤、黒、緑の略号を付した。

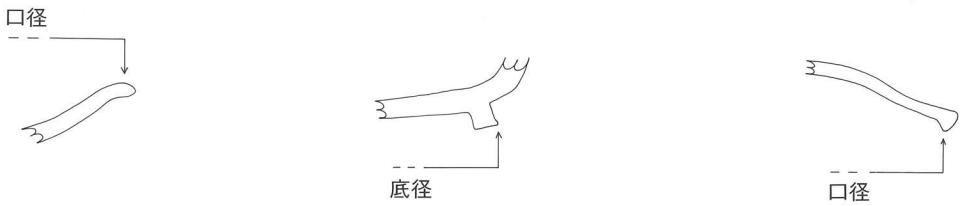
4　土色や遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

5　掘立柱建物を構成するピットの個別番号は、側柱建物については北東隅より時計回りに番号を付した。総柱建物については次のように記号を組み合わせて呼称した。

N ●7 ●8 ●1
↑ ●6 ●2
●5 ●4 ●3

●ハ3 ●ハ2 ●ハ1
●ロ3 ●ロ2 ●ロ1
●イ3 ●イ2 ●イ1

6　遺物計測位置の例



本　文　目　次

第Ⅰ章　調査に至る経過 …… 1
第Ⅱ章　遺跡周辺の地理・歴史的環境 …… 2
　1．地理的環境 …… 2
　2．歴史的環境 …… 2
第Ⅲ章　調査の経過及び方法 …… 5
　1．調査の経過 …… 5
　2．調査の方法 …… 6
第Ⅳ章　調査の成果 …… 9
　1．C・E区 …… 9
　　(1)　調査区の概要と基本層準 …… 9
　　(2)　自然流路SR 2と出土遺物 …… 9
　2．F区 …… 18
　　(1)　調査区の概要と基本層準 …… 18
　　(2)　弥生時代の検出遺構と遺物 …… 18
　　(3)　古墳時代後期の検出遺構と遺物 …… 25
　　(4)　古代の検出遺構と遺物 …… 27
　　(5)　遺物集中 …… 28
　　(6)　包含層出土遺物 …… 28
　3．H区 …… 36
　　(1)　調査区の概要と基本層準 …… 36
　　(2)　弥生時代の検出遺構と遺物 …… 39
　　(3)　古代の検出遺構と遺物 …… 64
　4．J区 …… 156
　　(1)　調査区の概要と基本層準 …… 156
　　(2)　検出遺構と遺物 …… 161
第Ⅴ章　考　　察 …… 200
　1．下ノ坪遺跡の弥生後期土器と集落 …… 200
　2．南四国における弥生時代の鉄器について …… 209
　3．南四国における古代前期の土器様相
　　―下ノ坪遺跡の成果を中心として― …… 222
　4．下ノ坪遺跡出土の八稜鏡、「緑釉単彩陶器」、古代掘立柱建物 …… 263
第Ⅵ章　自然科学分析 …… 266
　1．高知県下ノ坪遺跡出土の金属製品、赤彩土器の化学的調査 …… 266
　2．下ノ坪遺跡　竪穴住居址出土の骨同定報告 …… 270

挿　図　目　次

Fig. 1　調査風景
Fig. 2　下ノ坪遺跡の位置と周辺の遺跡
Fig. 3　下ノ坪遺跡発掘調査区
Fig. 4　Ｃ・Ｅ区基本層準及び出土遺物実測図
Fig. 5　SR 2 上層出土遺物実測図
Fig. 6　SR 2 下層出土遺物実測図
Fig. 7　SR 2 下層出土遺物実測図
Fig. 8　Ｅ区 SR 2 最下層出土遺物実測図
Fig. 9　Ｆ区検出遺構全体図
Fig. 10　Ｆ区検出遺構全体図
Fig. 11　Ｆ区基本層準
Fig. 12　ST 8 平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 13　ST 8 出土遺物実測図
Fig. 14　SK 2 遺物出土状況、セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 15　落込み 1 出土遺物実測図
Fig. 16　SB 2、Ｐ１・２・３、平面・セクション・エレベーション図及び SB 2、SD15・16、Ｐ３出土遺物実測図
Fig. 17　SD 10・11・12出土遺物実測図
Fig. 18　集中１・２出土遺物実測図
Fig. 19　集中２・３出土遺物実測図
Fig. 20　Ｆ区 SR 2 － 5 ～ 7 層、包含層出土遺物実測図
Fig. 21　Ｈ区検出遺構全体図（弥生）
Fig. 22　Ｈ区基本層準（Ｈ本区南壁）
Fig. 23　Ｈ区基本層準
Fig. 24　ST 9 平面・セクション及び出土遺物実測図
Fig. 25　ST 9 出土遺物実測図
Fig. 26　ST 10平面・セクション及び出土遺物実測図
Fig. 27　ST 10出土遺物実測図
Fig. 28　ST 12床面遺物出土状況、同平面・セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 29　ST 12出土遺物実測図
Fig. 30　ST 13河原石・遺物出土状況及び土器接合関係資料
Fig. 31　ST 13平面及びセクション図
Fig. 32　ST 13出土遺物実測図
Fig. 33　ST 13出土遺物実測図

Fig. 34　ST 13出土遺物実測図
Fig. 35　SD 21・22、32・33平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 36　SD 31・SX 7 平面・セクション・エレベーション図及び SX 7 出土土器実測図
Fig. 37　Ｐ３・Ｐ４遺物出土状況及びピット出土遺物実測図
Fig. 38　壷棺１　平面・エレベーション図及び壷棺内出土土器実測図
Fig. 39　壷棺２　平面・エレベーション図及び壺棺内出土土器実測図
Fig. 40　Ｈ区検出遺構全体図（古代）
Fig. 41　SB 8 遺構平面・セクション図
Fig. 42　SB 9 遺構平面・セクション・エレベーション図
Fig. 43　SB 9 出土遺物実測図
Fig. 44　SB 10遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 45　SB 11遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 46　SB 12出土遺物実測図
Fig. 47　SB 13遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 48　SB 14遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 49　SB 15遺構平面・セクション・エレベーション図
Fig. 50　SB 15出土遺物実測図
Fig. 51　SB 16遺構平面・セクション・遺物出土状態図及び出土遺物実測図
Fig. 52　SB 17遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 53　SB 18遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 54　SB 19遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 55　SB 20遺構平面・エレベーション図
Fig. 56　SB 20出土遺物実測図
Fig. 57　SB 20出土遺物実測図及び写真
Fig. 58　SB 21遺構平面・エレベーション図
Fig. 59　SB 21出土遺物実測図
Fig. 60　SB 22遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 61　SB 22出土遺物実測図
Fig. 62　SA 4 遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 63　SA 9 ・10・11出土遺物実測図
Fig. 64　集石遺構１平面・エレベーション図
Fig. 65　SK 16遺物出土状況・遺構平面・セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 66　SK 16出土遺物実測図
Fig. 67　SK 18遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 68　SK 20遺物出土状況・セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 69　SK 20出土遺物実測図

Fig. 70　SK 21遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 71　SK 21出土遺物実測図
Fig. 72　SK 22遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 73　SK 22出土遺物実測図
Fig. 74　SK 22出土遺物実測図
Fig. 75　SK 27遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 76　SK 28遺構平面・セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 77　SK 28出土遺物実測図
Fig. 78　SK 29遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 79　SK 30遺物出土状況・セクション・エレベーション図
Fig. 80　SK 30出土遺物実測図
Fig. 81　SK 30出土遺物実測図
Fig. 82　SK 30出土遺物実測図
Fig. 83　SK 30出土遺物実測図
Fig. 84　SK 31、SK 32遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 85　SK 33遺物出土状況・セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 86　SK 33出土遺物実測図
Fig. 87　SK 34遺構平面・セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 88　SK 34出土遺物実測図
Fig. 89　SK 34出土遺物実測図
Fig. 90　SK 34出土遺物実測図
Fig. 91　SD 26セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 92　SD 26出土遺物実測図
Fig. 93　SD 40遺物出土状況・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 94　SD 40出土遺物実測図
Fig. 95　SX 2 遺物出土状況・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 96　SX 2 出土遺物実測図
Fig. 97　Ｐ14、Ｐ15遺構平面・エレベーション図
Fig. 98　Ｐ14、Ｐ15出土遺物実測図
Fig. 99　Ｐ16、Ｐ17遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 100　SF 1 出土遺物実測図
Fig. 101　包含層出土遺物実測図
Fig. 102　SB 22内出土遺物実測図
Fig. 103　Ｊ区検出遺構全体図
Fig. 104　Ｊ区北壁及び南壁基本層準
Fig. 105　ST 11平面図及びセクション図

Fig. 106　ST 11平面・エレベーション図及びガラス小玉・朱・炭・焼土出土状況図
Fig. 107　ST 11出土遺物実測図
Fig. 108　ST 11出土遺物実測図
Fig. 109　SB 27平面及びエレベーション図
Fig. 110　SK 35遺物出土状況平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 111　SK 36・37遺物出土状況平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 112　SK 38遺物出土状況平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 113　SK 39平面及びエレベーション図
Fig. 114　SK 40・41平面及びエレベーション図
Fig. 115　SK 42平面及びエレベーション図
Fig. 116　SK 43平面及びエレベーション図
Fig. 117　SD 48・SD 50平面・セクション及びエレベーション図
Fig. 118　SD 49平面及びセクション図
Fig. 119　SD 51遺物出土状況平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 120　SD 52平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 121　SD 53平面及びエレベーション図
Fig. 122　SD 55遺物出土状況平面・セクション図
Fig. 123　SD 54遺物出土状況平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 124　SD 55出土遺物実測図
Fig. 125　SD 55出土遺物実測図
Fig. 126　SD 55出土遺物実測図
Fig. 127　SD 55出土遺物実測図
Fig. 128　SD 55出土遺物実測図
Fig. 129　SX 9 平面及びエレベーション図
Fig. 130　SX 10遺物出土状況平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 131　SX 10出土遺物実測図
Fig. 132　SX 11遺物出土状況平面・セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 133　SX 11出土遺物実測図
Fig. 134　表土及び包含層出土遺物実測図
Fig. 135　田村遺跡出土の搬入土器
Fig. 136　『下ノ坪遺跡Ⅰ』報告書の搬入土器
Fig. 137　鉄斧・鉈
Fig. 138　鍬・鋤先・鉄鎌・摘鎌・刀子
Fig. 139　鉄鏃
Fig. 140　鉄鏃・鉄釧・その他
Fig. 141　器種図

Fig. 142　Ⅰ-7期における対比例
Fig. 143　四国西南部における変遷試案図
Fig. 144　杯・皿の形状類型例
Fig. 145　回転台土師器の類型例
Fig. 146　蛍光X線スペクトル図
Fig. 147　下ノ坪遺跡H区Ⅳ層出土佐波理容器実測図

第Ⅰ章　調査に至る経過

野市町下ノ坪遺跡は、「農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事」に伴う緊急発掘調査として平成６年度から平成８年度にかけて発掘調査を行ったものである。

下ノ坪遺跡のある上岡地区は、稲作、ハウス園芸の盛んな地域であるが農道の整備が遅れており、大型機械の導入が困難であり、また一部では用排水路も老朽化しており生産性向上の大きな妨げとなっていた。そのような現状から、近代農業に即応した耕区の区画形態に改善するため、野市町と上岡地区土地改良区が農林水産省の補助を受け5.2haを整備することになった。

一方、当事業区域内には条里区画の遺構が現存しており、また付近からも弥生土器等の散布が見られること等から、埋蔵文化財が遺存するのは必至とみて野市町教育委員会と上岡地区土地改良区が高知県教育委員会の助言を得て協議し、耕作地となる部分については全て盛土工法を採用し、遺跡に影響を及ぼす水路部分と永久構造物となる道路部分を調査することにした。

発掘調査は野市町教育委員会が主体となり(財)高知県埋蔵文化財センターより調査員の派遣を受け平成７年１月より埋蔵文化財の記録保存を行うことを目的として実施した。

計画として、平成７年12月までを予定していたが出土する遺物の量、遺構が予想より多く農林水産省、土地改良区の方々のご理解を得て平成８年７月まで調査を延期し、実施することになった。また、調査の進展に伴い、重要遺物、遺構の検出が相つぎ本来調査区外であった耕作地部分の一部についても、調査区を拡張し、確認調査を行った。この確認調査のため拡張した調査区の遺構については、全て砂を入れ、保存するように努めた。

尚、調査区はＡ区からＯ区に分けて調査し、Ａ・Ｂ・Ｄ・Ｍ・Ｏ区については、平成９年度に下ノ坪遺跡Ⅰとして報告書に出している。

Fig. 1　調査風景

第Ⅱ章　遺跡周辺の地理・歴史的環境

1．地理的環境

下ノ坪遺跡のある野市町は、県中央部に広がる高知平野の東端に位置し県下三大河川のひとつ物部川の下流域に発達した扇状地上にあり、南北約６㎞、東西約４㎞、面積23.15㎢、人口16,000人を越える町である。西は物部川をほぼ境として南国市、東は香我美町と隣接し、北は烏ケ森山系により土佐山田町と分けられる。南は赤岡町、吉川村の２町村と境を接し南端部より約0.3㎞南で土佐湾にのぞむ。

南部には、県都高知市と県東部を結ぶ国道55号線が東西に走っており、高知市より車で約30分と交通の便もよく、県都のベッドタウンとして人口も年々増加しており近年発展し続けている。

主要産業としては、江戸時代、野中兼山により潅漑施設が整備され、かつては豊富な水を生かした米作の穀倉地帯であったが、現在は近郊型の園芸農業が盛んとなっている。

自然地理学的には北東部に聞楽山系の山岳地と物部川左岸側に分布する、古期扇状地を呈する野市台地よりなっている。この聞楽山系は、秋葉山系と烏ケ森山系の２つからなり野市町の約３分の１強の面積をしめる。

秋葉山系は町の北東、香我美町の境にある聞楽山（標高368.2ｍ）より南西方向に高度を減じ、町のほぼ中心の三宝山（別名金剛山、標高213.9ｍ）の南西方向で野市台地の下に沈む。その秋葉山系の北方に平行して烏ケ森山系があり同じく、南西に向かって高度を減じて、物部川にその山脚を浸食されている。

その山地の下に広がる野市台地は古期扇状地性の氾濫源であり、現在の市街地をのせ、海抜高度約40～10ｍと北から南へ高さを減じている。また、台地の西端部分は５ｍほどの段丘崖となって沖積平地となっている。下ノ坪遺跡は、この沖積平地上にあり海抜12ｍを測る。

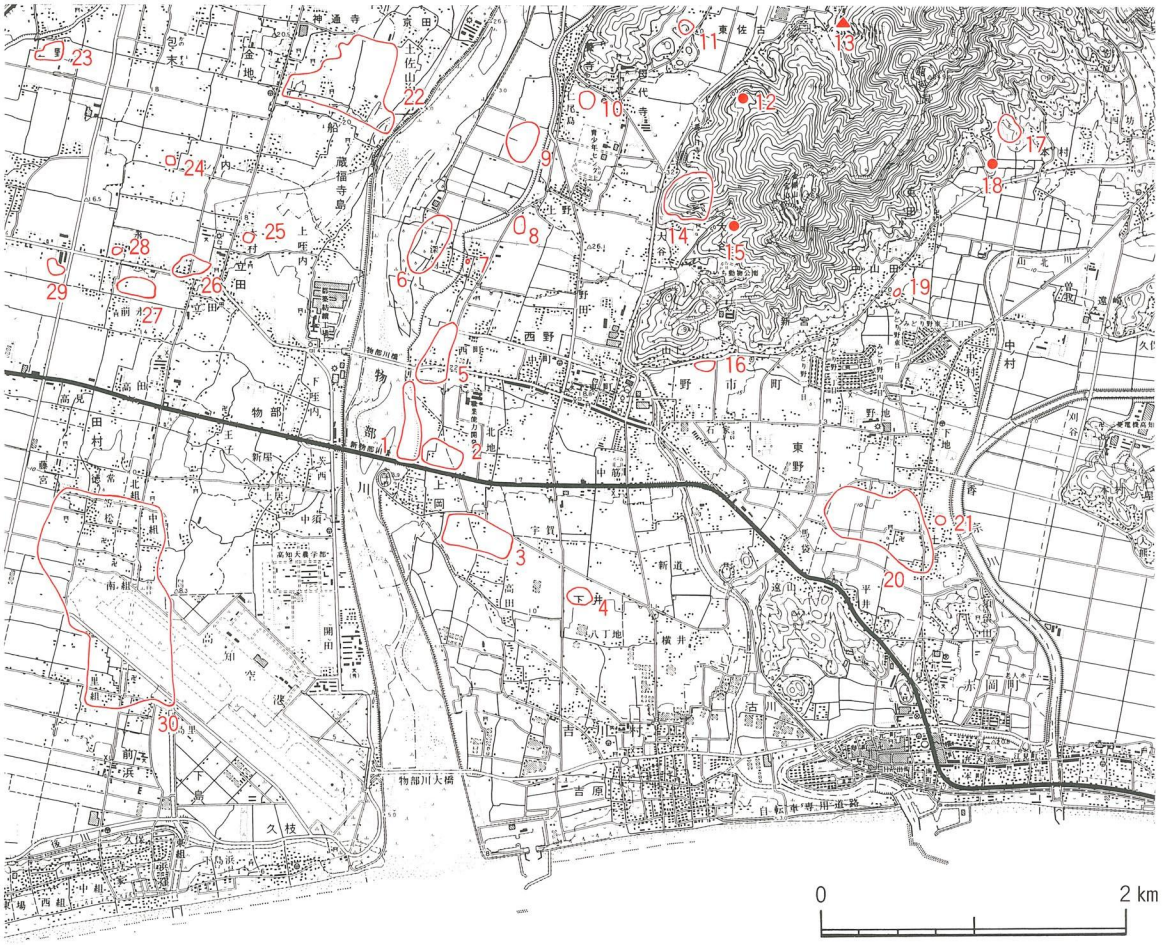
これらの台地は、秋葉山系の西端部の三宝山の山麓部でさえぎられた物部川の堆積物が南東側へ向かって放出されたためできた扇状地性堆積物によって形成されたものである。

物部川が現在の流路を形成したのは、中近世以降のことであり、それ以前はいくつもの流路からなっていたが、中世になるとそれまで多数存在していた小流路の幾つかが堆積作用によりつまっていき、大きな自然堤防が形成され現在の流路になったと考えられる。

この物部川はその昔から交通の手段として使われていたと考えられており、今回の調査でも興味深い結果となった。

2．歴史的環境

下ノ坪遺跡のある野市町は、北部に山塊を背負い南部に平野部が開けている。西は一級河川物部川に隔てられ東は香宗川がほぼ町境と重なっている。物部川は野市町をはじめ、高知平野東部の平野を潤しているが、近世以前においては現在よりも西部を流れており下流に大小の自然堤防を形成し、多くの縄文時代後期以降の遺跡が立地している。その中でも、田村遺跡は弥生時代における南四国最大の拠点集落として知られている。下ノ坪遺跡の南面約２㎞の地点に位置している。



No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	下ノ坪遺跡	弥生～奈良	11	亀山窯跡	平安	21	宝鏡寺跡	中世
2	北地遺跡	弥生	12	溝渕山古墳	古墳	22	岩村遺跡群	弥生～中世
3	高田遺跡	平安	13	アゴデン白岩窯跡	平安	23	シロイ畠遺跡	古墳～中世
4	下井遺跡	平安・中世	14	大谷城跡	中世	24	石神遺跡	弥生～平安
5	西野遺跡群	弥生･古墳･平安	15	大谷古墳	古墳	25	立田土居城跡	中世
6	深渕遺跡	縄文～近世	16	山下遺跡	平安・中世	26	寺ノ前遺跡	弥生～中世
7	深渕城跡	中世	17	本村遺跡	弥生	27	高添遺跡	弥生～平安
8	西上野遺跡	弥生	18	大崎山古墳	古墳	28	平杭遺跡	弥生・古墳
9	深渕北遺跡	弥生～中世	19	中山田土居城跡	中世	29	カントヲリ遺跡	縄文･古墳~平安
10	母代寺遺跡	平安・中世	20	東野土居遺跡	古墳～平安	30	田村遺跡群	縄文～近世

Fig. 2　下ノ坪遺跡の位置と周辺の遺跡

また、その北部の上流右岸の土佐山田町にはヒビノキ遺跡[1]（弥生時代～古墳前期）、その対岸には林田遺跡[2]（弥生～室町）がある。東部を流れる香宗川流域にも、弥生時代初期の土器が発見されるとともに多量の木器が出土した香我美町の下分遠崎遺跡[3]や十万遺跡[4]がある。

町内にも数多くの遺跡があり、最も古いものには深渕遺跡[5]の縄文晩期までさかのぼる。弥生時代になると遺跡数が飛躍的に増大し町内全域に分布する。特に物部川流域は著しく、下ノ坪遺跡より最も近いものとしては東に北地遺跡が隣接しており、北に西野遺跡、深渕遺跡、深渕北遺跡と広く分布している。また東部には先に述べた香我美町の下分遠崎遺跡と同一遺跡と考えられる曽我遺跡[6]が香宗川流域に広がっており、その北側聞楽山地のふもとにはガラス製の勾玉も出土した弥生中期の高地性集落の性格を持つ本村遺跡[7]がある。聞楽山地には中期末の笹ケ峰遺跡や、土器、貝殻、獣骨、魚骨などが出土した後期末の鬼ケ岩屋洞窟遺跡もある。

古墳時代の遺跡も物部川、香宗川両流域に広がり集落が営まれていたことがうかがえる。古墳も聞楽山地に数多くみられ、特に竹ノ内山（溝渕山）古墳は、当時の原形に最も近い状態で残存している横穴式石室の円墳で青銅環、直刀等が出土している。その他にも２次にわたる埋葬面が確認され金環、馬具等多量の貴重な副葬品が出土した大谷古墳[8]をはじめ、小山谷古墳、大崎山古墳がある。また、町内北部の佐古地区にも日吉山古墳群や父養寺古墳等、そして今は消滅しているが上分古墳の存在により、地方豪族のいたことが推察される。

古代の遺跡としては、下ノ坪遺跡の北約１kmに深渕遺跡がある。深渕遺跡は先にも述べたように縄文時代からの複合遺跡であるが、古代の出土物は二彩陶器、緑釉陶器、墨書土器、硯、鉈尾等が出土している。また深渕遺跡は瓦窯跡の指摘もあり、円面硯や風字硯も発見され、官衙的性格を持つ遺跡であったと考えられる。また佐古地区の亀山にも窯跡があり、そこで作られた瓦は平安京大極殿、藤原氏の氏寺である法勝寺に使用されていたことがわかっており、もっぱら中央向けの官窯であったと思われる。その瓦の運輸を考えると下ノ坪遺跡とも深い関係があったと考えられる。このことは、当時の野市町が中央と深いつながりを持ち重要な地であったことを示している。

中世になると、中原秋家、秋道が地頭となり、香宗我部氏と名乗り勢力をふるった。しかし、関ケ原合戦後山内氏入国によりその所領を失い、その後の一国一城制でその居城である香宗城は取り壊された。現在は八幡社と土塁の一部を残すのみである。その南東には菩提寺の宝鏡寺跡と歴代の墓と観音堂がたっている。また、戦国時代の城では佐古地区に前ノ山城、また土佐山田町との境に烏ケ森城がある。

(1) 岡本健児・廣田典夫「高知県ひびのき遺跡」　土佐山田町教育委員会　1997年
(2) 宅間一之・山本哲也・森田尚宏「林田遺跡」　土佐山田町教育委員会　1985年
(3) 高橋啓明・出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査概報」　香我美町教育委員会　1987年
　　高橋啓明・出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査概報」　香我美町教育委員会　1989年
(4) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「十万遺跡発掘調査報告書」　香我美町教育委員会　1988年
(5) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「深渕遺跡発掘調査報告書」　野市町教育委員会　1989年
(6) 高橋啓明・吉原達生「曽我遺跡発掘調査報告書」　野市町教育委員会　1989年
(7) 坂本憲昭「本村遺跡発掘調査報告書」　野市町教育委員会　1993年
(8) 山本哲也「大谷古墳」　(財)高知県文化財団　1991年

第Ⅲ章　調査の経過及び方法

1．調査の経過

調査は平成７年１月５日から実施し、道路と水路の施工予定部分を中心に４×４ｍを基本とした試掘ピットを10ヶ所設定した。設定できたのは調査対象区（以下対象区）北半であったが、調査の結果その東半全域で良好な遺構と包含層が遺存し、時期も複合していることが判明した。これを受けて関係部局が検討した結果、耕地部分については遺構及び包含層に影響しない工法を採用して、本調査区を道路及び水路予定部分に限定すると共に、対象区中央部以南の調査を次年度に実施することとし、平成６年度にはＡ、Ｂ、Ｄ、Ｅ区の発掘調査を行なった。

平成７年度の調査は６月７日から開始し、Ｃ、Ｆ、Ｇ、Ｈ、Ｊ、Ｋ区の調査を実施した。６月25日にはそれまでの調査成果による第１回現地説明会を行い、続いてＦ区以南の調査を実施した。当時の耕作状況により調査区の設定には一定の制限があったが、調査を進めた結果、Ｆ区西端で古墳時代掘立柱建物や弥生時代竪穴住居、Ｊ区で弥生時代竪穴住居や多量の土器を伴う大溝を検出、Ｈ区では多量の遺物を含む包含層と、古代及び弥生時代の多数の遺構群を検出した。南部は対象区北部とは様相が異なり、遺構・包含層が対象区西端の物部川堤防直下まで遺存することが判明したため、協議の結果調査期間を延長し、Ｌ区以南は８年度に調査することとした。

続く平成８年度の調査は平成８年４月８日から実施し、Ｍ、Ｏ区では弥生時代を中心とした遺構群が検出され、当遺跡の全域に集落が展開することが確認された。またＨ区では、古代の大型掘立柱建物の一部が複数検出されていたため、構造物予定地外へも発掘区を拡張した結果、掘立柱建物群や八稜鏡を検出した。７月14日の第２回現地説明会は、地方紙に大きくとり上げられたこともあって多数の見学者が参加して行なわれた。７月16日に機材を撤収し、発掘調査を終了した。

確認された遺跡全体の面積は約45,000㎡、今次発掘調査対象面積は7,265㎡で、うち6,230㎡について発掘調査を実施した。

出土遺物の整理及び報告書の作成については、各調査区における遺物の出土量や時期的なまとまりを勘案して、Ａ、Ｂ、Ｄ、Ｍ、Ｏ区を平成８年度に「下ノ坪遺跡Ｉ」として刊行した。平成９年度の本報告はＣ区、Ｅ区、Ｆ区、Ｈ区弥生時代、Ｈ区古代掘立柱建物・柵列・土坑、Ｊ区について行い、Ｇ、Ｋ、Ｌ、Ｎ区及びＨ区古代溝、性格不明遺構、包含層出土遺物の大半については次回に行うこととした。

各調査区の面積は下表の通りである。

表１　調査区面積表

調査区	Ａ区	Ｂ区	Ｃ区	Ｄ区	Ｅ区	Ｆ区	Ｇ区	Ｈ区	Ｊ区
面積（単位㎡）	102	175	112	250	175	290	194	2,931	552
調査区	Ｋ区	Ｌ区	Ｍ区	Ｎ区	Ｏ区				
面積（単位㎡）	158	138	472.5	81	405				

2．調査の方法

本遺跡の範囲は、物部川の堤防に沿って南北に細長い扇形を呈し、長軸は約550ｍを測る。Fig. 3で示したように調査区は、遺跡東測線をなす段丘斜面下端に沿って延びる南北の道路と、それに直交して延びる道路及び排水路の工事予定部分である。調査にあたっては便宜上東西方向の調査区と、それらによって区切られる南北の調査区に北より順にＡ～Ｏの調査区名を付した。

平成６年度はＡ～Ｆ区の範囲を調査対象とし、試掘ピットを設定すると共に順次本調査を行なった。平成７年度も同様に、Ｆ区以南について調査可能となった部分に随時試掘ピットを設定し、遺構・包含層の広がりを調べると共に本調査を実施した。平成８年度はＨ、Ｌ、Ｍ、Ｎ、Ｏ区の調査を行い、Ｈ区では古代掘立柱建物群についてのみ調査区を拡張しての確認調査を合わせて実施した。

調査の手順としては、耕作土及び旧耕作土を重機を用いて除去した後、包含層掘削、遺構検出、遺構埋土掘削を手作業で進めた。遺物の取上げ、遺構の実測については、各調査区ごとに任意に設定した座標軸に基いて４ｍ方眼をかけ、グリッドNo.を付して地点の記録及び実測を行なった。平面実測及び土層断面図については、20分の１を基本に適宜任意の縮尺を用いた。

現地説明会

x =61650
x =61700
x =61750
x =61800
x =61850
x =61900
x =61950
x =62000
x =62050
x =62100
y =17300
y =17350
y =17400
y =17450
N
田浦河原線
ビューハウス
O 区
M 区
N 区
L 区
J 区
K 区
H 区
G 区
F 区
E 区
D-2 区
D 区
C 区
B 区
A 区
NS-1
NS-2
NS-3
NS-4
NS-5
NS-6
NS-7
NS-8
J-07
J-08
J-09
J-10
J-11
J-12
J-13
J-14
J-15
J-16
J-17
J-18
J-19
J-20
J-21
J-22
J-23
J-24
J-25
J-26
J-27
J-28
J-29
J-30
J-31
J-32
J-33
J-34
J-35
J-36
J-37
J-38
J-39
J-40
J-41
J-42
J-43
J-44
J-45
J-46

第Ⅳ章　調査の成果

1．C・E区

(1)　調査区の概要と基本層準

①　調査区の概要

遺跡の東端、段丘斜面の下端に沿う幅2.5m前後、南北約110mの調査区である。D区との交差部を境にC区、E区と呼称するが、同じ様相を呈するので一括して扱う。遺構は検出されず、自然流路SR 2が存在する。SR 2の幅は調査区より広く、しかも現斜面の下端にほぼ沿っているとみられ、本区はSR 2の埋土を掘り進む形となった。SR 2の規模については、F区との交差部で幅が判明し（Fig. 9・11）、D区との交差部で西肩が検出されている（Fig. 4）。

②　基本層準

C区南端、D区との交差部のセクションを図示した。Ⅲ層は遺跡北半に普遍的に分布するものであり、SR 2－2層に酷似する。先述のように、当地点ではSR 2の西肩が確認できた。C区北端部のⅡ層からは1が出土している。

(2)　自然流路SR 2と出土遺物（Fig. 4～9・11）

遺跡東側の段丘斜面下端に沿うように延びる。F区で確認した幅は6.5～9.2m、深さは75cm前後を測る。セクション図から判るように両肩部は比較的明瞭に立ち上がる。C区北端からF区南端までを全体的に見た場合、底面での明確な比高差は存在しない。遺跡内に普遍的にみられた古代の包含層を切っており、基本的な埋土は四層から成る。2層は砂礫層でC区南～E区北部では人頭大の石を含む。4層も砂礫層で流路幅の中央で層厚を増す。また流路方向でみた場合、C区北半とE区

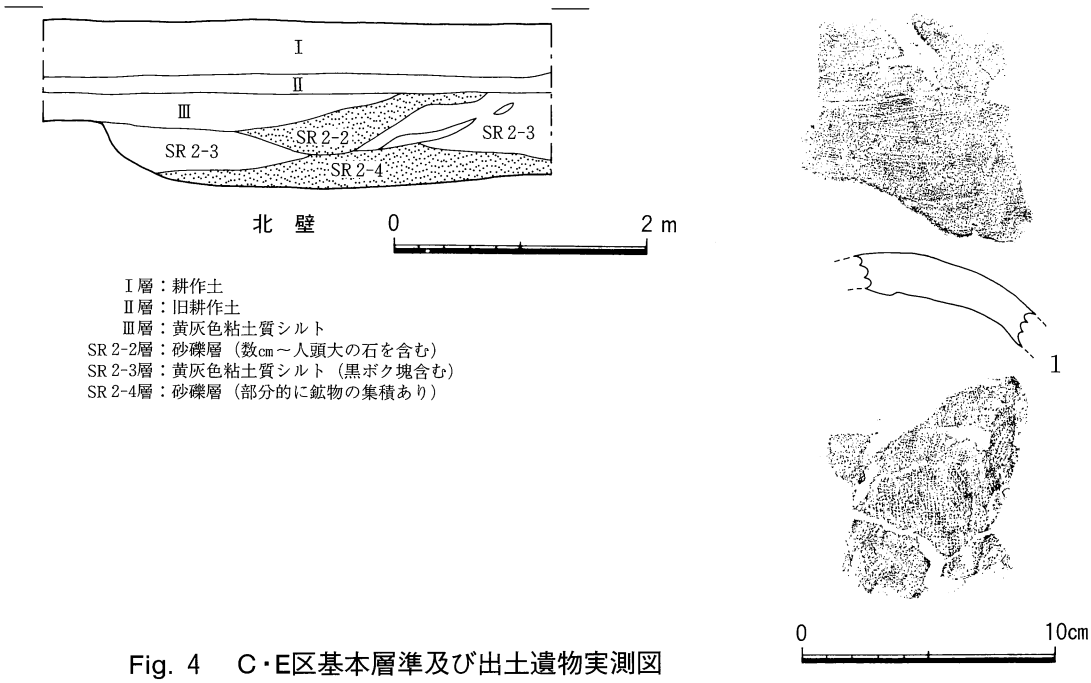


Fig. 4　C・E区基本層準及び出土遺物実測図

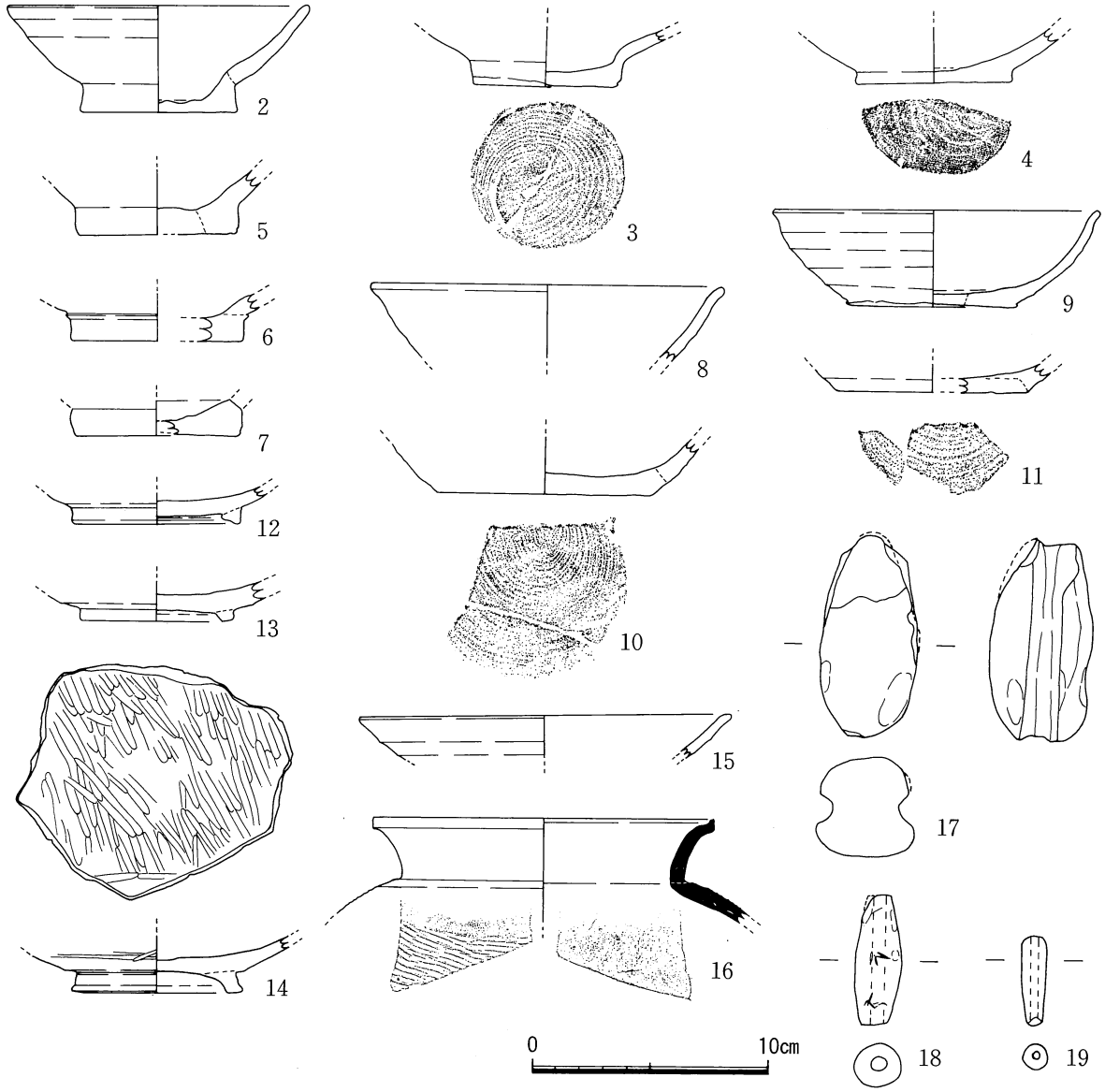


Fig. 5　SR２上層出土遺物実測図（16は縮尺1/4）

で厚さを増していた。３層は弥生中期から古代に至る多量の遺物を包含する。遺物は、２層以上と３層以下で下限の時期に差がみられるため、前者を上層、後者を下層として図示する。平面的にみた上層部は、Ｃ区～Ｅ区北半では幅2.5ｍ、深さ50㎝前後でＣ区中央部以北では調査区外東側へそれて検出できなくなるが、Ｅ区南端では下層部を侵食し幅約７ｍ、深さ65㎝を測る。下層部は、底に複雑な段や窪みを持つ。Ｃ区南部のSR２-２層とＣ区中央部のSR２底よりウマの歯、南部のSR２底よりウマとウシの歯が出土した。ウシの歯は左下顎の第３大臼歯で、３歳前後と見られる。なお、方向や出土遺物から考えて、本流路はＡ区SR１(註)と関連する可能性がある。

(註)「下ノ坪遺跡Ｉ」野市町教育委員会　1997年

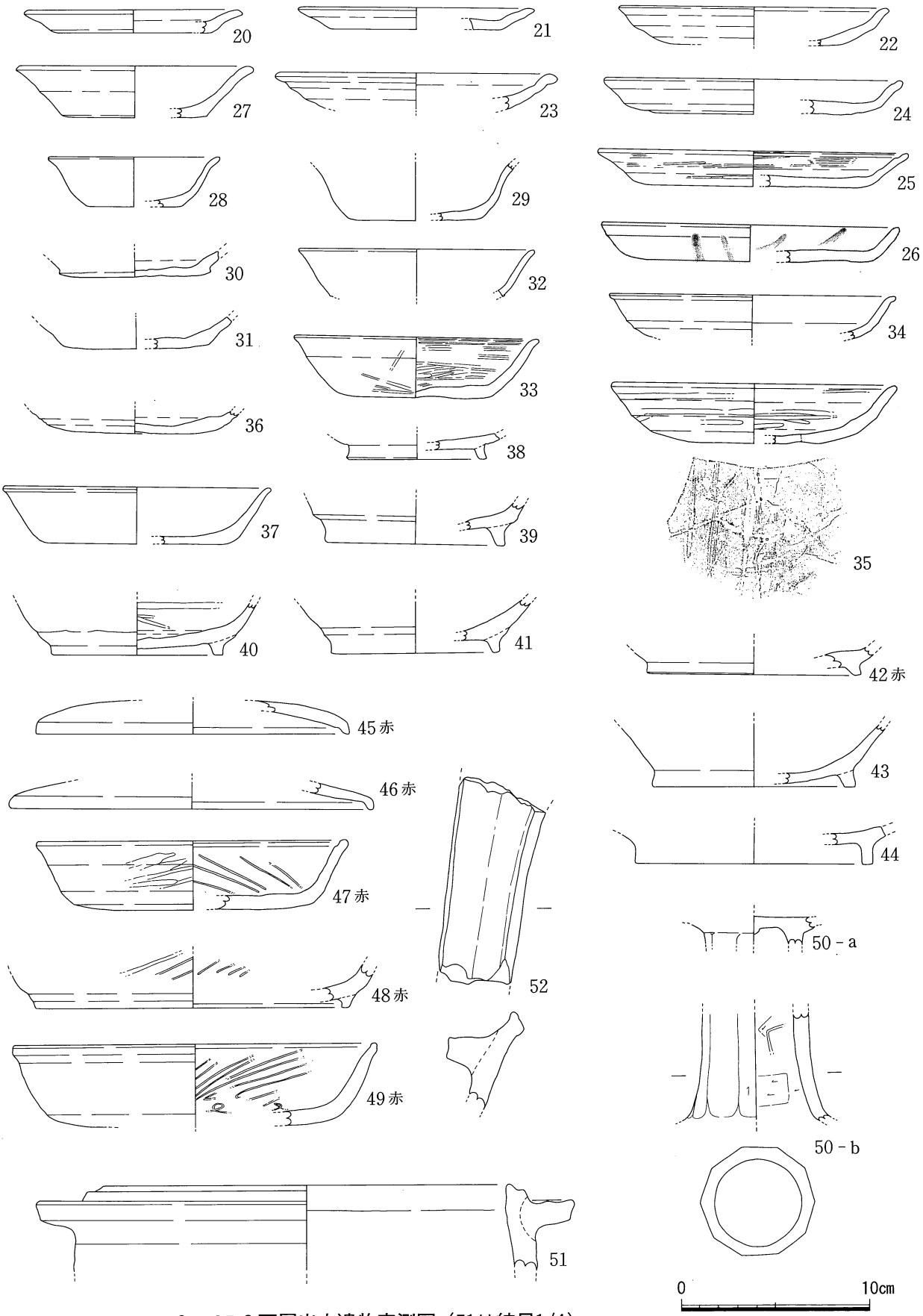


Fig. 6　SR 2 下層出土遺物実測図（51は縮尺1/4）

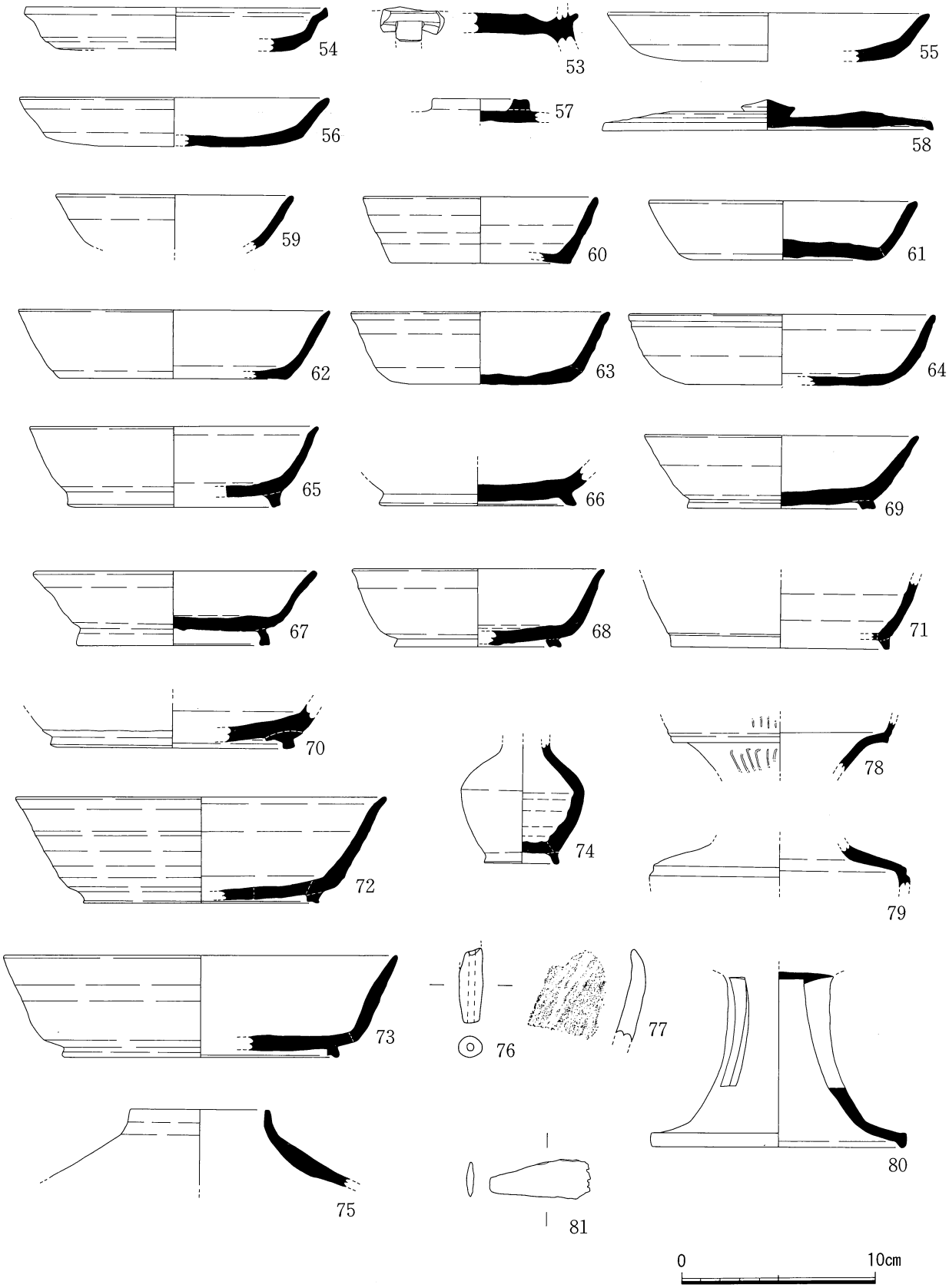


Fig. 7　SR 2 下層出土遺物実測図

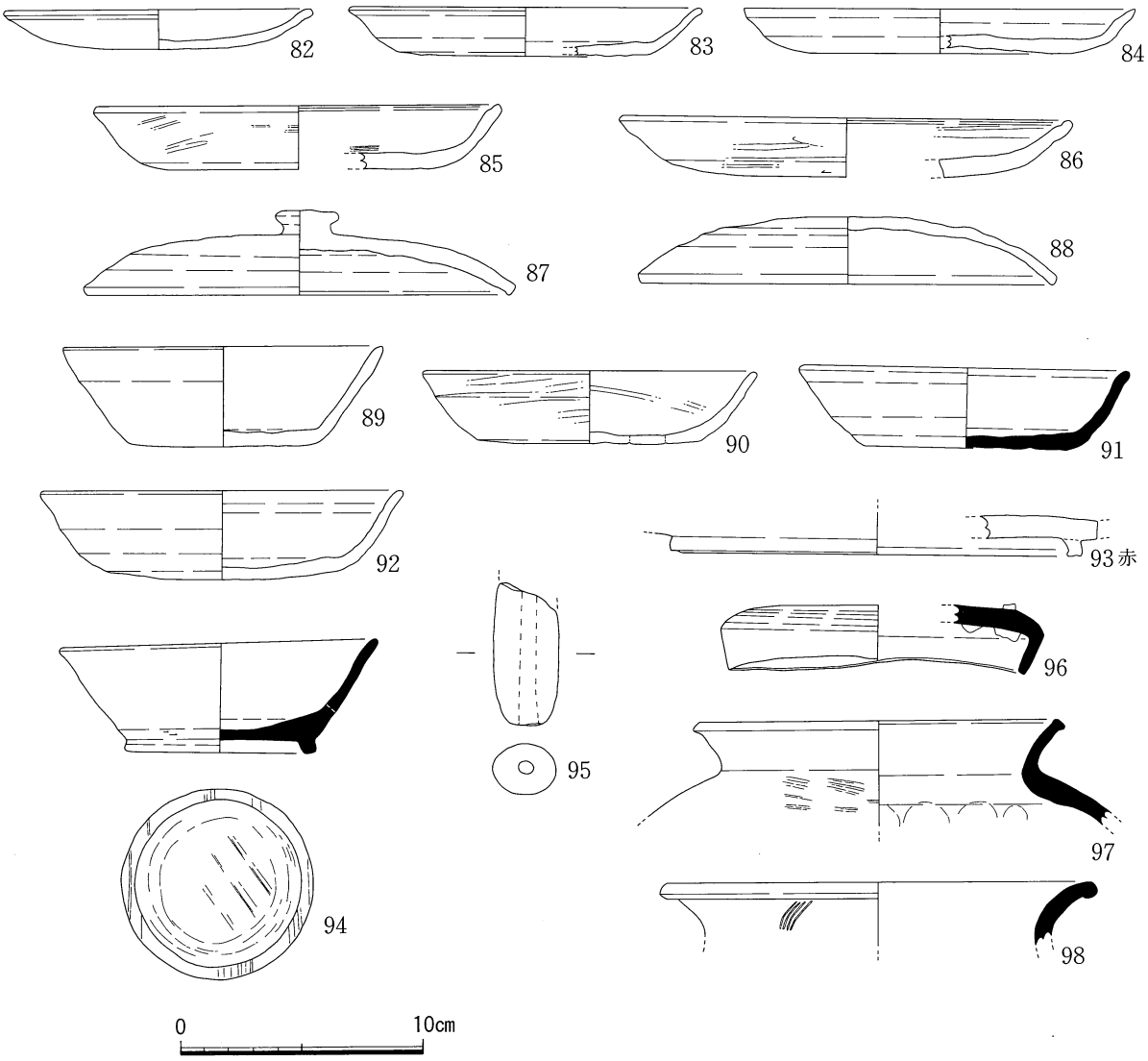


Fig. 8　E区 SR 2 最下層出土遺物実測図（97・98は縮尺1/4）

出土遺物

先述したように、上層と下層に分けて示す。F区で検出した遺物についても、弥生土器集中地点およびSR 2 - 6 層以下の出土遺物を除いてここに示す。また、E区北半の一定の範囲で最下層から出土した遺物については、最下層の項を設ける。

① SR 2 上層出土遺物（Fig. 5）

② SR 2 下層出土遺物（Fig. 6 ・ 7）

出土遺物の属する時期は、図が示すようにかなりの時期幅をもっている。これらの他、弥生・古墳時代の遺物が多量に含まれていた。

③ SR 2 最下層出土遺物（Fig. 8）

E区北半部においてSR 2 の底面ないし数cm上より出土した遺物の中に、比較的良く復元できる約20点の遺物が存在した。それらをここに示すが、明確な遺物集中として捉えたり、「下層」出土遺物全体との層位差を想定できるものではない。

遺物観察表（土器）

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
4	1	旧耕作土	瓦					チャート細粒砂～小レキ（～4㎜）含む。内面布痕、外面ナデ状痕。	摩耗。
5	2		土師器杯	12.5	4.6		6.5	胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。橙2.5YR6/8。	
〃	3		〃				6.1	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。浅黄橙7.5YR8/6。円盤状高台。底部回転糸切、3㎜前後の平行圧痕を残す、未調整。他は全て擦痕が見える強い回転ナデ。	焼成良好。
〃	4	SR2上層	〃				6.5	チャート、少量の赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。淡黄2.5Y8/4。円盤状高台。回転糸切。	摩耗顕著。
〃	5	〃	〃				6.6	チャート細粗粒砂、赤色風化礫の細粒～小礫、火山ガラスを含む。浅黄橙10YR8/4。円盤状高台。底部糸切。全て強い回転ナデ（回転台右回り）。内底のみ一方向のナデ。	
〃	6	〃	〃				7.2	チャート細粗粒砂を多く、少量の赤色風化礫の細粗粒砂を含む。浅黄橙10YR8/4。円盤状高台。外底糸切。他は全て回転ナデ。	焼成良好。
〃	7	〃	〃				6.7	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。橙5YR6/8。外底回転糸切。	摩耗顕著。
〃	8	〃	土師器	14.6				胎土精選。チャート細粗粒砂、火山ガラスを含む。浅黄橙7.5YR8/6。回転ナデ。回転台右回り。	
〃	9	〃	土師器椀	13.4	4.1		7.1	胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい橙7.5YR7/4。底部糸切未調整。体部外面と内底に回転ナデ痕を残す。	焼成良好。
〃	10	〃	土師器杯				9.0	チャート細粗粒砂、火山ガラス、少量の赤色風化礫の細粒砂を含む。浅黄橙7.5YR8/4。外底糸切未調整。他は全て回転ナデ。	焼成良好。
〃	11	〃	〃				8.0	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、比較的多量の火山ガラスを含む。浅黄橙10YR8/4。円盤状底部の上から回転ナデによって体部を接合し、外からも強い回転ナデによって接合部を整える。底部糸切。	
〃	12	〃	土師器底部				7.1	胎土精選。チャート細粗粒砂（～1㎜）、赤色風化礫の細粒砂～小礫（～2㎜）を含む。灰白2.5Y8/2。高台は、粘土紐を強い回転ナデによって外から内へ引き出す。	摩耗顕著。
〃	13	〃	〃				6.4	チャート細粒砂、少量の赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。浅黄橙10YR8/4。底部切離し不明。高台は内から外へ引き出す。高台、体部外面、回転ナデ。内底に回転ナデ痕を残すものの、内面平滑。内面やや灰色。	
〃	14	〃	土師器椀				7.1	胎土精選。火山ガラスを多量に含む。チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。橙5YR6/8。内外とも巾3㎜前後のミガキ。外面下部は連続ミガキ。高台は、内から外へ引出し、強い回転ナデによって端部を突出させる。	
〃	15	〃	土師器皿	15.4				チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。浅黄橙7.5YR8/6。回転ナデ。	
〃	16	〃	須恵器甕	19.0				胎土精選。石英、長石の細粒砂～小礫（～2㎜）、少量の赤色風化礫の細粒砂を含む。オリーブ灰2.5GY6/1。口縁部、強い横ナデ。体部外面平行タタキ、内面同心円当具痕を弱いナデで消す。	
6	20	SR2下層	土師器小皿	10.8	1.2		8.1	胎土精選。赤色風化礫の細粗粒砂、少量のチャート細粒砂を含む。底不明。回転ナデ。	
〃	21	〃	土師器皿	11.8	1.1			胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙5YR7/8。全て回転ナデ。	
〃	22	〃	〃	13.9	2.0			胎土精選。長石、石英の細粒砂、少量の赤色風化礫の粗粒砂を含む。	摩耗顕著。
〃	23	〃	〃	14.2				胎土精選。少量のチャート細粒砂、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。回転ナデ。	
〃	24	〃	土師器皿A	15.4	1.8			チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。橙5YR6/6。体部内外ミガキの可能性あり。外底ヘラ切、他不明。	焼成良好。口縁端部内面に鋭い一条の沈線。摩耗あり。
〃	25	〃	〃	16.2	1.9		12.0	胎土精選。チャート、赤色風化礫の微～粗粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。外底ヘラ切後ナデ。その他全て回転ナデ。内底、体部内外面は連続ミガキ。外底は非常に粗い断続ミガキ。	
〃	26	〃	〃	15.5	2.0		12.8	長石、石英、チャート細粗粒砂（～1.6㎜）を含む。橙7.5YR7/6。体部に強い回転ナデ（これにより、内底周縁が凹む）。回転台右回り。他は回転ナデ。底部ヘラ切。	内外火襷。
〃	27	〃	土師器杯	12.3	2.8		7.6	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。橙5YR7/6。	摩耗顕著。
〃	28	〃	〃	9.0	2.7		5.0	胎土精選。砂粒を含まず。橙7.5YR7/6。体部回転ナデ。	摩耗顕著。
〃	29	〃	〃				6.9	胎土精選。チャート微細粒砂、少量の赤色風化礫の微細粒を含む。橙7.5YR7/6。	摩耗顕著。
〃	30	〃	〃				8.0	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。外底ヘラ切、体部内外回転ナデのち弱いナデ。平行圧痕あり。	
〃	31	〃	〃				7.6	胎土精選。チャート細粒砂、火山ガラスを含む。浅黄橙10YR8/3。底部ヘラ切。全て回転ナデ。	

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
6	32	SR2 下層	土師器 杯	12.3				石英粗粒、チャート細粒砂、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。浅黄橙10YR8/4。回転ナデ。	
〃	33	〃	〃	12.8	3.2		8.0	チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。	
〃	34	〃	土師器 皿	15.0				チャート、黒色粒の細粒砂を含む。橙7.5YR7/6。体部外面と内面は回転ナデ。外底不明。	焼成良好。
〃	35	〃	土師器	14.8	3.2		10.9	胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。回転ナデ後、内面と体部外面に巾3～6㎜の粗い回転ミガキ。外底はヘラ切後、ナデ、平行圧痕残す。	
〃	36	〃	土師器 底部				8.8	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。外底、ヘラ切後ナデ、中央部に巾3.1㎜の平行圧痕残す。内底中央に一方向のナデ。他は全て回転ナデ。	
〃	37	〃	土師器 杯A	13.9	3.0		10.0	胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を若干含む。黄橙7.5YR7/8。摩耗著しいが、回転ナデ後、内面全てにミガキが施されていたと思われる。外底切離し等、不明。	
〃	38	〃	土師器				7.2	極めてきめ細かな胎土。少量のチャート細粒砂を含む。摩耗のため、調整不明。しかし全て丁寧で滑らか、薄手に仕上げられている。高台、回転ナデ。	
〃	39	〃	〃				9.2	きめ細かな胎土。チャート細粒砂、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。	焼成良好。
〃	40	〃	〃				9.0	きめ細かな胎土。チャート細粒砂、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。黄橙7.5YR8/8。内面巾2.5～4㎜の連続ミガキ。高台は外から内へひき出す。	摩耗顕著。
〃	41	〃	〃				8.8	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。橙5YR7/6。高台は外から内へひき出す。	摩耗顕著。
〃	42	〃	土師器 杯B				11.2	胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。浅黄橙10YR8/3。全て連続ナデ。	摩耗顕著。全面赤彩（外底まで）。
〃	43	〃	土師器				10.6	胎土精選。チャート細粒砂、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。橙7.5YR7/6。内面が極めて平滑。	
〃	44	〃	〃				12.4	胎土精選。少量のチャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙7.5YR7/6。全て回転ナデ。	
〃	45	〃	土師器 蓋	16.4	(1.8)			チャート細粗粒砂を含む。明赤褐2.5YR5/8。天井外面擦痕（ケズリと思われる）、外面は摩耗。口縁端部連続ナデ。天井内面は丁寧なナデ。	内外赤彩、Ⅰ群。
〃	46	〃	〃	19.0				胎土精選。石英の細粒砂を含む。橙2.5YR6/6。天井外面は平滑で、ミガキによると思われる（単位不明）。	内外赤彩、Ⅰ群。
〃	47	〃	土師器 杯A	16.2	3.6		12.4	橙7.5YR7/6。内面放射状一段暗文。外面は斜方向の断続ミガキ。体部内外面連続ナデ。外底は断続ケズリ。	内外赤彩、Ⅰ群。
〃	48	〃	土師器				16.4	胎土精選。石英の細粒砂を含む。高台と、体部の内外は連続ナデ。内面は放射状暗文、外面は斜方向断続ミガキ。	内外赤彩。
〃	49	〃	土師器 杯A	19.0			14.1	石英の粗粒砂、チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙2.5YR6/8。外底は摩耗著しく、不明。他は全て連続ナデ。内面は放射状一段、内底は連弧状暗文。	内外赤彩、Ⅰ群。
〃	50a	〃	土師器 高杯					長石の細粒砂、少量の石英細粗粒砂、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。橙2.5YR6/8。	焼成良好。搬入品。
〃	50b	〃	〃					少量のチャート粗粒砂、長石細粒砂、赤色風化礫の粗粒砂を含む。橙2.5YR6/8。外面は下から上の鋭利なヘラ工具によるケズリ。内面は横方向のケズリ。復元推定10面取り。	同上。
〃	51	〃	土師器 羽釜	21.2				石英、チャートの小礫（0.6～2㎜）多く、少量の赤色風化礫の粗粒砂を含む。浅黄2.5Y7/3。内面横ナデ。鍔強い横ナデ。	摩耗顕著、鍔以下調整不明。
〃	52	〃	土師器 カマド					チャート粗粒砂を多量に含む。チャート細粒砂、火山ガラスを含む。内面指頭圧痕残す。内面にタテ方向のケズリの一部確認。	Ⅱ群。内外とも一部煤け。全体に二次被熱。
7	53	〃	円面硯					灰N。内面に回転ナデ痕。圏台には工具の切り込みによって長方形の透し穴を開ける。内堤は持たないものの、海部と陸部は明瞭に分かれる。陸部に擦痕。陸部は使用により平滑。	
〃	54	〃	須恵器 皿A	15.2			12.0	長石細粒砂、チャート、黒色粒（赤色風化礫）の細粗粒砂を含む。灰白2.5Y7/1。	
〃	55	〃	〃	16.4			12.7	チャート、赤色風化礫（黒変）の細粗粒砂を含む。灰白5Y7/1。外底ナデ。	
〃	56	〃	〃	15.7	2.5		13.0	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。灰白5Y7/1。外底ヘラ切後ナデ。内底は多方向ナデ。	胎土、焼成やや不良。
〃	57	〃	須恵器 蓋					灰白2.5Y8/1。輪状摘み。外面に自然釉。内面ナデ仕上。	焼成堅緻。一部火膨れあり。
〃	58	〃	須恵器 蓋	16.8	1.6			チャート細粗粒砂、少量の黒色粒を含む。灰白2.5Y7/1。外面全て回転ナデ。天井部内面多方向ナデ。	一部火膨れあり。
〃	59	〃	須恵器	12.0				胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。灰7.5Y6/1。	
〃	60	〃	須恵器 杯A	11.8	3.4		9.0	胎土精選。赤色風化礫の細粗粒砂、長石細粒砂を含む。灰白5Y7/1。外底周縁部、若干粘土はみ出し。	

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
7	61	SR2 下層	須恵器 杯A	13.4	3.0		9.8	チャート細粗粒砂を含む。オリーブ灰5GY6/1。外底ヘラ切痕。内外底ナデ。	
〃	62	〃	〃	15.7	3.5		11.4	チャート細粒砂～小礫（～2㎜）、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。灰5Y5/1。	焼成不良。表面は摩耗顕著。
〃	63	〃	〃	13.0	3.7		9.0	赤色風化礫、チャートの細粗粒砂、火山ガラスを含む。灰7.5Y4/1。外底ヘラ切後ナデ。内底に回転ナデ痕残す。口縁部1.3㎝を残し、下方は黒色化。	摩耗あり。
〃	64	〃	〃	15.4	3.6		10.1	胎土精選。黒色粒（赤色風化礫）の細粒を含む。灰白2.5Y7/1。内底ナデ。	
〃	65	〃	須恵器 杯B	14.5	4.1		10.8	チャート細粒砂～小礫（～2.5㎜）を含む。灰白2.5Y8/1。摩耗の為不明。	
〃	66	〃	〃				10.0	チャート細粒砂～小礫（最大7㎜）を含む。灰色。外底は高台貼付前に回転ケズリ。内底は多方向のナデ。	焼成良好。
〃	67	〃	須恵器 杯B	14.1	3.8		9.8	長石細粒砂～小角礫（～3.5㎜）を含む。黒色粒を比較的多く含む。青灰10BG5/1。内外底ナデ。外底粘土紐痕・ヘラ切り痕を残す。他は全て回転ナデ（回転台右回り）。	
〃	68	〃	〃	12.6	4.1		8.4	胎土精選。長石、石英細粒砂を含む。灰白7.5Y7/1。外底ヘラ切痕。高台は外から内へ圧着、回転ナデ。	
〃	69	〃	〃	13.9	3.8		9.4	長石、石英細粒砂～小角礫（～2.5㎜）を含む。内面灰白5Y7/2。外面にぶい黄橙10YR7/3。高台は外へひき出す。	外面やや酸化色。
〃	70	〃	須恵器 底部				12.4	長石、赤色風化礫（黒色粒）の細粗粒砂を含む。灰色。高台は粘土帯を回転ナデしながら圧着。	
〃	71	〃	須恵器 杯B				11.1	胎土精選。長石、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。灰白5Y7/1。回転ナデ。ただし体部外面のみ、ナデ調整によって回転ナデ痕が消されている。	
〃	72	〃	〃	18.7	5.5		11.8	長石、頁岩の細粗粒砂、黒色粒（赤色風化礫）を含む。灰白。内底多方向ナデ、外底巾約1.5㎝の粘土紐痕を残す。高台は内へ向かってひき出す。	外底のみがやや焼成不良。
〃	73	〃	〃	19.8	5.2		13.9	チャート、赤色風化礫の細粒砂～小礫（～2.5㎜）、火山ガラスを含む。オリーブ灰2.5GY6/1。外底、回転ケズリ（回転台右回り）未調整。内底、多方向の擦痕、弱いナデ仕上。他は全て回転ナデ。	
〃	74	〃	須恵器 小壺			6.2	3.8	胎土精選。長石細粒砂～小角礫（～4.5㎜）、少量の黒粒細粗粒砂を含む。内面には強い回転ナデ痕残る。黒褐色の付着物。外面は弱いナデ。自然釉降着。	
〃	75	〃	須恵器 短頸壺	7.1				長石、石英、赤色風化礫の細粒砂を含む。灰色。	
〃	77	〃	製塩土器					泥岩、チャートの小円礫（～2㎜）を含む。橙7.5YR7/6。内面は布圧痕。	
〃	78	〃	須恵器 はそう					胎土精選。砂粒をほとんど含まない。褐灰10YR5/1。外面のみ自然釉が薄くかかる（口縁下に濃い部分あり）。外面の口縁と頸部にタテ方向のヘラ描紋。	焼成良。
〃	79	〃	〃			13.2		長石細粒砂、石英粗粒砂、黒色粒細粗粒砂を含む。灰N6/0。	
〃	80	〃	須恵器 高杯脚				12.8	チャート細粗粒砂を含む。灰黄2.5Y7/2。3方1段透かし。	焼成不良で摩耗顕著。
8	82	SR2 最下層	土師器 皿	12.5	1.6		7.6	胎土精選。赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。明黄褐10YR7/6。体部回転ナデ。他は不明。	
〃	83	〃	土師器 皿A	14.1	2.0		10.4	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい橙7.5YR7/4。外底ヘラ切。体部回転ナデ。他は不明。	
〃	84	〃	〃	15.8	1.8		10.3	胎土精選。チャート細粒砂、赤色風化礫の細粒砂～小礫（～1.5㎜）、火山ガラスを含む。橙7.5YR6/6。内底に擦痕。外底ヘラ切後丁寧なナデ。口縁回転ナデ。	
〃	85	〃	〃	16.4	2.6		13.0	胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。端部、かなり退化した沈線。体部回転ナデ。内外面ミガキ。	摩耗顕著。
〃	86	〃	〃	18.1	2.4		14.7	橙7.5YR7/6。回転ナデ後、体部内外に巾約3㎜前後の連続ミガキ。内底回転ナデ。外底連続ケズリ。	
〃	87	〃	土師器 蓋	17.0	3.6			長石細粒砂～小角礫（～2㎜）、赤色風化礫の細粒砂を含む。浅黄橙10YR8/4。内外とも、天井部は多方向のナデ、口縁部は強い回転ナデ。	
〃	88	〃	〃	16.8	2.8			胎土精選。チャート細粒砂、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。内面非常に平滑。	摩耗顕著。
〃	89	〃	土師器 杯A	13.0	4.1		7.6	チャート、赤色風化礫の細粒砂～小角礫（～2.5㎜）、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。外底ヘラ切後ナデ。体部回転ナデ（回転台右回り）。内底不明。	
〃	90	〃	〃	13.5	3.0		9.0	胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。体部回転ナデ。内、外面（外底除く）巾1.5～3㎜の粗い連続ミガキ。	
〃	91	〃	須恵器 杯A	13.0	3.3		8.1	長石細粒砂、チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を含む。にぶい黄褐10YR5/4。外底ヘラ切後ナデ。内底中央にひとナデ。	一部酸化色。
〃	92	〃	土師器 杯	14.6	3.7		9.7	胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。にぶい黄橙10YR7/4。内底中央にひとナデ。外底ヘラ切痕。	

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器　種	法　量 (cm)				特　　徴	備　　考
				口径	器高	胴径	底径		
8	93	SR2 最下層	土師器				16.6	チャート細粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい黄橙10YR7/3。外底が極めて平滑。他は不明。	外底まで全面赤彩。Ⅰ群。焼成良好、摩耗顕著。
〃	94	〃	須恵器 杯B	12.8	4.8		7.8	長石細粒砂～小角礫（～4mm）を含む。灰色。立上がり外面に擦痕。	焼成良。
〃	96	〃	須恵器 蓋	12.0	(2.8)			長石、石英の細粗粒砂を含む。灰白7.5Y7/1。天井内面不明。	全体が歪む。内面に厚い自然釉と、降着物。外面に溶着痕。
〃	97	〃	須恵器 甕	19.4				長石、石英、黒色粒（赤色風化礫）の細粒砂～小角礫（～2.5mm）を含む。灰白5Y7/2。外面右下り平行タタキの痕跡。肩部内面より指頭圧痕が規則的に並ぶ。	自然釉が上方より降着。
〃	98	〃	〃	23.0				胎土精選。長石、黒色粒（赤色風化礫）の細粗粒砂を含む。オリーブ黄5Y6/3。	焼成良好。全体に自然釉（上面が厚い）。

※ 底部「糸切」と記したもののうち、静止糸切りと見られるものはない。
※ その他、128ページに準ずる。

遺物観察表（鉄器・土錘）

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器　種	法　量 (cm)					特　　徴	備　　考
				全長	全幅	全厚	孔径	重量 (g)		
7	81	SR2 下層	鉄器	(5.1)	2.0	0.3		5.1	欠損。	
5	17	SR2 上層	有溝土錘	8.6	4.0	4.2		131.1	胎土精選。チャート、赤色風化礫の細粒～小礫、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。指頭圧痕を残す。	全体に摩耗、欠損あり。
〃	18	〃	管状土錘	5.5	直径 2.0		0.6	15.3	チャート細粗粒砂、少量の赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。心棒成形。片端が欠損。端部面取り。指頭圧痕を残す。焼成前のキズが多くつく。	
〃	19	〃	〃	3.7	1.1		0.3	3.5	胎土精選。少量のチャート細粒砂と小礫（～2mm）、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。にぶい黄橙10YR7/3。心棒成形。	全体に摩耗。特に両端は欠損、摩耗。
7	76	SR2 下層	〃	3.9	1.2		0.4	4.4	チャート細粗粒砂を含む。にぶい黄橙10YR7/4。端部面取り。一端は欠損。	
8	95	SR2 最下層	〃	5.9	直径 2.7		0.6	34.4	泥岩、チャート、赤色風化礫の細粒砂～小礫（～2mm）、火山ガラスを含む。心棒成形。	全体に摩耗顕著。半分が暗色化。一端欠損。

2．F区

(1) 調査区の概要と基本層準

① 調査区の概要（Fig. 9～11）

遺跡中央やや北寄りに設定された東西方向の調査区で幅2.4～4m、延長62mを測る。東端は本調査に先立つ試掘区と一体となっている。東部で自然流路SR 2が斜交するが、それより西側に向かっても流路による堆積がみられる等、他区とは様相を異にする。また調査区中央部から東半にかけて存在するⅨ層は、シルトの下層に小礫と古墳時代後期の遺物が地山にはりついたような状態で検出され、当該期に付近が流路化したことを示す。西半では地山面がやや高まっており、弥生～古墳時代後期の遺構が検出された。しかし、西端は表土直下から物部川による河川堆積がみられ、ST 8やSB 2は一部が破壊されている。なお、各包含層よりの出土遺物は抽出してFig. 20に示す。

② 基本層準（Fig. 11）

Ⅰ層：耕作土。下層に黄色シルト質粘土層を伴う。

Ⅱ層：旧耕作土。下層に黄色シルト質粘土層を伴う。

Ⅲ層：橙色を含む灰色粘土質シルト。少量の遺物を含む。他区のⅢ層と対応し、遺跡内に安定して堆積している。Ⅲ′層：Ⅲ層に礫を含む。

Ⅳ層：褐灰色粘土質シルトにMn粒を含む。古代を下限とする遺物を含む。Ⅳ′層：灰褐色粘土質シルトにMn粒を含む。

Ⅴ層：黄灰色シルトにMn粒を含む。古代を下限とする遺物を含む。

Ⅵ層：灰褐色粘土質シルトにMn粒を多量に含む。古代を下限とする遺物を含む。他区のⅣ層に対応し、遺跡内に安定して堆積するものとみられる。

Ⅶ層：灰色を含む暗赤褐色粘土質シルト。弥生時代遺物を多く含む。

Ⅷ層：Mn粒を多量に含む灰褐・黒・灰黄色が塊状に混ざる粘土質シルト。調査区中央西寄りでのみ確認できた。

Ⅸ層：灰褐色シルトに数mm大の礫を含む。調査区中央部から東にかけて確認できた。古墳時代後期を下限とする遺物を含む。

Ⅹ層：砂と灰色粘土質シルト・地山土が混ざる。弥生土器片を含む。

Ⅺ層：１層-砂礫層。２層-灰・黒・黄色が塊状に混ざる粘土質シルト。数cm大の礫を含む。
３層-褐灰色粘土質シルトに黄色粘土質シルト・砂が塊状に混ざる。

Ⅻ層：灰色を含む赤褐粘土質シルト。弥生土器片を多量に含む。

地山：にぶい黄褐色シルト質粘土。

(2) 弥生時代の検出遺構と遺物

① 竪穴住居

ST 8（Fig. 12）

調査区西端に位置し、北西部を河川撹乱によって破壊されている。確認範囲が狭いため平面プランは明確でないが、中央ピットが中心にある円形住居と仮定した場合、直径は7.8mとなる。SB 2

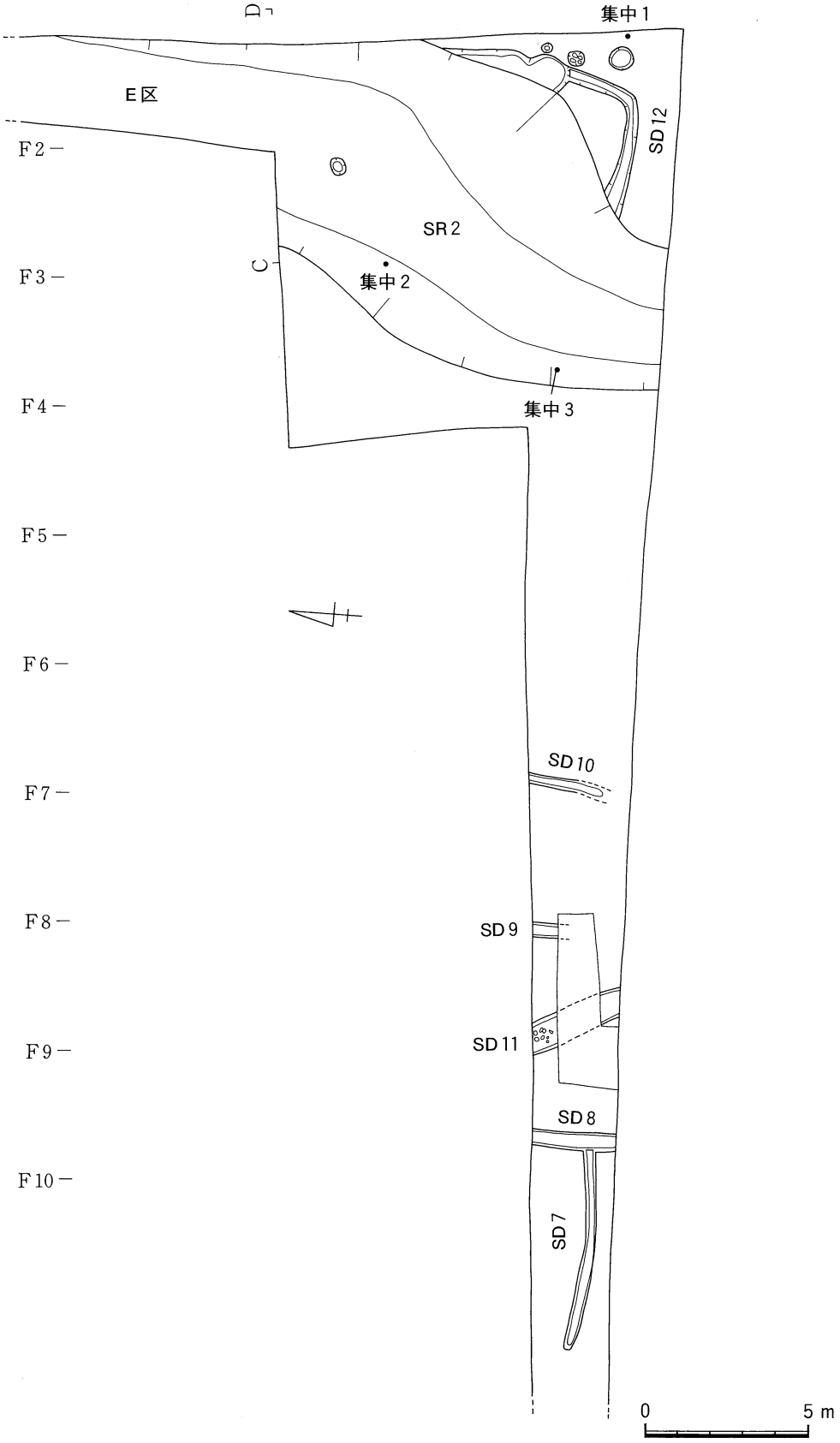


Fig. 9　F区検出遺構全体図（上層）

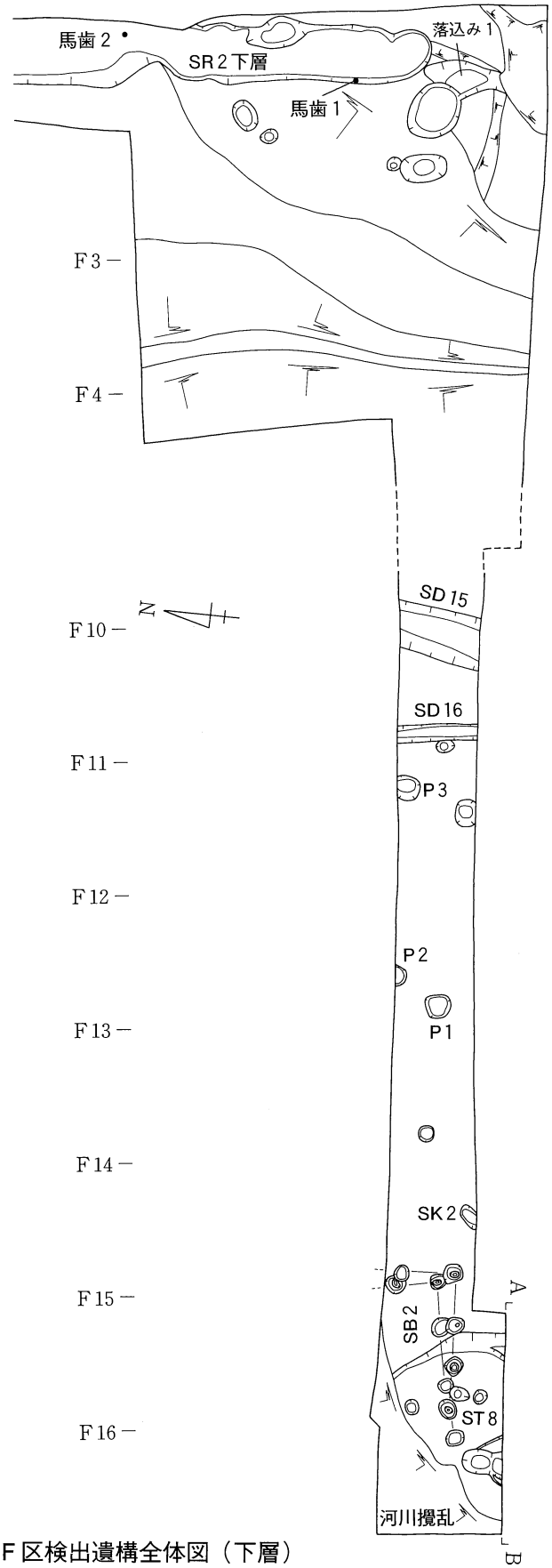


Fig. 10　F 区検出遺構全体図（下層）

0　5 m

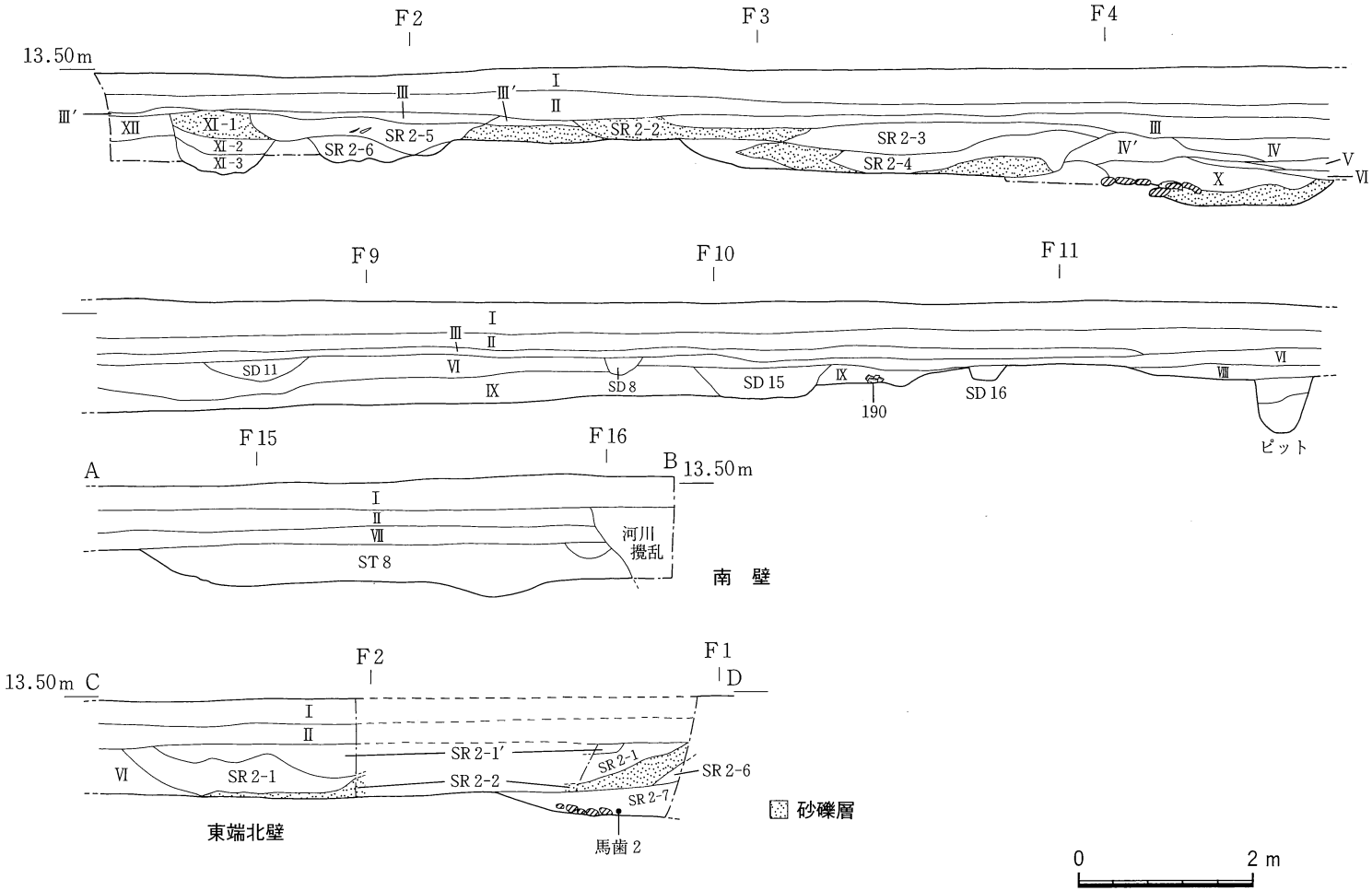


Fig. 11　F 区基本層準

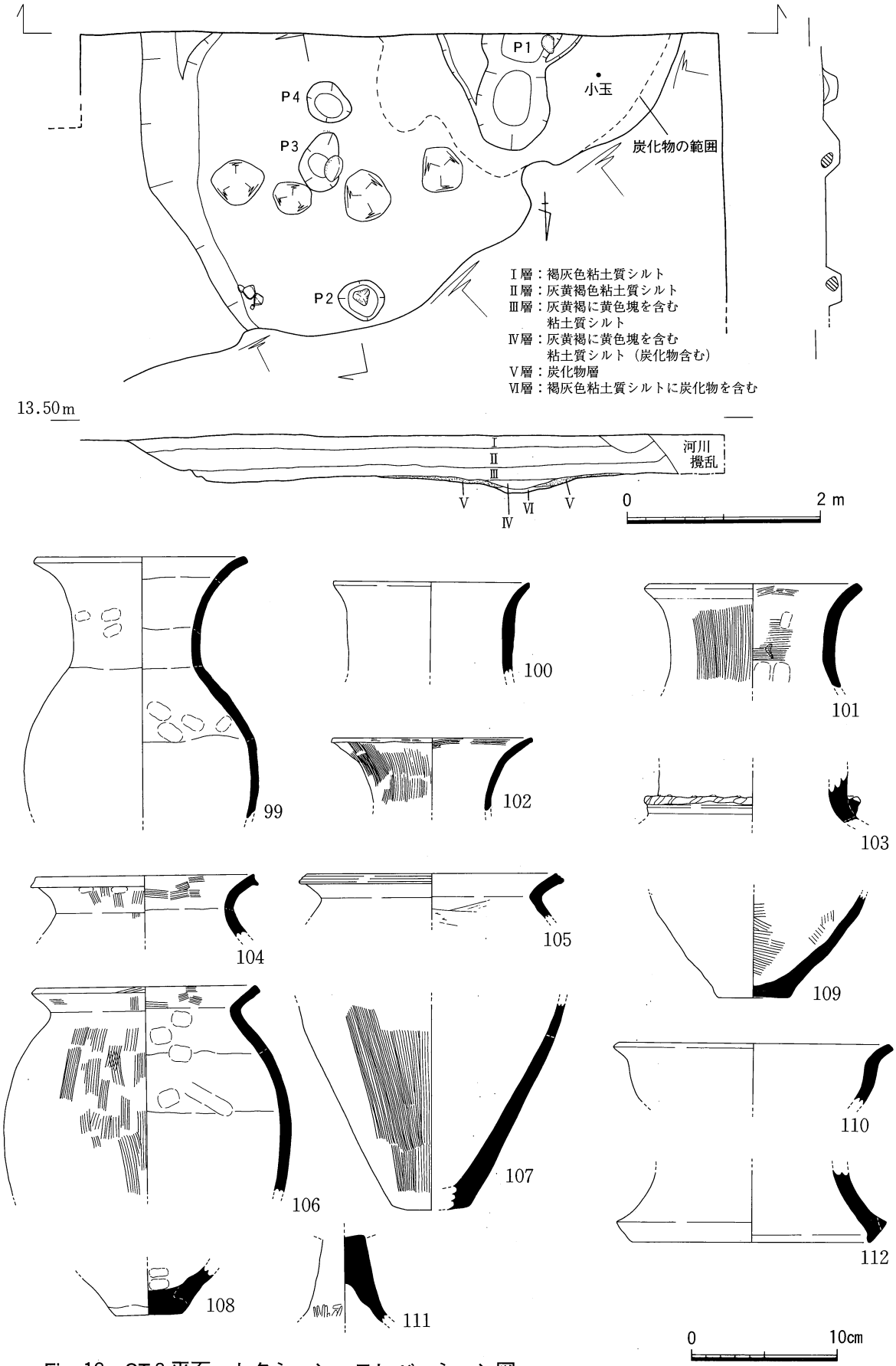


Fig. 12　ST 8 平面・セクション・エレベーション図
及び出土遺物実測図

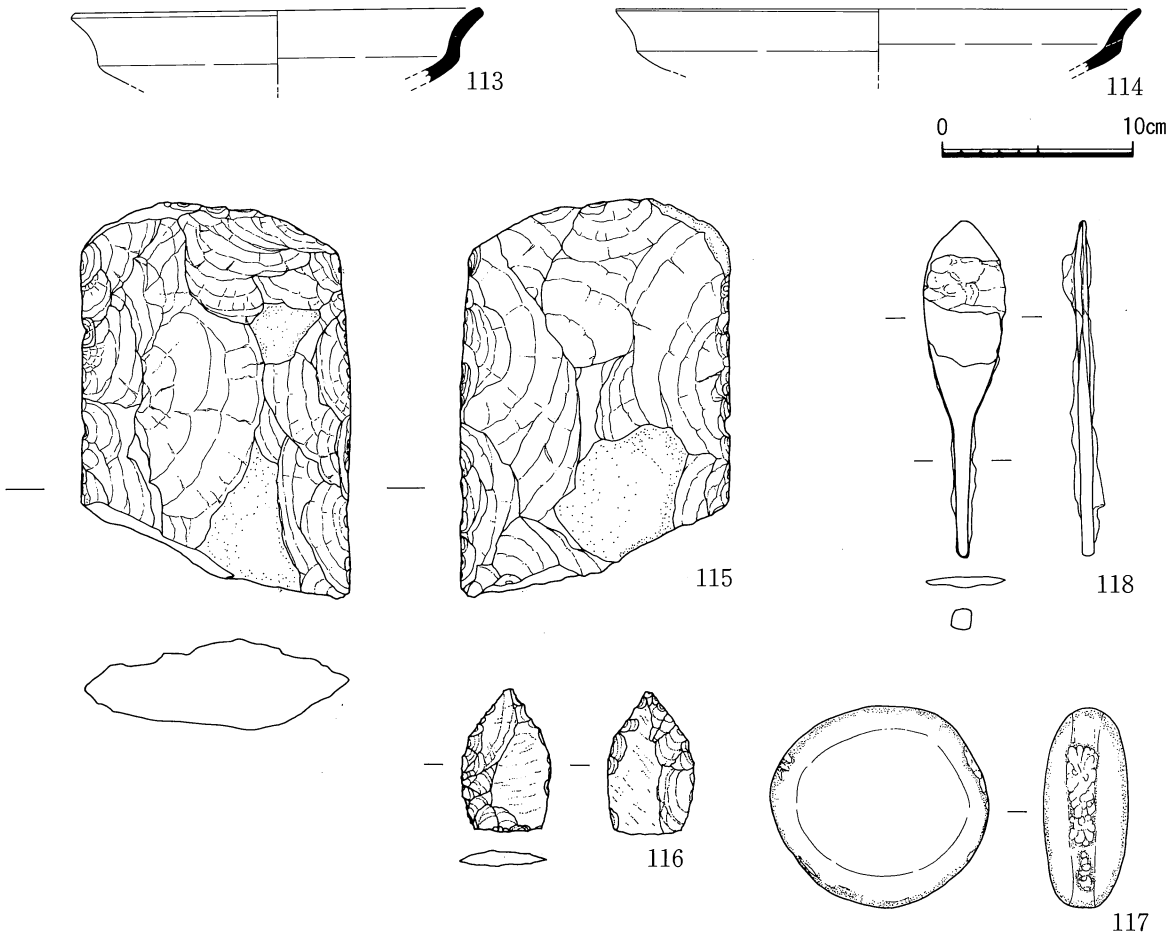


Fig. 13　ST 8 出土遺物実測図（115・118は縮尺1/2、116は2/3、117は1/4）

に切られる。深さは40cm前後を測り、床面はほぼ平坦である。主たる埋土はⅠ～Ⅲ層であり、Ⅳ～Ⅴ層は中央ピットの埋土である。Ｐ１が中央ピットで、楕円形のピットが２つ繋がったような形状を呈す。断面は浅いＵ字型で、深さは16cmと20cmを測る。中央ピットを中心に直径３ｍ余りの範囲で、厚さ５cmまでの炭と焼土の広がりが認められた。Ｐ２、Ｐ３には15～25cm大の川原石が入っていた。Ｐ２からは甕底部（108）が出土している。

出土遺物は甕、壺、鉢、高杯、石鏃、打製石斧、叩き石、鉄鏃、ガラス小玉である。口縁部の点数で見ると甕49点、壺28点、鉢３点、高杯６点と甕が非常に多い。その他に底部50点、高杯脚部５点と多数の遺物が出土しているが、床面より出土した遺物で図示できたものは無く、殆どが埋土中からの出土で、Ⅰ層上層から出土したものも多い。また細片が多く、比較的よく復元できる土器にはⅠ層上層出土のものが多い。さらに殆どの土器には摩耗が見られる。各石器、鉄鏃、ガラス小玉は各１点の出土で、ガラス小玉が中央ピット西側の床面直上、他は全て埋土からの出土である。また、胎土に雲母を含み他地域からの搬入品と考えられる土器片が２点、埋土中より出土している。弥生後期Ⅱ-１期に属する。

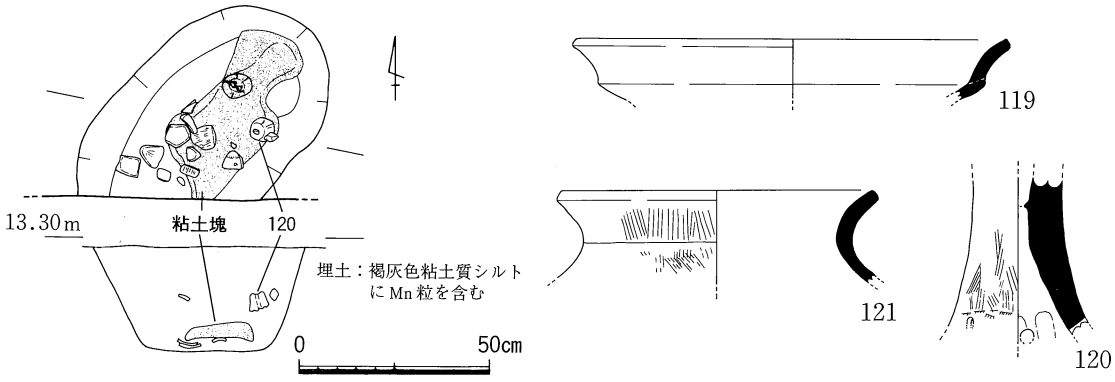


Fig. 14　SK 2 遺物出土状況、セクション図及び出土遺物実測図

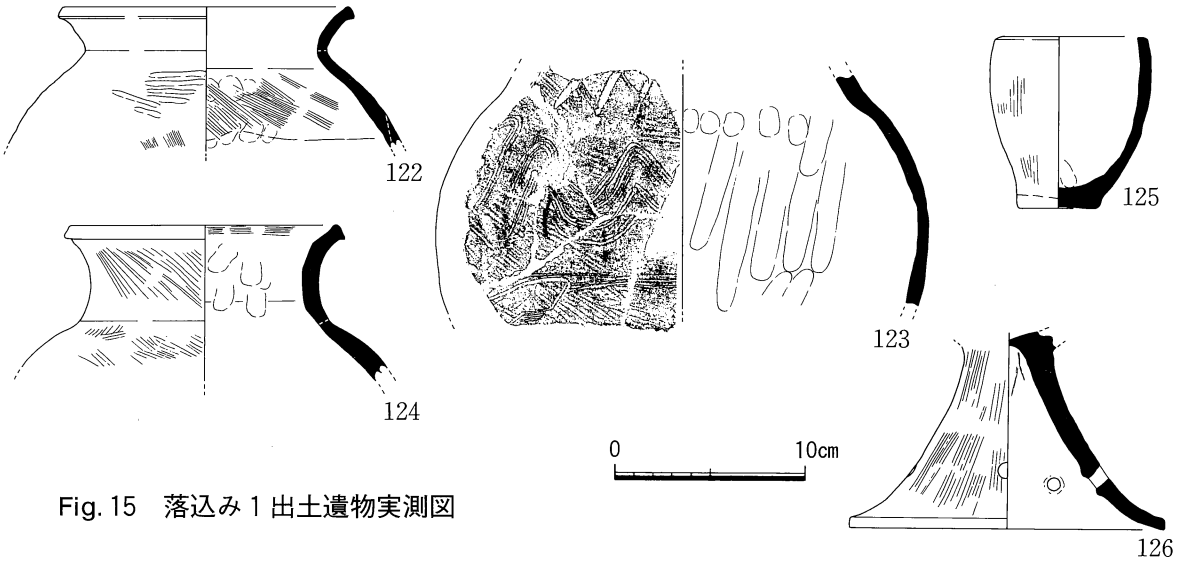


Fig. 15　落込み 1 出土遺物実測図

② 土坑

SK 2 (Fig. 14)

調査区西部の南壁際で検出され、一部は調査区外である。平面形は短軸47㎝、長軸約80㎝の楕円形を呈すと思われ、深さは57㎝、横断面は逆台形である。遺物は甕口縁部 4 点、高杯口縁部 1 点、同脚部 1 点、底部 4 点である。土器片中には、内面にヘラ削りが認められるものが存在する。高杯脚部 (120) は外面から 2 次的に被熱している。また、遺構下層には、厚さ 4 ㎝前後のにぶい黄色粘土塊が認められた。弥生後期Ⅱ期に属する。

③ その他

落込み 1 (Fig. 10・15)

調査区東端に存在した。SD 12、SR 2 に切られ、大きく破壊されており、SR 2 底にみられた窪みの一部である可能性も残るが、弥生土器のみが集中して出土しているので弥生時代の所産として本項で扱う。幅1.4m、深さ26㎝を測り地山に掘り込まれている。埋土は褐灰色粘土質シルト単純一層である。北西側に長軸1.7m、深さ70㎝を測り類似した埋土を持つ円形の落ち込みが接しているが、落込み 1 との切合い関係等性格は不明であった。

(3) 古墳時代後期の検出遺構と遺物

① 掘立柱建物

SB 2 (Fig. 16)

調査区西端で検出した東西棟で、北側は調査区外だが、北西部は物部川によって破壊されていた。西部はST 8に掘り込まれていた。方向をずらせて建替えを行ったとみられ、先行する方をSB 2 - a、後出する方をSB 2 - bとする。

SB 2 - aは梁間1間（1.26m）、桁行3間（4.7m）分が確認でき、棟方向はN－84°－Eである。桁行の柱間寸法は、1.5～1.6mである。柱穴は円形を基調とし、直径36cm～65cm、深さ40～54cmを測る。柱径は十数cmとみることができる。

SB 2 - bは梁間1間（1.6m）、桁行3間（4.0m）分が確認でき、棟方向はN－88°－Wである。P 1、2、3でSB 2 - aを切っている。桁行の柱間寸法は1.26～1.5mである。柱穴は円形を基調とし、直径45cm～62cm、深さは全て約42cmと揃っている。柱痕径は十数cmである。なお、SB 2 - aのピットのセクションでは柱痕は確認されず、SB 2 - bでは半截した全てのピットで柱痕が確認された。

出土遺物は、SB 2 - a－P 5より127、SB 2 - b－P 1より128が出土した。その他、須恵器甕、杯蓋、多数の弥生土器、胎土に角閃石を含む搬入の弥生土器の細片が出土している。

② 溝

SD 15 (Fig. 10・11)

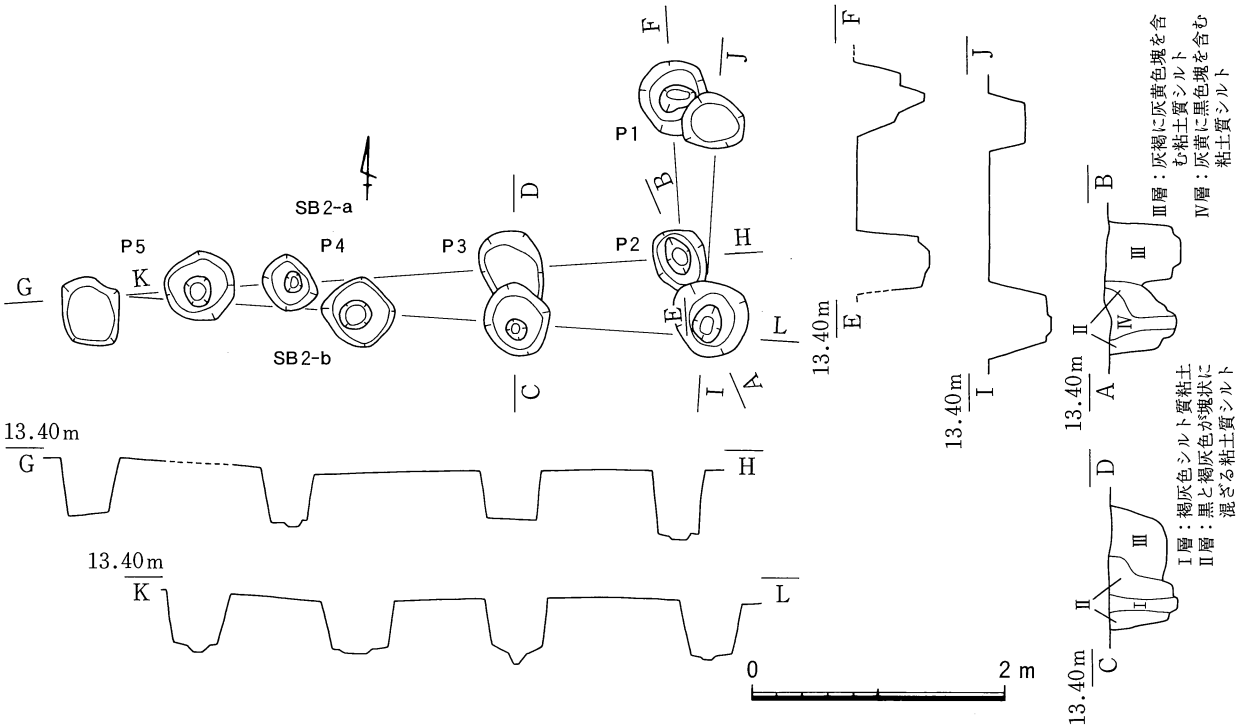
調査区中央部で検出された南北方向（N－11°－E）の溝で、2.5mを確認したが調査区外へ延びる。幅1.5m、深さ36cmを測り、断面は逆台形を呈する。埋土は褐灰色粘土質シルト単純一層である。確認範囲内では傾斜方向は判断できない。遺物は須恵器甕や弥生土器片が出土している。古代の須恵器壺の小片が1点出土しているが、甕（131）の存在と遺物の磨耗状態等がSD 16に似ることから、壺1点は混入と考える。

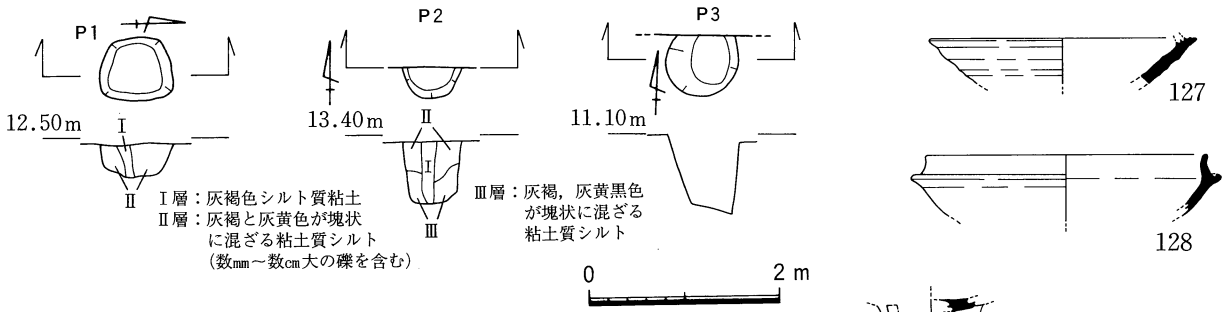
SD 16 (Fig. 10・11)

調査区中央部で検出された南北方向（N－4°30′－W）の溝で、2.36mを確認したが調査区外へ延びる。幅50cm、深さ23cmを測り、断面は逆台形を呈する。埋土は灰褐色粘土質シルトに地山土をブロック状に含む単純一層である。北端底のレベルは南端より約2cm低い。遺物は129・130をはじめ須恵器甕や弥生土器片が出土しており、弥生土器と須恵器甕片には摩耗の著しいものがある。

③ ピット群 (Fig. 16)

調査区西半で6基のピットを検出した。このうちでセクションと出土遺物が良好な3基を抽出し、計測表を示す。出土遺物を図示し得たのはP 3のみで、他からは弥生土器又は土師器の細片のみが出土している。P 3からは須恵器甕片も出土している。なおこれらピット群はいずれもⅧ層除去後に検出され、埋土も互いに類似する。





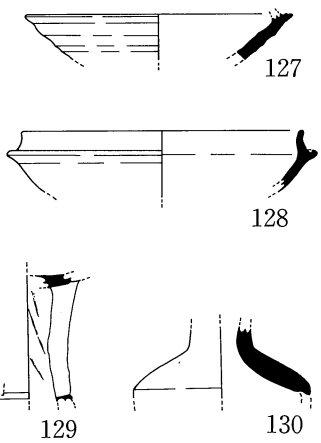


表２　ピット計測表

ピットNo.	平面規模（cm）	深さ（cm）	平面形態
Ｐ１	78×66	34	隅丸方形
Ｐ２	径62	66	楕円又は隅丸方形
Ｐ３	径68	88	円形

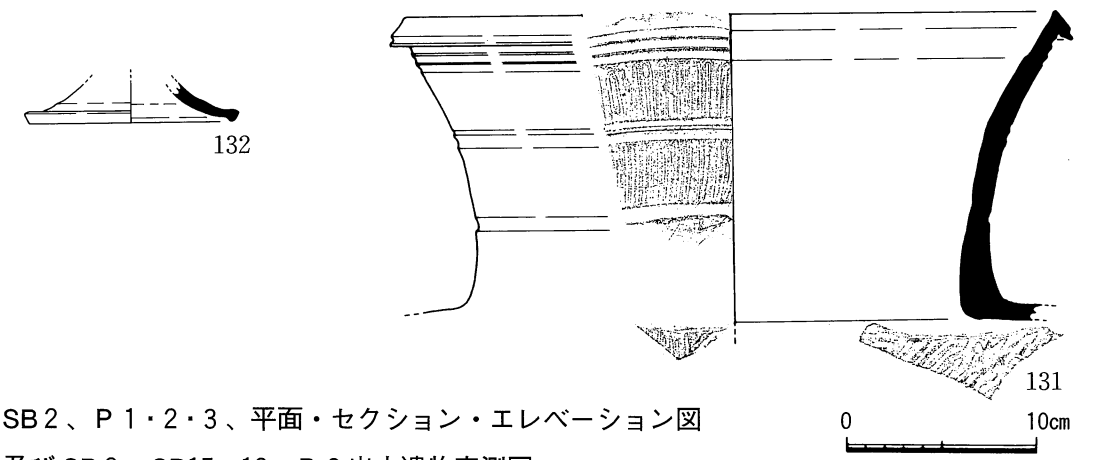


Fig. 16　SB２、Ｐ１・２・３、平面・セクション・エレベーション図
及びSB２、SD15・16、Ｐ３出土遺物実測図

(4) 古代の検出遺構と遺物

① 溝

SD 7 ～10（Fig. 9 ・11）

検出された6条の古代に属する溝のうち、調査区中央部のⅥ層上面で検出されたSD 7 ～10は、その規模、方向、埋土に共通性がみられる。これら4条の規模等は下表に示す。何れも断面形は舟底状を呈し、埋土は黄褐灰色粘土質シルト単純一層である。土師器、須恵器甕、杯Hの破片が出土しているが、図示できるものは僅かである。土器片は摩耗の著しいものが多い。

表3　SD計測表

SD No.	方　　向	幅（cm）	深さ（cm）	確認延長（m）
7	N－92及び95°－W	40	5	6.2
8	真北	60	20	2.1
9	真北	45	13	0.8
10	N－8°45″－E	40	14	2.4

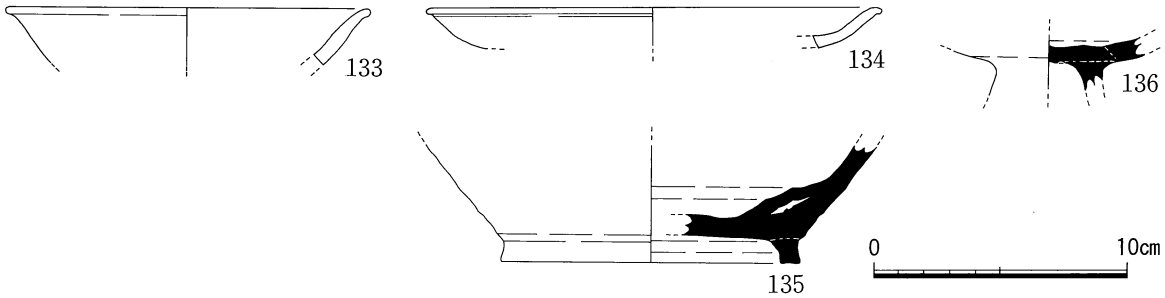


Fig. 17　SD10・11・12出土遺物実測図

SD 11（Fig. 9 ・11）

調査区中央部東寄りで検出され、方向はN－27°－W、幅95cm、深さ26cm、確認延長3 mを測る。断面形は緩やかな舟底状を呈す。埋土は黄褐灰色粘土質シルト単純一層で、北半で10数cm大の石を含む。SD 7 ～10と同じくⅥ層上面で検出した。遺物は須恵器壺、高杯、土師器片が出土しているが図示し得たのは135のみであり、土師器片は摩耗が著しい。

SD 12（Fig. 9 ・11）

調査区東端で検出したL字型に屈曲する溝で、方向はN－16°－E前後である。SR 2に切られる。幅35～60cm、深さ17cm、確認延長5.7mを測り、断面形は舟底状を呈す。埋土は黒色と赤褐灰色が混ざる粘土質シルトで、SR 2 - 6層と区別困難であった。地山上面で検出した。遺物は136の他、若干の弥生土器片が出土しており、その中には高松平野からの搬入品が1点含まれている。

② 自然流路

SR 2（Fig. 9 ・11・20）

C区から本区、さらに南へ続いていると考えられる流路である。規模並びに4層以上の出土遺物

については、C・E区の項に記した。当区では基本層準にみられるごとく、4層よりさらに下層の部分が検出された。5層は灰色粘土質シルト。6層は赤褐色と黒褐色が塊状に混じり、数cm大の石を含む粘土質シルトで、南部で弥生土器片を多量に含む。7層は灰色に赤褐色を含む粘土質シルトに地山土をブロック状に含む。この5～7層に相当する部分は底に複雑な窪みや段を持ち、上層部とはやや方向を違えて当区外南方へ延びる。Fig. 20ではSR 2 - 5 ～ 7層出土遺物を示す。SR 2 - 5 ～ 7層からは弥生時代後期前葉、古墳時代後期、及び少量ながら古代の遺物が出土している。また2ヶ所よりウマの歯が出土しているが、馬歯1では1頭分が整然と揃って出土した。

(5) 遺物集中

① 弥生土器集中（Fig. 9 ・18～19）

調査区南東隅及びSR 2 底で弥生土器の集中が見られた。尚、当地点は先述したように試掘区であった為、遺構の有無について不明確な要素が多い。集中の土器は摩耗度等の状態も比較的良好であることが検出時より看取できた。集中1は調査区南東隅部の地山上面で検出され、高松平野からの搬入品を含む。SR 2 底で検出された集中2は、その後の取り上げ過程において一定量の遺物が深さ約40cmにわたって重なった状態で出土した。つまり取り上げ時には深さ約40cm、幅約1.7m前後を掘り込まねばならなかった。また出土遺物には、残存度や摩耗度において比較的良好なものが多く含まれる。これらのことから、検出できなかったが、落込み或いは何らかの遺構であった可能性もある。これら集中出土遺物は、何れも弥生後期に属する。

(6) 包含層出土遺物（Fig. 20）

各包含層より多量の遺物が出土しており、抽出して示す。

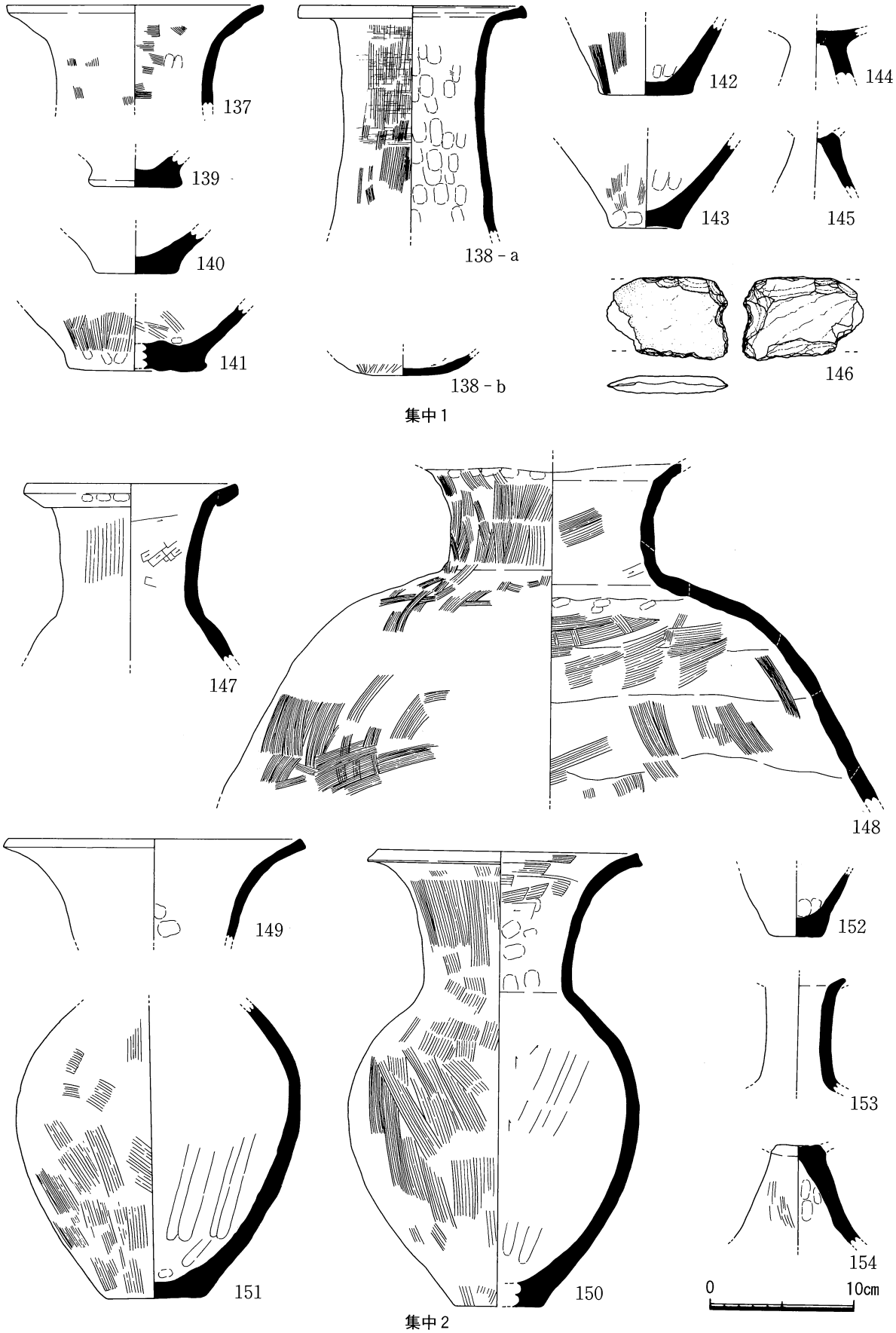


Fig. 18　集中1・2出土遺物実測図（146は縮尺1/3）

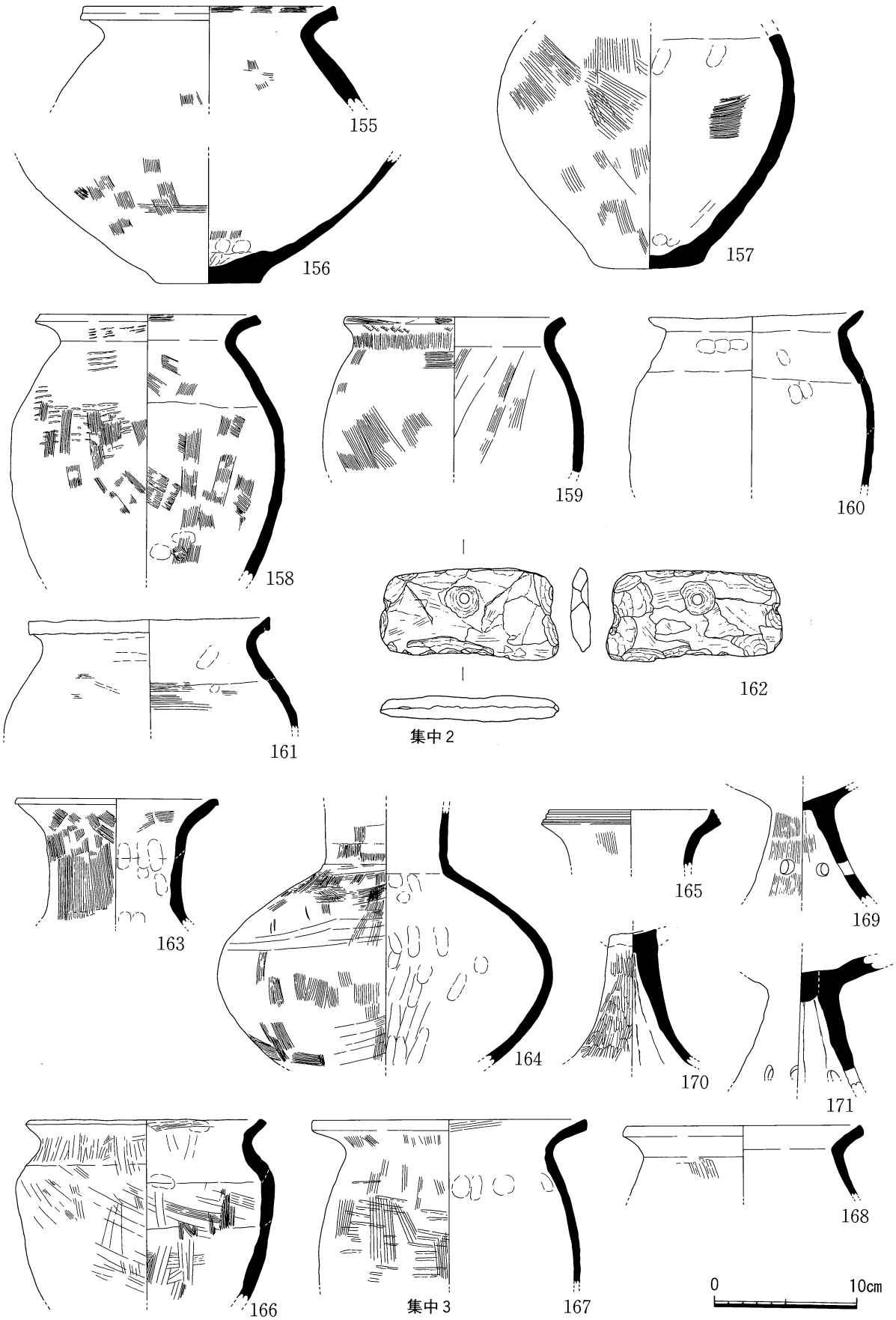


Fig. 19　集中2・3出土遺物実測図（162は縮尺1/3）

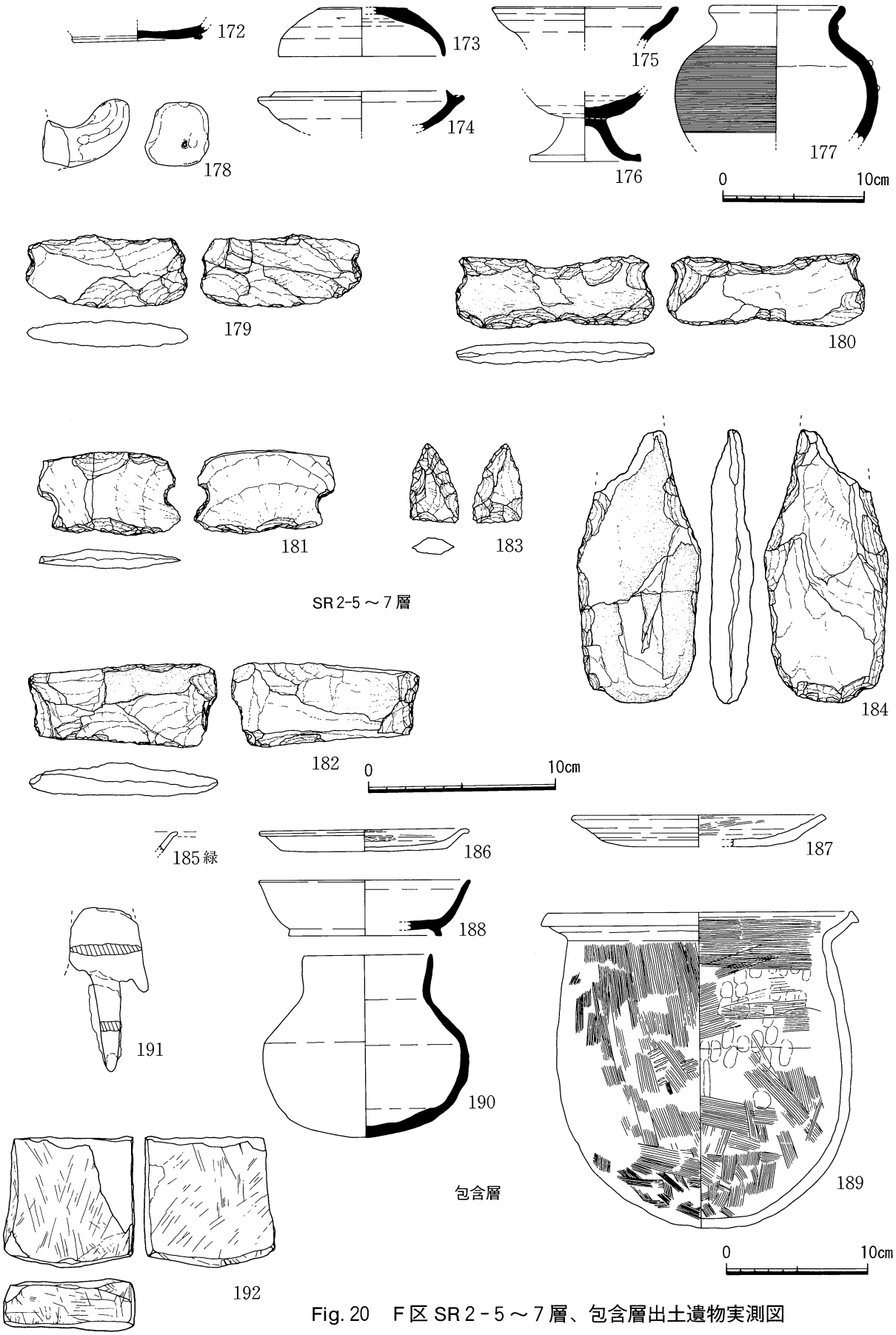


Fig. 20　F 区 SR 2 - 5 ～ 7 層、包含層出土遺物実測図

（縮尺は土器1/4、179～182・184・192は1/3、183・191は1/2）

遺物観察表（土器）

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
12	99	ST 8	弥生土器 壺	14.2		16.0		チャート粗粒砂、長石細粒砂、赤色風化礫を含む。橙7.5 YR 7/6。全面摩耗、調整観察困難。外面ハケの可能性。	下胴部に煤けのような痕あり。
〃	100	〃	〃	13.3				チャート、赤色風化礫の細粒砂～小礫、火山ガラスを含む。橙7.5 YR 7/6。口縁外面にわずかに横ナデが残るのみ。	摩耗顕著。
〃	101	〃	〃	14.0				チャート、砂岩の小礫（2～3㎜）、赤色風化礫の細粗粒砂（～1.5㎜）、火山ガラスを含む。にぶい橙7.5 YR 7/4。外面は縦ハケ後、弱くナデ。内面は押圧後、横ハケ。	
〃	102	〃	〃	13.6				チャート、泥岩、赤色風化礫の細粗粒砂（～3㎜）、火山ガラスを含む。橙7.5 YR 7/6。口縁端はハケ仕上げ。口縁内面横ハケ。外面縦ハケ。	
〃	103	〃	〃					多量のチャート、砂岩、泥岩の小礫（2㎜大）、チャート、砂岩、泥岩、赤色風化礫を含む。橙5 YR 6/6。	内外とも摩耗。
〃	104	〃	弥生土器 甕	14.8				多量のチャート小礫、長石細粒砂、微量の赤色風化礫を含む。橙5 YR 6/6。口縁端部をつまみ出して強く横ハケ。	焼成良好。
〃	105	〃	〃	17.2				多量の石英、雲母の細粒砂（～1.5㎜）、赤色風化礫の細粒砂（～1.5㎜）を含む。明赤褐5 YR 5/6。内面、頸部下までケズリ。	焼成良好。搬入品。
〃	106	〃	〃	15.0		19.5		チャート粗粒砂、長石細粒砂、微量の赤色風化礫を含む。明赤褐2.5 YR 5/6。内面に摩耗あり。ケズリの可能性あり。外面は肩部以外は全て煤け。	
〃	107	〃	弥生土器				5.2	チャート、泥岩の小礫、チャート細粗粒砂、長石細粒砂、火山ガラスを含む。赤褐2.5 YR 4/6。微細な気孔を多くもつ。	焼成良好。
〃	108	ST 8 P 1	〃				4.6	チャート細粒砂～小礫、長石細粒砂を含む。にぶい橙2.5 YR 6/4。内外に接合痕。接合部に内側より押圧。外面は被熱、赤変。	摩耗顕著。
〃	109	ST 8 埋土上層	弥生土器 鉢	(14.6)	7.1		5.0	多量のチャート小礫、長石細粒砂、赤色風化礫を含む。にぶい黄橙10 YR 7/3。内面粗いハケ。	外面器表の摩耗顕著。
〃	110	ST 8	〃	18.3				チャート、砂岩、泥岩の細粒砂～小礫、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5 YR 7/6。	摩耗顕著。
〃	111	〃	弥生土器 高杯		5.9			チャート粗粒砂を含む。灰白5 Y 8/2。分割成形。一部にミガキ残る。	器表の摩耗顕著。
〃	112	〃	〃	16.0				多量のチャート粗粒砂、赤色風化礫、長石の細粒砂少量を含む。橙7.5 YR 7/6。	全面摩耗顕著。
13	113	〃	弥生土器 高杯	21.2				チャート小角礫～細粒砂、砂岩小円礫、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙7.5 YR 7/6。	摩耗により、調整観察困難。
〃	114	〃	〃	27.7				チャート、泥岩、砂岩の細粒砂～小礫（～2.5㎜）、赤色風化礫の細粗粒砂（～1㎜）、長石細粒砂を含む。にぶい黄褐10 YR 5/4。	内外摩耗顕著。
14	119	SK 2	〃	22.4				チャート角礫、赤色風化礫の細粗粒砂、長石細粒砂、火山ガラスを含む。にぶい赤褐5 YR 5/4。内面と、口縁部外面に横ナデ。口縁接合部は、断面で非常に明確。	
〃	120	〃	〃					チャート細粒砂～小礫、火山ガラス、少量の赤色風化礫の細粗粒砂を含む。灰白10 YR 8/2。	外部から2次的に被熱。外面の2/3は摩耗顕著。
〃	121	〃	弥生土器 甕	16.3				チャート、砂岩の小円礫、チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、長石の細粒砂、火山ガラスを含む。橙5 YR 7/6。	内面は摩耗顕著。口縁外面煤け。
15	122	落込み1	壺	14.0				チャート小礫（～3.5㎜）、少量の赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい橙。頸部外面粗いハケ目を斜方向に丁寧に施す。頸部内面指頭圧痕。口縁内面に横ハケ。	
〃	123	〃	〃			25.7		チャート、砂岩、赤色風化礫の小礫（～4㎜）、火山ガラスを含む。にぶい黄橙10 YR 7/4。頸部下に鋸歯状文。胴部中位に（ハケ原体による）波状文様のハケ目。内面縦位のナデ。	
〃	124	〃	甕	15.0				チャート、砂岩の小礫（～5㎜）、少量の赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。にぶい黄橙色。肩部、粗いタタキを縦ハケで消す。内面、接合部に指頭圧痕残る、粗い斜方向ハケ。	
〃	125	〃	弥生土器 鉢	7.0	9.0	8.5	4.2	チャート、砂岩の小礫（～3.5㎜）、赤色風化礫の粗粒砂を含む。にぶい黄橙10 YR 7/3。外面弱いハケ痕。内面ナデ。	外面摩耗。
〃	126	〃	弥生土器 高杯				16.4	チャート、砂岩の小礫（～3㎜）、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙5 YR 7/8。分割成形。外面縦方向ハケ後ミガキ。内面上部弱いシボリ目。	内外摩耗。
16	127	SB 2-a P 5	須恵器 杯身	12.7				長石、黒色粒の細粗粒砂を含む。灰白N 7/0。	受部径14.0㎝。
〃	128	SB 2-b P 1	〃	14.6				長石、黒色粒の細粒砂を含む。灰白色。受部端を上方へ折り返すように回転ナデ。	
〃	129	SD 16	須恵器 高杯					長石の細粒砂、チャート細粒砂～小礫（～3㎜）、火山ガラスを含む。灰。透かしは2段3方向。脚中央部に凹線2本。内面にシボリ目。杯部内底に一方向のナデ。	焼成堅緻。
〃	130	〃	須恵器 はそう			(9.2)		長石、赤色風化礫（黒変）の細粒砂～小礫（～1.2㎜）を含む。灰白5 Y 8/1。	焼成不良。摩耗顕著。

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
16	131	SD 15	須恵器 大甕	34.0				灰N 5/。外面横ナデ後、タテ方向の櫛描文を施す。口縁部から接合部内面に断続横ナデ。端部内面のみ、2段の連続ナデ。体部内面、同心円当具痕を残す。	
〃	132	P 3	須恵器 高杯				10.7	長石、黒色粒の細粒砂を含む。灰白5Y 7/1。	
17	133	SD 10	土師器	13.9				チャート細粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR 7/6。回転ナデと見られる。	摩耗顕著。
〃	134	〃	土師器 皿	17.4	1.6		12.8	極めて精選された軟質の胎土。赤色風化礫の細粗粒砂、チャート細粒砂を含む。橙5YR 6/8。	器表は摩耗顕著。
〃	135	SD 11	須恵器 壺				11.6	長石細粗粒砂、チャート、黒粒細粒砂含む。灰白5Y 7/1。内外回転ナデ。外底平滑。底部に火膨れ。	
〃	136	SD 12	須恵器 高杯					チャート微細粒砂、黒粒細粗粒砂を含む。灰7.5Y 6/1。杯部中央は一定方向のナデ。他は全て回転ナデ。	
18	137	集中1	弥生土器 壺	17.6				チャート角礫（～7㎜）、火山ガラスを含む。にぶい橙7.5YR 7/4。頸部外面、縦位のハケをナデ消す。内面横又は斜方向のハケ痕を残す。	
〃	138 a	〃	弥生土器 壺	15.4				多量の角閃石、チャート小角礫（～3㎜）、赤色風化礫の細粗粒砂、少量の金雲母を含む。にぶい黄橙10YR 6/3。頸部、外面丁寧なハケ後弱い横ハケと弱いナデ、内面指頭痕。口縁部横ナデ。頸部亀裂は縦方向。	搬入品。
〃	138 b	〃	〃				6.4	含有鉱物は同上。暗褐10YR 3/3。内面ケズリ。体部下方外面、斜方向ヘラミガキ。	同上。焼成良好。
〃	139	〃	弥生土器 底部				6.4	チャート、砂岩の小礫（～3.5㎜）、火山ガラスを含む。浅黄橙10YR 8/4。	
〃	140	〃	弥生土器 壺				5.7	チャート、砂岩、赤色風化礫の小礫（～4.5㎜）を含む。浅黄橙7.5YR 8/6。外底ナデ。	摩耗。外底に黒斑。
〃	141	〃	〃				9.0	チャート、赤色風化礫の小礫（～7㎜）、多量の火山ガラスを含む。にぶい橙5YR 7/4。外面縦ハケをナデ消す。内面は斜方向の粗いハケ目、内底に指頭圧痕を残す。	
〃	142	〃	弥生土器 底部				6.4	チャート、赤色風化礫の小礫（～3㎜）を多く含む。にぶい橙7.5YR 7/4。外面ハケ。内底指頭圧痕を残す。	
〃	143	〃	弥生土器 甕				4.7	チャート小礫（～5㎜）、火山ガラスを含む。にぶい橙7.5YR 7/4。外面弱いハケ痕残す。内面は上方へのナデ。外底に繊維圧痕。	
〃	144	〃	弥生土器 高杯					チャート、砂岩の細粒砂～小角礫（～2.8㎜）、火山ガラスを含む。浅黄橙10YR 8/4。杯部内面ミガキ。	摩耗あり。
〃	145	〃	〃					チャート、砂岩の細粒砂～小礫（～3㎜）、火山ガラスを含む。黄橙7.5YR 7/8。分割成形。	摩耗あり。
〃	147	集中2	弥生土器 壺	14.4				チャート、砂岩、赤色風化礫の小礫（～4㎜）、火山ガラスを含む。黄橙7.5YR 8/8。口縁外面指頭圧痕残す。頸部外面に縦ハケ痕残る。頸部内面斜方向のケズリ。	全面摩耗。
〃	148	〃	〃					チャート、砂岩の小礫（～4㎜）、多量の火山ガラスを含む。にぶい橙7.5YR 6/3。口縁部は接合部より欠損。外面は頸部に縦位の、体部には多方向のハケ。内面はハケ。接合部に指頭圧痕残る。	胴部外面に大きな黒斑と赤斑。
〃	149	〃	〃	20.2				チャート、砂岩の小礫（～3㎜）、赤色風化礫の粗粒砂を含む。浅黄橙7.5YR 8/6。	全面摩耗顕著。
〃	150	〃	〃	18.1	31.8	20.3	6.0	チャート、砂岩の小礫（～3.5㎜）、火山ガラスを含む。橙5YR 7/8。外面ハケ。内面；体部上方への削り後ナデ、頸部は指頭圧痕→横ケズリ→ナデ、口縁は横ハケ→横ナデ。	外面煤け。一部剥離。
〃	151	〃	〃			19.7	6.8	多量のチャート、砂岩の小礫（～8㎜）、火山ガラスを含む。橙5YR 7/6。外面ハケ。内面ナデ。	内外とも摩耗。外面煤け。
〃	152	〃	弥生土器 底部				3.6	チャート、砂岩の小礫（～4㎜）、火山ガラスを含む。橙5YR 6/8。内底に指頭圧痕。	全面摩耗。
〃	153	〃	弥生土器 高杯					チャート、赤色風化礫の小礫（～2.5㎜）、火山ガラスを含む。黄橙7.5YR 8/8。	摩耗顕著。
〃	154	〃	〃					チャートの小礫（～3.5㎜）、多量の火山ガラスを含む。褐灰10YR 5/1。分割成形。外面にハケ痕残す。	
19	155	〃	弥生土器 壺	17.3				チャート、砂岩の小礫（～5㎜）、火山ガラスを含む。にぶい橙7.5YR 7/3。口縁外面は横ナデ、内面横ハケ。上胴内外ハケ目をナデ消す。	
〃	156	〃	〃				7.2	チャート、砂岩の小礫（～4.5㎜）、火山ガラスを含む。黄橙10YR 8/6。外面に弱いハケ痕を残す。内底は摩耗。	内外ともに摩耗。
〃	157	〃	〃			20.7	7.5	チャート小礫（～4.5㎜）、火山ガラスを含む。にぶい褐色。外面ハケ仕上げ。内面接合部に指頭圧痕残す。	壺だが、外面煤け。
〃	158	〃	弥生土器 甕	15.0		19.0		チャート、砂岩の小礫（～4㎜）、火山ガラスを含む。橙5YR 7/6。口縁までタタキ。外面、粗いタタキ後細かい縦ハケ。内面は細かいハケ。	外面煤け。
〃	159	〃	〃	19.0		18.1		チャート、砂岩の小礫（～4㎜）、火山ガラスを含む。にぶい黄橙10YR 7/3。外面粗いタタキ後縦ハケ。内面ナデ。	外面煤け。
〃	160	〃	〃	14.7		16.7		チャート、砂岩の小礫（～6㎜）を含む。灰黄褐10YR 6/2。内外とも横又は斜方向のナデ。肩部接合痕顕著。	口縁外面2次被熱赤変。胴部中位以下摩耗・剥離。

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
19	161	集中2	弥生土器甕	16.8				チャート、泥岩の小礫（～4㎜）、赤色風化礫の粗粒砂を含む。橙5YR7/6。口縁部横ナデ。上胴部外面は斜方向ハケをナデ消す。上胴部内面は横ハケ痕残す。	
〃	163	集中3	弥生土器壺	13.8				チャート、赤色風化礫の細粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい橙7.5YR7/4。外面ハケ。内面、口縁部ハケ残す。内面頸部ナデ。	
〃	164	〃	〃			23.2		チャート小角礫（～4㎜）、赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい橙7.5YR6/4。外面縦ハケ後、横方向のハケとナデ。内面は丁寧なナデ。	
〃	165	〃	〃	11.4				チャート、砂岩、赤色風化礫の小礫（～3㎜）、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。外面縦ハケ残る。	摩耗顕著。
〃	166	〃	弥生土器甕	16.0		17.8		チャート小礫（～2㎜）、赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。赤黒色。胴部外面はコテアテ。胴部内面は横方向のハケ後縦ハケ。頸部外面縦位のナデ痕顕著。口縁部は横ナデ痕認めず。	焼成良。
〃	167	〃	〃	15.0		18.1		チャート、砂岩の小礫（～4㎜）、赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい橙色。内外面ハケ。	摩耗。外面煤け。
〃	168	〃	〃	16.3				多量のチャート、砂岩、赤色風化礫の小礫（～4㎜）、火山ガラスを含む。橙7.5YR6/4。	摩耗。口縁外面煤け。
〃	169	〃	弥生土器高杯					多量のチャート、砂岩の小礫（～6㎜）、少量の赤色風化礫の粗粒砂を含む。橙5YR6/8。一体成形。3孔。外面ハケ痕。内面シボリ目。	摩耗あり。
〃	170	〃	〃					チャート、砂岩の小礫（～3㎜）、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。黄橙10YR8/6。分割成形。外面ヘラミガキ。内面接合痕とシボリ目。	
〃	171	〃	弥生土器高杯					チャート、砂岩の小礫（～4㎜）、少量の赤色風化礫の粗粒砂を含む。浅黄橙7.5YR8/6。2孔ずつが組になる6孔。脚内面に接合痕とシボリ目。	全面摩耗。
20	172	SR 2 5～7層	須恵器杯B				8.9	チャートの小礫（～2.5㎜）を含む。灰白10Y7/1。内底中央に一定方向ナデ。	
〃	173	〃	須恵器蓋	11.8	3.5			チャート小礫（～4㎜）を含む。灰白5Y7/1。天井外面回転ケズリ後、頂部をナデ。	
〃	174	〃	須恵器杯H身	12.1				長石の粗粒砂を含む。灰5Y6/1。内底多方向ナデ。	受け部径14.6㎝
〃	175	〃	須恵器はそう	12.9				チャートの粗粒砂を含む。灰白7.5Y7/1。	焼成不良、摩耗顕著。
〃	176	〃	須恵器高杯				7.8	杯部と脚部で発色、胎土が異なる。杯部は長石の小礫（～6㎜）、脚部は長石の細粒砂を含む。灰白2.5Y7/1。杯部下部回転ケズリ。	
〃	177	〃	須恵器壺	9.0		14.3		長石の小礫（～2.5㎜）を含む。灰5Y6/1。回転カキ目。	外面降灰付着。
〃	178	〃	土師器甑把手					チャートの小礫（～3.5㎜）、赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。外面は指頭圧痕、細かいハケ残る。	外面煤け。
〃	185	包含層	緑釉陶器					胎土精選。石英、長石の細粒砂を含む。灰白5Y8/2。内外に薄緑色の釉。	
〃	186	〃	土師器皿A	14.4	1.7		12.0	長石、赤色風化礫の粗粒砂を含む。浅黄橙7.5YR8/6。口唇部は外へ折り曲げ肥厚させる。体部回転ナデ。内面連続ミガキ。外底ナデ。	
〃	187	〃	〃	17.6	2.3		13.8	赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。浅黄橙7.5YR8/6。外底ナデ。他は回転ナデ。内面は幅広の連続ミガキ。	
〃	188	〃	須恵器杯B	14.8	4.0		10.8	長石の粗粒砂、火山ガラスを含む。灰白色。内底多方向ナデ。他は全て回転ナデ。	
〃	189	〃	土師器甕	21.6	22.5	20.9		チャート、泥岩、赤色風化礫の小礫（～4㎜）、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。外面タタキ後、上半縦ハケ、下部多方向ハケ。内面指頭圧痕残る。上半横ハケ。下半多方向ハケ。	Ⅰ群。外面下部煤け、赤変、剝離。内面上半に黒色の付着物。
〃	190	〃	須恵器壺	8.9	13.0	14.5		チャート小礫（～5㎜）、黒色粒を含む。灰白10Y8/1。	焼成不良、摩耗顕著。

遺物観察表（石器・土錘）

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器　種	法　量（cm）				材　質	特　徴
				全長	全幅	全厚	重量（g）		
13	115	ST 8	打製石斧	(10.5)	7.1	2.4	207.4	頁岩	中央部で折損。両側縁から両面とも加工。
〃	116	〃	石鏃	2.8	1.7	0.3	1.9	サヌカイト	平基式無頸石鏃。両側縁に膨らみ。
〃	117	〃	叩石	10.6	11.3	4.3	750.0	砂岩	一側面に敲打痕。
〃	118	〃	鉄鏃	9.0	2.1	0.5	13.2	鉄	柳葉型で関部を持たない。一部錆が厚いところあり。
18	146	集中 1	石包丁	(6.3)	4.4	0.9	28.0	粘板岩	被熱認む。欠損。表面に自然面残す。端部抉入。
19	162	集中 2	〃	9.3	4.9	1.2	72.3	頁岩	部分的に磨き認む。両側から穿孔。端部抉入。
20	179	SR 2 5～7 層	〃	8.5	3.9	1.4	50.6	頁岩	両長側縁に加工痕残り、ともに摩滅あり。
〃	180	〃	〃	10.4	3.8	1.1	50.9	頁岩	表面に自然面残す。側縁から刃部を作出、両端抉入。両長側縁に 2 次的加工の可能性あり。
〃	181	〃	〃	7.5	4.5	1.0	33.9	サヌカイト	刃部と抉りに加工痕、両端抉入。刃部を形成しない長側縁は折断か。
〃	182	〃	石包丁か	9.9	4.5	1.8	820.0	頁岩	表面に自然面残す。
〃	183	〃	石鏃	2.9	1.8	0.6	2.9	サヌカイト	平基式無頸石鏃。側縁に膨らみ。厚みあり。片面に自然面を僅かに残す。一方の主面に主剝離面が残る。
〃	184	〃	打製石斧	14.6	6.5	2.2	230.8	頁岩	基部欠損。片面に自然面を残す。敲打により端部に刃部作出。側縁も敲打により平行に作出。基部は細く加工。
〃	191	包含層	鉄鏃	5.8	2.9	0.5	5.8	鉄	欠損。逆刺を有す。
〃	192	〃	砥石	(7.0)	6.9	2.8	(223.6)	砂岩	欠損。4 面を使用。若干の擦痕。

※ 語句等はＣ・Ｅ区に準ずる。

3．H区

(1) 調査区の概要と基本層準

① 調査区の概要（Fig. 40）

遺跡中央部に位置する東西方向の調査区である。本来、水路設置に伴うトレンチ状の調査区であるが、検出例としては本県最大級の掘立柱建物の一部が検出されたため、関係機関と協議の上調査区を一部拡張し、掘立柱建物群の検出を行った。以下では全体を調査区と称し、必要に応じ、本来の調査区をH本区、拡張部を拡張区、そのうちH本区北側の拡張区を北拡張区、南側の拡張区を南拡張区と呼ぶ。H本区では弥生時代及び古代の全遺構を精査したが、拡張区では掘立柱建物群の平面的規模を確認することを目的としたため、原則的に弥生時代に属する遺構の全てと古代に属する遺構の一定部分が未検出であり、検出した掘立柱建物も多くは柱痕の確定に留め、完掘していない。H本区は幅4.2m前後、延長109m、南拡張区は東西47m×南北30m、北拡張区は東西62m×南北12mを測る。

弥生時代の住居址には偏在が見られないが、古代においては特に調査区中央部からやや東よりにかけて、各種遺構が高密度で、重複して存在する。この区域では包含層出土遺物も濃密であった。次項でも述べるように古代の包含層は整地層の可能性がある。V層はH本区8グリッドで浅い落ち込み状に南北のラインが検出され、以東7グリッドまで存在した。さらに、南拡張区でも東へ落ち込む南北ラインが掘立柱建物と平行して検出されており、連続するものと思われ、建物群が形成される以前に整地されたものと考えられる。この南拡張区の落ち込み上層からは、鉄滓、製塩土器、土錘、土師器、須恵器が出土した。なお、H本区では下記のごとくV層上面での遺構検出は困難で、除去した後にプランを決定した。

調査区の西端に位置する遺構群は、川原石と土による現堤防の直下で検出されたものであり、以西は物部川の現氾濫原となっていることから、本来遺跡はさらに西方へ展開していたことが確認できた。

② 基本層準（Fig. 22・23）

Ⅳ-1～Ⅶ層は弥生時代から古代までの遺物を包含し、Ⅳ-1、2層は普遍的に堆積していると考えられる。特にⅣ-1層は包含遺物が多く、コンテナケース50箱相当に及んだ。Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ層は偏在する。各包含層は比較的薄く土色も似通っていたため、特にH本区での遺構検出は全包含層除去後になったものが多い。また、各層が必ずしも整然と堆積している証左はない。しかし土層断面でこれら層準と遺構との切合い関係が看取できた例や、検出時に水準差があった場合に、これらを各遺構の先後関係についての判断材料の一つとし得た。なお、Ⅳ-1～Ⅶ層は遺構との切合い関係や土質、遺物から考えて、整地層の可能性がある。

H区の地山レベルはA、D区と比較して50～60cm程度低く、H区内では東部～中央部に比して西部が30cm前後低い。地山は東部で10YR 4/4褐色～6/6明黄褐色粘土質シルト、西部で10YR 5/6黄褐色シルト質粘土であるが、6グリッドのST 9やSK 20の直下では数cm～10数cm大の礫面が存在する。また、18～21グリッド付近の地山は砂や10数cm大までの礫からなる堅固な層であり、深さ1mのサブトレンチ以下に続いていた。

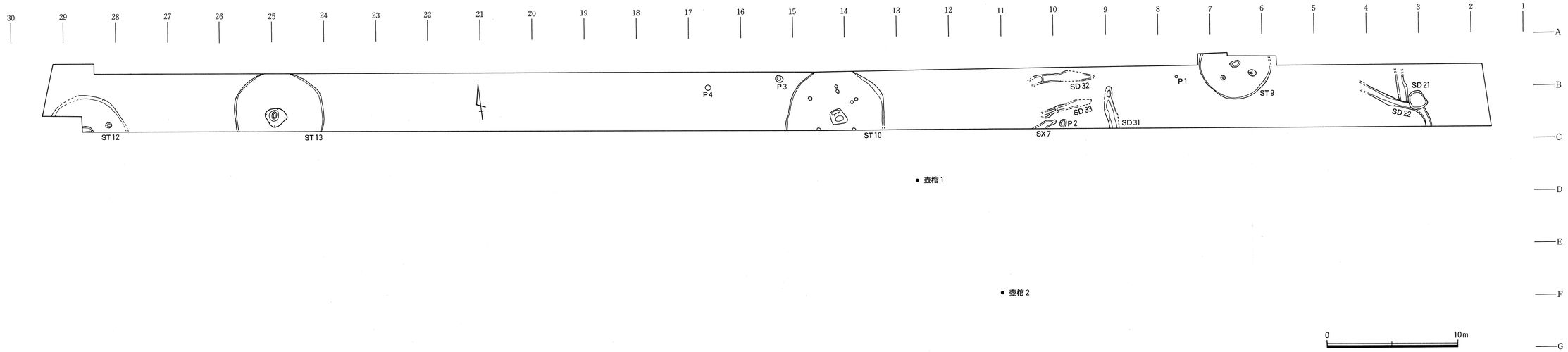


Fig. 21　H区検出遺構全体図（弥生）

Ⅰ層　：耕作土。下層に黄色シルト質粘土層を伴う。

Ⅱ層　：旧耕作土。下層に黄色シルト質粘土層を伴う。

Ⅲ層　：10 YR 4/3にぶい黄褐色粘土質シルト。下層に10 YR 4/6褐色シルト質粘土層を伴う。西部と北拡張区北壁で確認できるが、中央部には存在しない。

Ⅳ-１層：10 YR 3/3暗褐色粘土質シルトにMn粒を含む。Ⅳ-２層よりMn粒が大きく、最も多量の遺物を包含する。Ⅳ-２層に比して締りの弱い部分あり。

Ⅳ-２層：10 YR 3/2黒褐色粘土質シルトにMn微細粒を含む。

Ⅴ層　：10 YR 5/3にぶい黄褐色粘土質シルトに地山土塊を含む。７～８グリッドで確認でき、南北に広がりを持つと見られる。

Ⅵ層　：10 YR 4/4褐色粘土質シルトにMn粒を含む。中央部に存在した。

Ⅶ層　：10 YR 3/2黒褐色（やや暗め）粘土質シルトに比較的大粒のMn粒を含む。西部に存在した。

(2)　弥生時代の検出遺構と遺物

①　竪穴住居

ST 9　(Fig. 24・25)

調査区の東部にある。直径5.4ｍの円形プランを有する竪穴住居であるが、半分近くが調査区外に出ている。深さは45㎝前後を測るが、中央部分は５～９㎝深く皿状の落込みを呈しており、中央ピットに向かって緩やかに傾斜している。中央ピット（Ｐ１）は、70㎝×50㎝の隅丸長方形をなし深さは７㎝前後と浅い。床面には中央ピットの他に２個の柱穴が掘られている。Ｐ２は、直径40㎝、深さ45㎝を測り径10㎝前後の柱痕跡が確認できた。検出面直下には拳大の河原石が柱痕跡を囲むように配されている。Ｐ３は、長軸60㎝、深さ23㎝の楕円形のピットで、東側の肩部に人頭大の河原石が置かれている。埋土はⅠ層：褐色砂質土層、Ⅱ層：暗褐色砂質土層で、Ⅲ層：褐色粘土層は高床部と低床部の間に部分的に堆積している。そしてⅢ層に一部重なるように中央ピットと低床部に炭化物層の堆積が認められる。

遺物は床面から壺（１・３）、甕（５）、鉢（６・７）、高杯（８・９）、器台（11）、土器底部（12・13・16～18）が、埋土Ⅰ層から磨石（19）、Ⅱ層より壺（２）が出土している。図示し得なかったものも含めてST 9出土の土器組成を口縁部の点数で示すと、壺７点、甕７点、鉢２点、高杯１点である。この他高杯脚部２点、器台脚部１点が出土している。これらの中で壺と甕の口縁部に凹線を有するものは各々３点見られ、凹線紋の比率は42.9％である。後期Ⅰ期の竪穴住居である。

ST 10　(Fig. 26・27)

調査区の中央部にある。直径7.5ｍを測る円形の大型住居である。北側の一部と南側の半分近くが調査区外に出ている。また東部の一部が撹乱を受けており、古代の遺構にも随所で切られている。セクションと床面の柱穴のあり方から明らかに２時期にわたっていることが判るが、面的に両者を掘り分けることができなかった。拡張によるものか切り合い関係による重複であるのかは判断が難しいが、中央ピットを共有していることや柱穴の位置関係からして拡張の可能性が高いものと考えられる。埋土は図示したようにⅠ層～Ⅻ層に分かれるが、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層が拡張後の新しい住居の埋

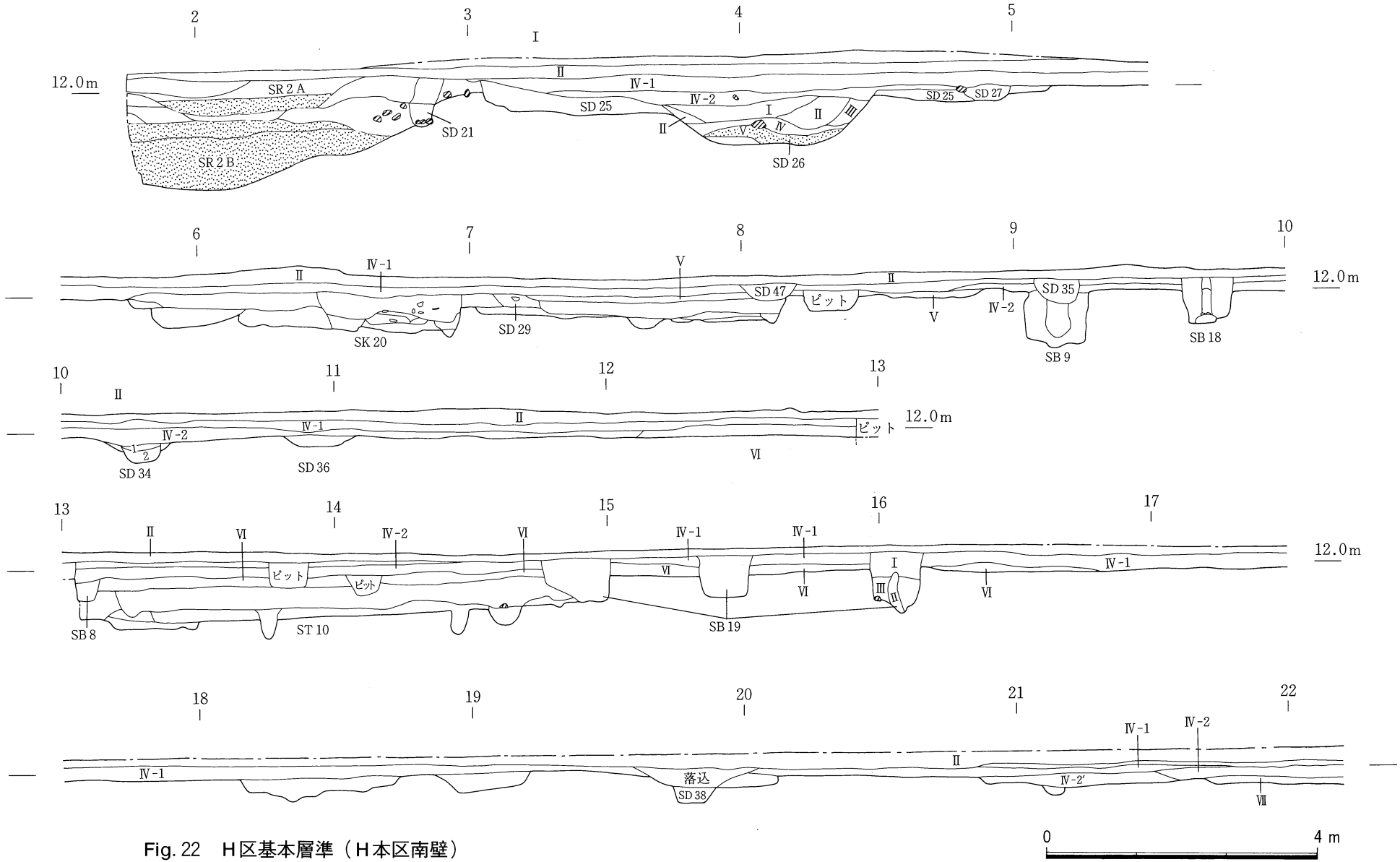
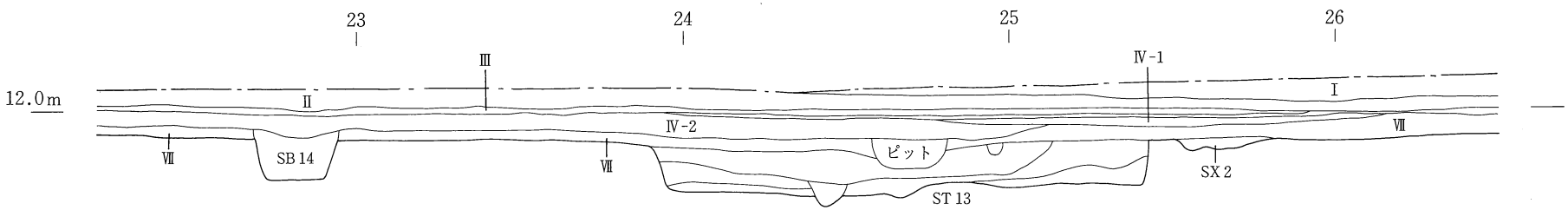
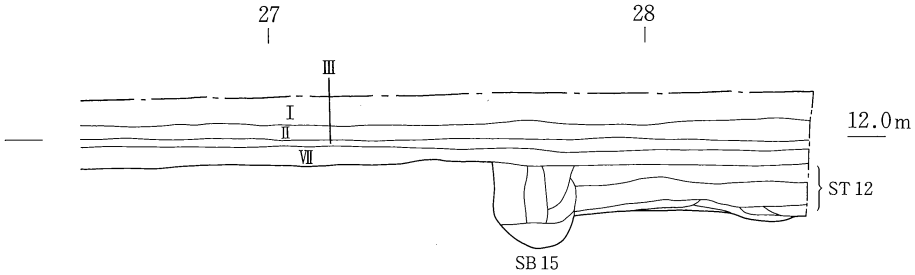


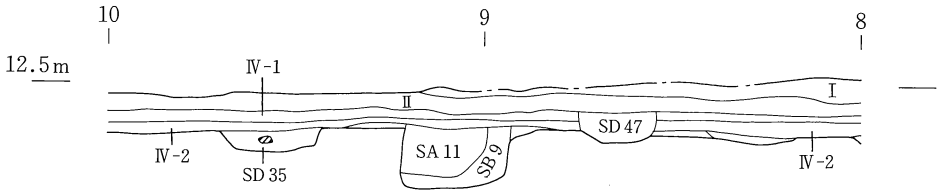
Fig. 22　H区基本層準（H本区南壁）

0　4 m





H本区南壁



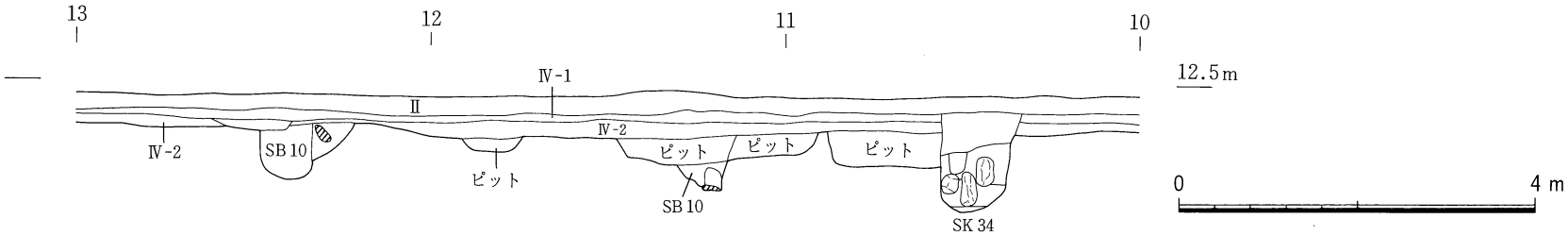


Fig. 23　H区基本層準

H本区北壁

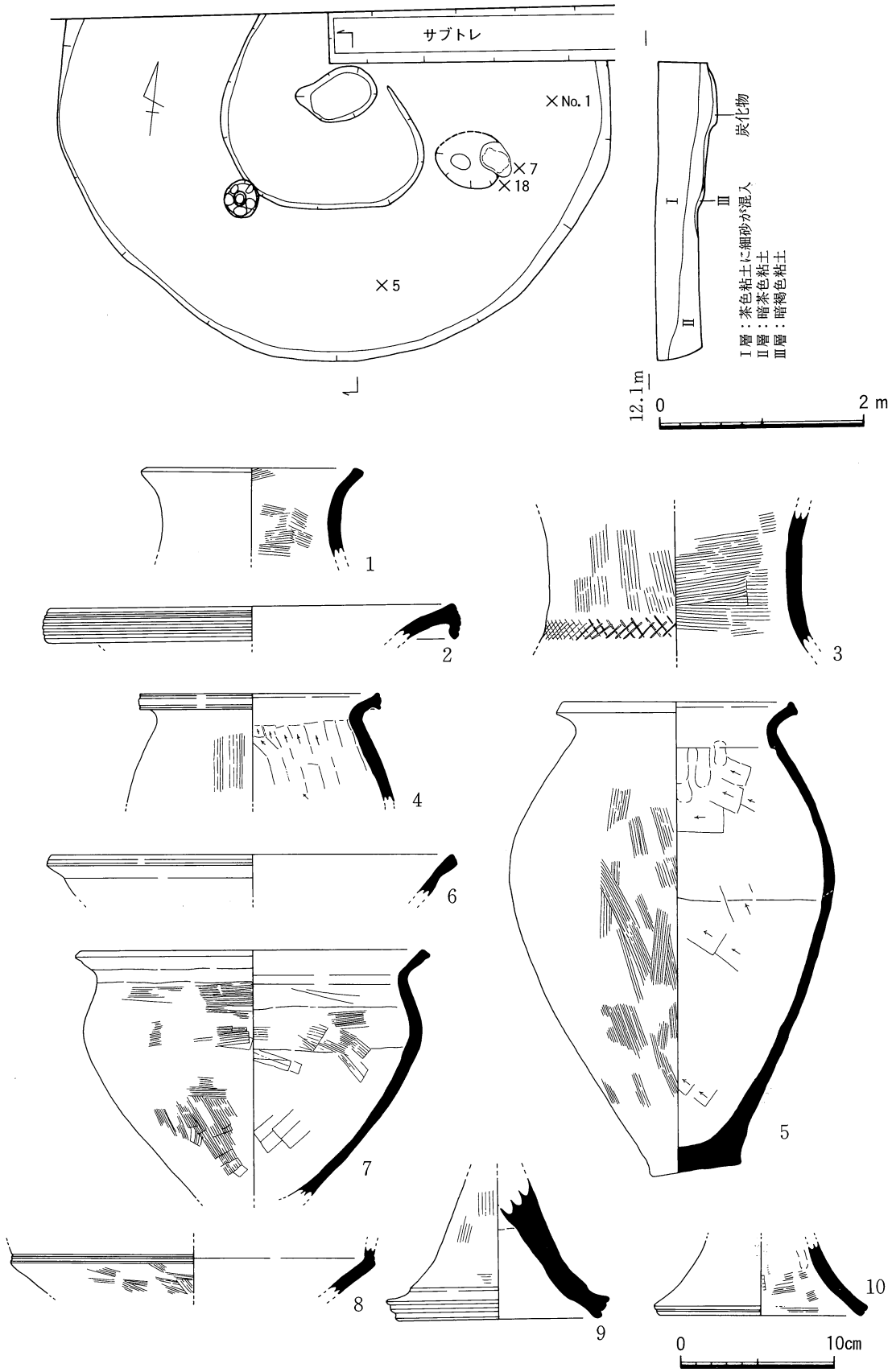


Fig. 24　ST 9 平面・セクション及び出土遺物実測図

壺（1～3）、甕（4・5）、鉢（6・7）、高杯（8～10）

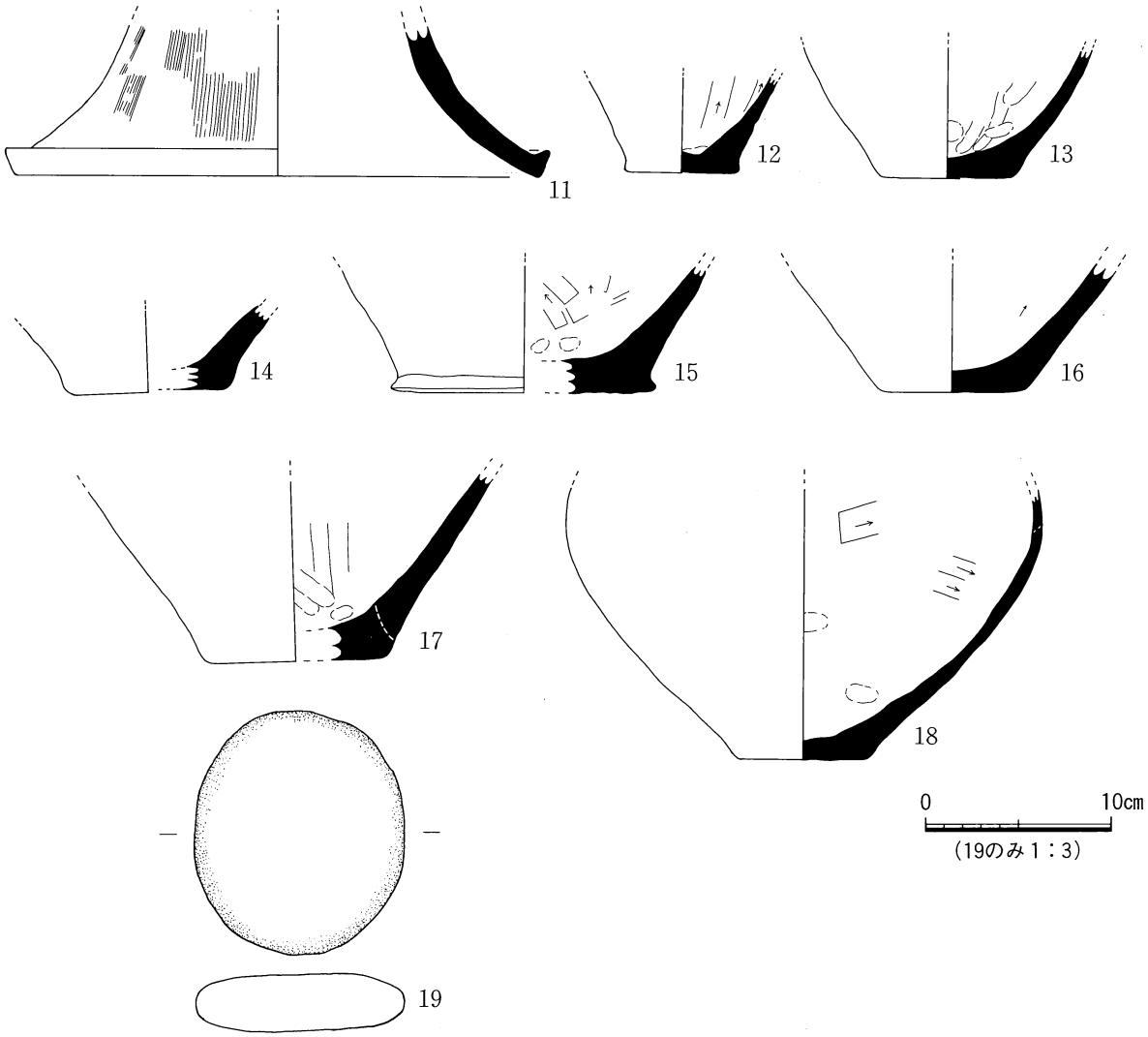


Fig. 25　ST 9 出土遺物実測図

器台（11）、壺底部（13・15・17・18）、甕底部（12・14・16）

土、Ⅶ・Ⅷ・Ⅹ層などが古い段階の埋土に該当しよう。しかしⅦ層以下は自然堆積によるものではなく拡張に際して意識的に埋められた埋土ということになる。

新住居の床面までの深さは33cm前後、旧住居はそれよりさらに20cmほど深く掘られている。規模は新住居の方（直径7.5m）が一廻り大きく造られている。中央ピット（Ｐ１）は、底辺が1.1m、上底が0.9m、高さ1.2mの台形状のプランを呈し深さ20cmを測る。新住居の東壁には最大幅15cm、深さ７cmの壁溝が設けられている。柱穴は新旧合わせて９個が検出された。径20～30cmの円形または楕円形のプランを有し、深さは20～45cmを測る。Ｐ３・10は旧住居、Ｐ２・５・７は新住居に対応するものであるが、他のピットは何れに所属するのか明らかにできない。柱穴間距離は、Ｐ２－Ｐ10が1.8m、Ｐ９－Ｐ２が2.0m、Ｐ９－Ｐ３が1.4m、Ｐ３－Ｐ５が2.0mである。

遺物は、埋土及び床面から多量の土器、石器、鉄器片、ガラス小玉が出土している。口縁部の点数で土器組成を見ると、壺42点、甕74点、高杯10点、鉢６点である。これらの土器は、新旧何れの

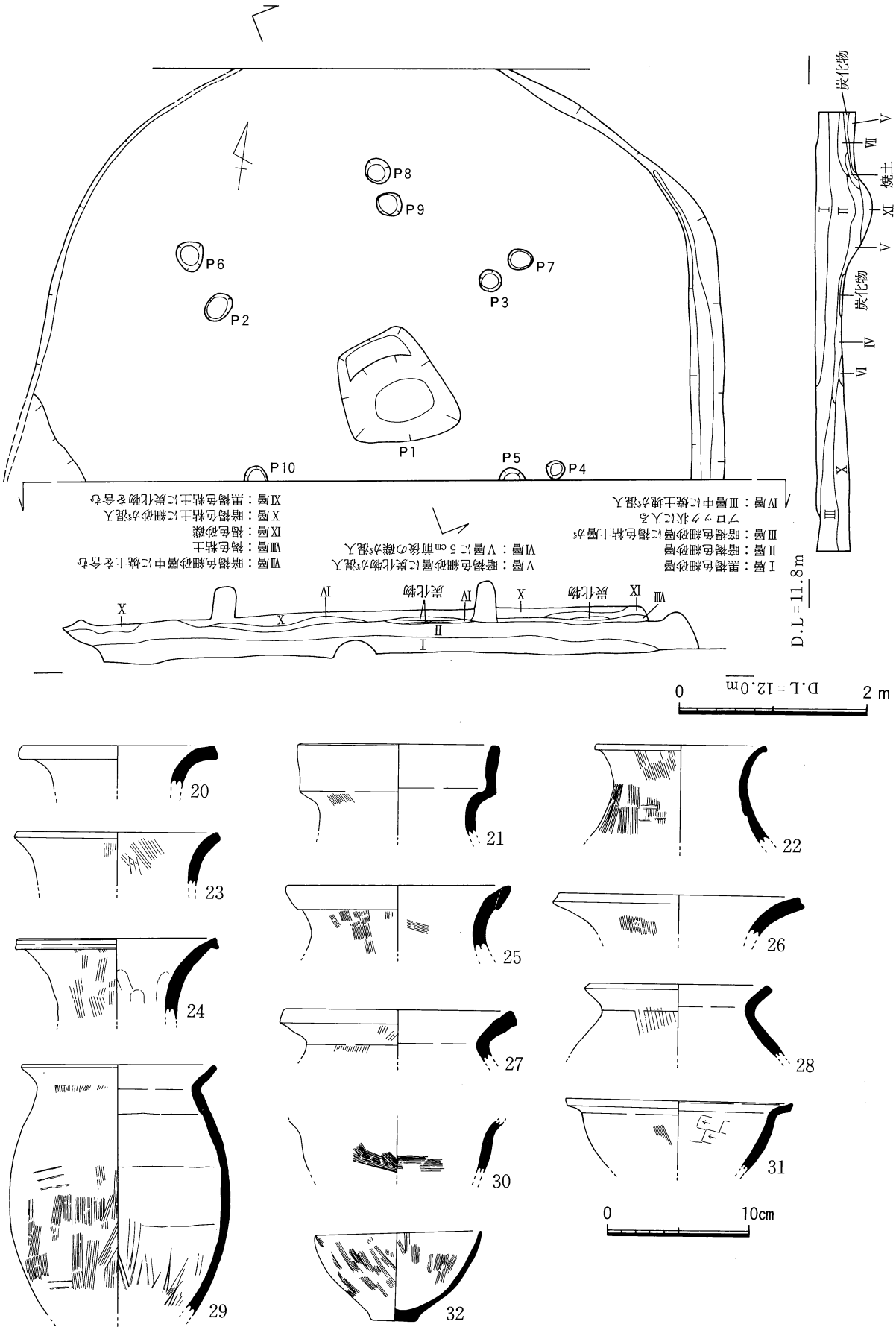


Fig. 26　ST 10平面・セクション及び出土遺物実測図（壺：20～26、甕：27～29、鉢：30～32）

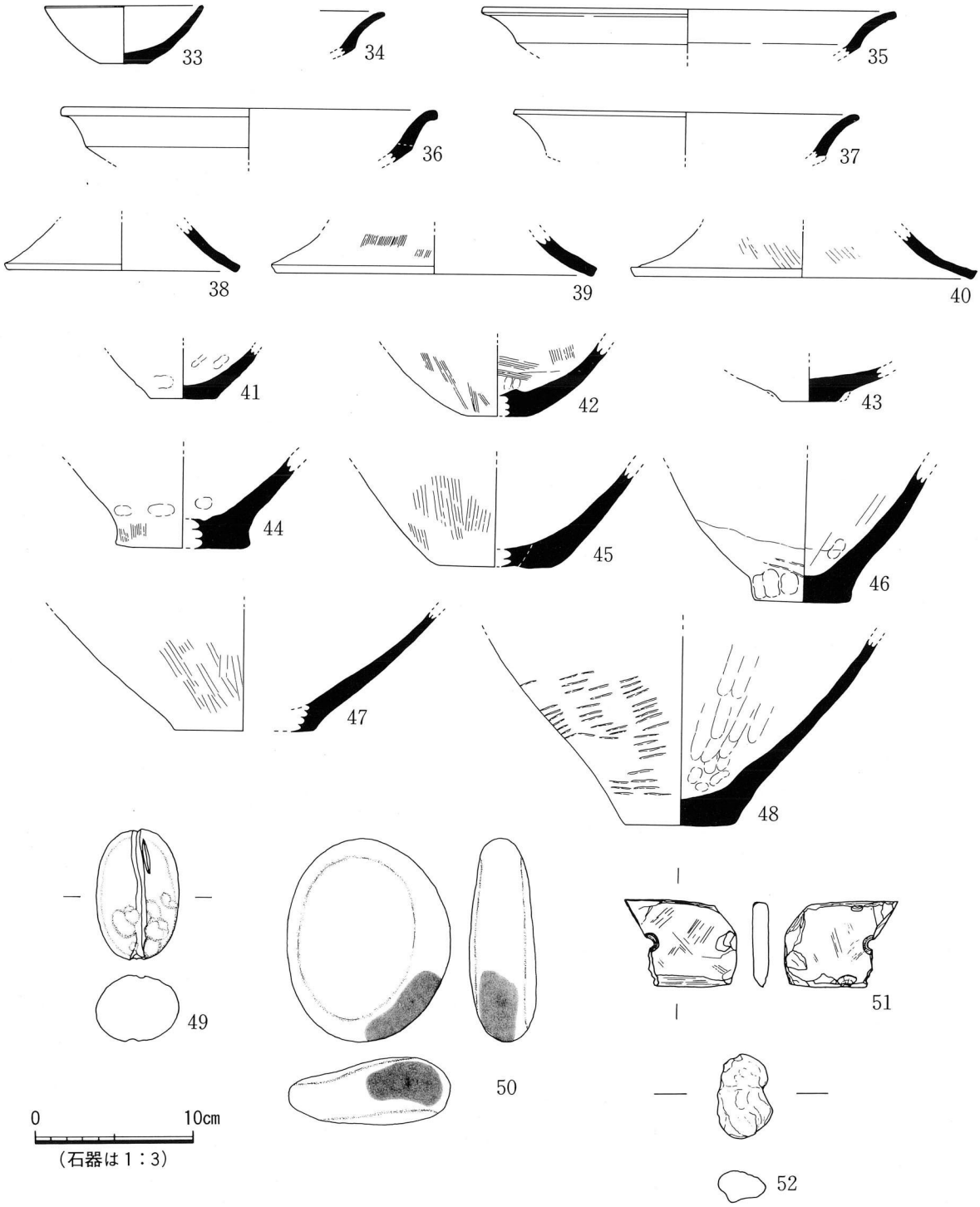


Fig. 27　ST 10出土遺物実測図

（鉢：33、高杯脚部：28～40、底部：41～48、
石包丁：51、石錘：49、磨石：50、鉄片：52）
（50のスクリーントーンは朱付着を示す）

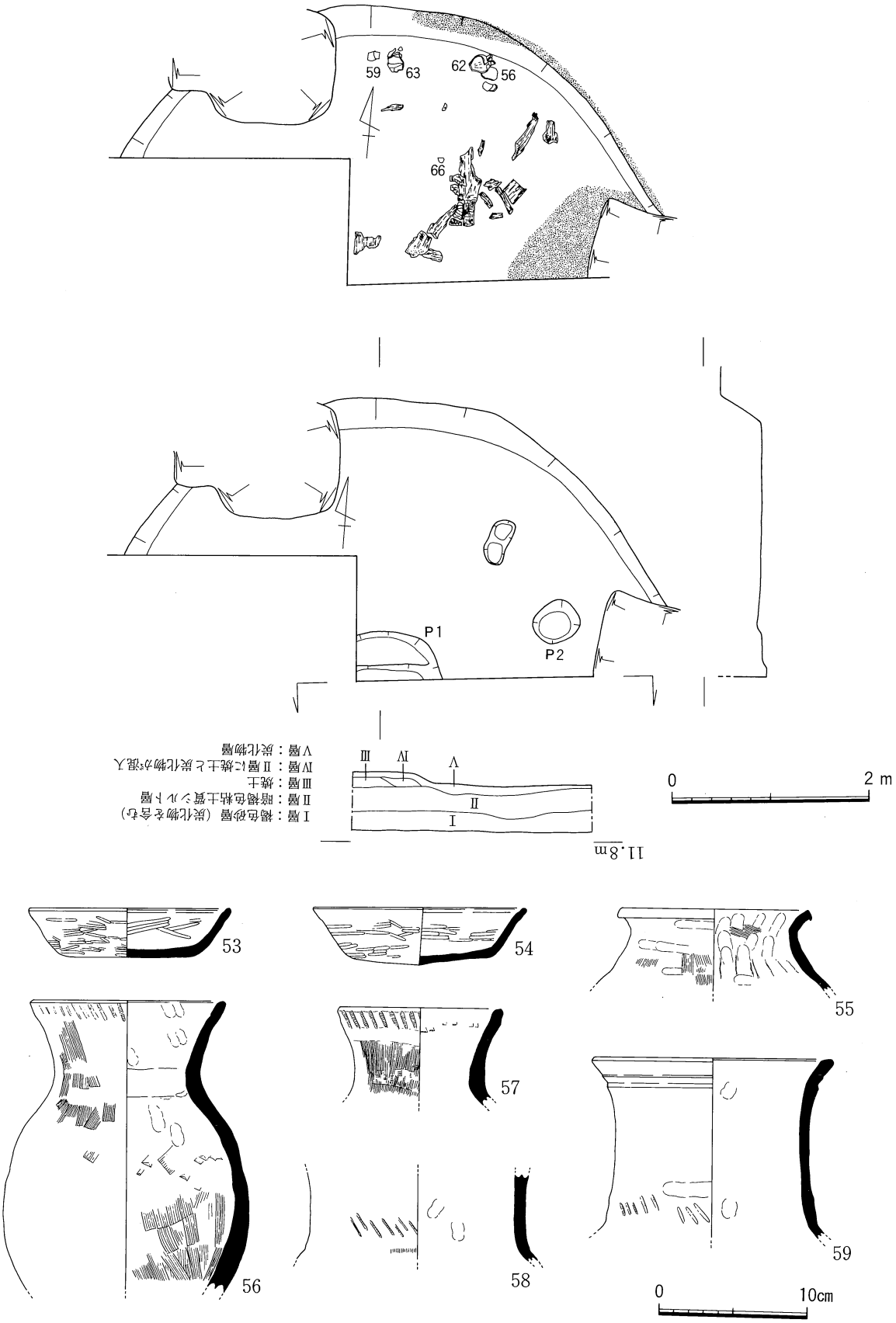


Fig. 28　ST 12床面遺物出土状況、同平面・セクション図及び出土遺物実測図
弥生土器（壺：56～59、甕：55）、土師器杯（53・54）

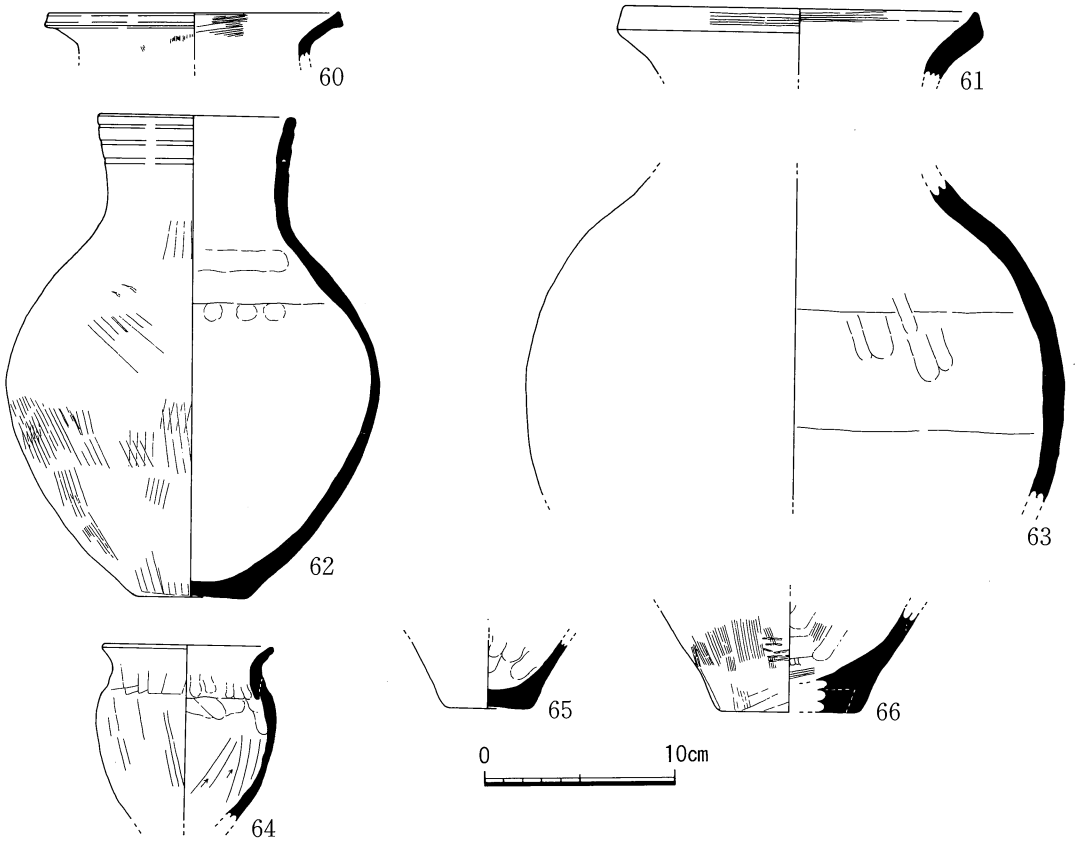


Fig. 29　ST 12出土遺物実測図（壺：60～63、甕：64、底部：65・66）

住居に属するのかについて峻別することが難しいが、出土状況から見てその大半は新住居に伴うものである。壺底部（41・46）、甕底部（48）、鉢（32・33）、石錘（49）は、新住居の床面近くの壁際から、他の多くの土器は新住居の埋土中から出土している。鉄片（52）は検出面直下から、石包丁（51）と朱付着礫（50）は旧住居埋土中から、ガラス小玉は旧住居床面から１点出土している。中央ピットからは多くの土器片が出土しているが図示できるものはない。Ｐ６からは50ｇの粘土塊が出土している。土器の中で凹線紋を施すものは見られない。新住居は後期Ⅱ-３期に属する。

ST 12（Fig. 28・29）

調査区の西端に位置する焼失住居である。南側も半分以上が調査区外に出ており、更に古代の柱穴に大きく切られている。直径６ｍ前後の円形住居で、深さは40cmを測り、壁溝は認められない。中央ピット（Ｐ１）の全体形を明らかにすることはできないが、長軸１ｍ以上の隅丸長方形状を呈するもので、段状に掘り込まれている。柱穴Ｐ２は、長軸50cmの楕円形を呈し深さ20cmを測る。埋土はⅠ層：炭化物を含んだ褐色砂層、Ⅱ層：暗褐色粘土質シルト層、Ⅲ層：焼土、Ⅳ層：Ⅱ層に焼土と炭化物が混入、Ⅴ層：炭化物層である。東側の床面と壁には焼土が広がり、床面のほぼ全面には炭化物が厚く堆積している。また床面には炭化した板状の建築材がみられ、床面の壁際から壺を主体とした土器が出土している。出土土器の組成を口縁部で見ると壺５点、甕３点で、壺のうち３点には凹線紋が施されている。この他古代の土師器杯（53・54）が埋土中より出土している。後期Ⅰ期に属する。

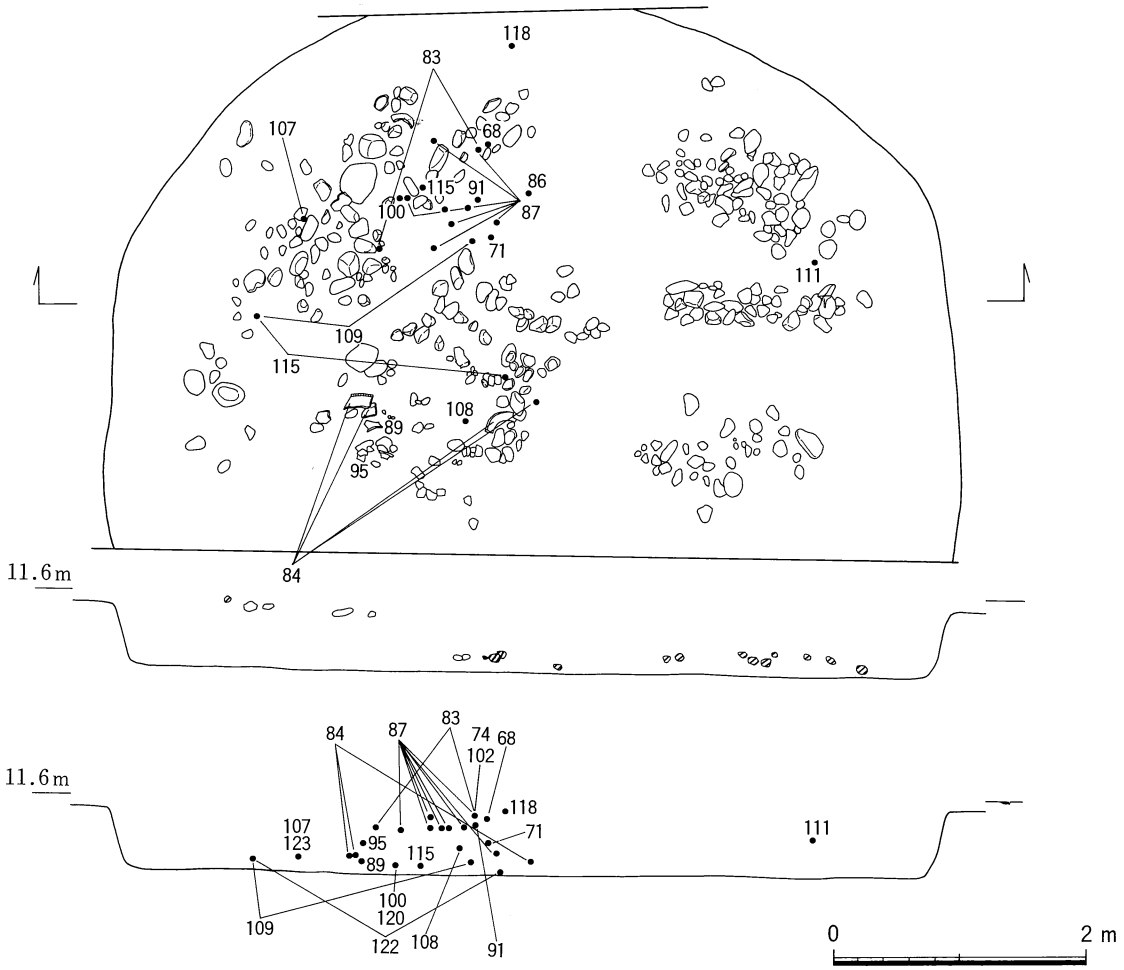
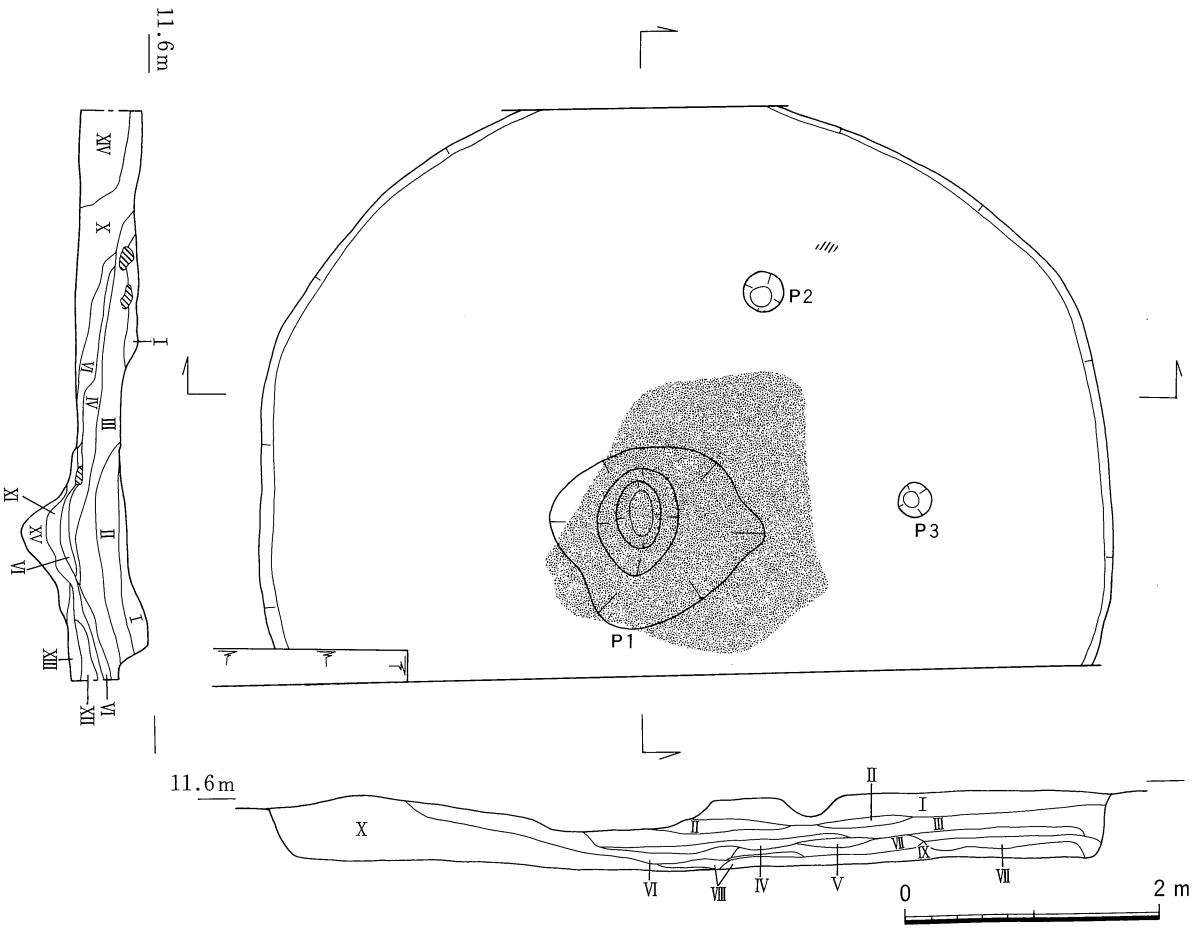


Fig. 30　ST 13河原石・遺物出土状況及び土器接合関係資料

ST 13（Fig. 30～34）

ST 12の東10mにある。南半分と北の一部が調査区外に出ている。直径７m前後の円形プランを有し深さは50cmを測る。中央ピット（Ｐ１）は長軸1.8mの不整形プランを有し段状に掘り込まれ深さ50cmを測る。中央ピット内及びその周辺には焼土の広がりが見られる。柱穴は２個（Ｐ２・３）を確認した共に直径30cm前後を測る円形で、深さはＰ２が30cm、Ｐ３が40cmを測る。両者の間隔は２mである。埋土は図示したようにX層を主体とするが、東側ではかなり細かく分層することができる。そして埋土中には多量の河原石が認められ、しかもこれらの河原石はいくつかのグループに分けることができることから、偶然の混入ではなく意識的な行為によるものと見なければならない。住居の廃棄に際して行われた行為である可能性が高い。

遺物は土器を中心に大量に出土しているが、床面出土のものは壺底部（122）と石包丁（123・124）のみで、他は埋土・礫間から出土している。これらの土器も河原石群のグループの中で接合関係にある傾向が認められることから、住居の廃棄に際して川原石と同様に扱われた可能性が高い。口縁部の点数で土器組成を見ると、壺が33点、甕が32点、鉢が７点、高杯が２点で高杯の脚部は８点出土している。これらの中で凹線紋を有するものは壺で13点（39.4％）、甕で12点（37.5％）、鉢で２



Ⅰ層：黒褐色細砂層
Ⅱ層：Ⅰ層に黄褐色シルト層が混入
Ⅲ層：黒褐色砂層に５～６㎝の礫を含む
Ⅳ層：黒褐色砂層に多くの焼土を含む
Ⅴ層：にぶい黄褐色粘土
Ⅵ層：Ⅴ層に５～15㎝大の礫を含む
Ⅶ層：黒褐色砂層に黄褐色粘土を含む
Ⅷ層：黒褐色粘土に焼土を含む
Ⅸ層：にぶい黄褐色粘土質シルト
Ⅹ層：砂と数mm～15㎝大の礫を含む黄褐色粘土
Ⅺ層：砂に５㎝大の礫を含む
Ⅻ層：にぶい黄褐色粘土に砂と数㎝の礫を含む
XIII層：黄褐色粘土混砂礫層に多量の炭化物を含む
XIV層：にぶい黄褐色粘土
XV層：黄褐色粘土に砂，小礫・15㎝大の礫を含む

Fig. 31　ST 13平面及びセクション図

点（28.5％）、高杯１点（50％）であり、平均38.9％の土器口縁部に凹線紋が施されている。ST 13は後期Ⅰ期に属する。

② 溝

SD 21（Fig. 35）

調査区の東端に位置し、SD 22と切り合っているが先後関係は不明である。確認延長２ｍ、幅70～80㎝、深さ35㎝前後を測る。埋土は暗褐色の砂・シルト層である。埋土中より弥生土器の細片が出土している。

SD 22（Fig. 35）

西を古代の溝に切られている。確認延長5.7ｍ、幅45～60㎝、深さ20～45㎝前後を測る。埋土はSD 21と同様で、埋土中より弥生土器片（127・128・132）が出土している。

SD 31（Fig. 36）

調査区の中央部に位置する南北に延びる溝である。確認延長３ｍ、幅80㎝、深さは30㎝前後を測

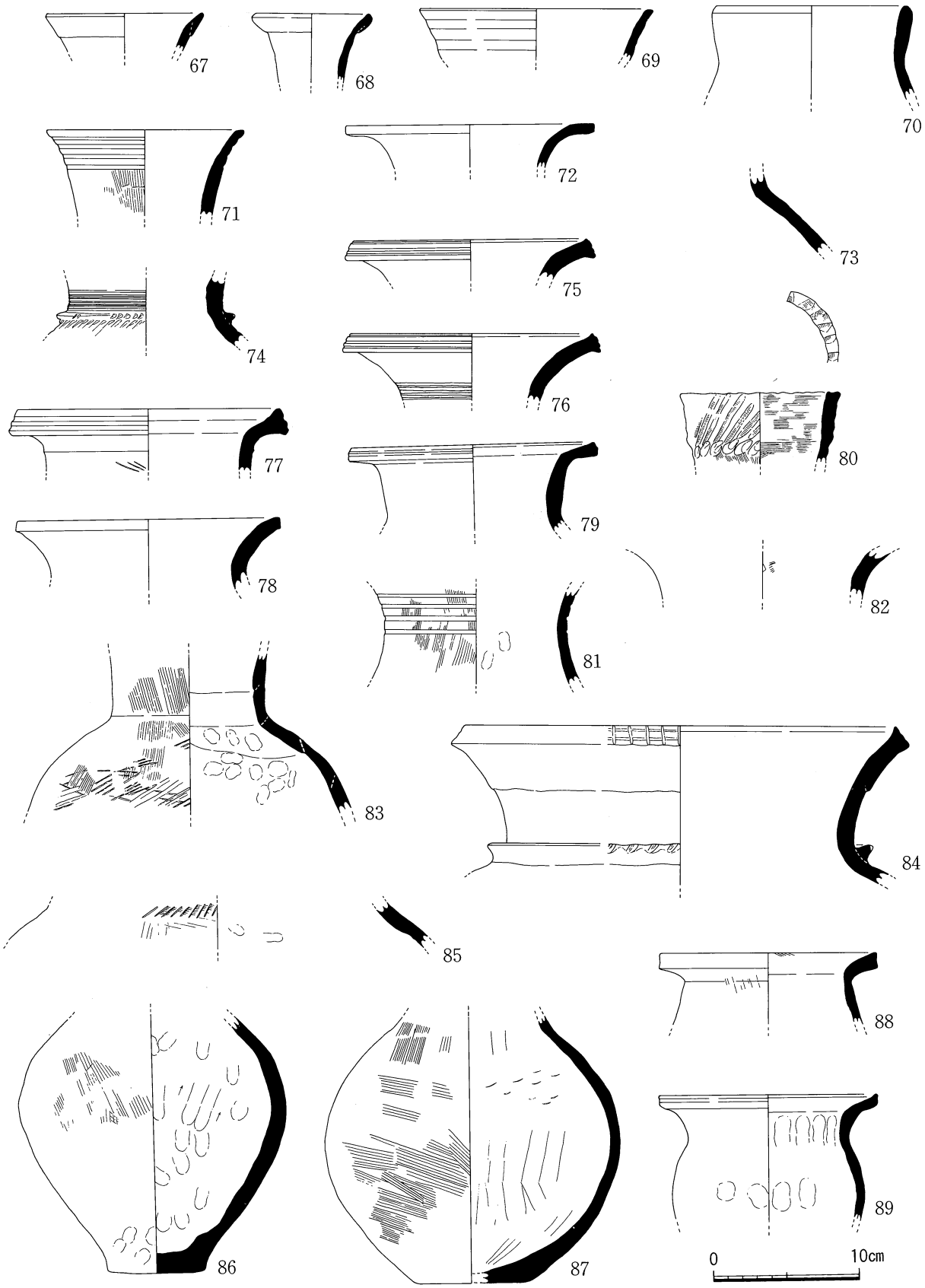


Fig. 32　ST 13出土遺物実測図（壺：67～87、甕：89）

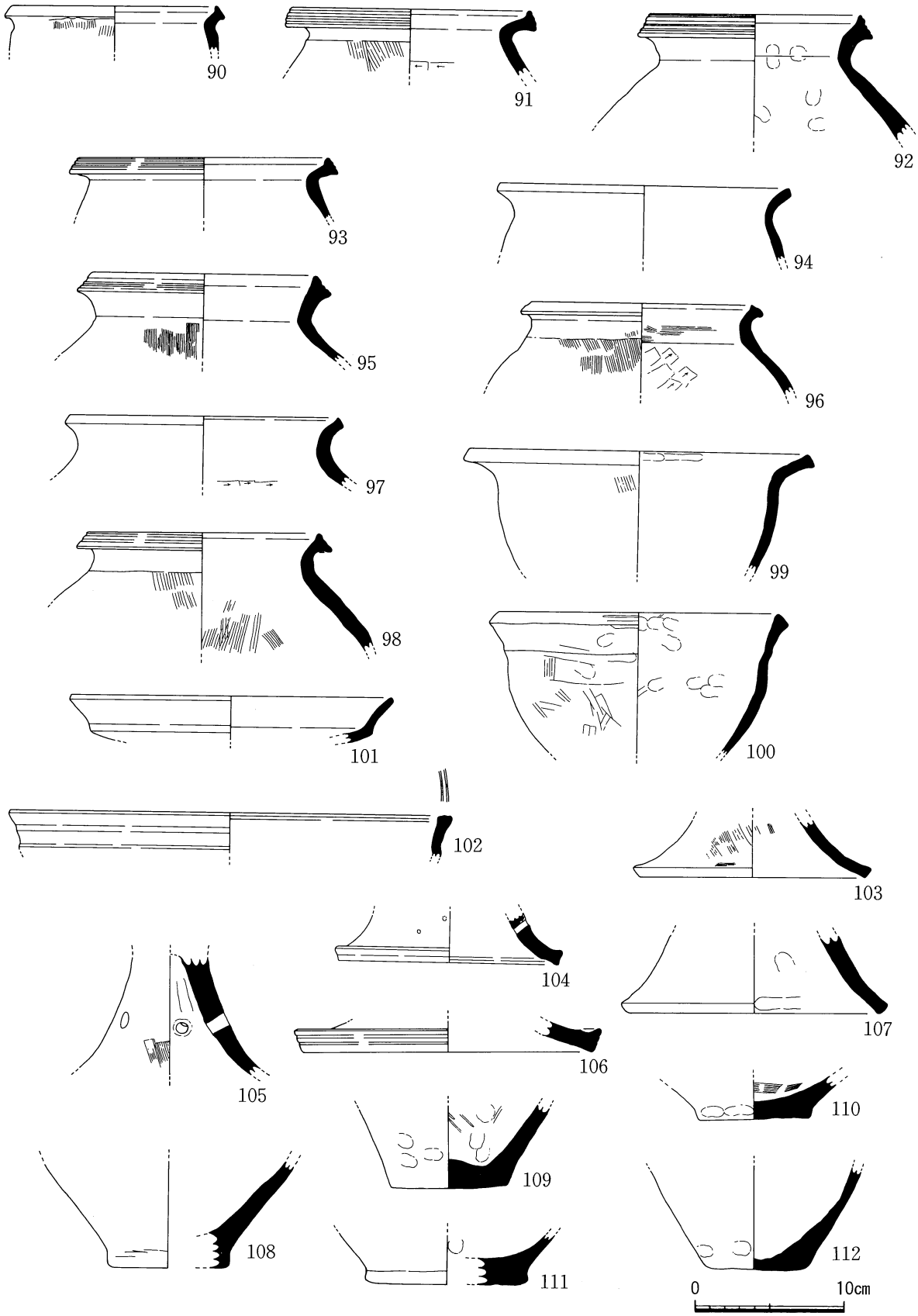


Fig. 33　ST 13出土遺物実測図（甕：90～98、鉢：99・100、高杯杯部：101・102、高杯脚部：103～107、底部：108～112）

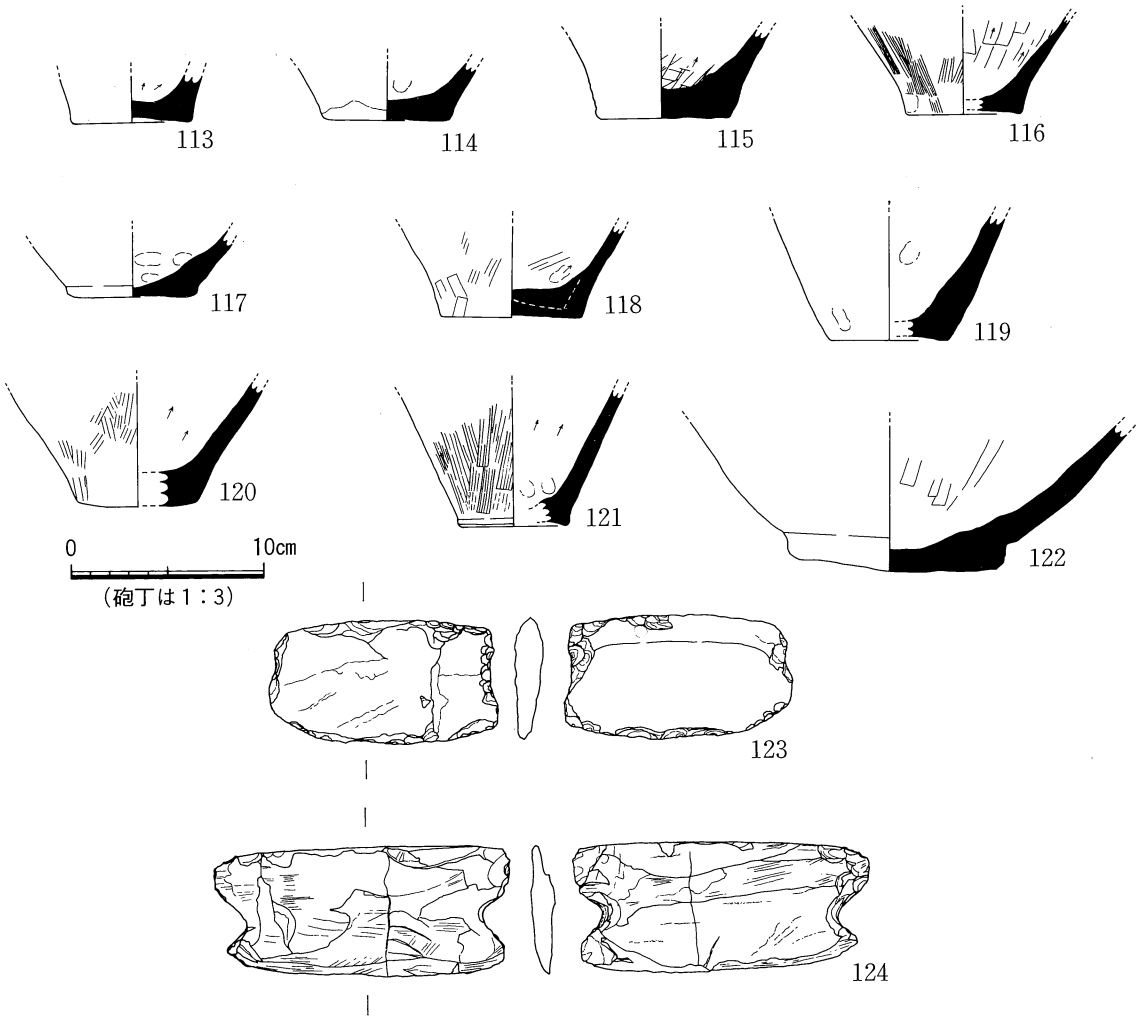


Fig. 34　ST 13出土遺物実測図（底部：113～122、石包丁：123・124）

り断面は台形状をなす。埋土はⅠ層：灰黄褐色粘土層、Ⅱ層：炭化物を含んだ黒褐色粘土層、Ⅲ層：灰黄～黄褐色粘土層、Ⅳ層：黒褐色粘土層で、Ⅰ層の下層から図示したように弥生後期土器の細片が多量に出土しているが図示できるものはない。

SD 32（Fig. 35）

調査区の中央部に位置する東西に延びる溝である。確認延長4.6m、幅60cm前後、深さ15～20cm前後を測る。埋土は暗褐色粘土に粗粒砂が混ざっている。随所で古代の遺構に切られている。遺物は埋土中より弥生後期の甕（129）、同壺（130）が出土し、古代の須恵器杯（133）、同土錘（125・126）が混入している。

SD 33（Fig. 35）

調査区の中央部に位置する東西に延びる溝である。確認延長4.8m、幅45～60cm、深さ15cm前後を測る。東よりの床面より粘土塊が出土している。排土はSD 32と同様で、埋土中より石包丁（135）と弥生後期土器細片が出土し、古代の須恵器鉢（131）・杯（133）・蓋（134）が混入で出土している。

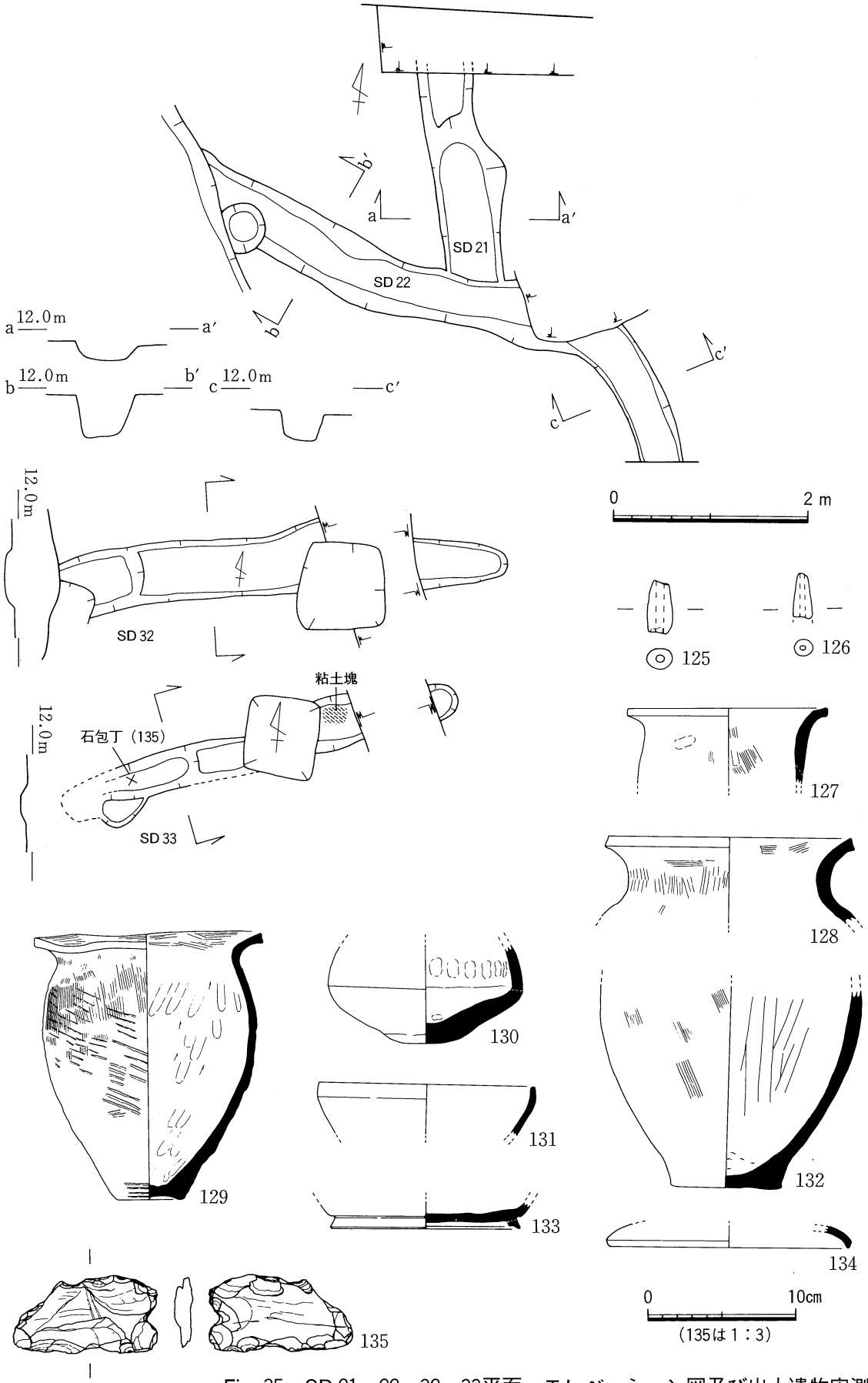


Fig. 35　SD 21・22、32・33平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
SD 22：127・128・132
SD 32：125・126・129・130・133
SD 33：131・134・135

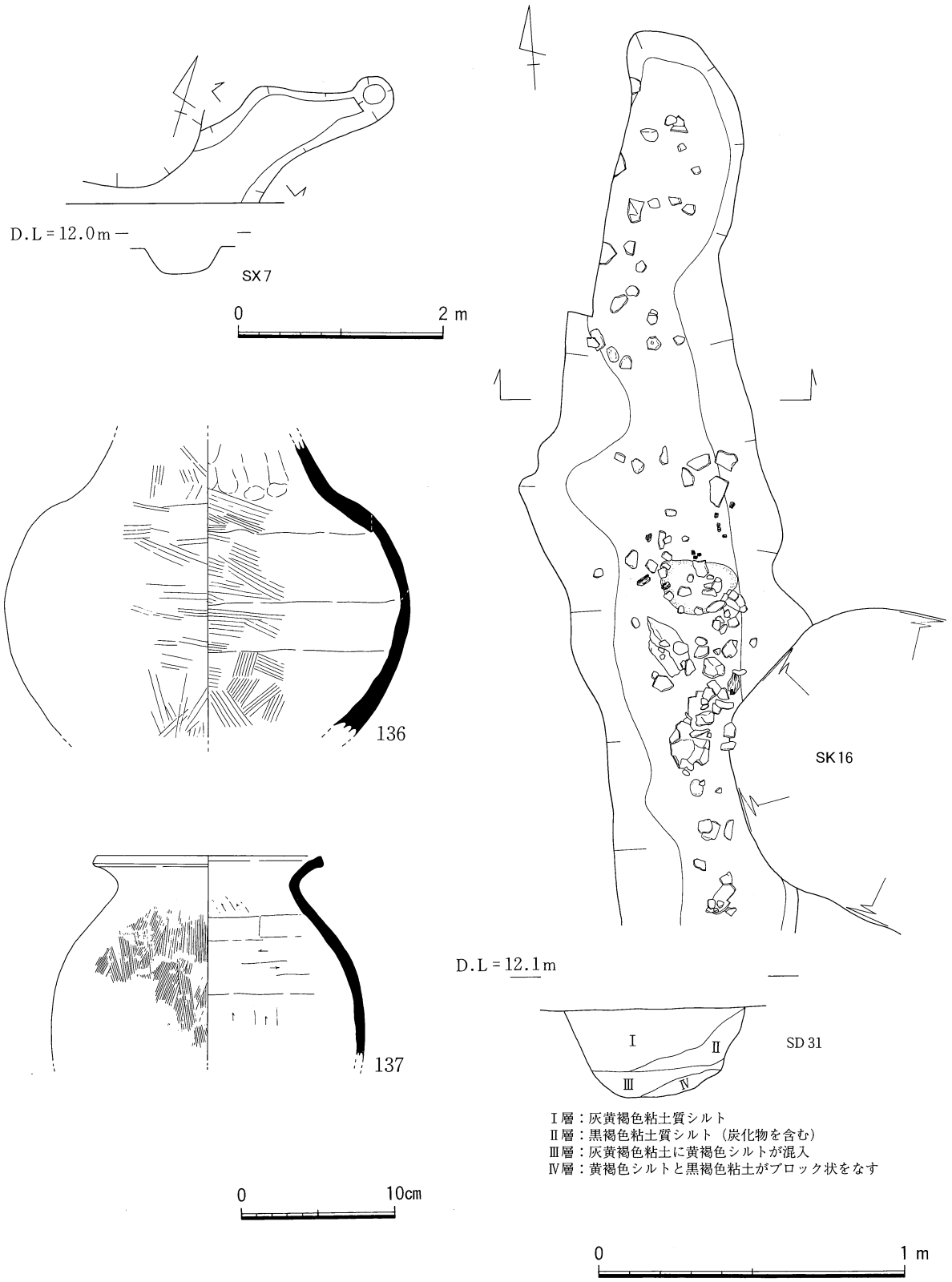


Fig. 36　SD 31・SX 7 平面・セクション・エレベーション図及びSX 7 出土土器実測図

③　ピット（Fig. 37）

Ｐ１

ST９の西にある。長軸25㎝の楕円形のピットで深さ30㎝を測る。埋土は黒褐色粘土で埋土中より弥生後期の高杯脚（139）が出土している。

Ｐ２

SX７の東隣にある。長軸60㎝を測る楕円形のピットである。埋土は黒褐色粘土で埋土中より多量の弥生後期土器片が出土しているが、図示し得たのは甕（140・141）である。同一個体の可能性がある。

Ｐ３

ST 10の西隣にある。長軸１ｍ、短軸34㎝の楕円形のプランを有し、断面は二段に掘り込まれており深さは35～50㎝を測る。壁の一部がオーバーハングしている。埋土はⅠ層：黒褐色粘土質シルト、Ⅱ層：黒褐色粘土質シルトに１㎝前後の小礫を含む。Ⅲ層：褐色粘土である。Ⅲ層中より完形の小型甕が出土している。

Ｐ４

長軸40㎝、短軸35㎝の楕円形プランを呈し深さ63㎝を測る。検出面直下で完形の鉢（144）を検出した。埋土下層では長さ25㎝を測る河原石が立石状に立っている。立石状の河原石や鉢はピットを埋め戻す際に意識的に置かれたものと考えることができる。

④　壺棺墓

拡張区で２基の壺棺墓を検出した。共に掘り形を確認することはできなかった。壺棺１（Fig. 38）は高さ40㎝以上、最大径42㎝の壺（148）を27°の角度で横たえている。底部の穿孔は見られない。北側に壺口縁部（146）が覆い被さるようにして検出された。蓋として使われたものと思われる。壺棺内からは、壺（145・147）が出土している。

壺棺２（Fig. 39）は高さ60㎝以上、最大径42㎝の壺（152）を30°の角度で横たえている。底部の穿孔は見られない。北側に壺底部（149）が覆い被さるようにして検出された。蓋として使われたものと思われる。壺棺内からは、蓋に使われた壺の口縁部と考えられる（150）が、棺外からは壺棺の口縁部（151）が出土した。壺棺１・２ともに後期Ⅰ期に属する。

⑤　性格不明土坑（Fig. 36）

SX７

SD 33の南にある。確認延長2.4ｍ、深さ30㎝前後を測る不整形の土坑である。溝の可能性もあるがここでは性格不明土坑として扱った。埋土は暗褐色の粘土質シルト層で埋土中より弥生後期の壺（136）と甕（137）が出土している。

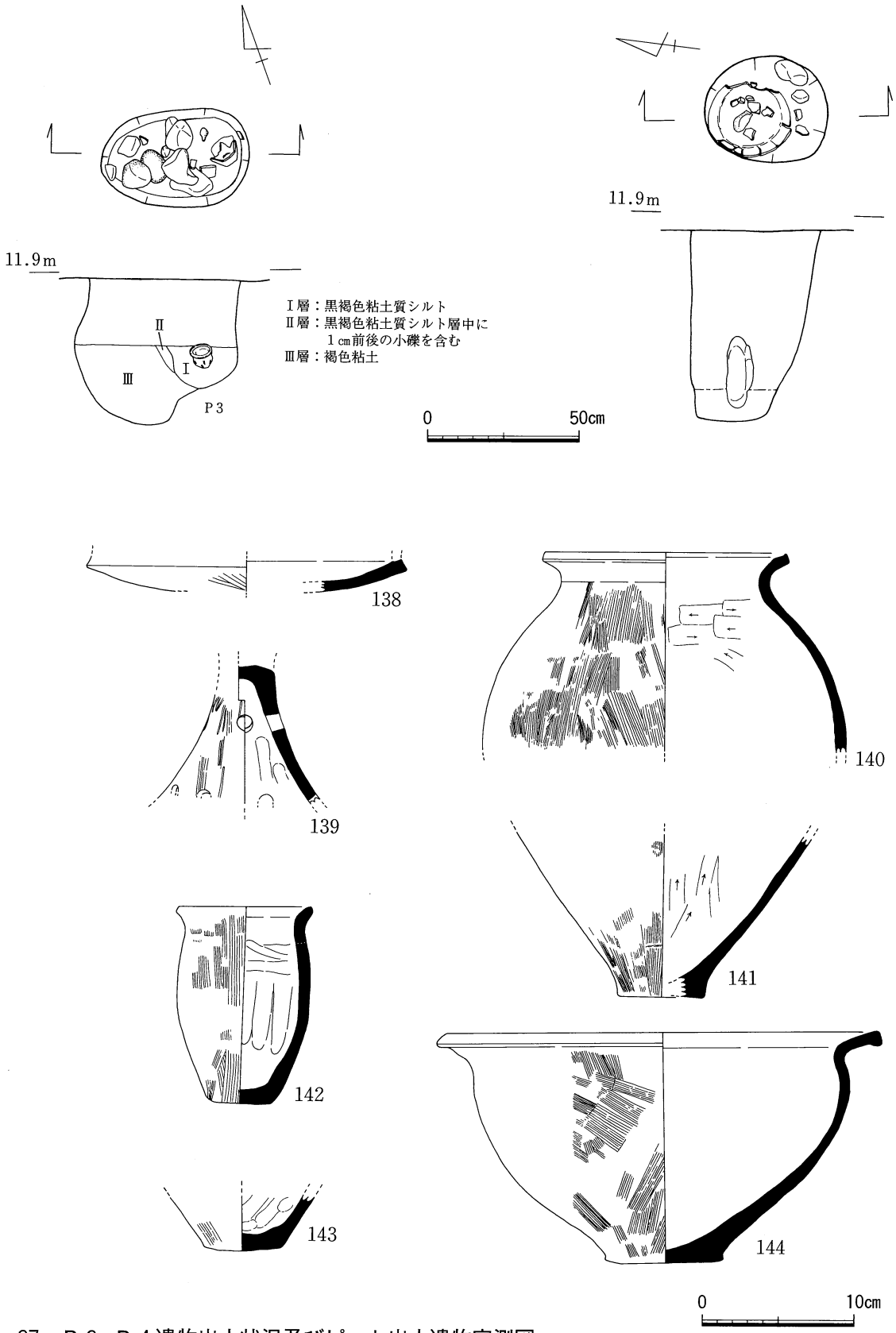


Fig. 37　P 3・P 4 遺物出土状況及びピット出土遺物実測図

P 1 ：139、P 2 ：140・141、P 3 ：138・142・143、P 4 ：144

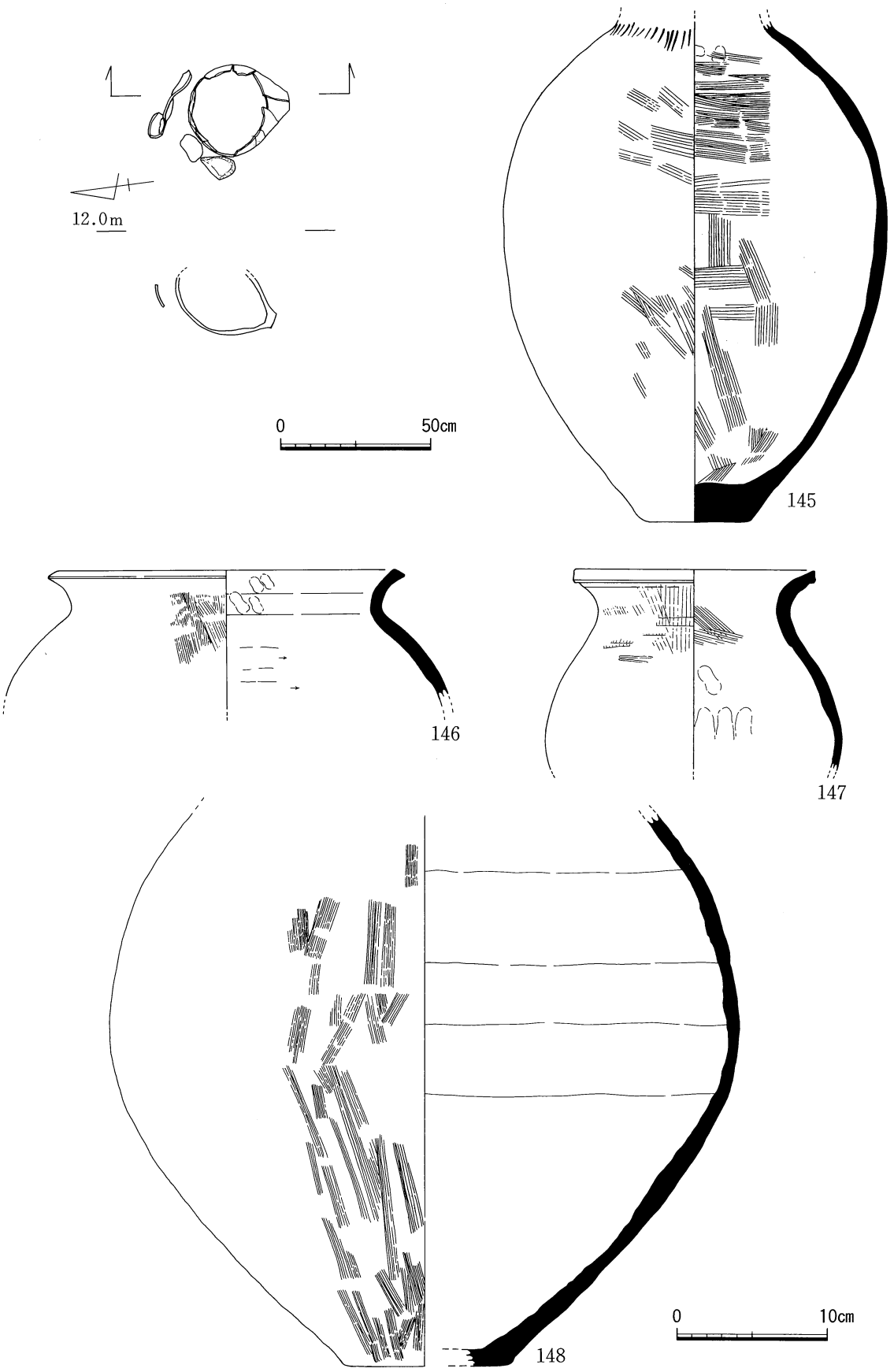


Fig. 38　壺棺1（148）平面・エレベーション図及び壺棺内出土土器実測図

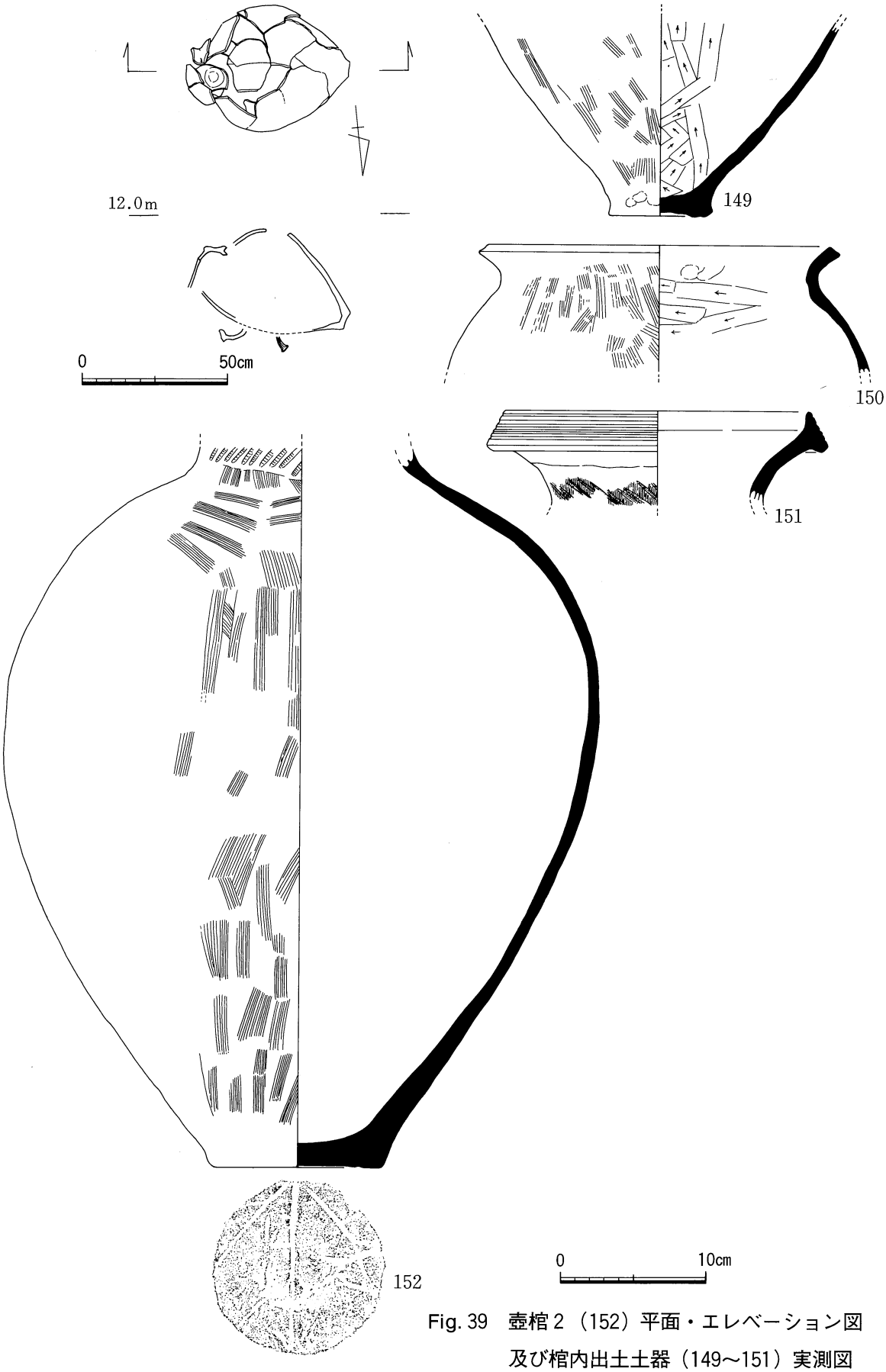


Fig. 39　壺棺2（152）平面・エレベーション図
及び棺内出土土器（149～151）実測図

遺物観察表（土器）

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
24	1	ST 9	壺	13.6	(5.8)			石英・チャート・その他の砂粒を含む。橙色。外面器面剝離がはげしい。内面ヨコハケ調整。	
〃	2	〃		26.0	(2.3)			チャートの砂粒を含む。にぶい黄橙色。口唇を下垂させ沈線化した凹線文を有する。口縁内面櫛描波状文。	
〃	3	〃	壺		(9.3)			チャートの砂粒を多く含む。灰白色。外面タテハケ調整、内面ヨコハケ調整。頸部下端にハケ原体による格子圧痕を施す。	
〃	4	〃	甕	15.6	(7.1)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。茶色。口唇外面にやや退化した凹線文を有する。胴部外面やや木目の粗いタテハケ調整、胴部内面頸部直下までヘラケズリを施す。	胴部外面に黒斑あり。
〃	5	〃	甕	15.0	30.9		5.6	チャートの小礫を多く含む。黄褐色。口縁部内外面ヨコナデ調整。胴部外面タテハケ調整、内面ヘラケズリ。	被熱赤変。接合痕跡を明瞭にとどめる。
〃	6	〃	鉢	26.0	(2.7)			チャートの粗粒砂を多く含む。淡橙色。口唇部に沈線化した2条の凹線文を有する。内外面摩耗が激しい。口縁部は直線的に外反する。	
〃	7	〃	鉢	22.2	(16.2)	22.0		チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。橙色。内面屈曲部より上はハケ調整、屈曲部より下はナデ調整。下地はヘラケズリ。	外面に黒斑あり。
〃	8	〃	高杯					チャートの粗粒砂を多く含む。灰褐色。内外面器表が荒れる。	
〃	9	〃	高杯		(14.2)		13.0	チャートの粗粒を多く含む。浅黄橙色。厚いつくり。	
〃	10	〃	高杯		(4.9)		13.0	チャート・砂岩の小礫・粗粒砂を含む。にぶい橙色。内面ヨコハケ調整。端部に沈線化した凹線文を有する。	
25	11	〃	高杯		(8.2)		28.0	チャートの小礫・粗粒砂を含む。浅黄橙色。内面ナデ調整、外面タテハケ調整。	
〃	12	〃	甕		(5.3)		6.1	チャートの粗粒砂を含む。にぶい橙色。内面ヘラケズリ。	被熱赤変。煤ける。
〃	13	〃	壺		(7.1)		7.0	チャートの小礫、細・粗粒砂、赤色風化礫を多く含む。橙色。内外面調整不明。	
〃	14	〃	壺		(4.4)		8.0	チャート・頁岩の小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。	
〃	15	〃	壺		(6.8)		14.2	チャートの小礫を含む。浅黄橙色。内面ヘラケズリ。	
〃	16	〃	壺		(7.0)		8.0	チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。橙色。内外面調整不明。	
〃	17	〃	壺		(4.9)		9.6	チャートの小礫・粗粒砂を含む。浅黄橙色。タテ方向のヘラケズリ、ナデ調整。	外面に黒斑あり。
〃	18	〃	壺	(14.7)			7.0	チャート・赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。赤褐色。内面ヘラケズリ、外面ナデ調整。	搬入土器か。
〃	19	〃	磨石	全長 10.0	全幅 8.5	厚さ 2.3	重さ 306 g		砂岩
26	20	ST 10	壺	13.4	(3.0)			チャート・石英の粗粒砂を含む。浅黄橙色。外面ヘラミガキ調整。	
〃	21	〃	壺	14.2	(6.5)			チャート・赤色粒の粗粒砂、絹雲母を含む。にぶい黄橙色。口唇部は面を成す。内面ナデ、外面タテハケ調整。	
〃	22	〃	壺	12.0	(6.9)			チャートの粗粒砂・赤色風化粒を含む。浅黄橙色。外面叩き後、タテハケ調整。	
〃	23	〃	壺	14.0	(3.8)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。内外面ハケ調整。	
〃	24	〃	壺	13.8	(5.8)			チャートの小礫・粗粒砂を含む。灰色。外面タテハケ調整。口唇部下端を摘み、ヨコナデ調整。	
〃	25	〃	壺	15.7	(4.6)			チャートの小礫を多く含む。橙色。貼付口縁。口縁部外面ヨコナデ調整、頸部外面タテハケ調整。内面ヨコナデ調整。	
〃	26	〃	壺	16.8	(2.8)			チャートの粗粒砂を含む。にぶい橙色。内面ヨコハケ調整。	
〃	27	〃	甕	16.0	(3.6)			チャートの粗粒砂を含む。灰白色。口唇部はしっかりした面を成す。口縁部内外面ヨコナデ調整。	
〃	28	〃	甕	12.4	5.0			チャートの小礫・粗粒砂を含む。黄橙色。頸部外面タテハケ調整。内面調整不明。	
〃	29	〃	甕	13.5	(17.7)			チャートの小礫・粗粒砂を含む。浅黄橙色。胴部外面に叩き目が残る。外面タテハケ調整。内面下半は木理の粗い原体によるタテハケ調整、上半はナデ消す。内面に粘土帯接合痕を明瞭に留める。	外面煤ける。
〃	30	〃	鉢		(3.7)			チャートの粗粒砂を多く含む。褐灰色。胴部外面ハケ調整、内面ヨコハケ調整。	
〃	31	〃	鉢	16.0	4.9			長石の細粒、チャートの砂粒を含む。黒色。口縁部内外面ヨコナデ調整。口唇部も強くヨコナデを施し、上方に摘み上げ気味。胴部外面タテハケ調整、内面ヘラケズリ。	
〃	32	〃	鉢	11.6	6.2		3.0	チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。外面木目の細かいタテハケ調整、ヘラミガキ調整。内面木目の細かいタテハケ調整。	上胴部外面の対照的な位置に黒斑あり。
27	33	〃	鉢	10.0	3.7		3.0	チャートの粗粒砂・赤色風化礫を含む。浅黄橙色。内外面摩耗する。	外面に黒斑あり。

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
27	34	ST 10	高杯		(2.7)			チャートの粗粒砂を多く含む。浅黄橙色。内外面器表の剝離がはげしい。	
〃	35	〃	高杯	26.0	(2.7)			チャートの砂粒を多く含む。浅黄橙色。内外面ヨコナデ調整。	
〃	36	〃	高杯	23.6	(3.2)			石英の細・粗粒砂を含む。浅黄橙色。端部は強く外反する。内面ヘラミガキ調整。	
〃	37	〃	高杯	21.6	(2.7)			チャートの粗粒砂を多く含む。灰黄褐色。内外面調整不明。	
〃	38	〃	蓋	14.4	(3.0)			チャート・赤色風化礫の粗粒砂、金雲母を含む。にぶい橙色。内外面摩耗。	
〃	39	〃	高杯		(2.5)		20.0	チャートの砂粒を含む。にぶい黄橙色。口縁部内外面ヨコナデ調整、外面タテハケ調整。口唇部強いヨコナデ調整。	
〃	40	〃	蓋	21.4	(3.0)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。内外面木目の粗いハケ調整。端部は強いヨコナデで上端をわずかに摘み出す。	
〃	41	〃	底部		(3.15)		4.2	チャートの小礫を含む。橙色。内外面器表の荒れが激しい。	
〃	42	〃	壺		(4.7)		4.2	チャートの粗粒砂を含む。雲母を多く含む。にぶい黄橙色、内面ヨコハケ、外面タテハケ調整。	外面黒斑あり。
〃	43	〃	甕		(1.7)		3.5	チャートの小礫・粗粒砂を含む。にぶい赤褐色。内外面調整不明。	底部外面黒斑あり。
〃	44	〃	壺		(5.9)		8.4	チャートの小礫・粗粒砂を含む。にぶい赤褐色。内面ナデ、外面タテハケ調整。	
〃	45	〃	壺		(6.4)		8.0	チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。内面ナデ調整、外面タテハケ調整。	
〃	46	〃	底部		(8.9)		6.3	チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。淡黄色。内外面ナデ調整。外面にヒビ割れ状の亀裂が入る。	
〃	47	〃	底部		(7.7)		8.6	チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。外面ハケ調整。	
〃	48	〃	底部		(12.0)		7.0	石英の粗粒砂を多く含み、チャートの粗粒砂を少量含む。浅黄橙色。内面ナデ調整。外面叩き、ナデ調整。底部内面に指頭圧痕が残る。	底部外面に黒斑あり。
〃	49	〃	石錘	全長 6.1	全幅 3.9	厚さ 3.1	重さ 100 g	中央部に幅 3 ㎜、深さ 1 ㎜のV字溝がめぐる。	砂岩
〃	50	〃	磨石	全長 9.6	全幅 7.7	厚さ 3.2	重さ 324 g	一端に朱が付着。	砂岩
〃	51	〃	石包丁	全長 —	全幅 4.5	厚さ 0.8	重さ —	直線刃片刃、孔径 9 ㎜。	千枚岩
〃	52	〃	鉄製品				重さ 5.5 g		
28	53	ST 12	杯	13.5	3.3		9.0	石英・チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。口縁部内面を摘み上げる。内外面丁寧なヘラミガキ調整。	
〃	54	〃	杯	13.6	3.9		9.5	精選された胎土。橙色。内外面ヘラミガキ調整。底部外面ヘラ切り痕あり。	
〃	55	〃	甕	12.6	(5.4)			チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。口唇部は強いヨコナデにより面を成し、わずかに下垂する。外面木目の細かい原体によるタテハケ調整。口頸部内面指頭圧痕が顕著に残る。上胴部内面に絞り目あり。	
〃	56	〃	壺	13.0		(19.7)		チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。黄橙色。口縁部外面にハケ原体によるRの圧痕あり。外面上半部・内面下半タテハケ調整。	
〃	57	〃	壺	10.9	(6.1)			チャートの粗粒砂、赤色風化礫の細粗粒砂を多く含む。橙色。口縁部外面ハケ原体によるRの圧痕あり。口縁部外面ヨコナデ調整、頸部外面タテハケ調整。	
〃	58	〃	壺		(5.9)			チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。頸部下端に列点文あり。外面タテハケ調整、内面ナデ調整。	
〃	59	〃	壺	16.0	(12.2)			チャートの粗粒砂・赤色風化礫を含む。にぶい黄橙色。口縁部に 2 条の凹線文が巡る。頸部に列点文あり。	
29	60	〃	壺	15.2	(2.5)			チャートの細粗粒砂を含む。にぶい橙色。口縁部内外面横位のハケ調整。	外面煤ける。
〃	61	〃	壺	18.4	(3.5)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。口縁部をわずかに摘み上げる。口縁部内面・口唇部ヨコハケ調整。	
〃	62	〃	壺	10.4	25.3	19.7	5.7	チャート・赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。橙色。頸部外面に 3 条の弱い凹線文が巡る。内外面器表の荒れがひどい。胴部外面下半にタテ方向を基調とするハケ調整。	
〃	63	〃	壺		(16.9)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。橙色。内外面ナデ調整。	
〃	64	〃	甕	8.9	(9.2)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。灰黒色。内面ヘラケズリ・ナデ調整。外面タテハケ調整。	外面煤ける。
〃	65	〃	甕		(3.8)		4.3		
〃	66	〃	壺		(5.5)		7.2	チャートの小礫・粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。外面叩き後、タテハケ調整。底部外面付近ナデ調整。底部外面ヘラケズリ。内面ハケ調整、ナデ調整。	

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
32	67	ST 13	壺	10.6	(2.6)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。	
〃	68	〃	壺	7.7	(4.8)			長石の粗粒砂、チャートの粗粒砂を含む。明黄褐色。調整不明。	
〃	69	〃	有段口縁壺	15.9	(4.55)			チャート・赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。浅黄橙色。口縁部外面に弱い凹線文が4条巡る。内外面調整不明。	
〃	70	〃	壺	13.0	(6.5)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。橙色。内外面の器表の荒れが激しい。	
〃	71	〃	壺	13.4	(6.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。浅黄橙色。口縁部外面に4条の凹線文が巡る。頸部外面タテハケ調整、内面ヨコナデ調整。	
〃	72	〃	壺	17.0	(3.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。黄橙色。内外面ナデ調整。	
〃	73	〃	壺		(5.0)			チャートの粗粒砂を含む。褐灰色。外面有軸羽状文をヘラ描きする。	
〃	74	〃	壺		(4.7)			チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。頸部下端に断面三角形突帯を貼付する。突帯頂部に刻目を施し、その下に列点文を施す。突帯の上には櫛描直線文を巡らす。	
〃	75	〃	壺	6.0	(2.85)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。橙色。口縁を上下に拡張し、口唇部に沈線化した凹線文を3条巡らせる。口縁部内外面ヨコナデ調整。	
〃	76	〃	壺	16.4	(4.7)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。口縁を上下に拡張し、口唇部に3条の凹線文を巡らせる。頸部に櫛描直線文を施す。	
〃	77	〃	壺	17.9	(4.3)			チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。口縁部に強いヨコナデを施し、水平に強く屈曲させる。口縁部を上下に拡張し、口唇部にしっかりした凹線文を2条巡らせる。口頸部外面に列点文を施す。	
〃	78	〃	壺	18.0	(4.9)			チャートの小礫・粗粒砂、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。	
〃	79	〃	壺	16.6	(6.1)			チャートの小礫・粗粒砂、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。淡黄色。口唇部に擬凹線文を巡らす。	
〃	80	〃	壺	10.8	(5.0)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。幅広い口縁上面にハケ原体による圧痕を施す。外面に幅の広い列点文、内面ヨコハケ調整。	
〃	81	〃	壺		(6.6)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。頸部に4条のヘラ描沈線文を巡らせる。外面タテハケ調整。	
〃	82	〃	壺		(3.3)			チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。外面に綾杉の列点文を施す。	
〃	83	〃	壺		(11.3)			チャートの粗粒砂を多く含む。浅黄橙色。頸部外面タテハケ調整、胴部外面叩き後、タテハケ調整。胴部内面指頭圧痕が顕著に残る。内面・断面に粘土接合痕が認められる。	
〃	84	〃	壺	29.5	(10.8)			チャートの粗粒砂を多く含む。浅黄色。口縁部を上方に拡張し、口唇部にRの刻目を施す。口縁部外面に幅4cmの粘土帯を貼付する。頸部に断面三角形の刻目突帯を貼付する。	
〃	85	〃	壺		(3.2)			チャートの粗粒砂を含む。にぶい橙色。上胴部に列点文を施す。	
〃	86	〃	壺		(17.8)		6.7	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。外面ハケ調整。内面ヘラケズリ・ナデ調整。	外面被熱赤変、煤ける。
〃	87	〃	壺		(18.5)		8.0	チャートの粗粒砂を多く含む。黄橙色。外面ハケ調整。内面上位爪圧痕が顕著に残る。	
〃	88	〃	甕	14.8	(5.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。口縁部内外面ヨコナデ調整。	口縁部外面激しく煤ける。
〃	89	〃	甕	15.0	(8.8)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。灰黄褐色。口唇部は強いヨコナデにより凹み、端部は上方に摘み上げる。頸部・胴部内面指頭圧痕が顕著に残る。外面ヨコナデ調整。	外面激しく煤ける。
33	90	〃	甕	13.8	(3.1)			チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。口縁部を上下に拡張し、ヨコナデ調整。外面ハケ・ナデ調整。	外面煤ける。
〃	91	〃	甕	16.0	(4.4)			チャートの粗粒砂を多く含む。浅黄橙色。口唇部を上方に拡張し、3条の弱い凹線文を巡らせる。口縁部内外面ヨコナデ調整。体部内面ヘラケズリ。体部外面タテハケ調整。	口縁部外面煤ける。
〃	92	〃	壺	14.2	(8.4)			チャートの小礫・粗粒砂、赤色風化礫を多く含む。浅黄橙色。口縁部を上下に拡張し、口唇部に4条の沈線化した凹線文を巡らせる。胴部内面タテハケ・ナデ調整。	
〃	93	〃	甕	16.7	(4.1)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい赤褐色。口縁部を上下に拡張し、口唇部に3条の凹線文を巡らせる。	外面煤ける。
〃	94	〃	甕	19.4	(5.0)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。内外面の器表の荒れがひどい。	内外面煤ける。
〃	95	〃	甕	15.0	(5.8)			チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。口縁部を上下に拡張し、弱い凹線を3条巡らせる。	
〃	96	〃	甕	14.8	(6.1)			長石・雲母・角閃石を含む。にぶい橙色。口縁端部を上方に摘みあげ、強いヨコナデを施す。口縁部下端は下垂させる。内面は頸部直下より下はヘラケズリ。	搬入品。

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
33	97	ST 13	甕	18.0	(4.6)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。口縁端部を上方へ摘み上げ、ヨコナデ調整を施す。内面は頸部直下までヘラケズリを施す。外面タテハケ調整。	外面煤ける。
〃	98	〃	甕	15.5	(8.0)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。浅黄色。口唇部を上下に拡張させ、2条の弱い凹線文を施す。胴部内外面タテハケ調整。	
〃	99	〃	鉢	22.8	(8.2)			チャートの粗粒砂を多く含む。浅黄橙色。口縁部は丁寧に面取りを行い角張る。内外面の器表の剝離が激しく調整観察不能。	
〃	100	〃	鉢	18.7	(9.6)			チャートの小礫を多く含む。にぶい黄褐色。内面指頭圧痕が顕著に残る。外面ハケ・ナデ調整。	外面煤ける。
〃	101	〃	高杯	21.6	(3.1)			チャート・赤色風化礫を含む。橙色。内外面ヨコナデ調整。	
〃	102	〃	高杯	30.0	(2.8)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。口縁端部を内側にわずかに肥厚させる。口唇部に弱い凹線文が2条巡る。	
〃	103	〃	高杯		(3.9)		15.2	チャートの小礫・粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。外面タテハケ調整。裾部外面を強くヨコナデする。	
〃	104	〃	器台		(3.0)		15.0	チャート・結晶片岩の粗粒砂を多く含む。橙色。径5㎜の円孔を2つまで認められる。	
〃	105	〃	高杯		(8.1)			チャートの粗粒砂を含む。灰白色。外面タテハケ調整。径1㎝の円孔あり。	
〃	106	〃	高杯		(2.05)		19.4	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。脚端部に強いヨコナデを施す。脚端面に2条の弱い凹線文を巡らせる。内面ナデ調整。	
〃	107	〃	高杯		(5.3)		16.8	チャートの粗粒砂、雲母を含む。橙色。内外面調整不明。	
〃	108	〃	壺		(7.2)		7.6	チャートの粗粒砂を多く含む。灰白色。内外面調整不明。	
〃	109	〃	底部		(5.7)		7.8	チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。	外面被熱赤変。
〃	110	〃	底部		(2.8)		7.5	チャートの小礫・粗粒砂を含む。にぶい橙色。	外面煤ける。
〃	111	〃	壺		(3.4)		11.0	チャートの小礫・粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。内外面ナデ調整。	
〃	112	〃	壺		(7.0)		6.5	風化礫・石英・長石・雲母を含む。にぶい赤褐色。	搬入土器。
34	113	〃	甕		(2.5)		6.3	チャートの粗粒砂を含む。橙色。内面ヘラケズリ。上底。	底部外面付近黒斑あり。
〃	114	〃	甕		(3.1)		6.6	チャートの小礫・粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。内外面ナデ調整。	底部外面～下胴部に大きな黒斑あり。
〃	115	〃	甕		(4.6)		6.7	チャートの小礫・粗粒砂を含む。にぶい橙色。外面器表の剝離が激しい。内面ヘラケズリ・ナデ調整。	
〃	116	〃	甕		(5.05)		6.0	チャート・赤色風化礫の粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。内面ヘラケズリ・外面タテハケ調整。上底。	外面煤ける。
〃	117	〃	壺		(3.5)		6.8	チャート・結晶片岩の小礫を含む。橙色。内外面の器表の荒れが激しい。	
〃	118	〃	甕		(4.85)		7.3	チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。内面ヘラケズリ。	外面煤ける。
〃	119	〃	底部		(6.5)		6.2	チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。内面ナデ、外面タテハケ調整。	
〃	120	〃	底部		(6.45)		6.2	長石・石英・チャートの粗・細粒砂を含む。橙色。内面ヘラケズリ、外面タテハケ調整。	被熱赤変。外面煤ける。
〃	121	〃	甕		(7.1)		4.5	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。内面ヘラケズリ、ナデ調整。外面タテハケ調整。上底。	内面底部付近黒斑あり。
〃	122	〃	壺		(7.7)		11.3	チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。	
〃	123	〃	石包丁	全長 9.0	全幅 4.9	厚さ 1.1	重さ 63.6 g	両側縁に弱い択り。	千枚岩
〃	124	〃	石包丁	全長 10.6	全幅 5.2	厚さ 0.9	重さ 80.9 g	両側縁にしっかりした択り、片刃。	千枚岩
35	125	SD 32	土錘	全長 3.7	全幅 1.75	径 0.5	重さ 7.3 g	赤色風化礫の粗粒砂を含む。にぶい橙色。	
〃	126	〃	土錘	全長 (2.2)	全幅 (1.3)	径 (0.4)	重さ (3.3) g	チャート・その他の細粒砂を含む。にぶい橙色。	
〃	127	SD 22	甕	13.3	(5.2)			チャートの小礫を多く含む。にぶい橙色。内外面タテハケ調整。断面に外傾接合痕を明瞭にとどめる。	外面煤ける。
〃	128	〃	甕	16.35	(5.8)			チャートの小礫を多く含む。にぶい黄橙色。頸胴部外面タテハケ調整。口縁部内外面ヨコハケ調整。	外面煤ける。
〃	129	SD 32	甕	15.4	18.0		4.7	チャートの小礫を多く含む。にぶい黄橙色。胴部外面叩き成形後、上半部はハケ調整。内面ヘラケズリ・指ナデ調整。	
〃	130	〃	壺		(6.7)		2.4	チャート・赤色粗粒砂を含む。浅黄橙色。内面指頭圧痕が顕著に残る。外面調整不明。	被熱赤変。

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	胴径	底径	特徴	備考
35	131	SD 33	須恵器鉢	14.6	(3.5)			精選された胎土。灰白色。内外面ヨコナデ調整。	
〃	132	SD 22	甕		(13.7)		7.5	チャートの粗粒砂を多く含む。浅黄橙色。内面ナデ、外面タテハケ調整、下地に叩き。底部内面に爪圧痕あり。	
〃	133	SD 32	須恵器杯		(1.85)		12.8	精選された胎土。灰色。丁寧なつくり。しっかりとしたハ字状の高台がつく。高台脇が段状を成す。内外面ヨコナデ調整。底部外面ヘラ切り後、ヘラケズリ・ナデ調整。	
〃	134	SD 33	須恵器蓋	16.0	(1.55)			精選された胎土。灰色。口縁端部は丁寧な面取り。内外面ヨコナデ調整。	
〃	135	〃	石包丁	全長 —	全幅 4.0	厚さ 0.9	重さ —	打製、側縁に抉り。	頁岩
36	136	SX 7	壺		(19.6)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。胴部外面下半タテハケ、上半ヨコハケ調整。頸部外面縦を基調とするハケ調整。胴部内面横方向を基調とするハケ調整。頸部内面指頭圧痕、ナデ調整の痕跡が顕著に残る。内面に粘土接合部を明瞭にとどめる。	外面下半に大きな黒斑あり。
〃	137	〃	甕	14.7	(13.6)	20.5		チャート・その他の細・粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。口頸部内外面ヨコナデ調整。胴部外面タテハケ調整、上部はハケ・ヨコナデ調整。胴部内面下半縦方向のヘラケズリ、上半横方向のヘラケズリ。	外面煤ける。
37	138	P 3	高杯		(2.2)			チャートの粗・細粒砂を含む。淡黄色。杯部の立ち上がり部より剝離。外面ハケ調整。	
〃	139	〃	高杯		(9.3)			チャートの粗・細粒砂を多く含む。橙色。内面ナデ調整。外面タテハケ調整・縦方向のヘラミガキ調整。脚上部と下部に4個づつの円孔を穿つ。	
〃	140	P 2	甕	16.0	(13.3)	24.0		チャート・その他の細・粗粒砂を含む。にぶい橙色。口縁部内外面を強くヨコナデする。口唇部を面取りする。胴部外面タテハケ調整。胴部内面上位は横方向のヘラケズリ、中位はヘラケズリ・ナデ調整か。	外面煤ける。
〃	141	P 4	鉢	28.8	15.2		7.7	チャートの細・粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。口縁端部は下方に肥厚させ、口唇部を面取りする。口縁部内外面はヨコナデ調整。胴部外面ハケ調整。	上胴部と下胴部に対照的な位置に黒斑あり。完形。
〃	142	P 3	甕	8.8	13.1		4.2	チャートを中心とする粗粒砂を含む。淡黄色。口縁部内面ヨコハケ調整。体部外面タテハケ調整。内面ナデ調整。	口縁部と底部付近に黒斑あり。完形。
〃	143	〃	底部		(3.7)		5.1	チャート・頁岩の粗粒砂とシャーモットを含む。淡いピンク色。内面指頭によるナデ調整。外面タテハケ調整。	
〃	144	P 2	鉢		(10.9)		5.5	チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。内面ヘラケズリ。外面タテハケ調整、下地に叩き。	外面、底部以外の内面煤ける。
38	145	壺棺1内			(33.5)		6.9	チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。浅黄色。内面ハケ調整。頸部にハケ原体による列点文を施す。胴部外面タテハケ・ナデ調整。	胴部の上部と下半の対照的な位置に大きな黒斑あり。
〃	146	〃	甕	22.5	(9.3)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。口縁端部を摘み出し横方向に強くナデる。内面横方向のヘラケズリ・ナデ調整。外面タテハケ調整。	
〃	147	〃	壺	16.0	(14.5)	19.8		チャートの小礫・粗粒砂を含む。にぶい橙色。口縁端部をわずかに上方に摘み上げ、横方向にナデる。頸部・口縁部内面ヨコハケ調整。胴部内面指ナデ調整。口縁部内外面ヨコナデ調整。外面は頸部・上胴部は縦方向、中位は横方向を基調とするハケ調整。	
〃	148	壺棺1	壺		(37.1)	42.0	11.3	チャートの粗・細粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。外面タテハケ調整。内面に粘土帯の接合痕跡を認める。	
39	149	壺棺2内	甕		(13.5)		6.4	チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。上底風。内面粗いヘラケズリ。外面タテハケ調整。	
〃	150	〃	甕	23.5	(8.8)			チャートの小礫・粗粒砂を含む。にぶい橙色。口縁端部を摘み出し、横方向に強くナデる。内面頸部直下まで横方向のヘラケズリ。外面タテハケ調整。	
〃	151	〃	壺	20.9	(6.6)			チャートの小礫・粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。口唇部を上下に拡張し、5条の沈線化した凹線を巡らせる。頸部にハケ原体によるRの列点文を施す。頸部外面ヨコナデ調整。内面剝離が激しい。	
〃	152	壺棺2			(49.7)		11.4	チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。頸部下端にハケ原体による列点文を施す。胴部外面タテハケ調整。	上胴部と下胴部に大きな黒斑あり。

(3) 古代の検出遺構と遺物

Ⅲ章に述べた如く、今次は掘立柱建物、土坑、ピットを中心に報告し、その他は一部を抽出した。以下の記述のうち、建物の規模に関する比較的な表現は、今次調査成果の中での相対的なものである。尚、主な遺構の計測値、出土遺物については後掲の表にまとめた。

① 掘立柱建物

SB 8 (Fig. 41)

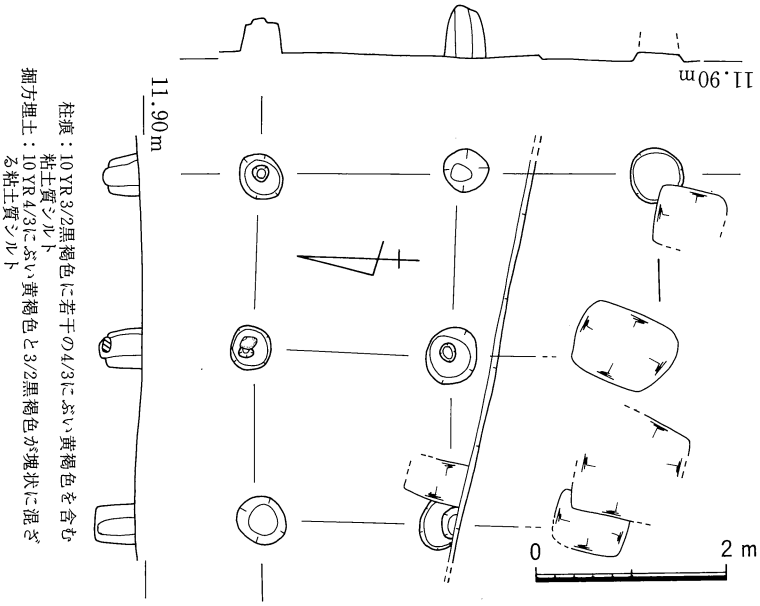


Fig. 41 SB 8 遺構平面・セクション図

調査区中央部で検出した円形ピットからなる2×2間の南北棟の総柱建物で、遺物から時期を決定することは困難だが、ここで扱う。南妻側は南拡張区に属す。切合い関係はST 10を西側で切り、複数の方形ピットに切られる。方形ピットを持つ建物群とは棟方向に明らかな相違がある。出土した弥生土器片は内面ヘラ削り、外面ハケ調整が認められるが、細片のため図示していない。

SB 9 (Fig. 42・43)

中央部東で検出した3×7間の南北棟で、H本区に該当したのは南部の一部のみである。Ⅳ-2層下に存在する。SA 11、SK 33・34をはじめ、本遺構と切合い関係を確認できる古代の遺構のうちでは、最も先行する。全体規模はSB 20と並んで本遺跡検出建物中最大で、柱穴規模も大型である。側柱の掘方側線及び柱痕から復元する柱筋は良く揃っている。完掘したP 6、P12、P13の掘方埋土は何れも互層をなす。埋土の各土層は、褐灰色粘土質シルトと地山土（灰黄褐色～にぶい黄褐色シルト）がブロック状に混ざることを基調としてその混合状態が少しずつ異なる。P12、P13では柱痕下層に粘土が認められる。P 2に掘り込まれているSA 11の境界部より、赤彩土師器(417～423)が出土している。P12は断面で切合いがあるが、平面プランが連続しているため同時に扱う。S 1は砂岩の川原石が打割されており、長さ21cmを測る。全面内部まで著しく被熱・赤変しており、本来の自然面では全面に敲打によると見られる摩滅が認められる。また、表面は熱のため脆弱化し、部分的に剝離している。

SB 10 (Fig. 44)

調査区中央部で3×4間分を検出した南北棟であるが、北拡張区に属する北端側は確定することができなかった。検出面がⅣ-2層下であること、他遺構が切り合うことが原因と考えられる。南側は南拡張区に属する。SD 40とSB 20の庇北端の柱穴に切られる。完掘したピットの全てで礎盤として用いた石を確認した。P 12′はSB 9－P12に準じてここで扱うが、他遺構の可能性がある。P 12′からは黒色土器杯口縁部（181）が出土した。

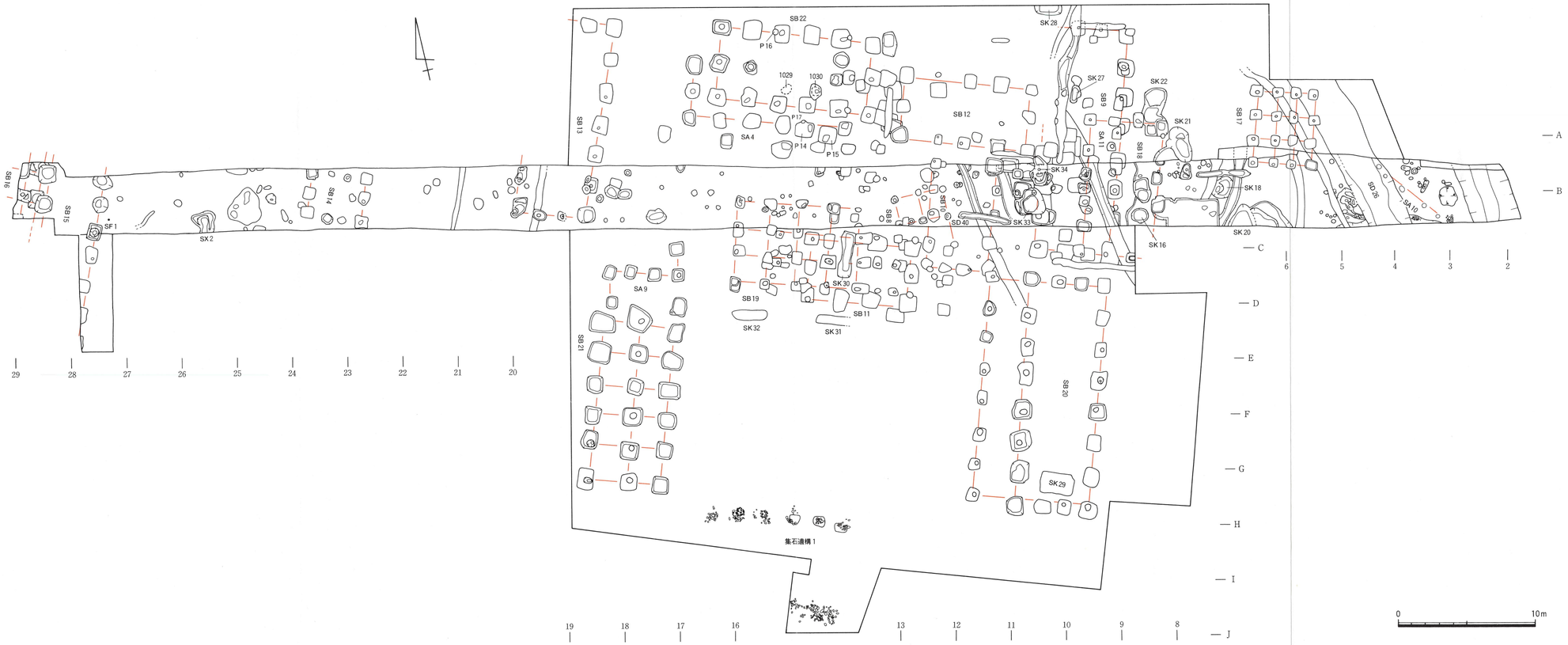


Fig. 40　H区検出遺構全体図（古代）

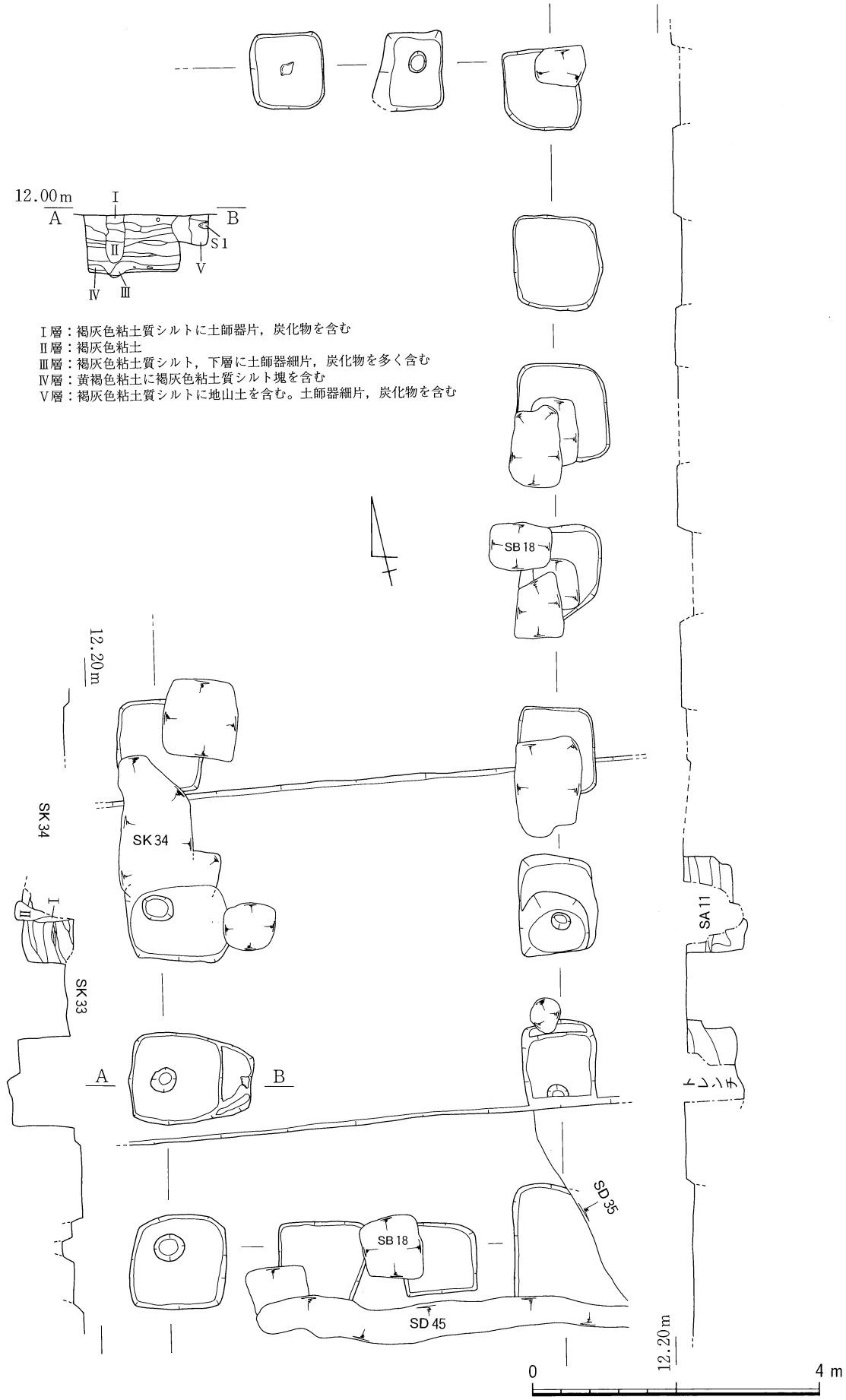


Fig. 42　SB 9 遺構平面・セクション・エレベーション図

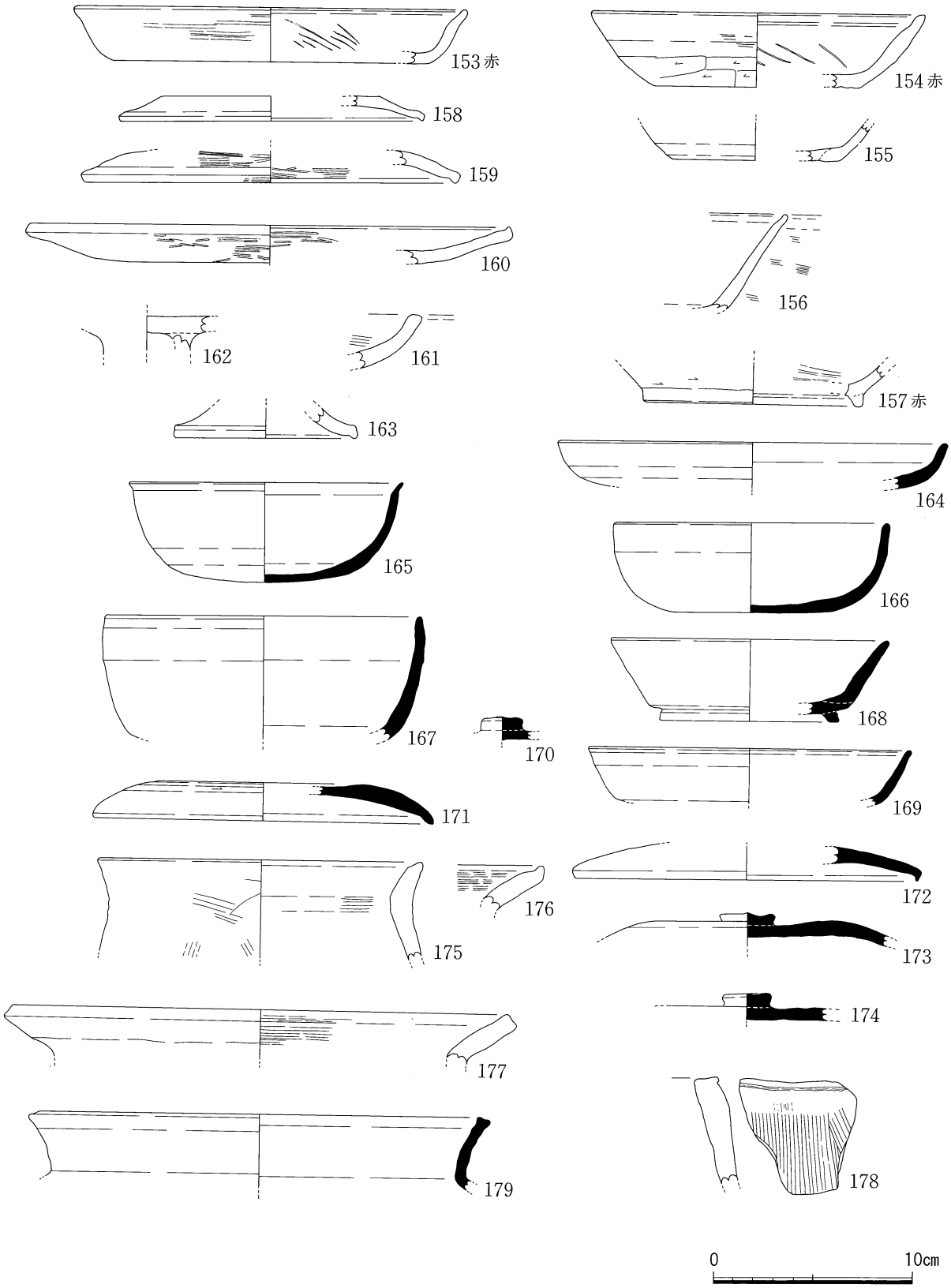


Fig. 43　SB 9 出土遺物実測図（179は縮尺1/4）

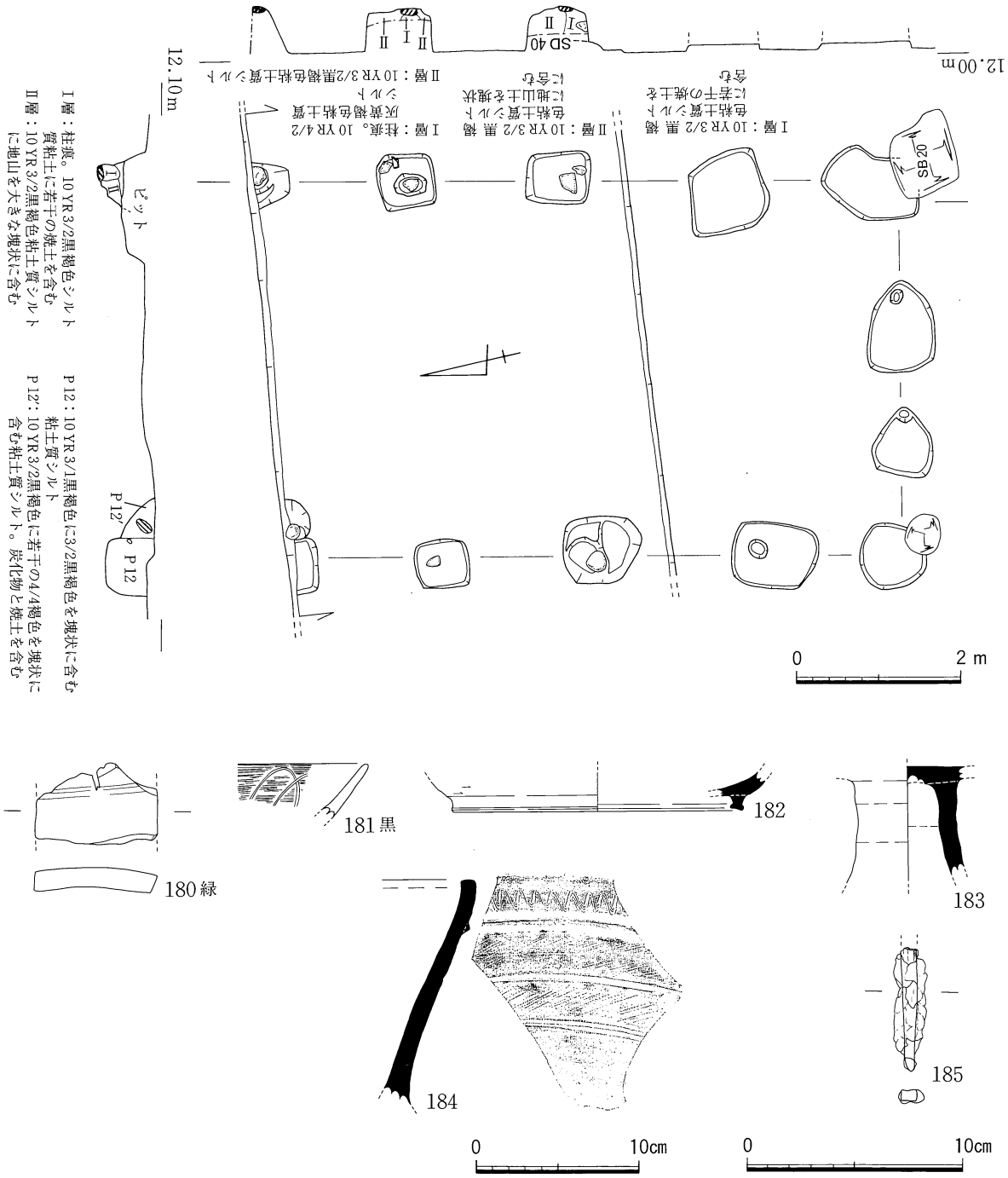


Fig. 44　SB 10遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図（184は縮尺1/4）

SB 11（Fig. 45）

2 × 3 間の東西棟で、南拡張区に位置するため、埋土は僅かしか掘削していない。SB 19や SK 30に切られる。大型の柱穴を含み、柱間距離も広い。4 つの柱穴で柱痕を検出することができた。

SB 12（Fig. 40・46）

2 × 4 間の東西棟で、北拡張区に位置するため30㎝弱程度を掘削したのみである。梁間が 2 間であり他の 3 間の建物よりも柱間距離が長いが、SB 22との比較ではほぼ全ての数値において下回る。

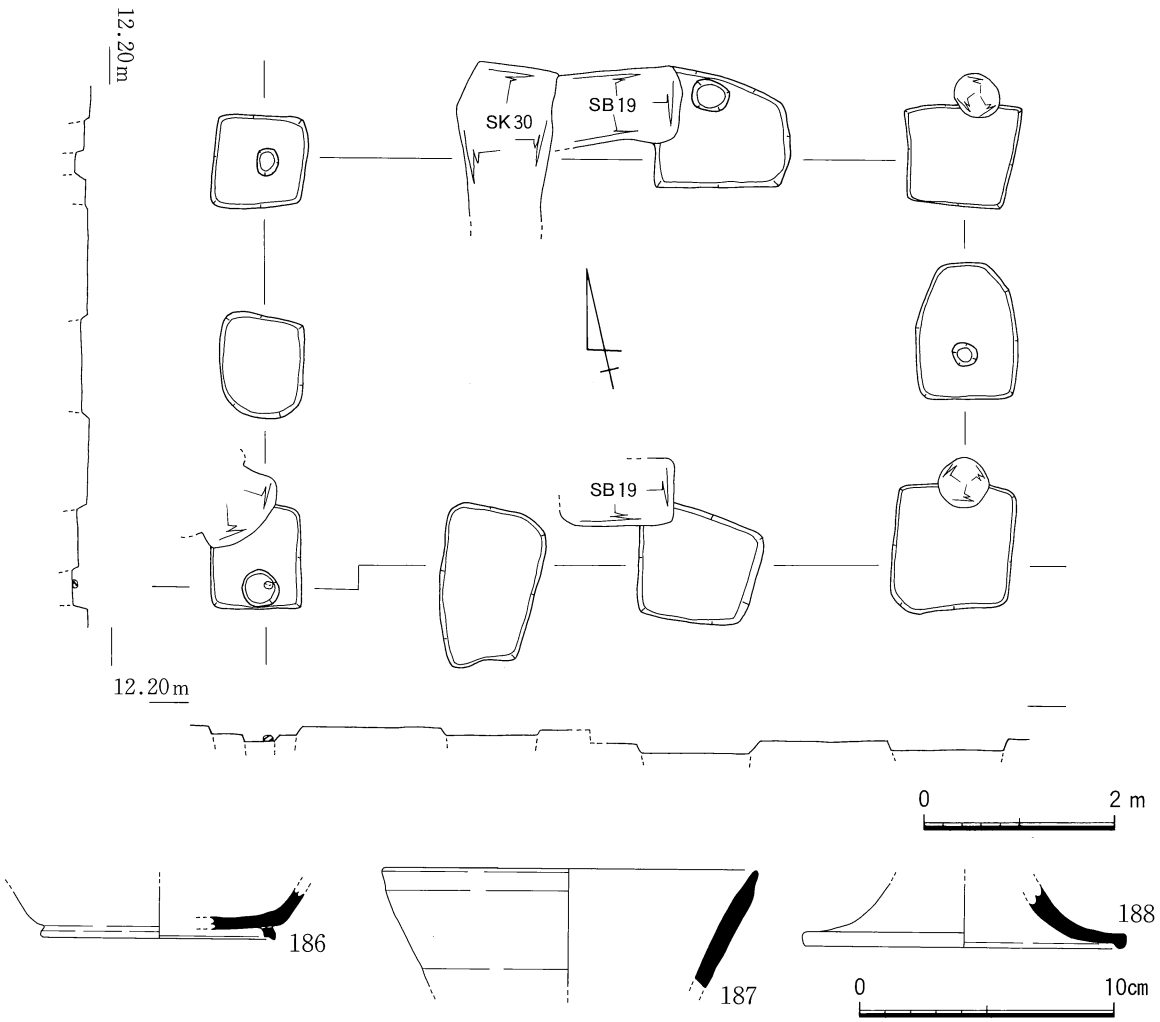


Fig. 45　SB 11遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

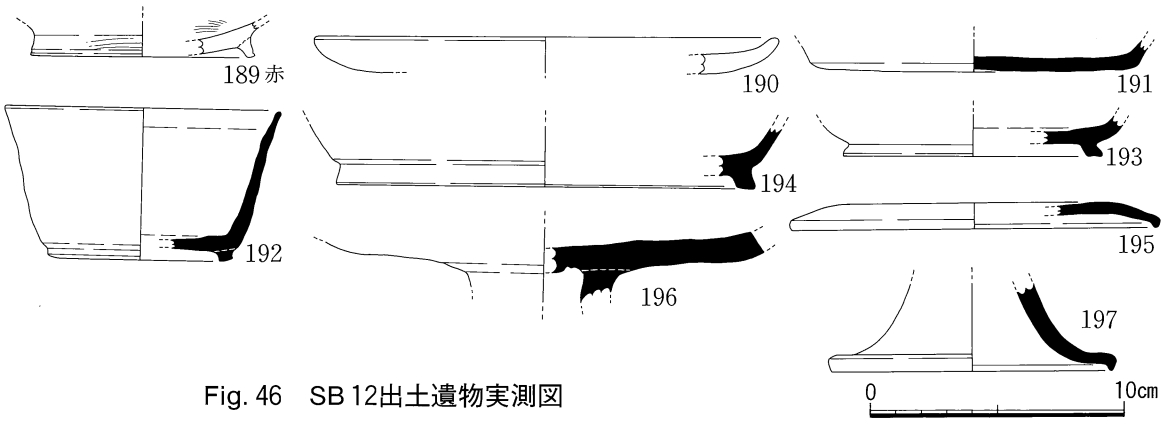
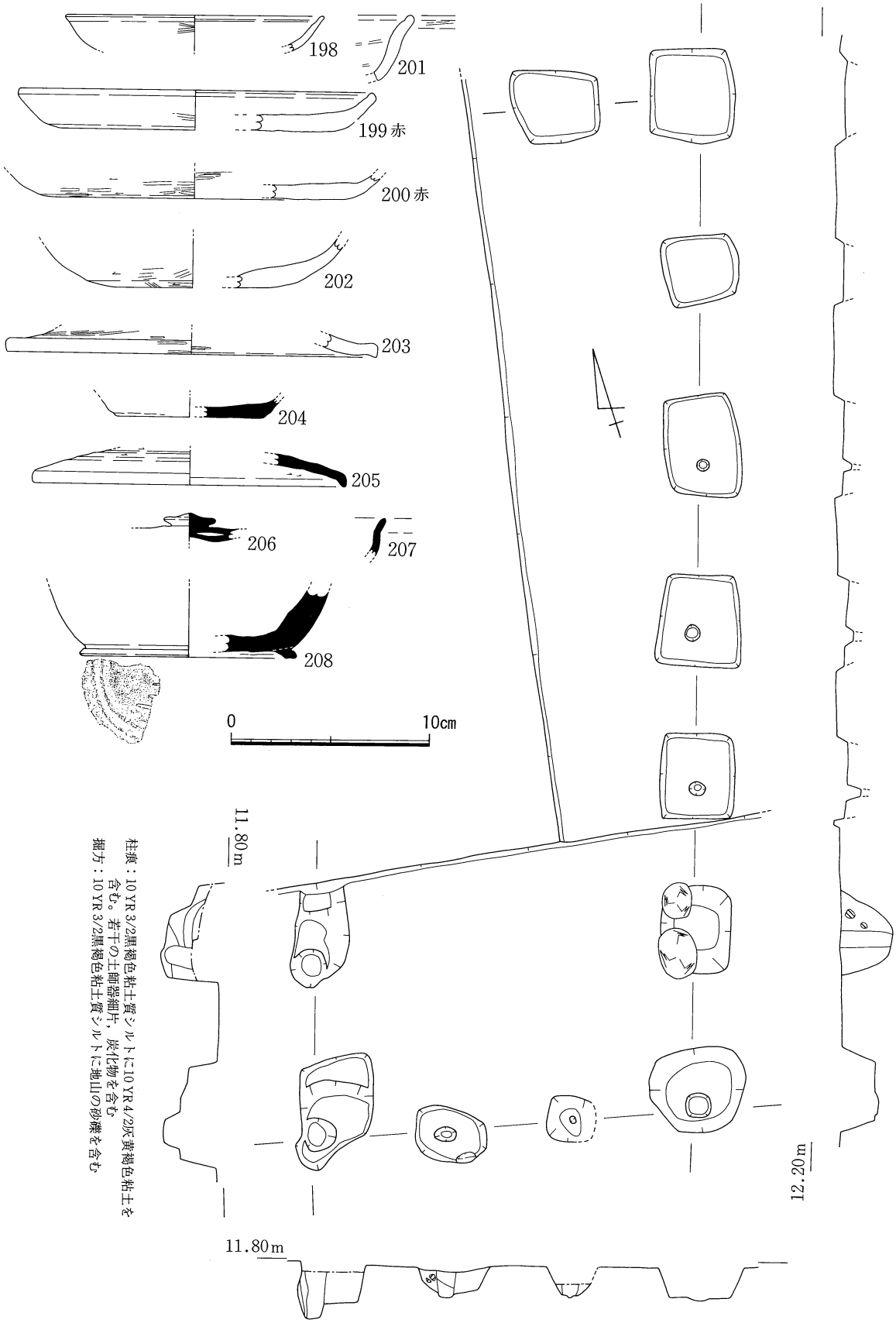


Fig. 46　SB 12出土遺物実測図

SB 13（Fig. 47）

中央部西で検出した3×6間の南北棟で、南側がH本区に属し、北西部は調査区外である。基本層準Ⅳ-2層下の遺構であり、SD 38を切っている。柱間距離が長く、多くの柱穴で柱痕を確認できた。周辺の地山は基本層準の項で述べた通り、堅固な砂礫層となっており、本遺構はそれに掘り込まれている。



柱痕：10YR3/2黒褐色粘土質シルトに10YR4/2灰黄褐色粘土を含む。若干の土師器細片，炭化物を含む
掘方：10YR3/2黒褐色粘土質シルトに地山の砂礫を含む

Fig. 47　SB13遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

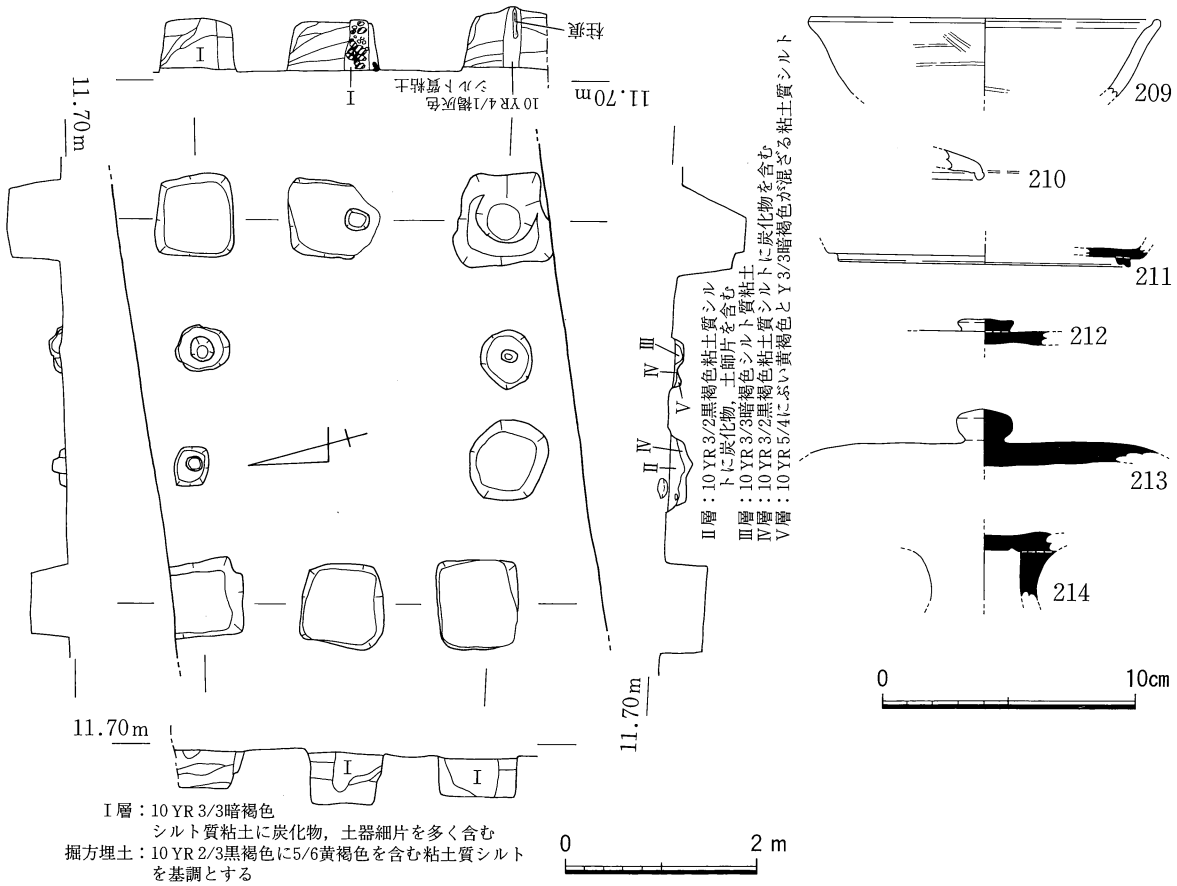


Fig. 48　SB 14遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

SB 14（Fig. 48）

Ｈ本区西部で３×２間分を検出した南北棟で、基本層準Ⅳ-２層下に存在し、Ⅶ層に掘り込まれていた。Ｐ４、Ｐ５、Ｐ９、Ｐ10は他の柱穴と相違が大きく、妻柱に相当するか否かは不明である。今次検出の他の建物と比較して、柱間距離が短い。Ｐ１、Ｐ６、Ｐ７で柱を抜き取ったことを示す土層が観察され、Ｐ２の柱痕部からは拳大の川原石が多数出土した。また、Ｐ３には柱根の一部が残っていた。

SB 15（Fig. 49）

調査区西端で桁行６間分を検出した南北棟で、両妻側は不明である。北部がＨ本区に属する。基本層準Ⅶ層下に存在し、西側柱はSB 16に切られる。Ｐ２、Ｐ９では検出面で20～30㎝前後の川原石の集中が見られた。Ｓ１は長さ30㎝を測る砂岩の川原石で、両端と両面、特に検出時に裏側であった面に敲打痕がある。Ｐ３掘方上層より出土の（219）は残存率が高い。

SB 16（Fig. 51）

大部分が調査区外であり、全容については不明であるが、総柱の掘立柱建物として扱う。Ｈ本区西端で１×２間分を検出したが、当調査区の概要で述べたとおり、当該部は現堤防直下であり、西側は物部川によって破壊されている。Ｐイ２、Ｐイ３、Ｐロ２、Ｐロ３でSB 15を切っていること

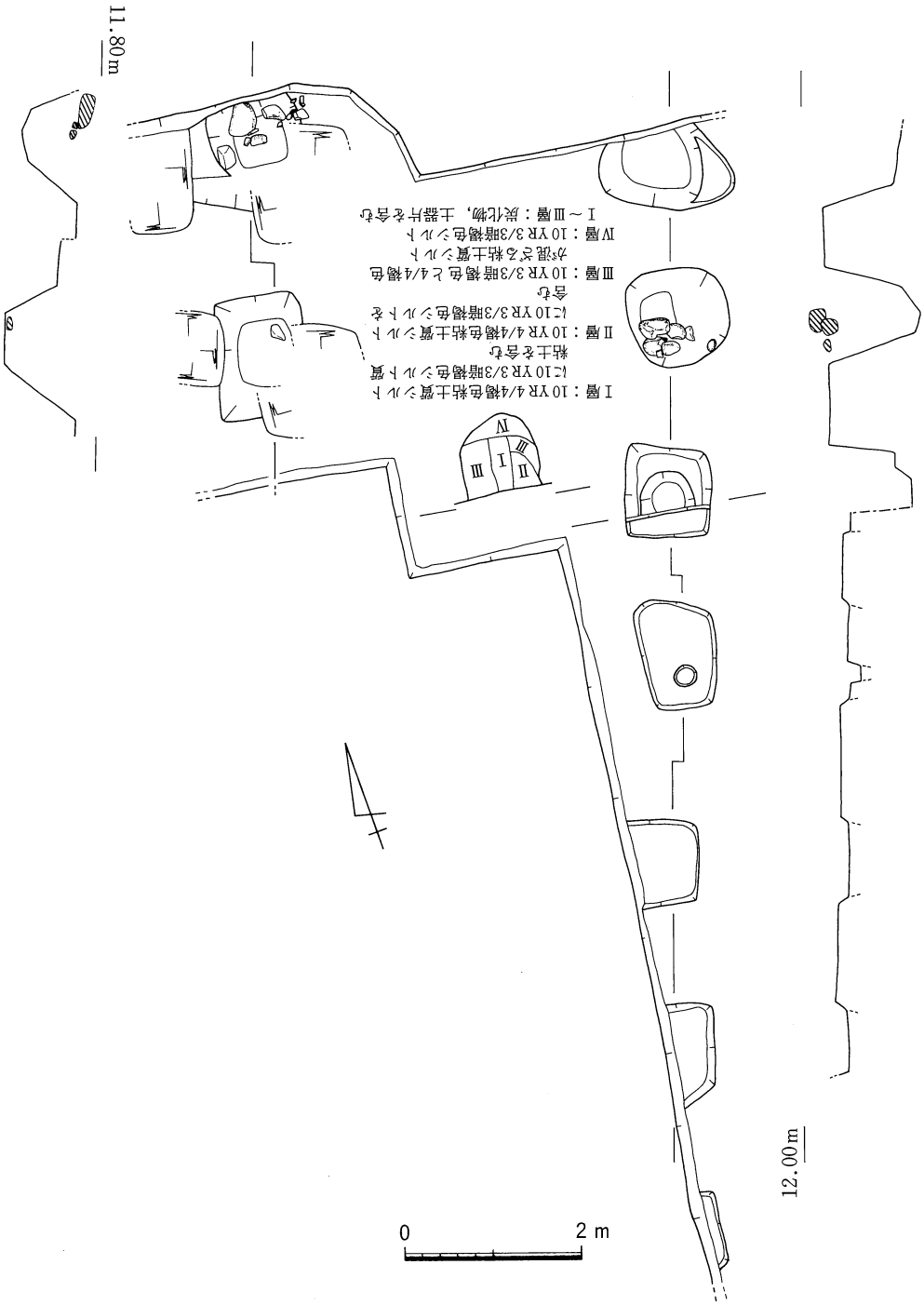


Fig. 49　SB 15遺構平面・セクション・エレベーション図

を断面で確認したが、Ｐロ２、Ｐロ３では平面的な切合いの確定が遅れた。Ｐイ１は南壁セクションでのみ確認した。他の建物と比較して柱間距離が短い。４つの柱穴で柱痕が確認され、Ｐロ２底からは扁平な石が出土した。Ｐロ３では検出時から平面で柱痕が検出でき、その中ほどの深さで柱痕部分に落ち込んだような状態で、重ねられた４個の完形の土師器杯（248～251）が出土した。なお、この様な状態は、SB 15東側の SF１と類似する。

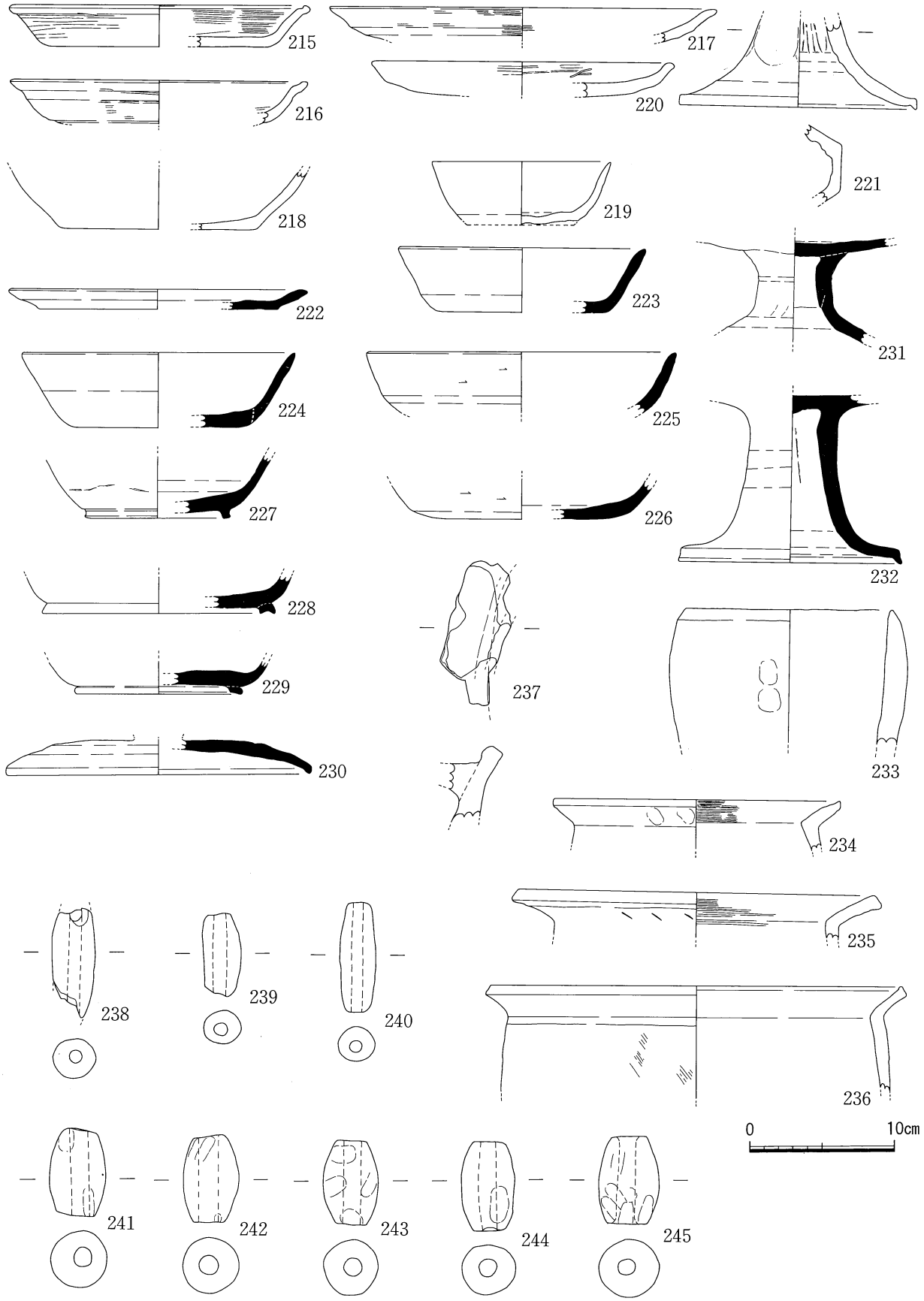


Fig. 50　SB 15出土遺物実測図（234～236は縮尺1/4）

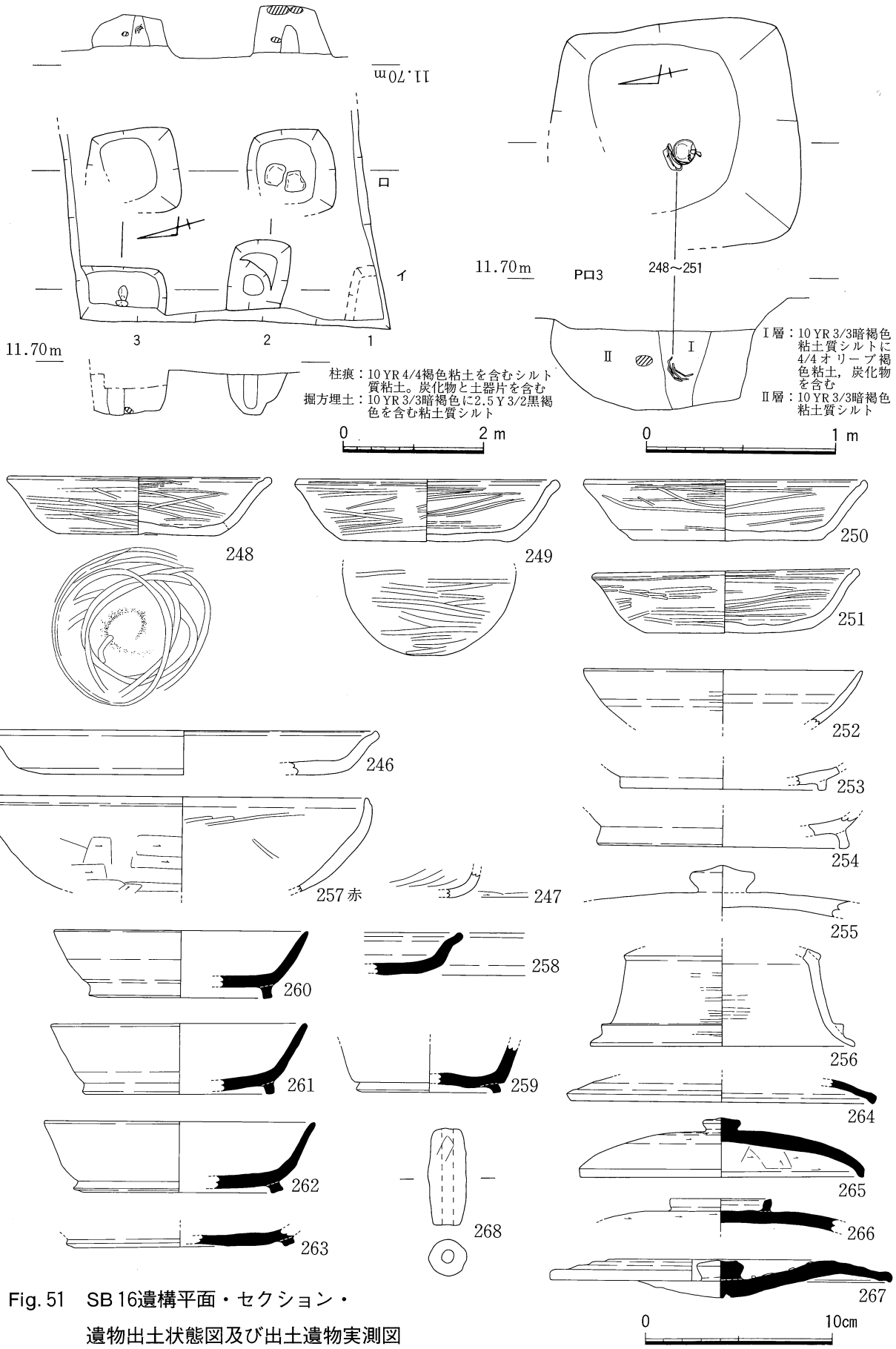


Fig. 51　SB 16遺構平面・セクション・
遺物出土状態図及び出土遺物実測図

SB 17（Fig. 52）

東部で検出した３×３間の総柱の南北棟で、南端柱列のみがＨ本区に属する。SD 26、SD 27、SD 28を切る。総じて柱間距離が短い方を梁間とした。柱穴規模は他の建物と比較するとやや小さい。ほとんどの柱穴で柱痕が確認でき、柱痕部付近に礫が検出されるものもあった。Ｐイ１では底面に敷かれたように川原石が検出された。

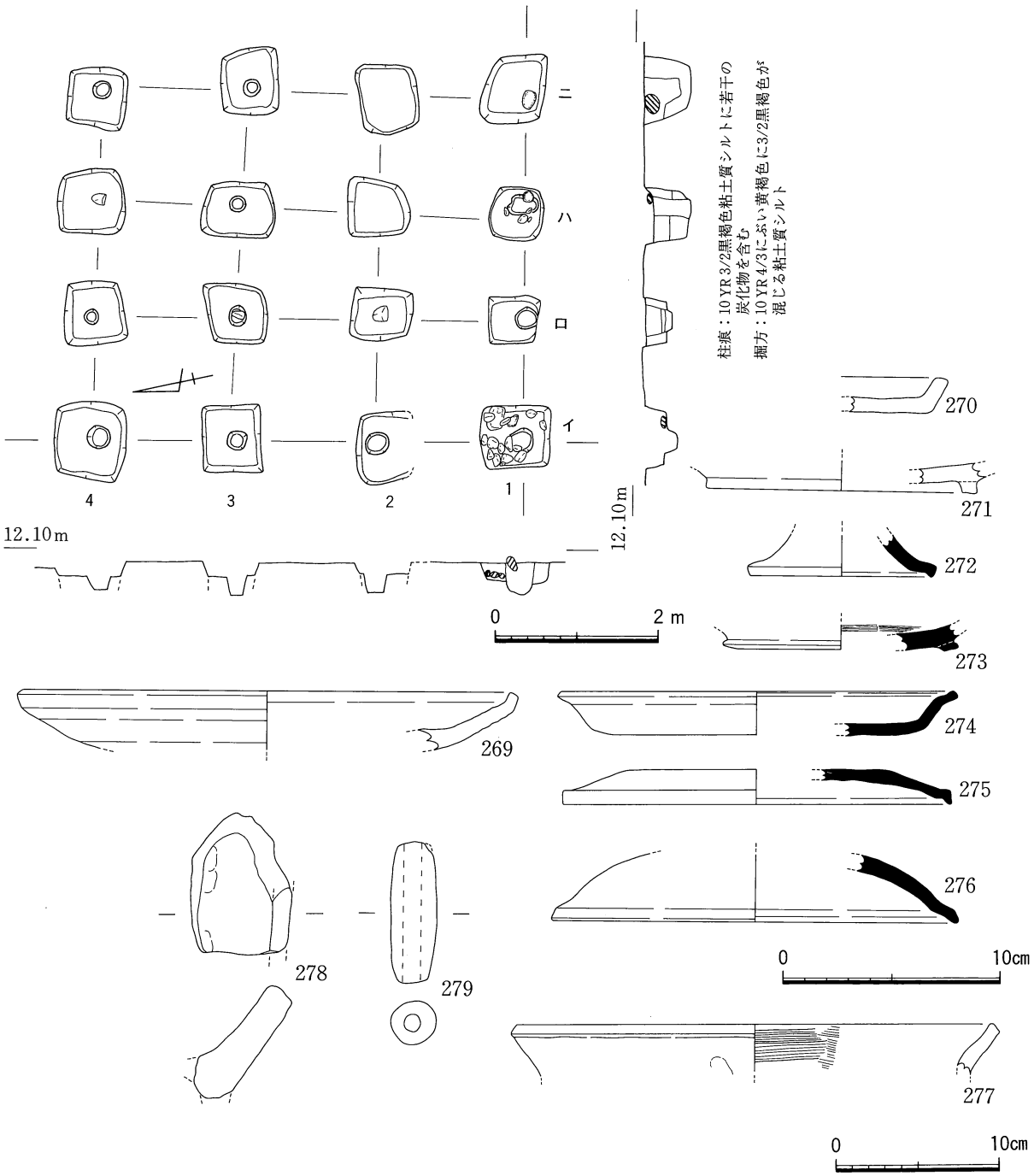


Fig. 52　SB 17遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図（277は縮尺1/4）

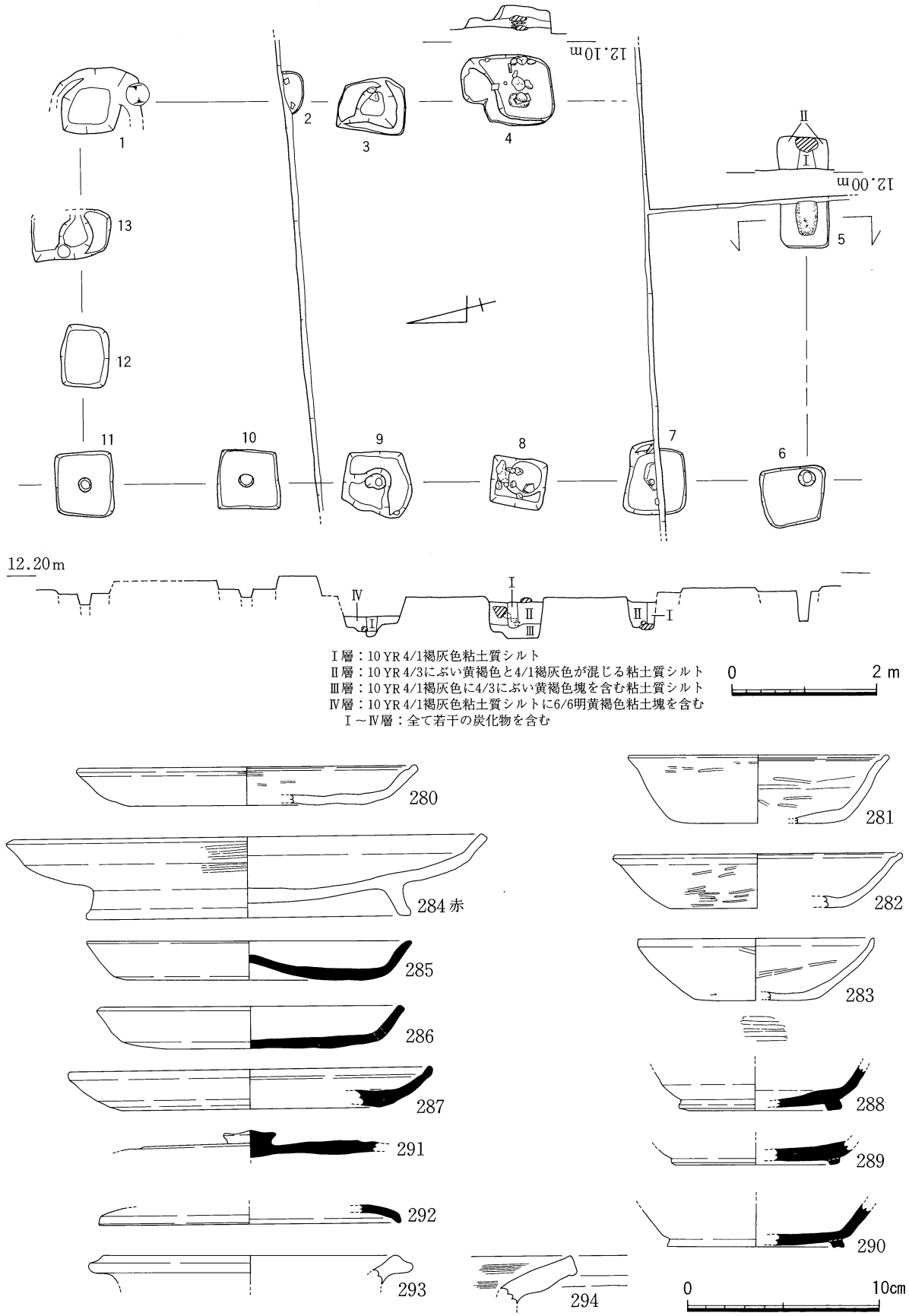


Fig. 53　SB 18遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

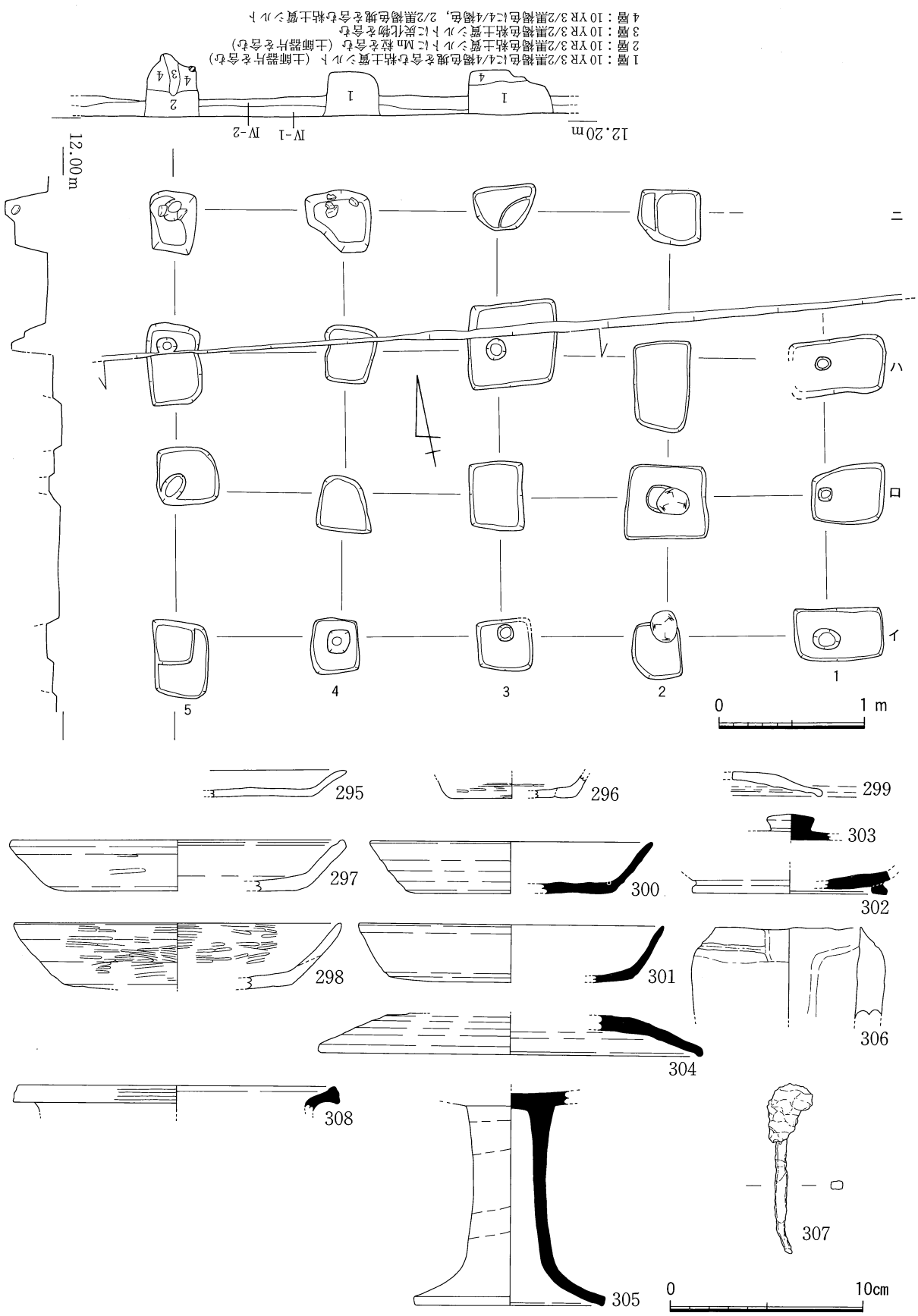


Fig. 54　SB 19遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

SB 18（Fig. 53）

中央部東寄りで検出した３×５間の南北棟で、建物中央部がＨ本区にかかる。SB ９、SX ５、SD 35、SK 22、及び基本層準Ⅳ-１層を切る。Ｐ１はSK 22と同時に掘削してしまったため平面プランが確定できない。Ｐ５～Ｐ11で柱痕が良く確認できた。礎盤として用いられた石がＰ５、Ｐ７より出土、Ｐ８では10～32㎝の石が柱痕を取り巻いて螺旋状に存在した。Ｐ７、Ｐ９からは鉄滓各１個が、Ｐ４からは付近に存在しない板状の粘板岩が出土した。

SB 19（Fig. 54）

中央部で検出した３×４間の総柱の東西棟で、北側のみがＨ本区に属する。基本層準Ⅳ-１層及びSB 11を切る。柱穴規模は他の建物と比較するとやや小さいものがある。梁間の柱間距離は桁行のそれより20～40㎝短い。Ｐハ５をはじめ、約半数の柱穴で柱痕を確認した。

SB 20（Fig. 55・56・57）

中央部東の南拡張区で検出した３×７間の南北棟である。西側に同じ７間のやや小振りの柱列が沿う。身舎の柱穴埋土は近辺の柱穴埋土と共通性がありほぼ暗褐色粘土質シルトであるが、この西側に沿う柱列の埋土には土師器片や焼土粒が比較的多く含まれていた。しかし、身舎と長さ・間数ともに一致すること、柱痕位置も身舎側と良く対応することからこの柱列をSB 20の庇と考える。埋土の相違については様々に考えられようが、SB 20は未確認の遺構を多数切っていること、身舎の西側柱穴列の検出は東側に較べ困難であったことも考慮される。

本遺構は南拡張区に位置するため、検出・確認に留めた。検出面は断面で確認していないが、北端部においてSB 9南端部との検出水準面の若干の比高差があり、SB 9より後出し、基本層準Ⅳ-１又はⅣ-２層上より掘り込まれたものと考えられる。また、SB 10、SD 36、SD 37を切っている。身舎の全体規模はSB 9と並んで今次検出建物中最大で、柱穴規模も大型であり、柱痕から推測する柱径は大きく、柱筋は良く揃っている。桁行のうち、中央のＰ14とＰ15間が2.9ｍと大きく開いている。身舎と庇の柱間は2.8～3.1ｍである。なお、身舎内南端にSK 29が位置する。

八稜鏡はＰ２の中央部やや南東寄りの遺構検出面より出土した。腹面を上、残存する外縁部を外側（東側）に向けた状態であった。鏡周辺の遺構埋土は影響を受けて灰オリーブ色に変色していた。その他、Ｐ12、Ｐ23からは、比較的残存率の高い遺物が出土している。

SB 21（Fig. 58・59）

南拡張区西部で検出した南北棟で、全体図でわかるように北側がやや複雑な状態であったが、２×５間の総柱建物として扱い、北側のやや小型のピット群をSA 9とする。拡張区に位置するので、完掘していない。今次検出の建物の中で柱間距離はほぼ最大、柱穴規模も最大級で、柱径も揃って大きい。梁間と桁行で柱間距離の差が認められず、掘方でみれば中央の柱列がややふれている。本遺構周辺は基本層準の項で述べた通り、堅固な砂礫層が地山面となっている。

遺物はＰロ３柱痕付近とＰイ４より比較的残存率の高い土器が、また、Ｐイ２柱痕部より有溝土錘が複数出土している。

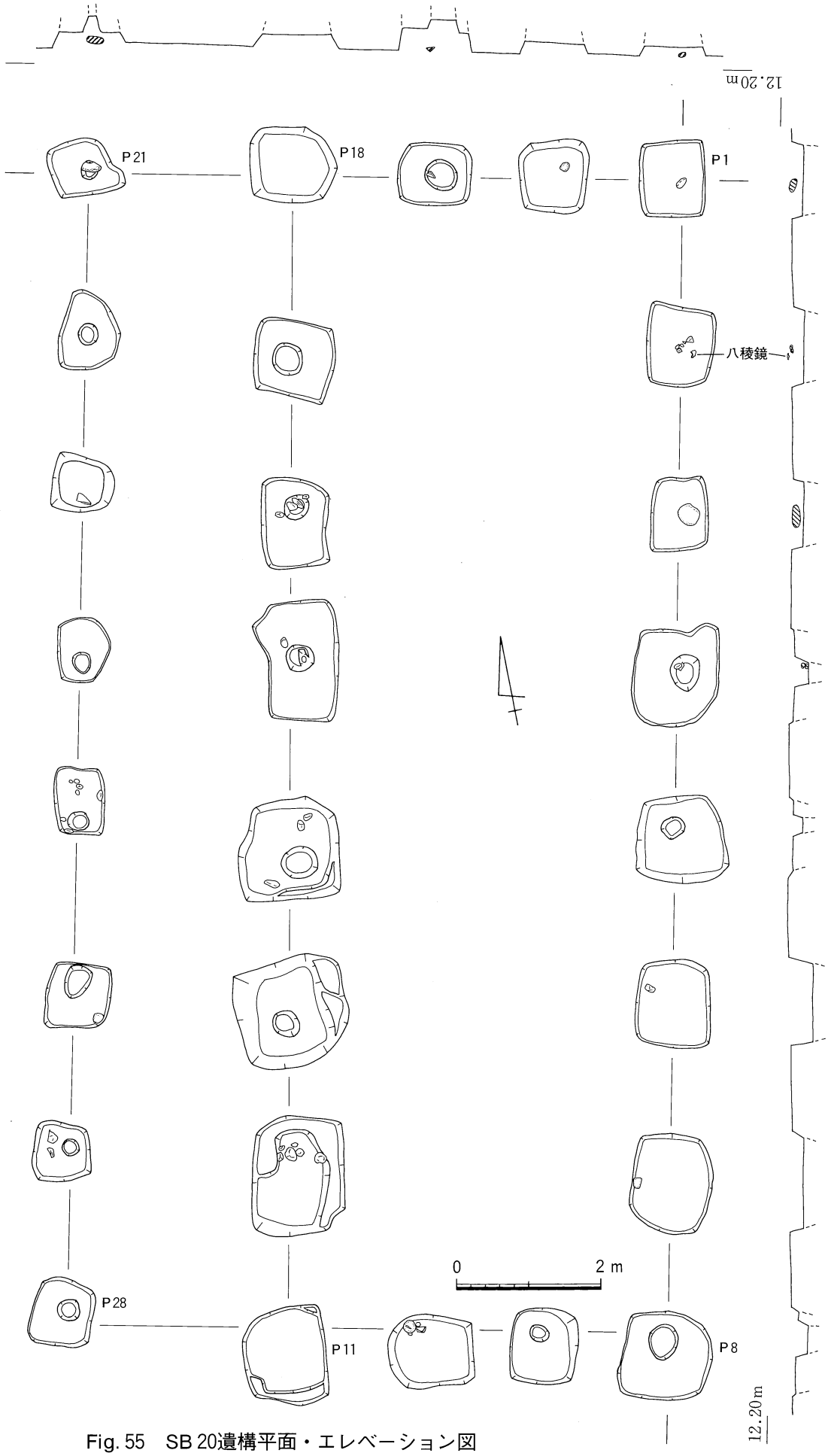


Fig. 55　SB 20遺構平面・エレベーション図

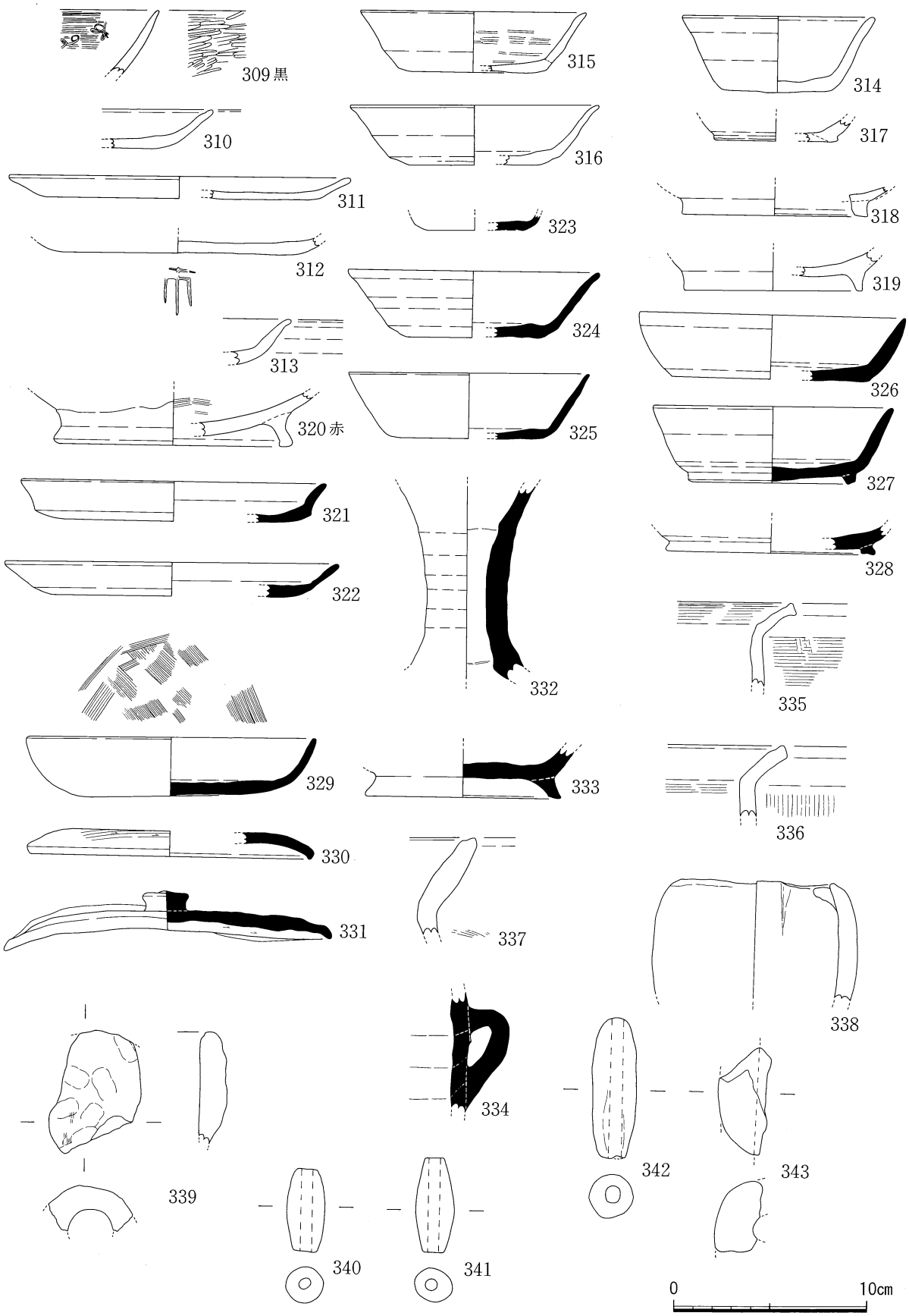


Fig. 56　SB 20出土遺物実測図

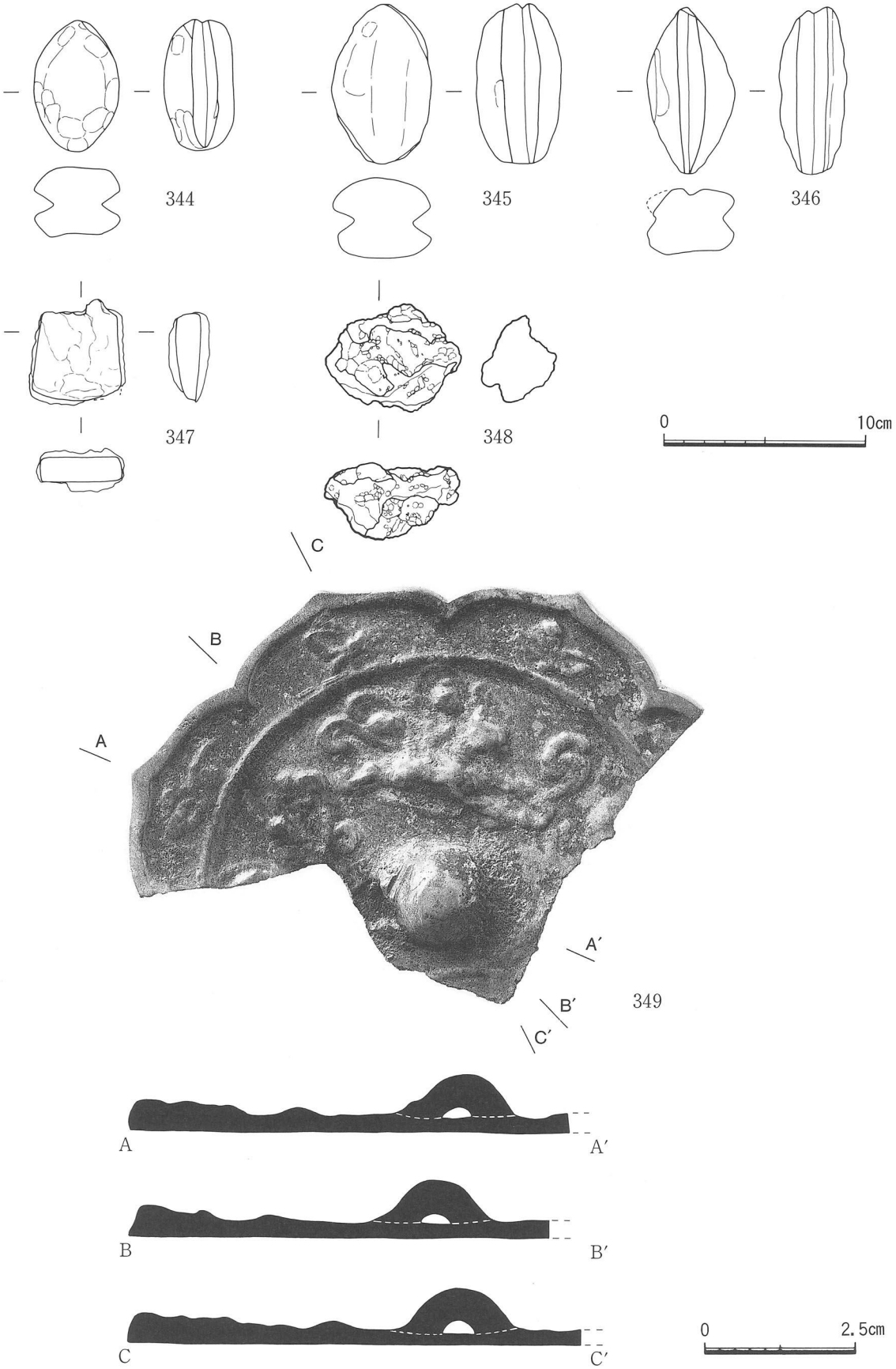


Fig. 57　SB 20出土遺物実測図及び写真（349は実寸）

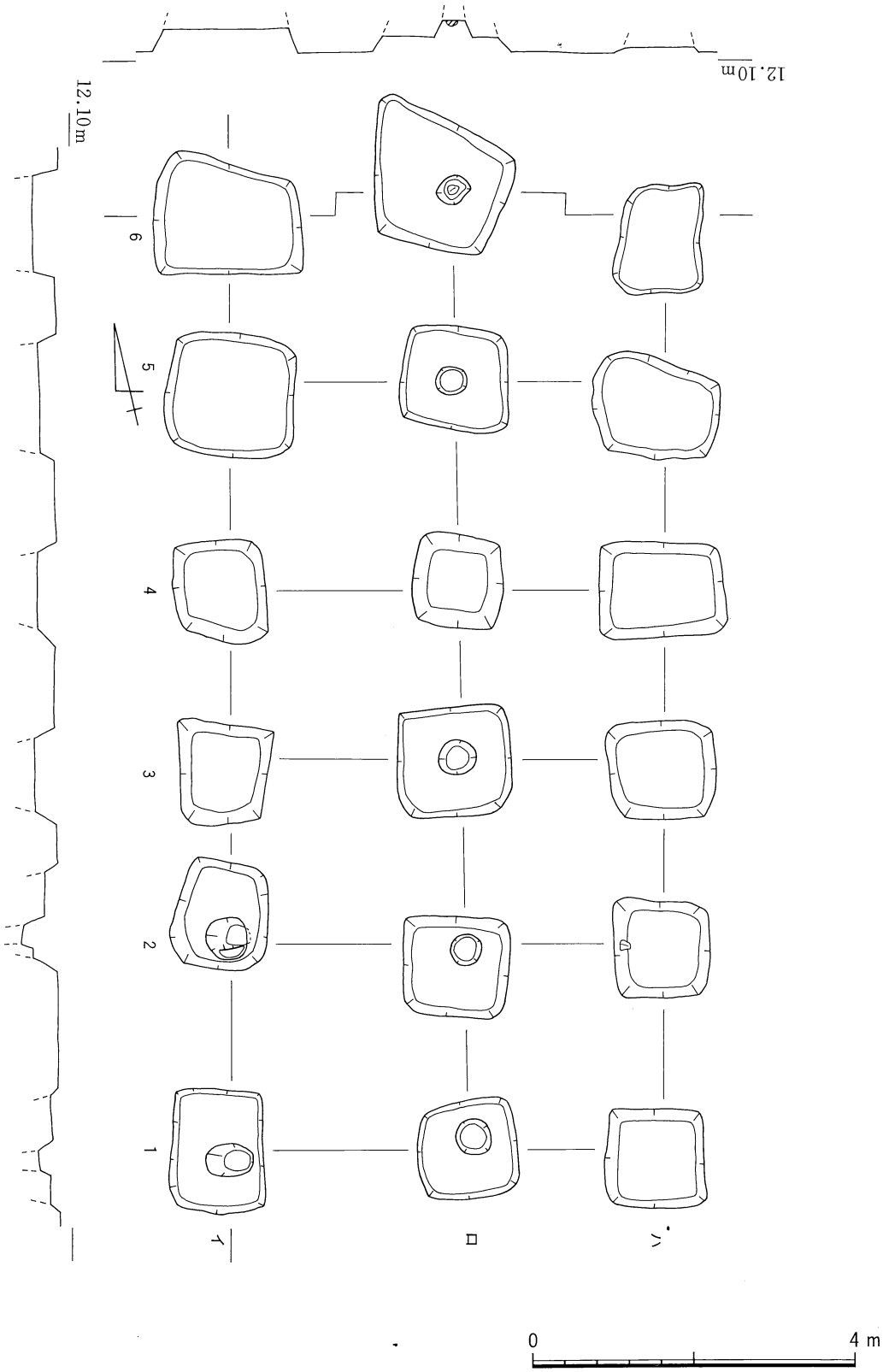


Fig. 58　SB 21遺構平面・エレベーション図

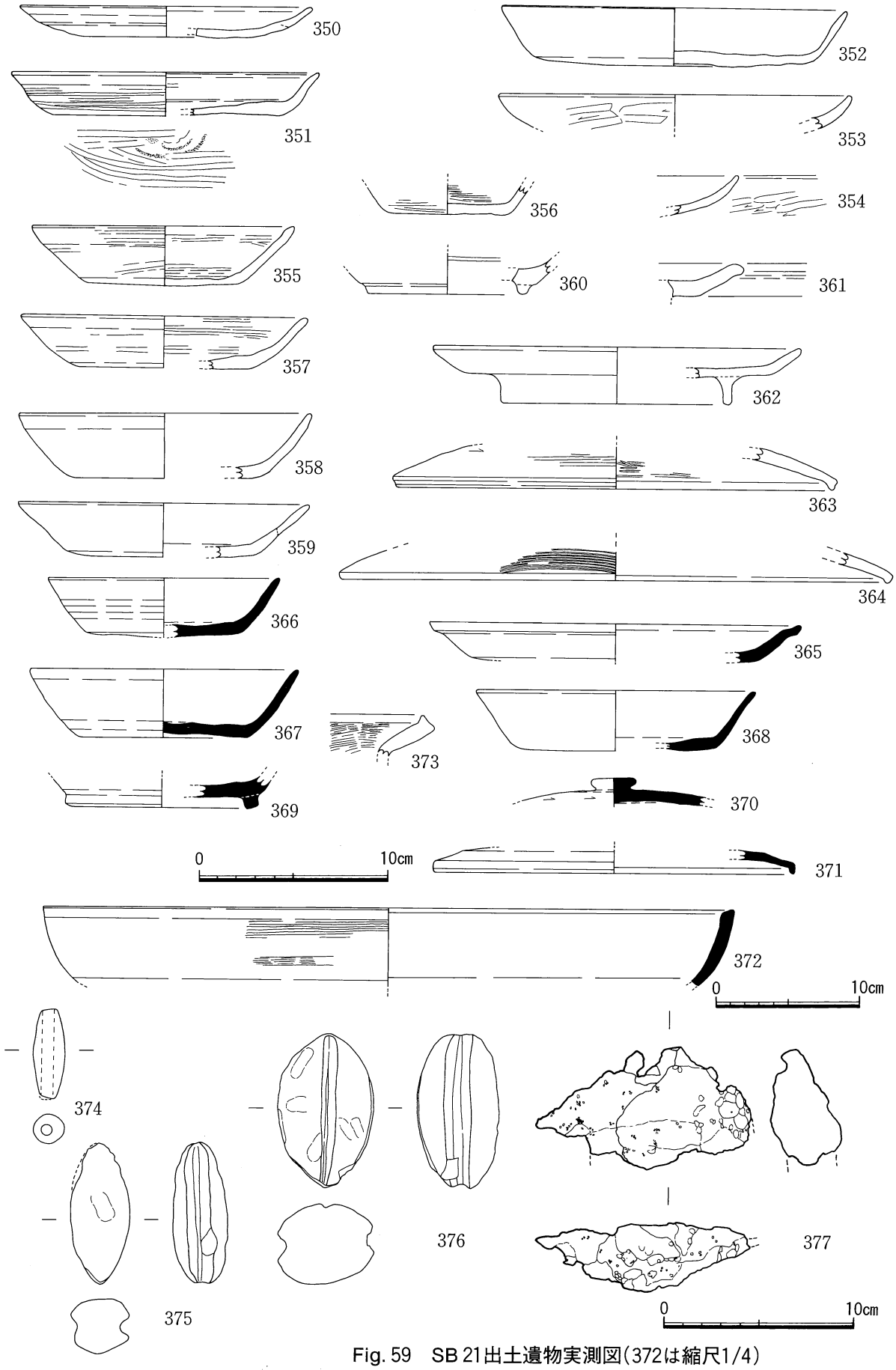


Fig. 59　SB 21出土遺物実測図(372は縮尺1/4)

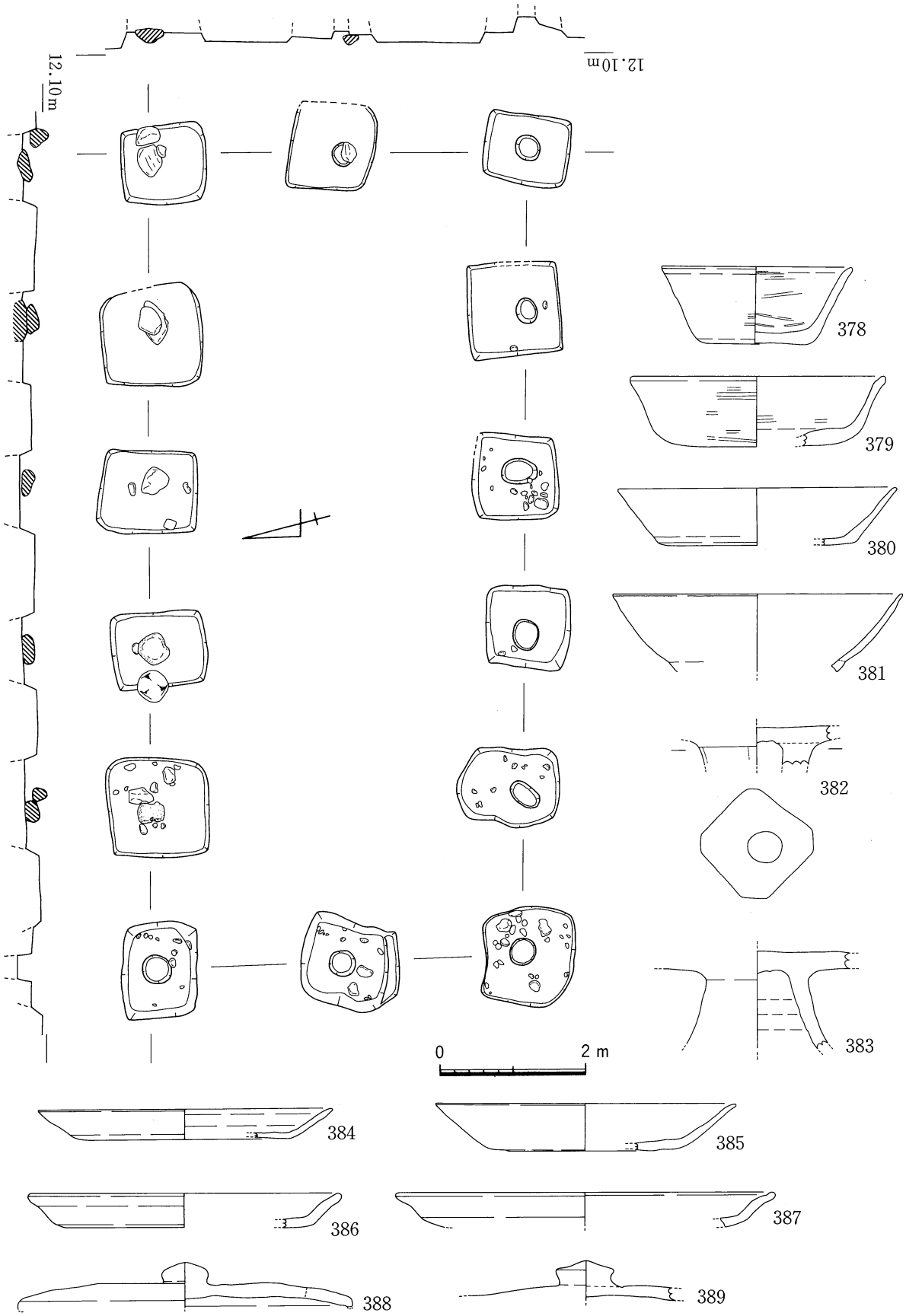


Fig. 60　SB 22遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

0　10cm

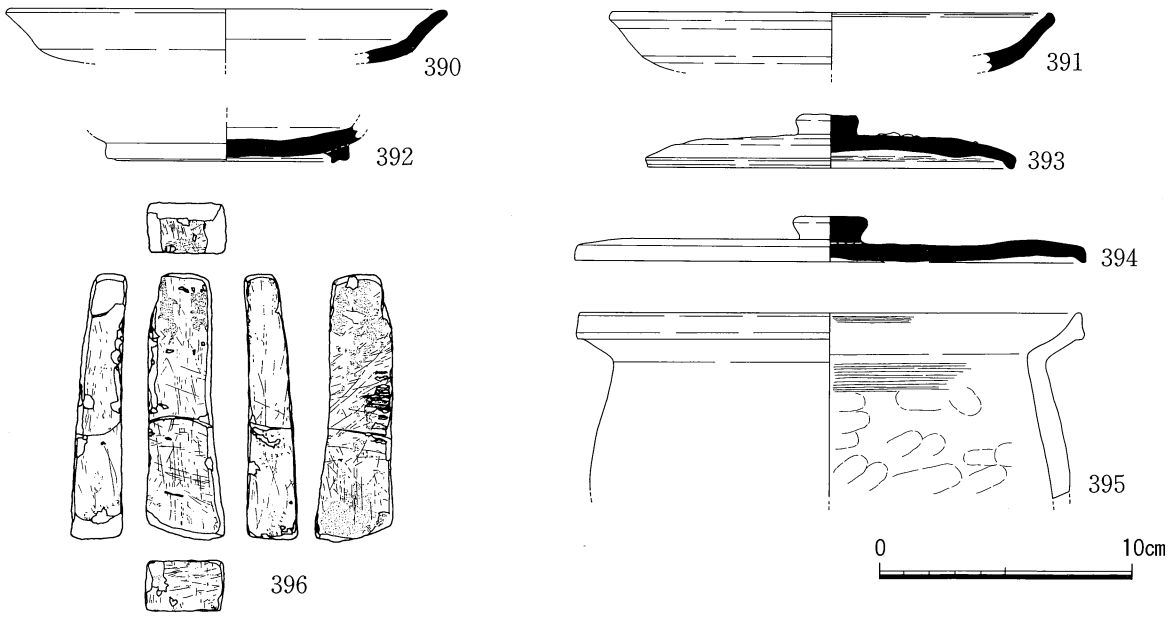


Fig. 61　SB 22出土遺物実測図

SB 22（Fig. 60・61）

中央部北拡張区で検出した２×５間の東西棟で、旧耕作土下の基本層準Ⅳ-１層上面より掘り込まれる。拡張区に位置するため検出・確認に留めた。東端で大型のピットを切り、Ｐ５、Ｐ12でピットに切られる。柱穴規模は大型で、平面形と規模が揃っている。梁間は２間で柱間距離が広い。埋土は暗褐色に褐色塊を含む粘土質シルトを主とし、西端部では褐灰色を呈し、礫を含むものが多い。北側のＰ11～Ｐ２では柱痕に相当する位置の上面で30～60㎝大の石を検出した。Ｐ９は柱痕部を掘削できたこともあってか、完形を含む一定量の遺物が出土している。尚、南側中央部で、２基の須恵器大甕（1029・1030）が遺構とほぼ同時に検出された。

②　柵列

SA 4（Fig. 62）

SB 22の南西に沿うが、柱掘方はSB 22に比してやや小振りで、形状も異なる。北拡張区に位置するため確認に留めた。北端から順にＰ１～Ｐ７の番号を付した。褐灰色粘土質シルトの埋土中に数～20㎝前後の礫を含むが、Ｐ６とＰ７間に位置するピットＰ14、Ｐ15ではそのような礫を含まないという差異が認められる。Ｐ４から比較的多くの遺物が出土した。

SA 9（Fig. 63）

SB 21北側に位置するクランク状の柵列として報告する。拡張区であるため確認に留めた。北端から順にＰ１～Ｐ６の番号を付した。

SA 10（Fig. 63）

Ｈ本区東端で３間分を検出した。円形の柱穴からなり、方形柱穴を持つ遺構群とは明らかに方向が異なる。各柱穴に北からＰ１～Ｐ４の番号を付した。Ｐ１はSD 26埋土に掘り込まれる。Ｐ２より半完形の土師器杯（413）が正立して出土した。

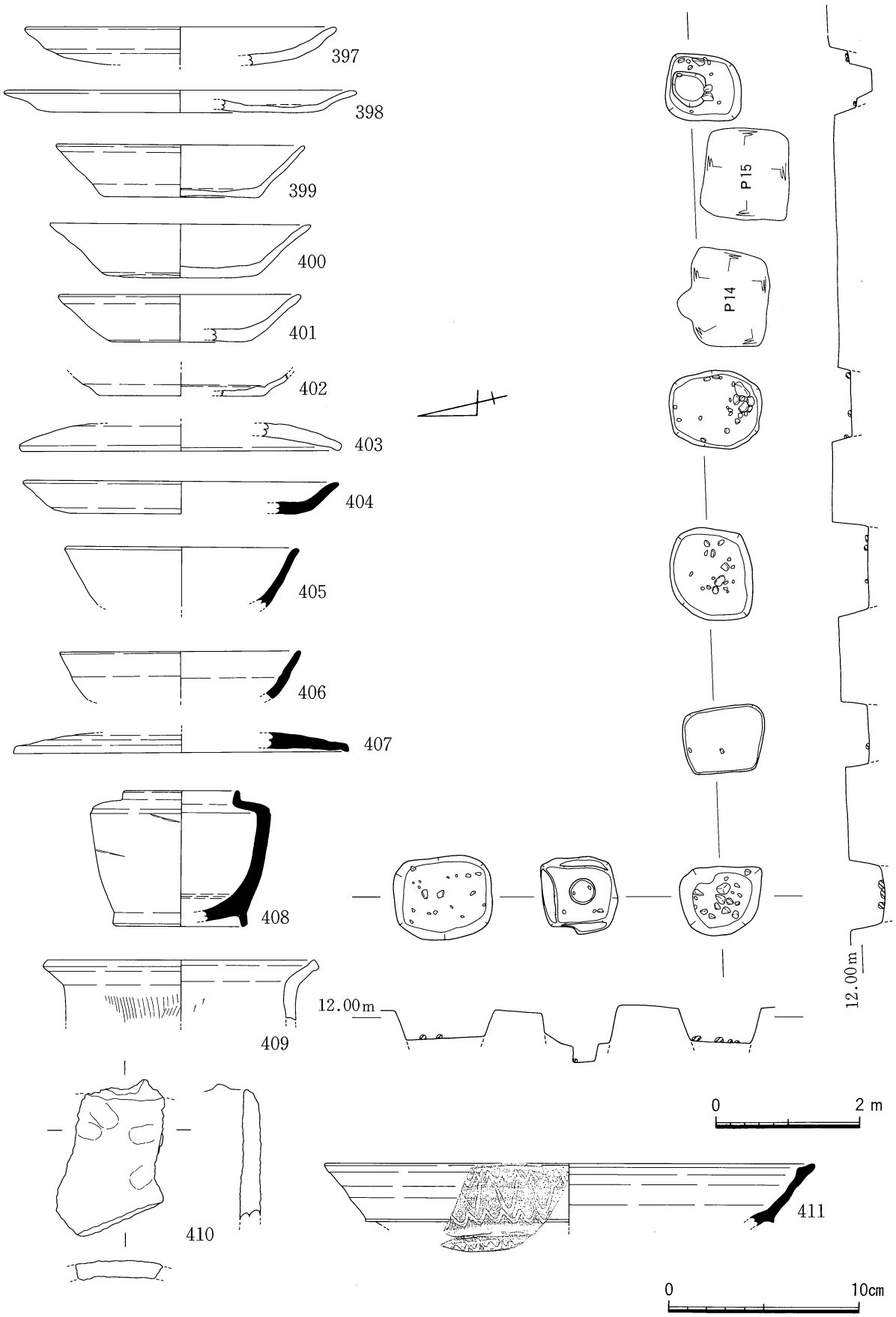


Fig. 62　SA 4 遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図（411は縮尺1/4）

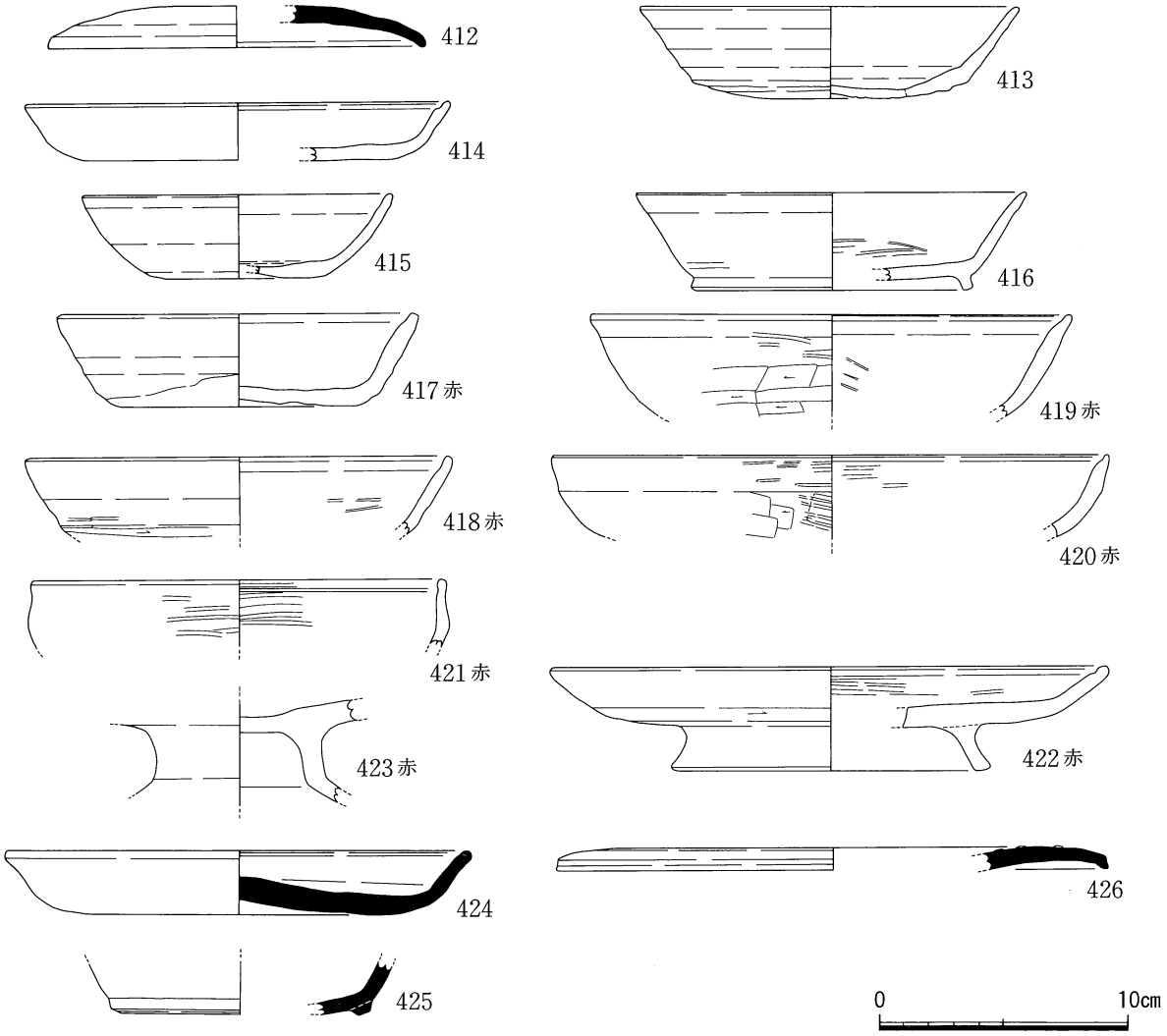


Fig. 63　SA 9 ・10・11出土遺物実測図

SA 11（Fig. 63）

多くはSB 9に掘り込まれており、H本区北壁セクションではⅣ-2層下に存在する。P 2では柱痕部下層で20㎝大の礫を検出、P 7では底に被熱・打割された18㎝大の礫が、P 5では4個の20数㎝大の礫と、板状の粘板岩が焼土塊と共に認められ、石のなかには被熱赤変しているものもあった。

③　集石遺構1（Fig. 64）

南拡張区南部で4～30㎝の礫からなる7つの集石部を確認したが、検出したのみで精査していない。その為不明要素が多いものの、形状や並び方からみて何らかの建物跡と仮定して図示・計測した。集石5は径約60㎝の整った円形で、断面は浅い擂鉢状を呈す。集石1～3で隅丸方形の掘方が検出されたことや、SB 14・SB 16での柱痕部に礫を配した例から考えると、掘立柱建物であった可能性もある。遺物は集石6からの製塩土器をはじめ細片が出土しているが、図示できるものは無い。

④　土坑

以下に報告する土坑については、拡張区に存在するものも性格を把握するために完掘した。

SK 16（Fig. 65・66）

H本区東部で検出した1.02×1.24ｍの円形の土坑で、南側で切れる不明瞭な段部を持つ。V層除

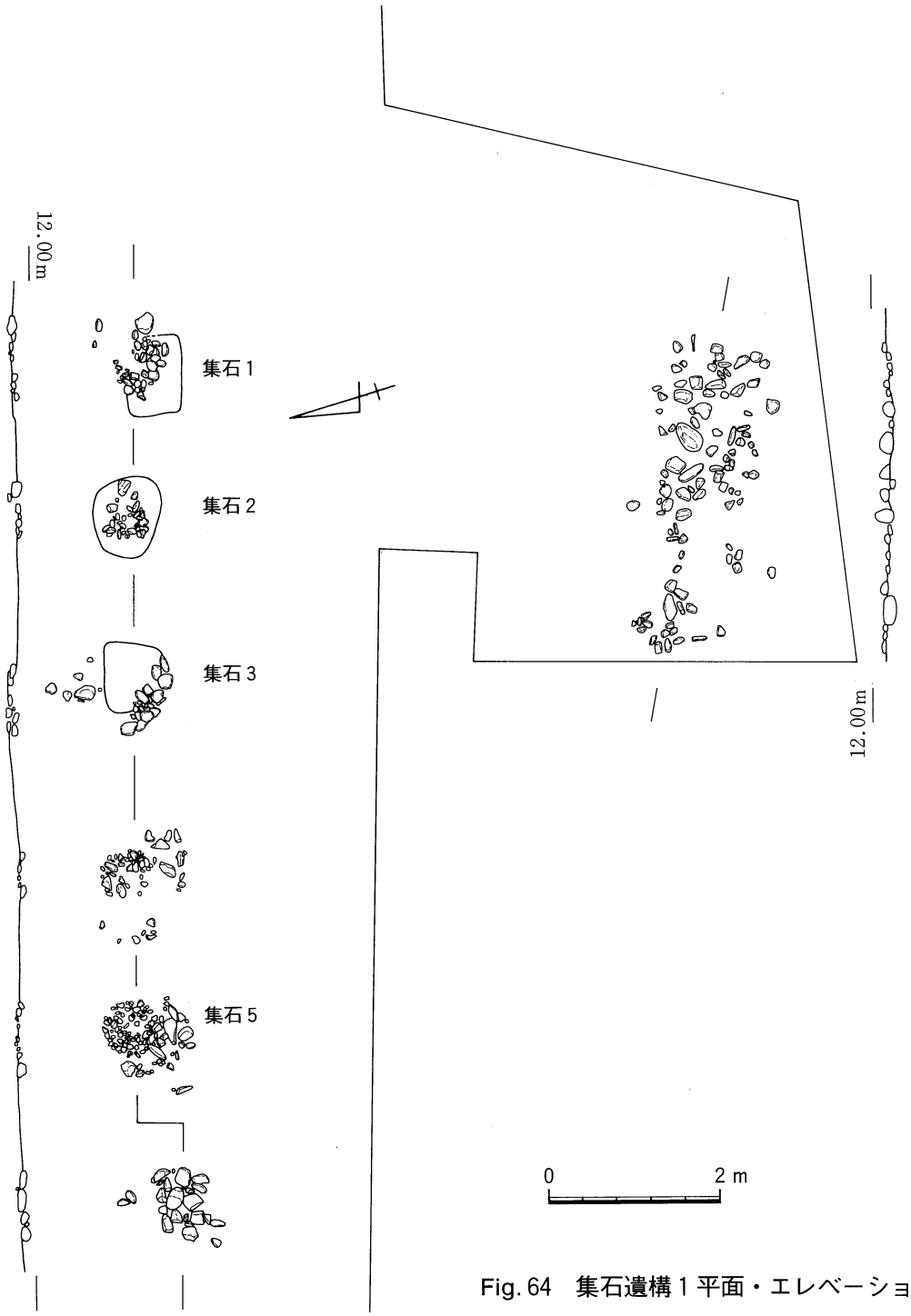


Fig. 64　集石遺構1平面・エレベーション図

去後に検出したが、各基本層準との切合い関係は明確にし得なかった。底部に粘土塊を含み締りのあるⅡ層が存在し、Ⅱ層除去後の底はピット状になる。いずれの面にも被熱痕は確認できず、明確な焼土も含まれないが、埋土Ⅰ層より土器とともに出土した大小の石の中には、被熱、打割されたものが含まれていた。(443) は長さ40㎝、重さ35㎏を測り、被熱赤変している片面の側縁付近が敲打されている。この被熱面を下にⅡ層直上より出土した。中央南東寄りの須恵器甕片下のⅠ層下層からは、鞴羽口片1片 (441) が出土した。

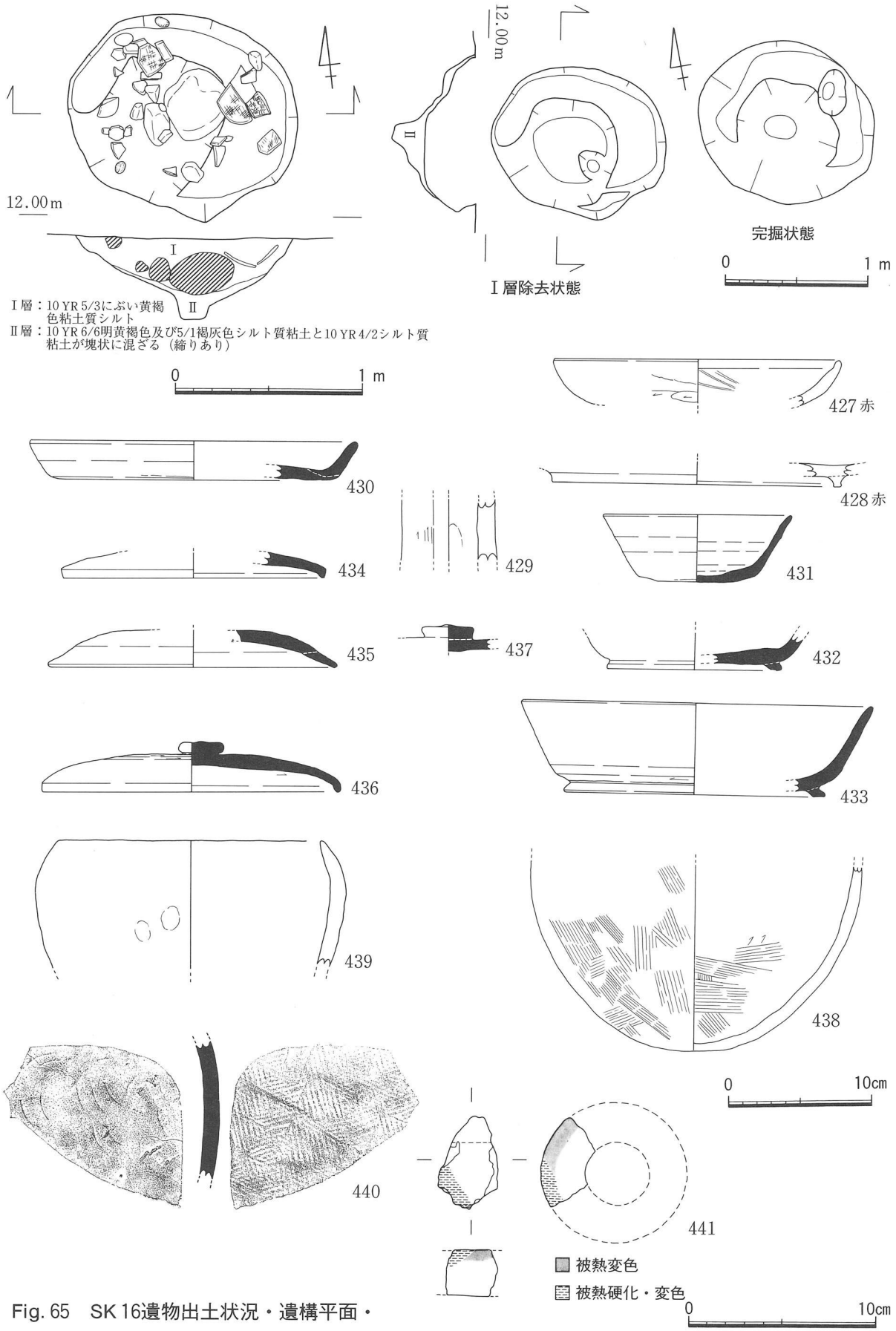


Fig. 65　SK 16遺物出土状況・遺構平面・
セクション図及び出土遺物実測図（438は縮尺1/4）

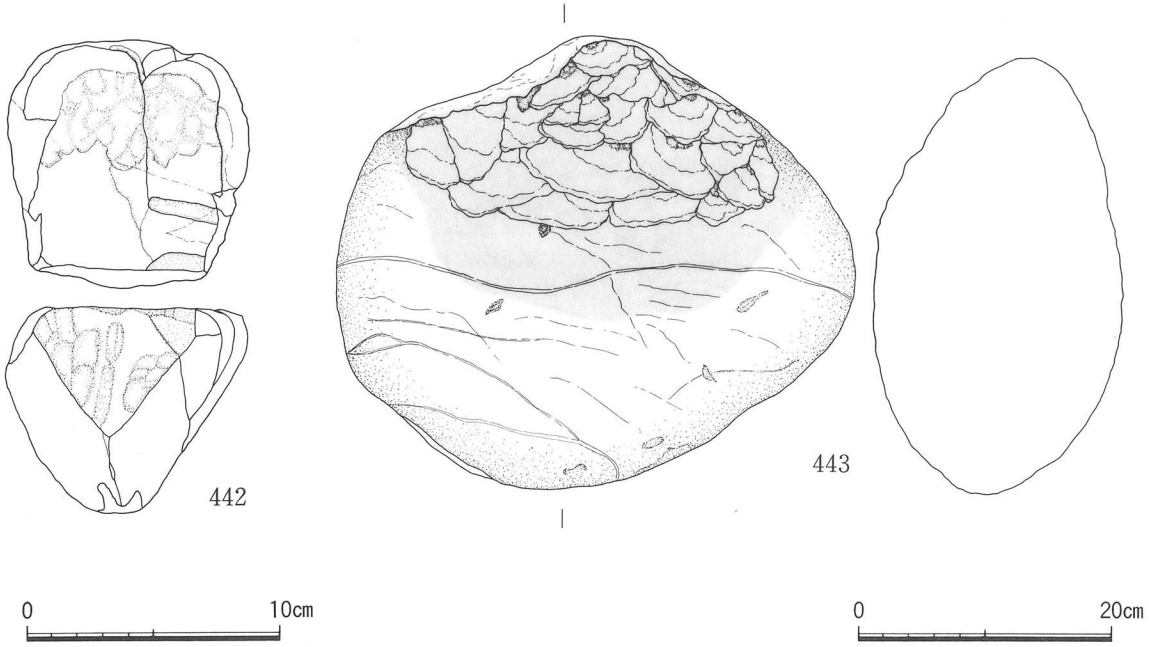


Fig. 66　SK 16出土遺物実測図

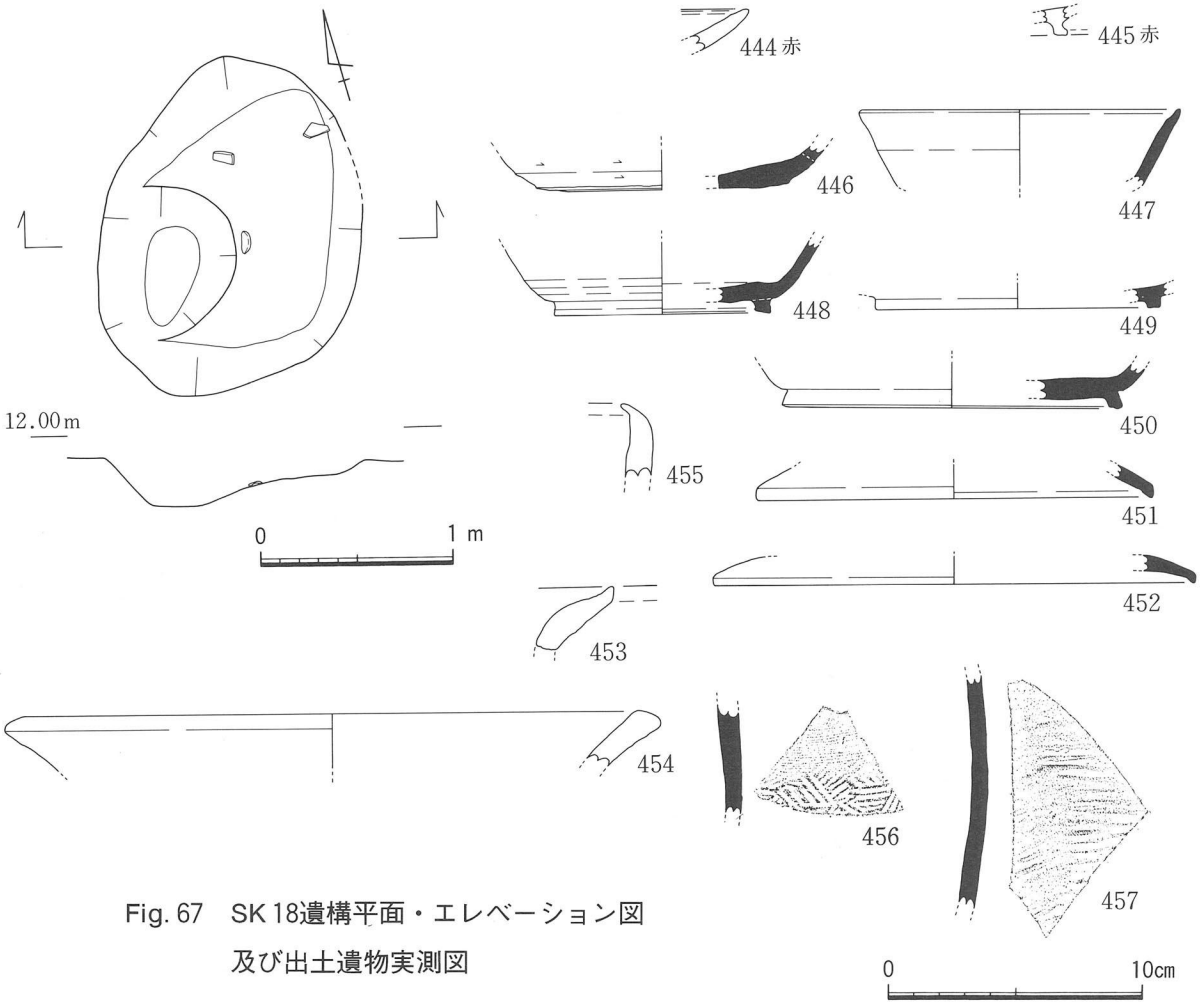


Fig. 67　SK 18遺構平面・エレベーション図
及び出土遺物実測図

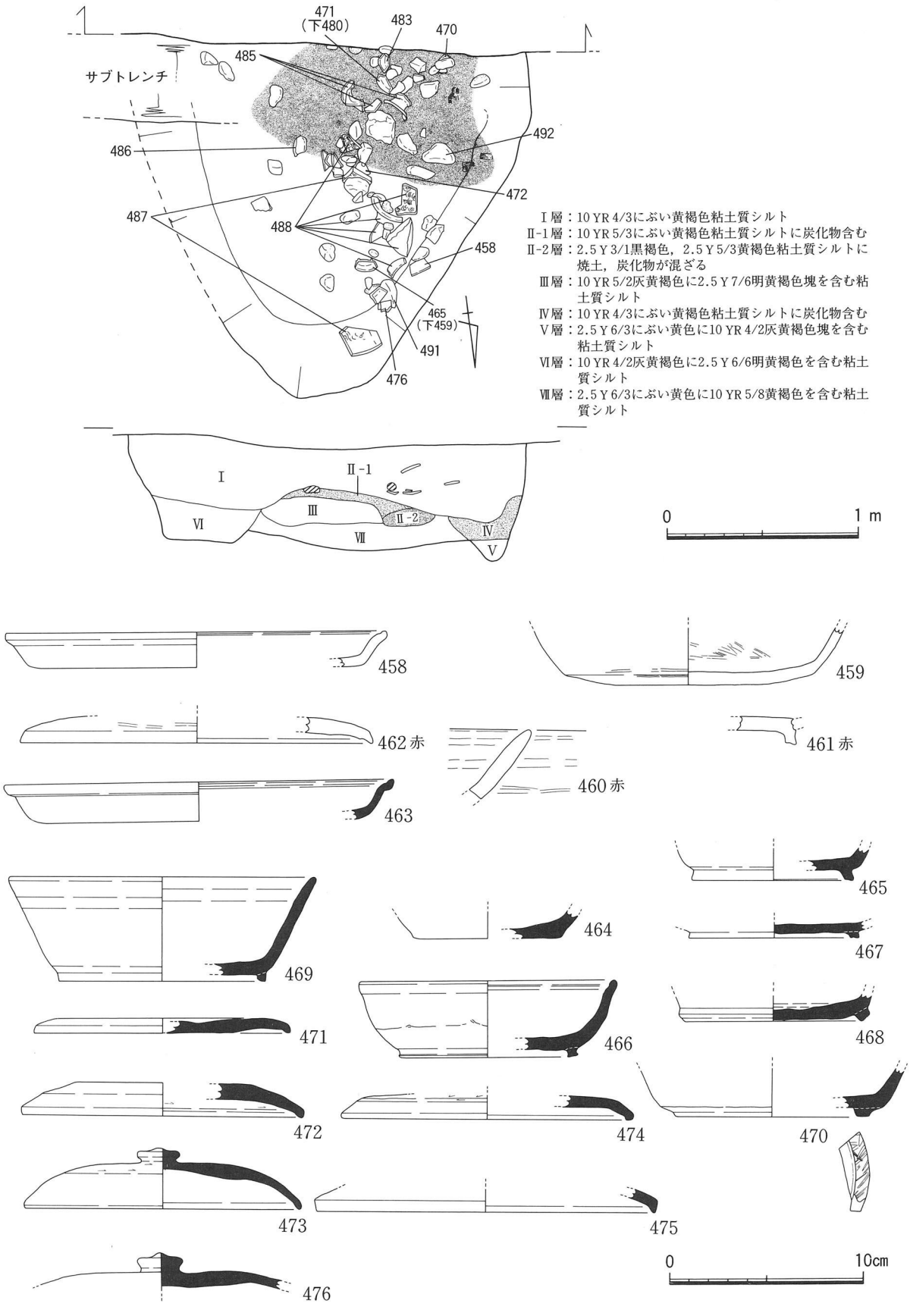


Fig. 68　SK 20遺物出土状況・セクション図及び出土遺物実測図

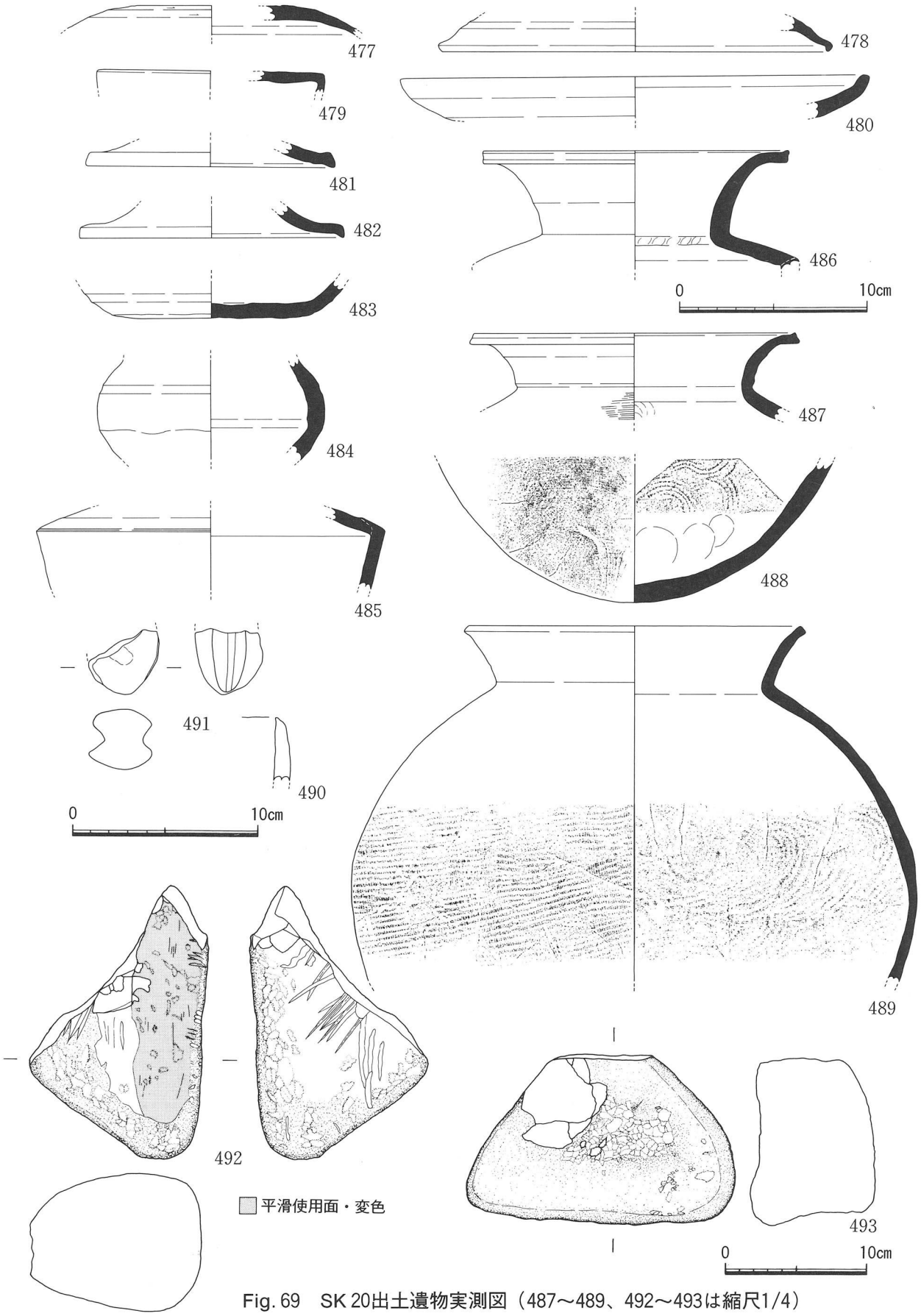


Fig. 69　SK 20出土遺物実測図（487～489、492～493は縮尺1/4）

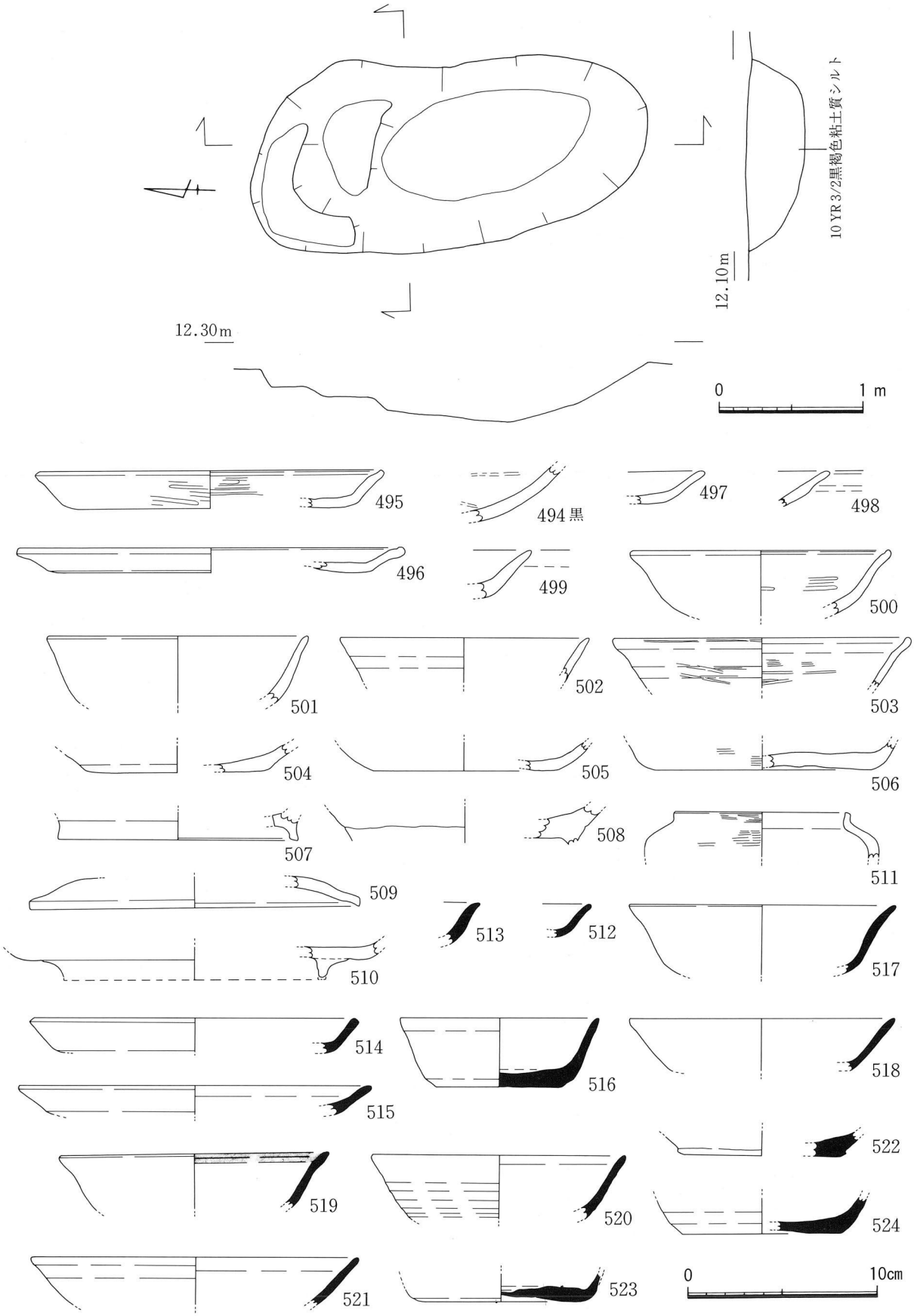


Fig. 70　SK 21遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

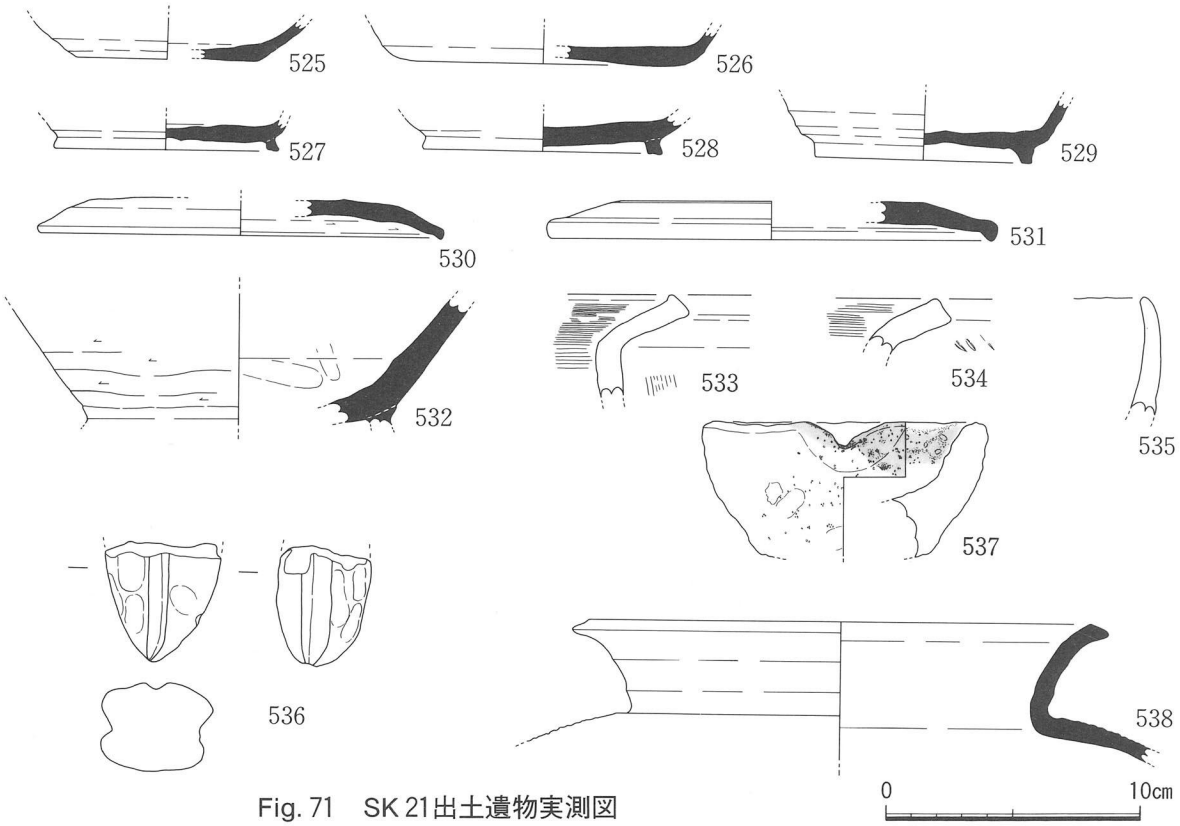


Fig. 71　SK 21出土遺物実測図

SK 18（Fig. 67）

H本区東部で検出した1.82×1.36ｍの楕円形の土坑で、SD 29、SD 30に切られる。基本層準との関係は確認できなかったが、検出は近隣の遺構より遅れ、Ⅴ層下の遺構であったと思われる。鞴羽口先片１片も出土した。

SK 20（Fig. 68・69）

H本区東部南壁際で一部を検出した。検出部分は2.08×1.86ｍで、楕円形の一部のような形状を呈する。南壁側西寄りに炭化物と焼土層の広がりがあり、遺物のほとんどはその上から出土した。大小の石には被熱したり、打割されたものがあり、砥石も含まれる。鞴羽口先小片も１片出土した。断面では東西両側が落ち込むが、平面で確認することができなかった。また、全埋土を除去すると数cm～数十cmの川原石が一面に広がっていた。この様な状態は本遺構周辺で特異なものであるが、礫面は遺構外へ続き、ST 9 直下ではやや似た様相も見られたので、基盤層の局所的な状態の一つと考えられる。

SK 21（Fig. 70・71）

北拡張区東部で検出した1.38×2.83ｍの楕円形の土坑で、主軸方向は大型建物群とは異なる。西側で方形ピットを切っていると思われる。北側に浅い段を有し、横断面は平らな舟底形を呈する。被熱痕等は見られなかった。

SK 22（Fig. 72・73・74）

北拡張区東部で検出した遺構で、SB 18に切られる。また、南部でもう１基の方形大型ピットと

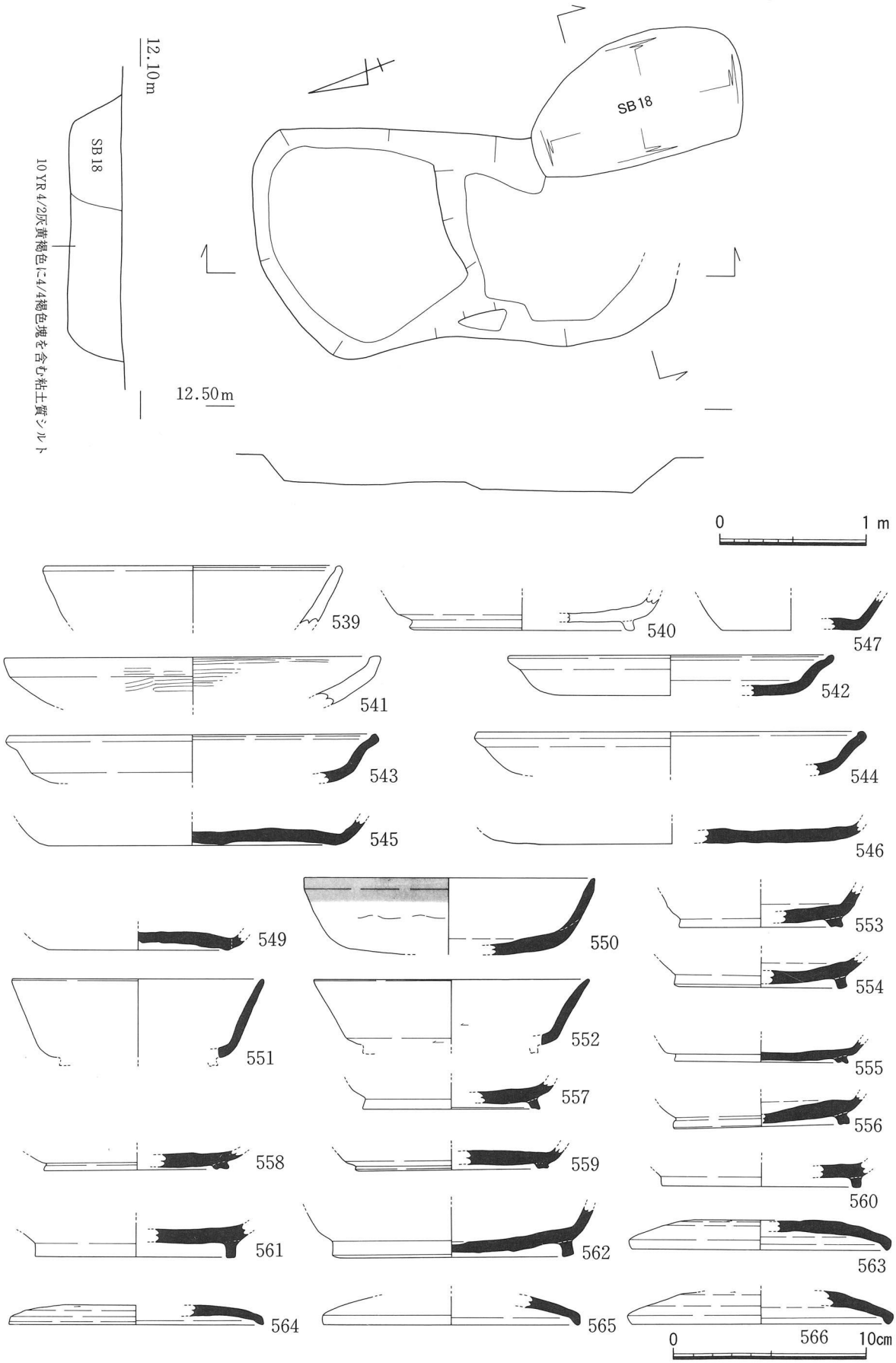


Fig. 72　SK 22遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

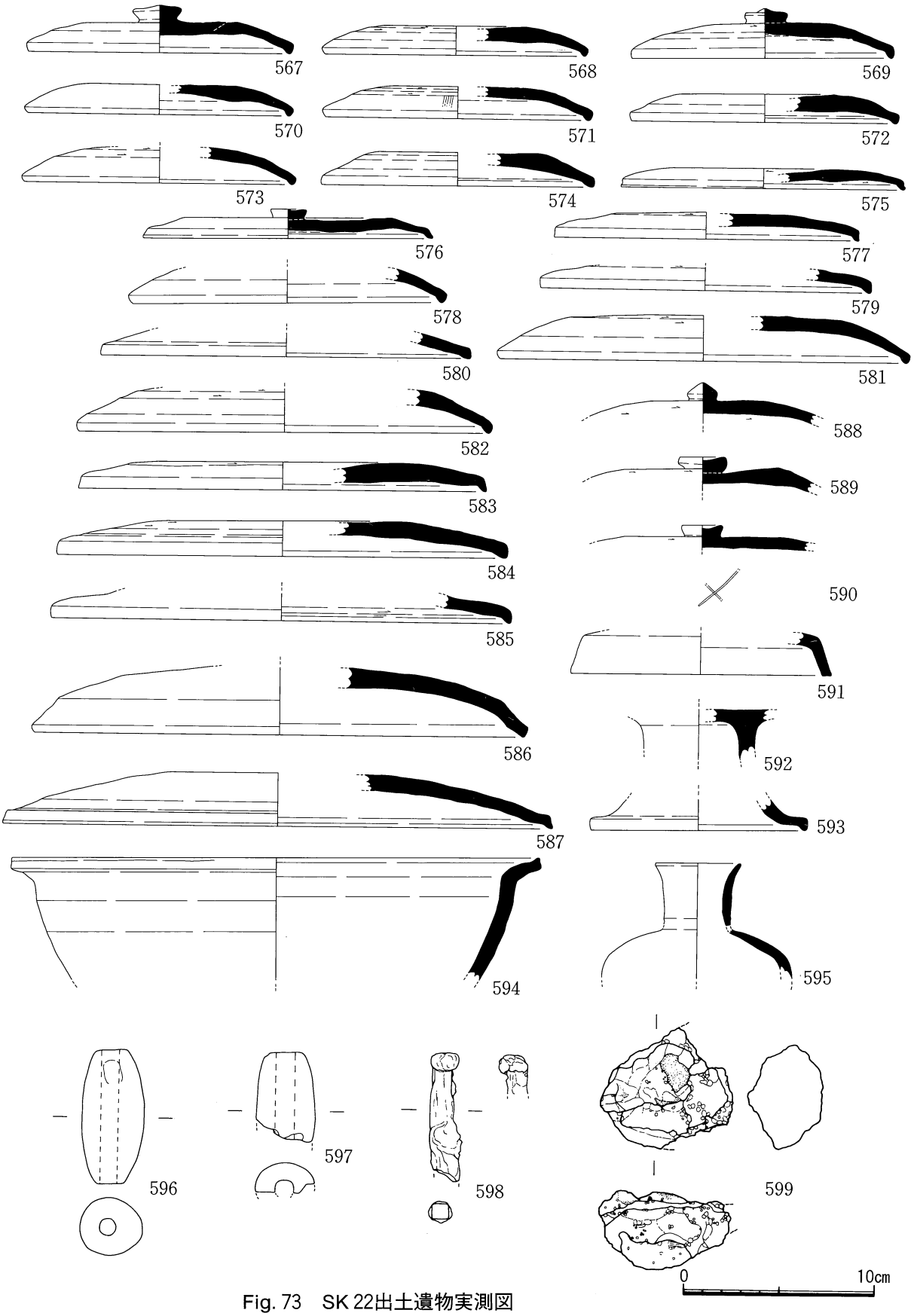


Fig. 73　SK 22出土遺物実測図

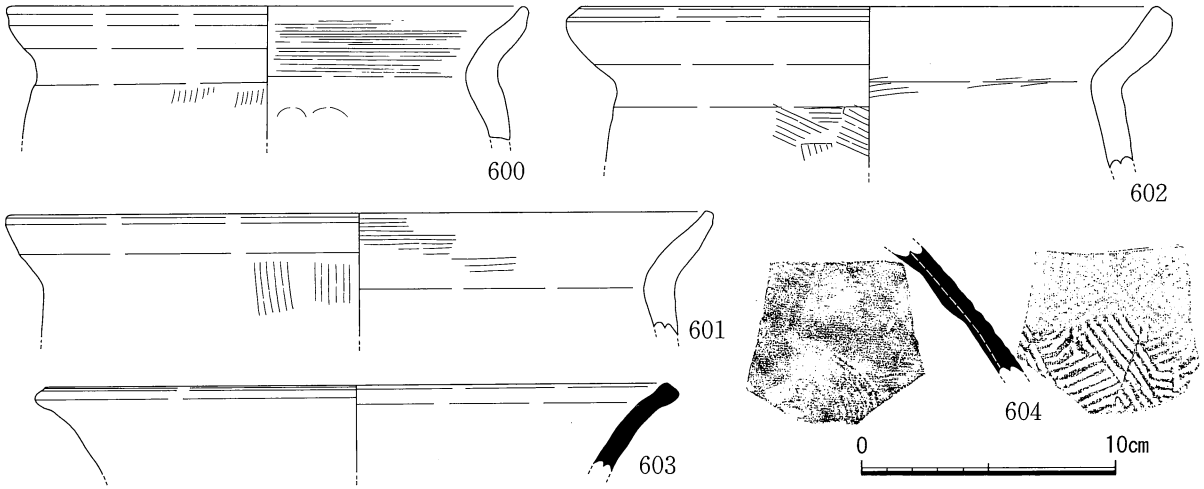


Fig. 74　SK 22出土遺物実測図

切合いを持つものと考えたが、これについては遺構掘削後に判断したものである。このように全容については不明確な要素が残るが、1.6×2.9mの長方形の土坑として扱う。主軸方向は大型建物群と同様である。

SK 27（Fig. 75）

北拡張区東部で検出し、0.96×2.1mを測る。形状より2遺構が切り合っている可能性もあるが、下層出土の遺物は少なく、また上層と下層で接合した遺物がある。上層に土師器片が多かった。搬入の黒色土器A類杯の破片が出土している。

SK 28（Fig. 76・77）

北拡張区北壁際で全容は不明であるが、楕円又は隅丸方形の一部のような2.06×0.6m分を検出した。基本層準Ⅳ-1、Ⅳ-2層を切る。下半には製塩土器を主とする土器が詰まり、上層の特に下半には焼土塊を多く含む。しかし、床面の被熱や出土供膳具の二次被熱は確認できない。出土遺物では製塩土器の総重量が8.75kgに達すること、土師器供膳具と須恵器貯蔵具本体が確認できないことが特異である。

SK 29（Fig. 78）

南拡張区、SB 20内の南端で検出し、1.48×2.46mの長方形を呈する。深さは浅く、床面は平坦である。床面中央南西寄りに炭化物層が検出され、隣接して半完形の須恵器壺蓋（672）が出土した。炭化物層からは骨片も検出されている。搬入の黒色土器A類杯口縁部（665）が出土している。

SK 30（Fig. 79・80・81・82・83）

中央部の南拡張区で検出され、0.93×3.40mの長方形を呈す。SB 11の柱穴を破壊していると見られる。両端の段部を除くと0.79×2.93mとなり、遺物は主にこの中の埋土中より出土した。完形を含む残存率の高い土器が面的に出土しており、一括廃棄性の高さが窺える。出土した大小の砂岩やチャートの川原石には、被熱や打割されたものがある。なお、本遺構出土遺物においては細片の比率が比較的であるが明らかに少なく、遺物実測図には原則的に残存度の良好な一括性の高い遺物を掲げた。

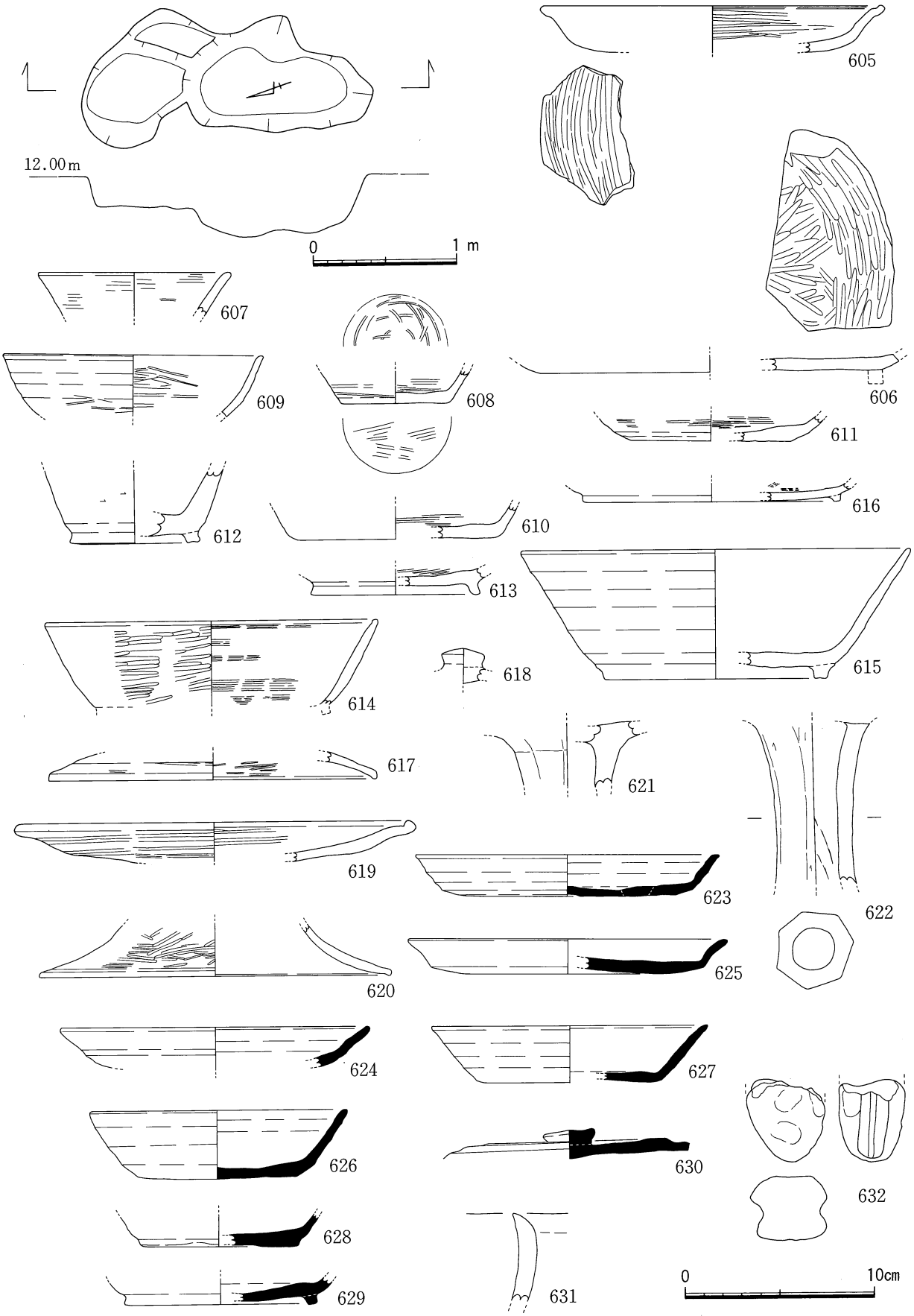


Fig. 75　SK 27遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

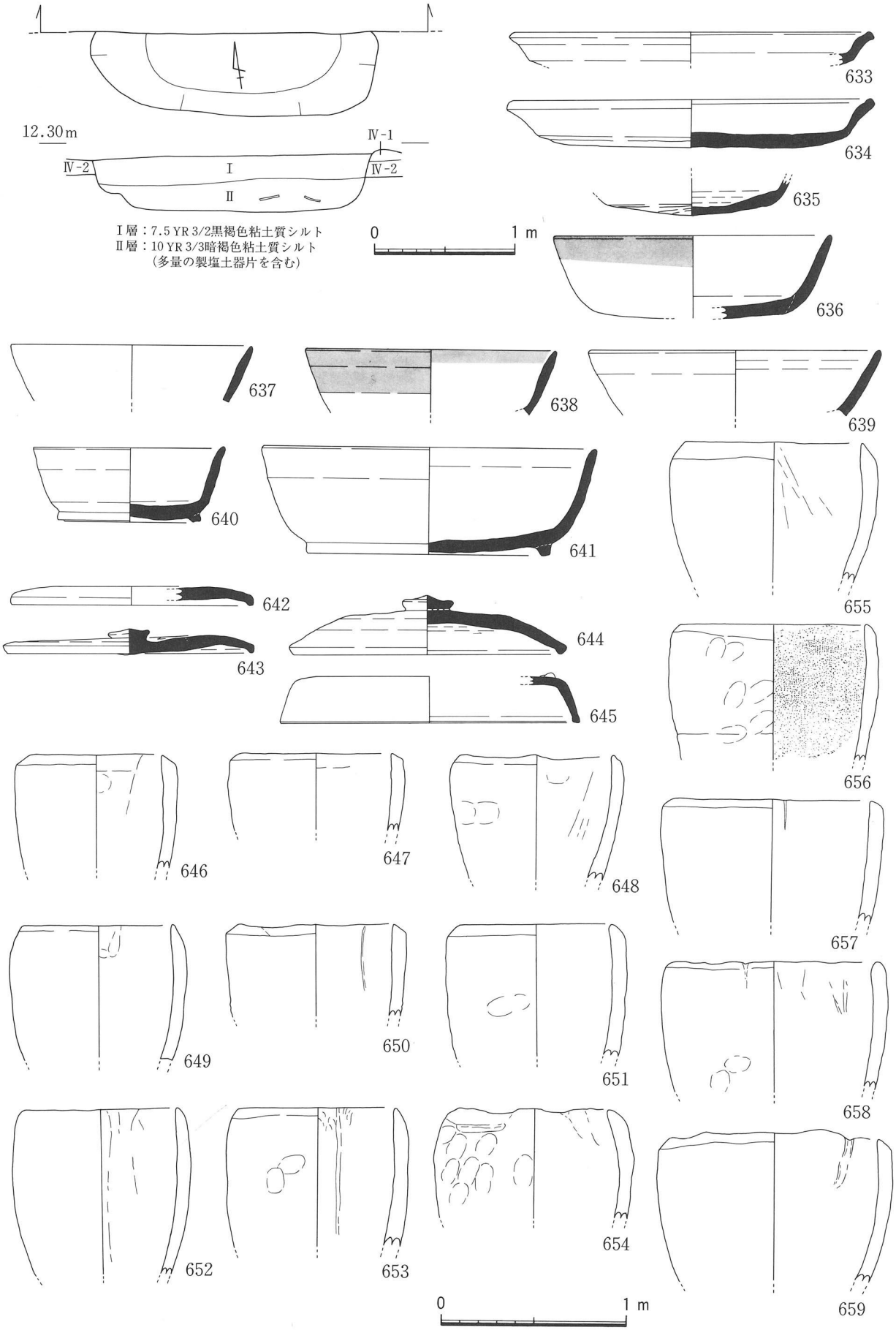


Fig. 76　SK 28遺構平面・セクション図及び出土遺物実測図

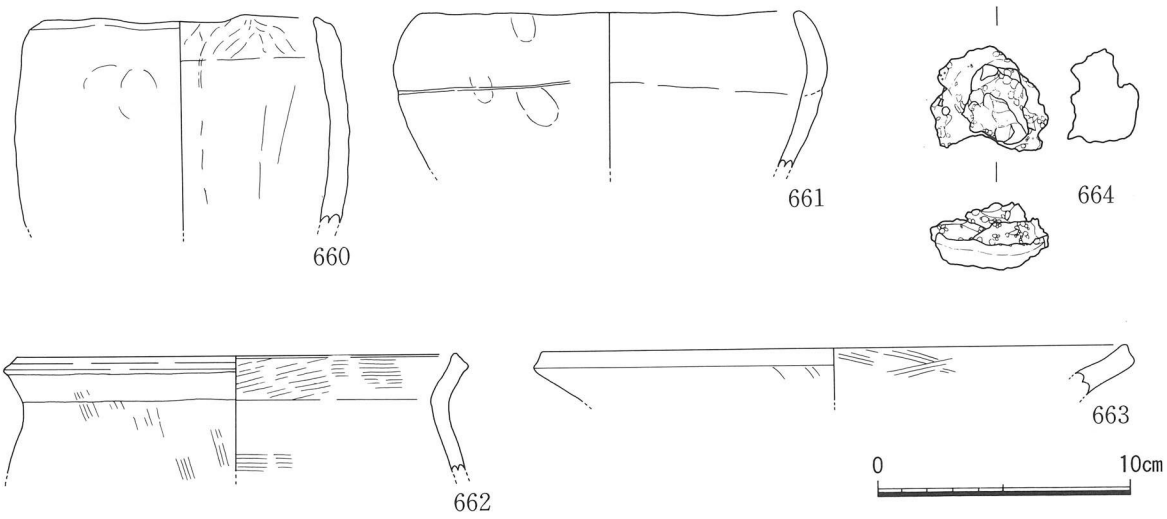


Fig. 77　SK 28出土遺物実測図

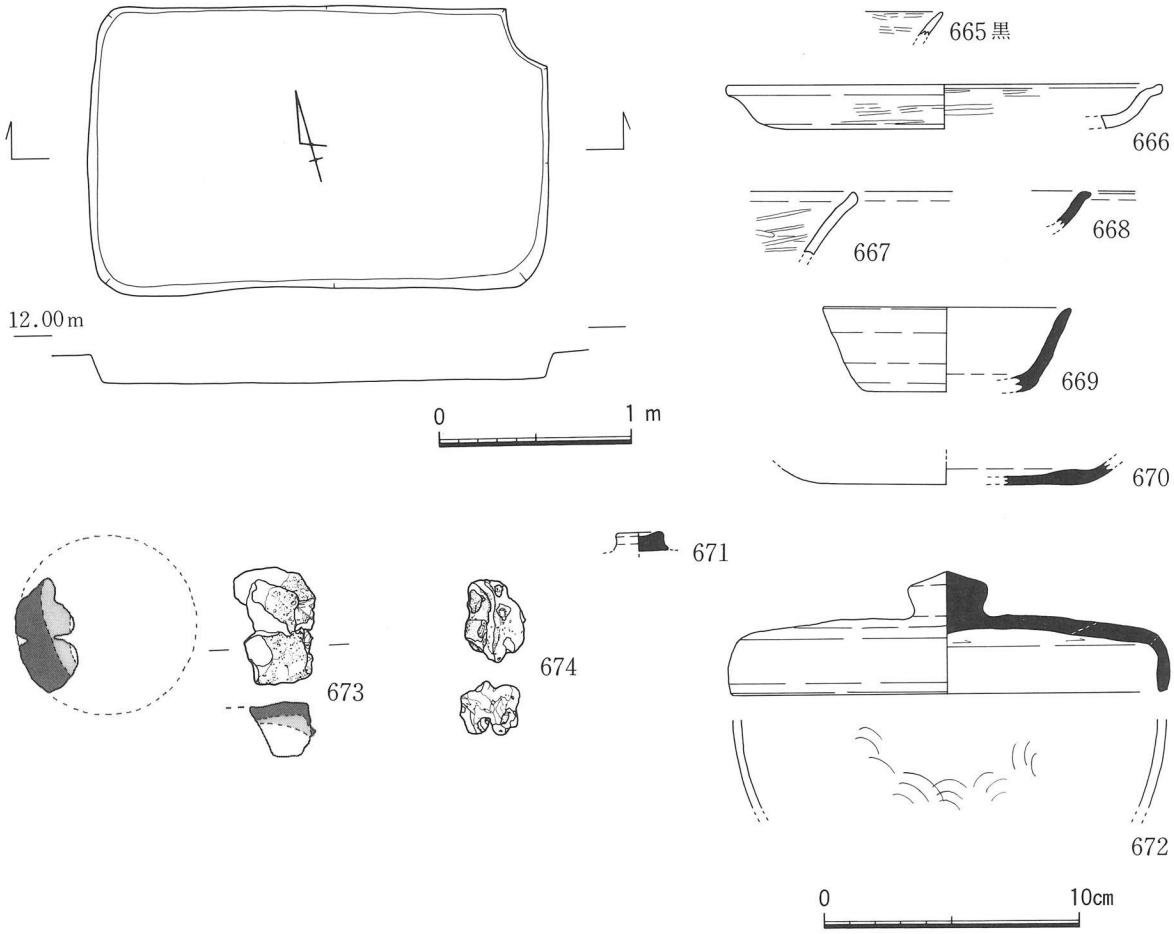


Fig. 78　SK 29遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

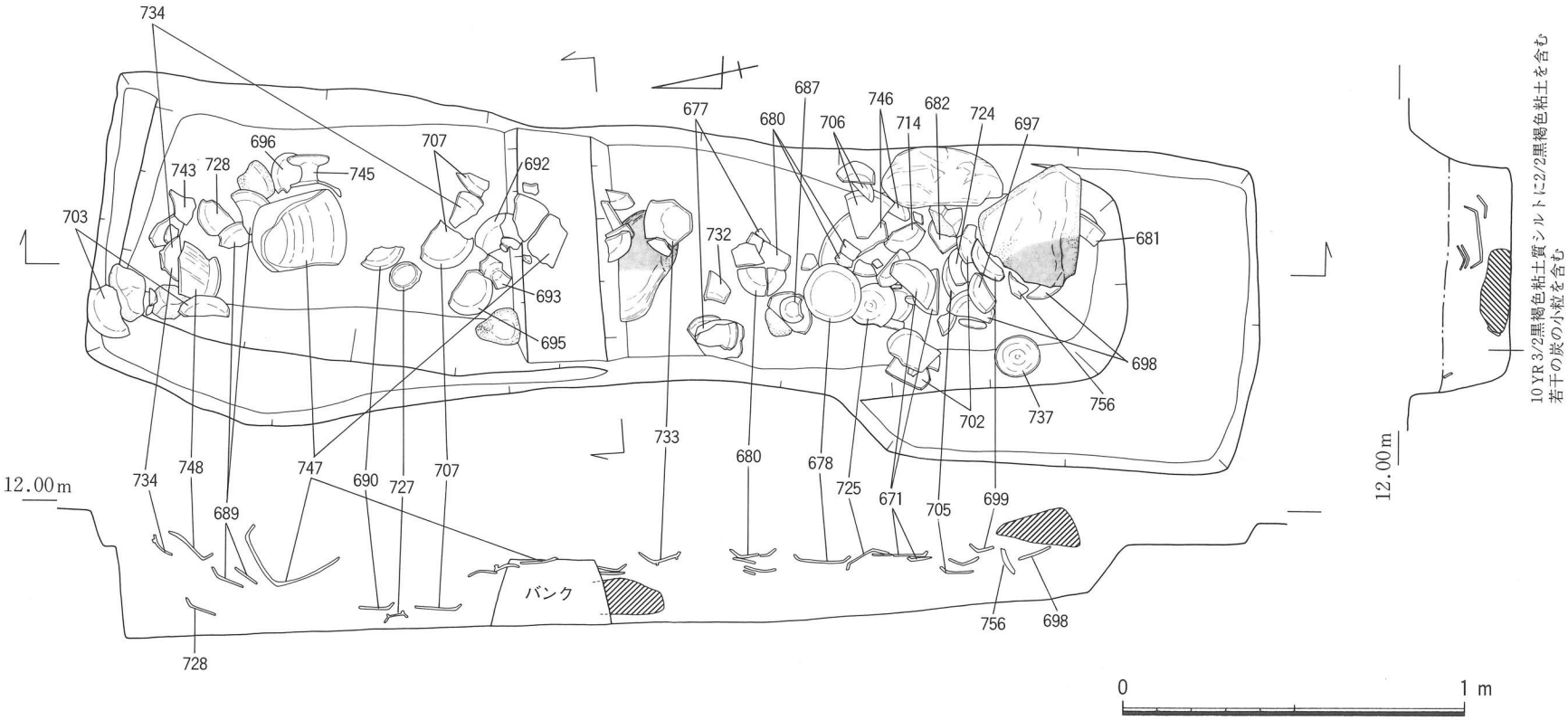


Fig. 79　SK 30遺物出土状況・セクション・エレベーション図

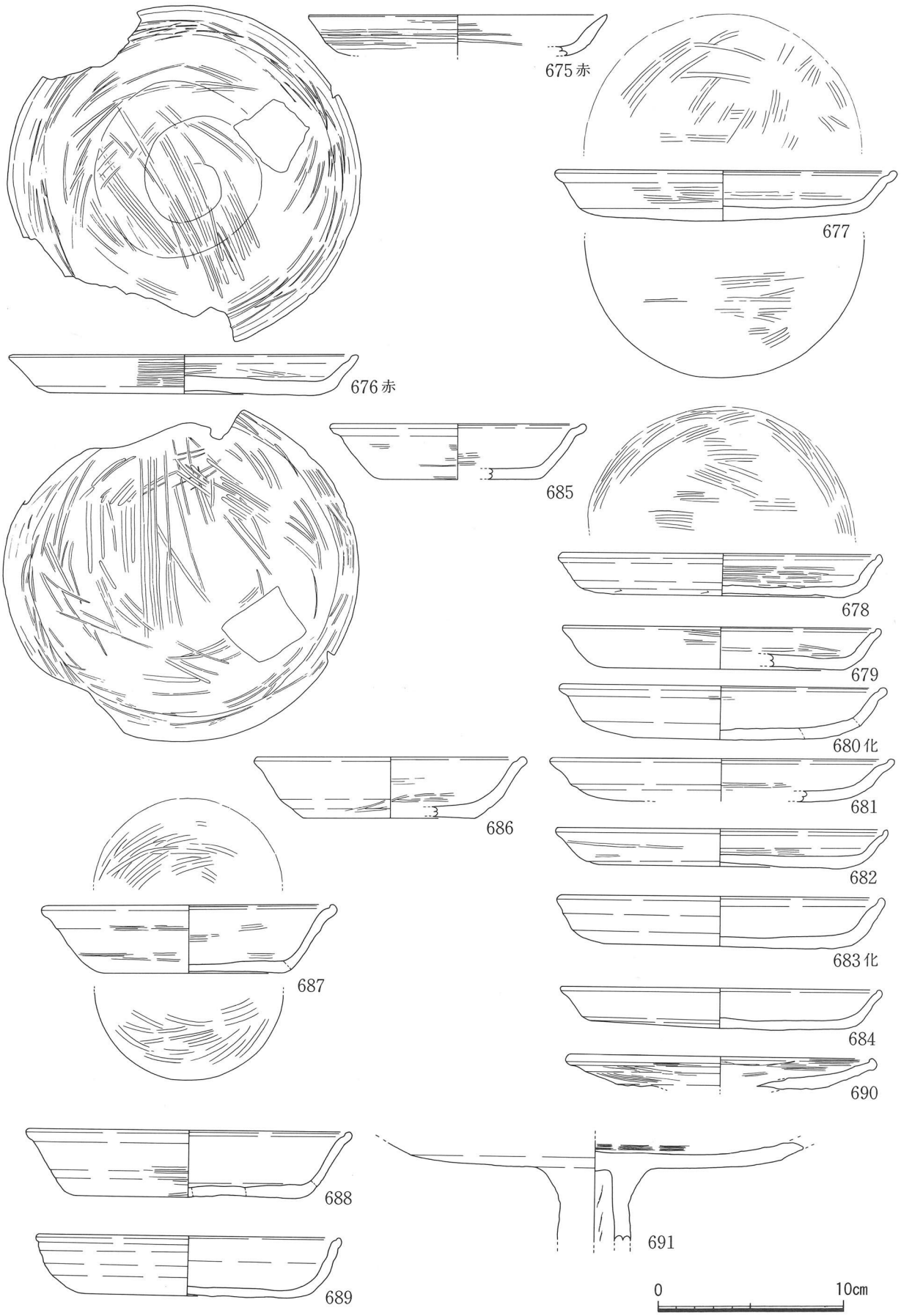


Fig. 80　SK 30出土遺物実測図

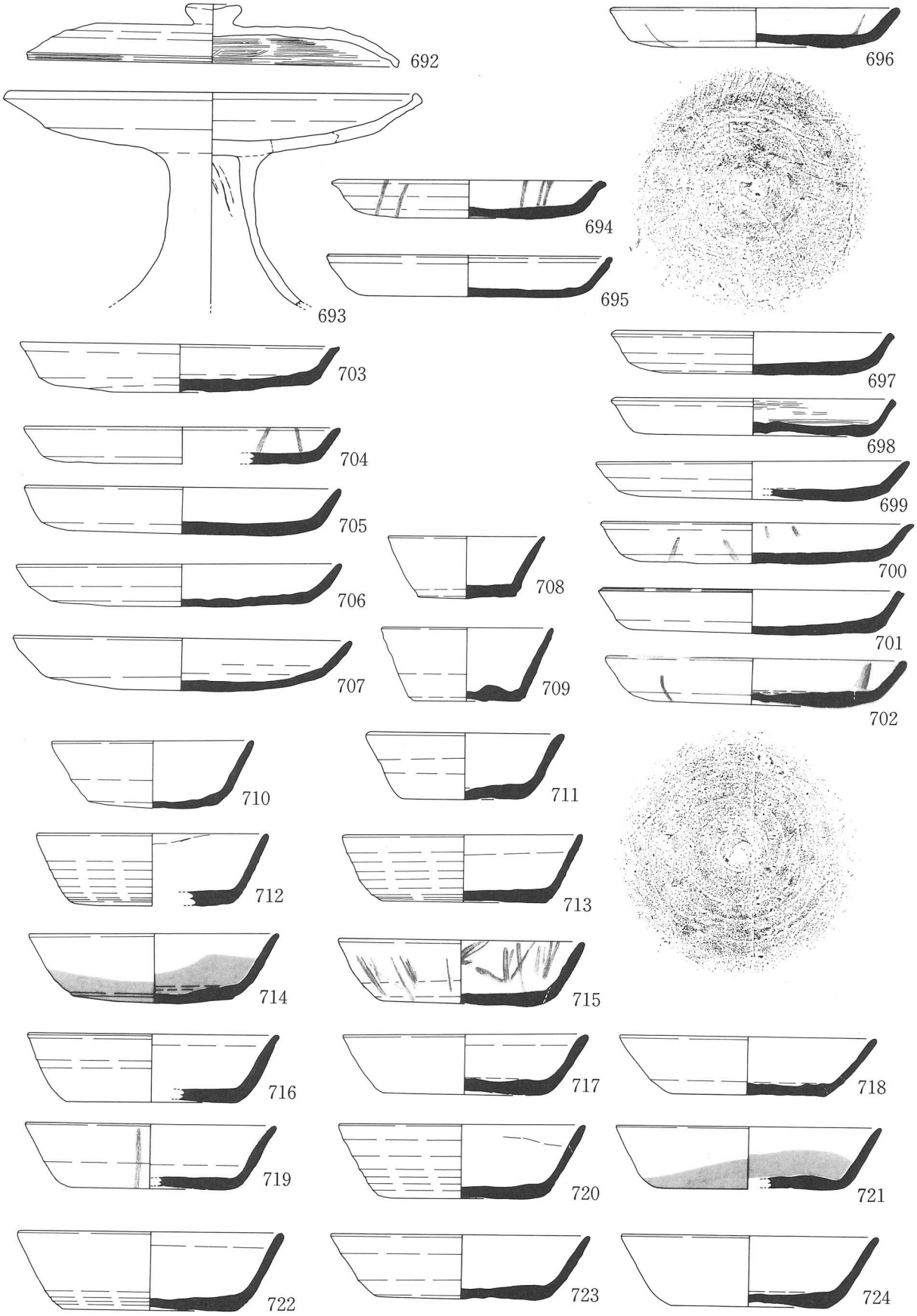


Fig. 81　SK 30出土遺物実測図

0　10cm

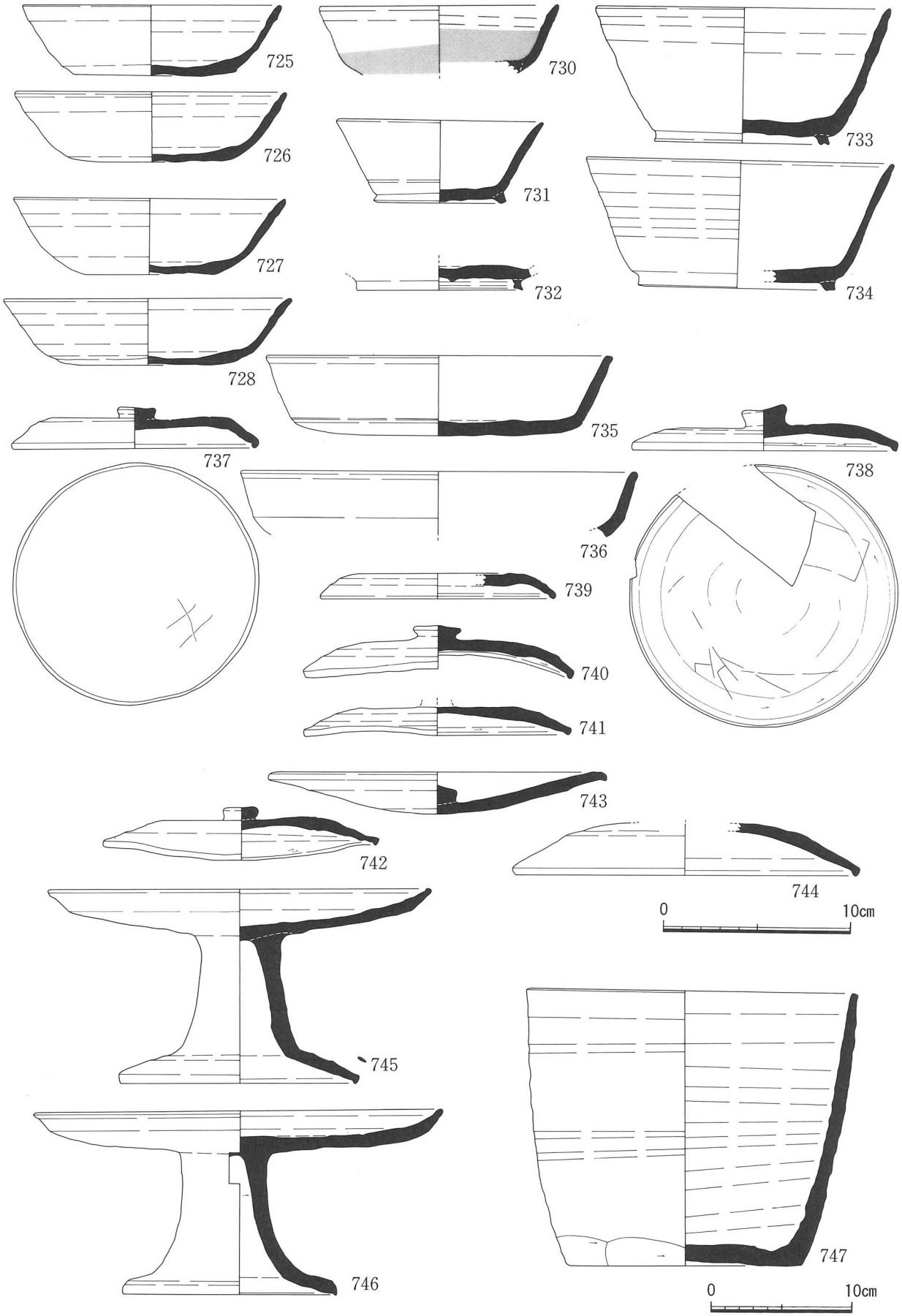


Fig. 82　SK 30出土遺物実測図(747は縮尺1/4)

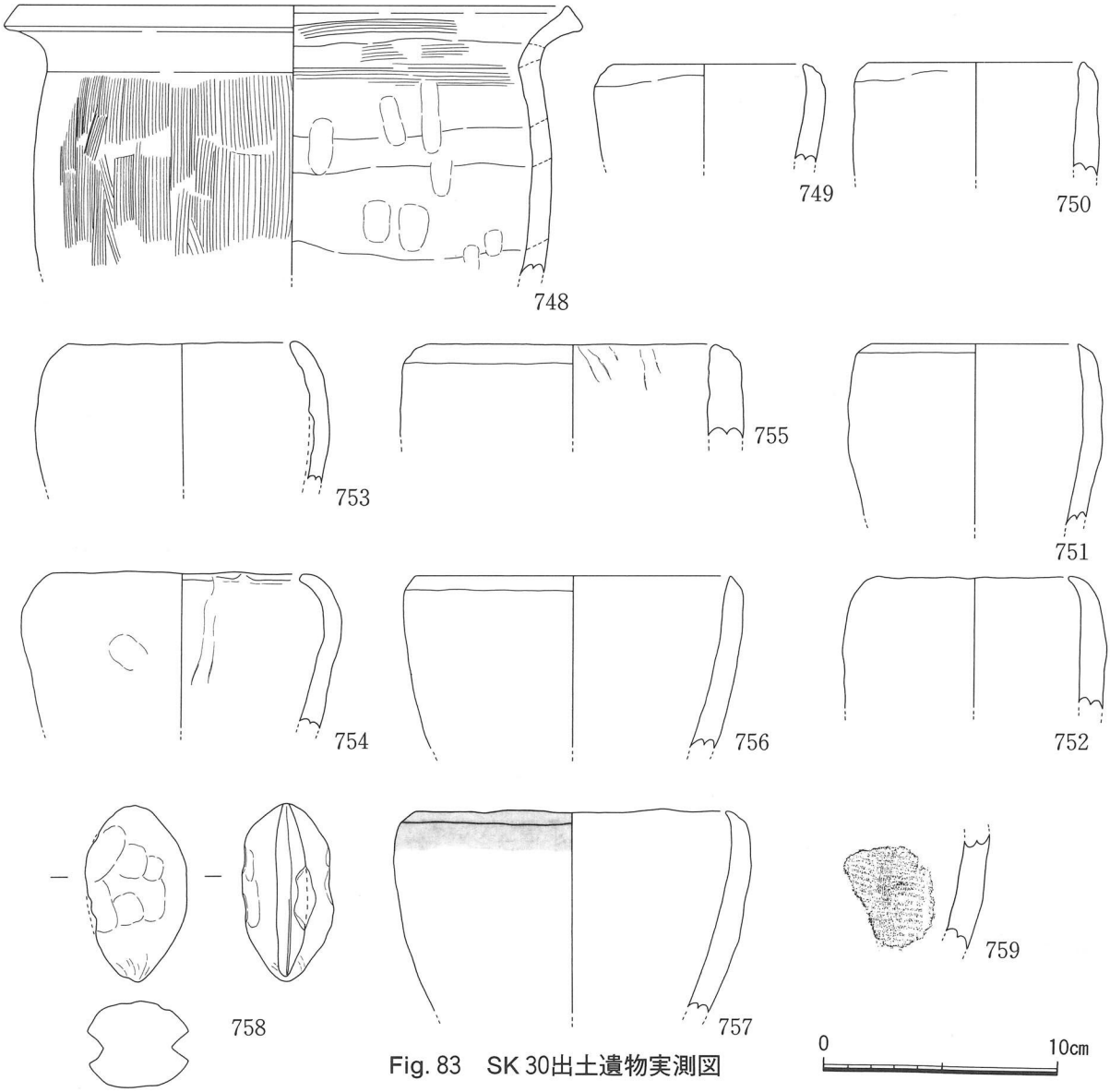


Fig. 83　SK 30出土遺物実測図

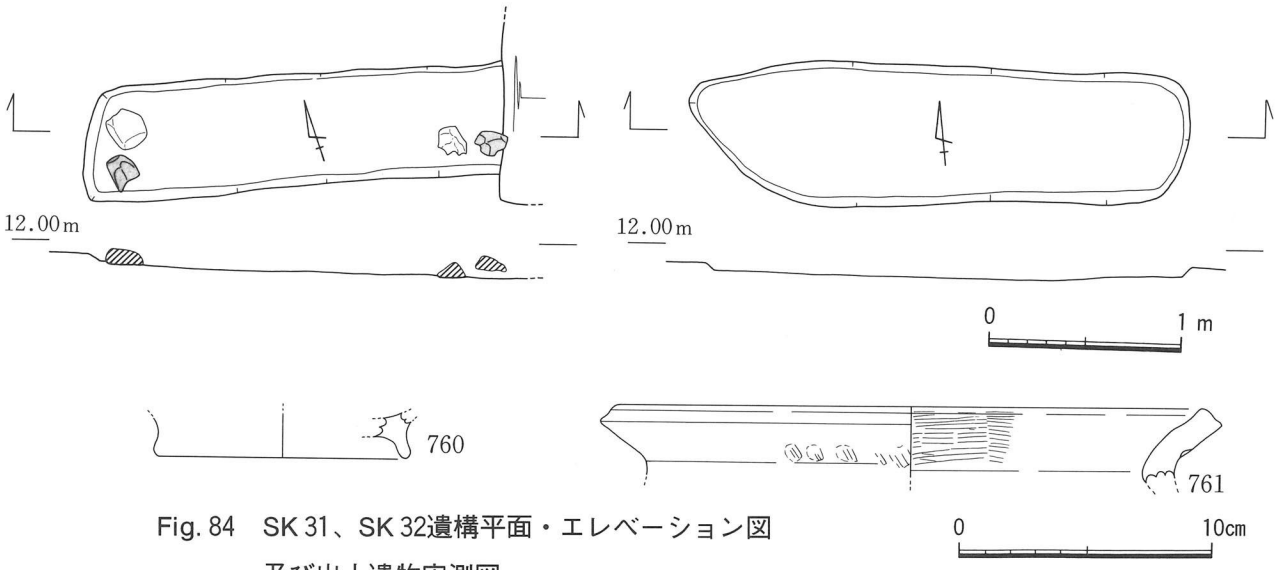


Fig. 84　SK 31、SK 32遺構平面・エレベーション図
及び出土遺物実測図

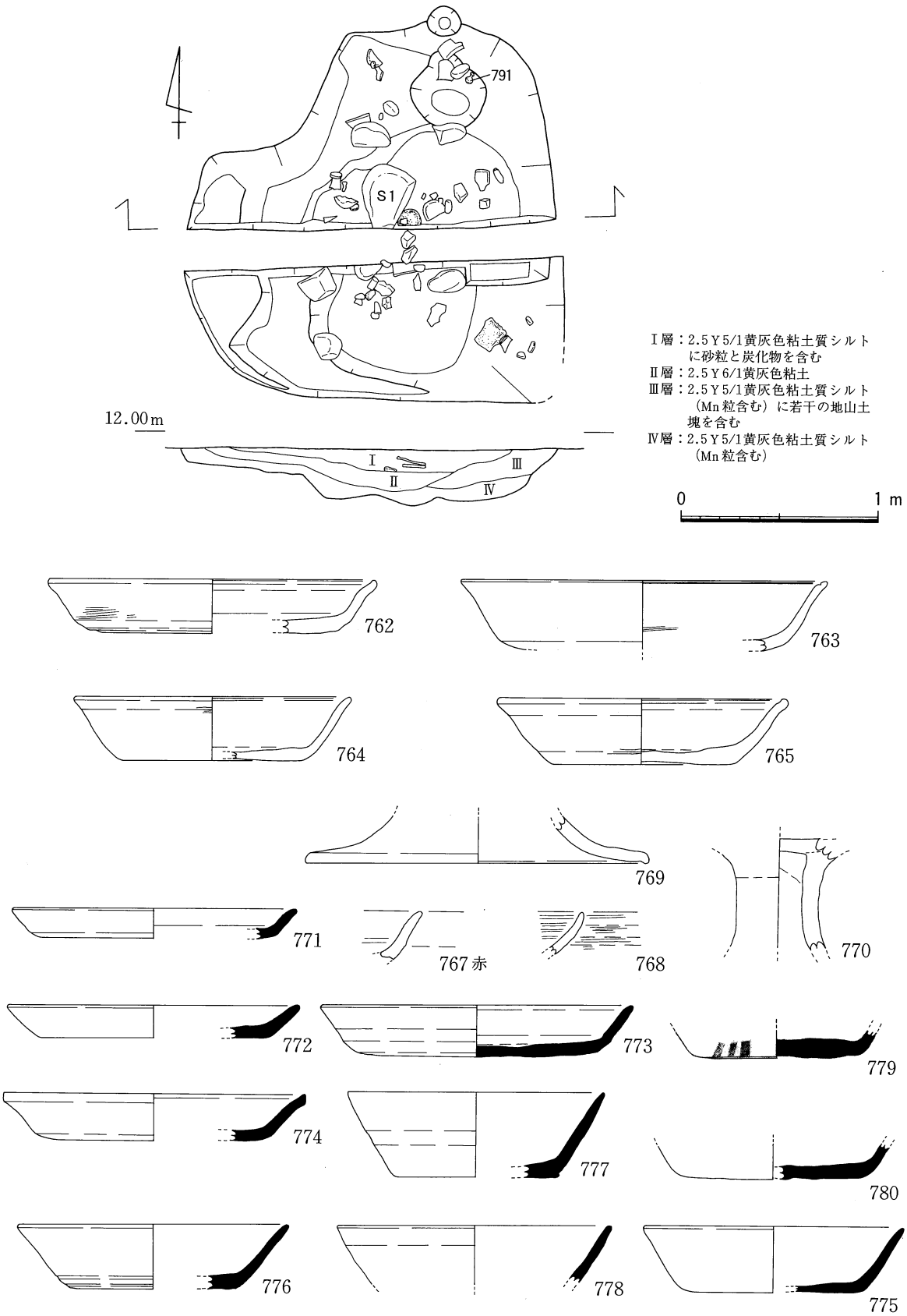


Fig. 85　SK 33遺物出土状況・セクション図及び出土遺物実測図

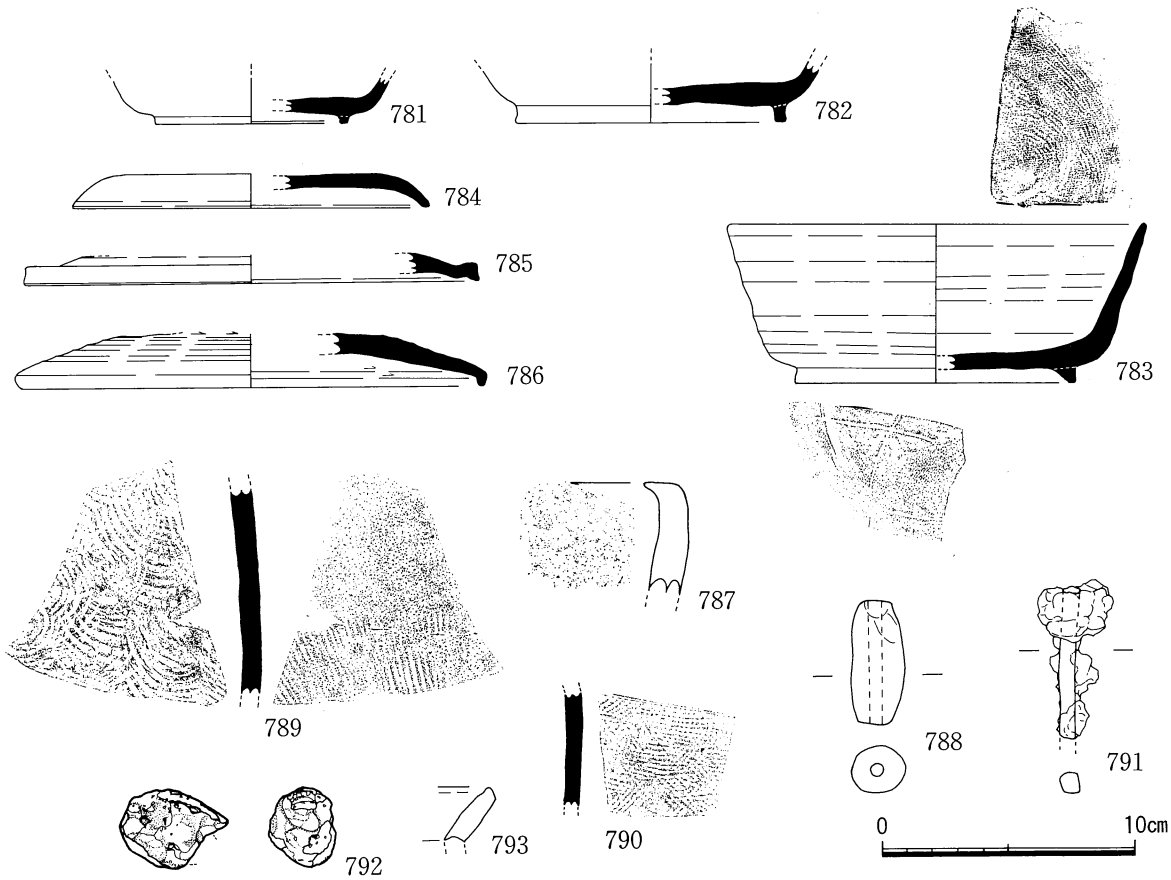


Fig. 86　SK 33出土遺物実測図（789・790・793は縮尺1/4）

SK 31、SK 32（Fig. 84）

南拡張区中央、SB 19南側で検出し、埋土は7.5 YR 4/2粘土質シルトである。両遺構とも同じ埋土で互いの延長上にあり、溝の底部である可能性もあるが、土坑として扱う。SK 31は東部を撹乱によって破壊されており、長さ2.22mを検出した。出土した石には被熱赤変・打割されたものがある。両土坑の方位は大型建物群に同調しているが、上記の埋土はSB 19などとはやや異なる。

SK 33（Fig. 85・86）

H本区中央東寄りで検出した1.90×1.90mを測る遺構である。検出時に埋土が他の遺構と異なり、SK 34と同様、早期に比較的容易に検出できた。またSB 9をはじめ重複する遺構を全て切ることから、基本層準Ⅳ-1層を切っていた可能性が高い。本遺構の埋土色は2.5 Y 5/1付近を示し、当調査区の遺構埋土としては例外的である。出土遺物には土器の他、3点の小鉄製品と小型の鉄滓、打割されたものを含む川原石等がある。S 1は砂岩で平坦な下面が被熱している。

SK 34（87・88・89・90）

H本区中央東寄りで検出した1.02×2.32mを測る遺構で、北拡張区に属する北端部はH本区側調査終了後に調査、完掘したが、段を持つ構造となった。近隣の遺構とはやや埋土が異なり、検出が比較的容易であった点はSK 33に似るが、その埋土は同じではない。SB 9をはじめ重複する全ての遺構を切り、H本区北壁断面でⅣ-1層を切っていることが確認できる。上層で礫群を挟んで南側

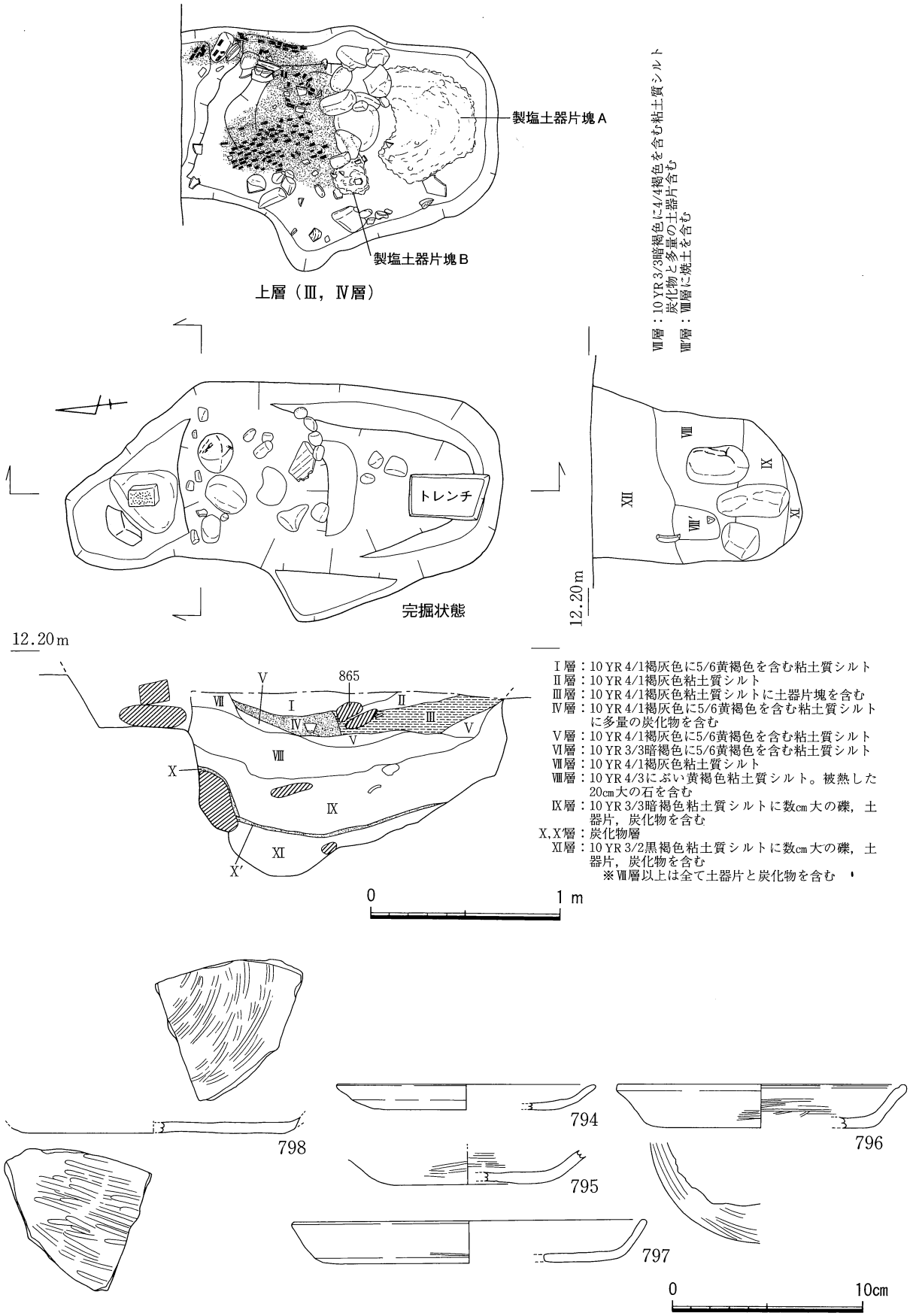


Fig. 87　SK 34遺構平面・セクション図及び出土遺物実測図

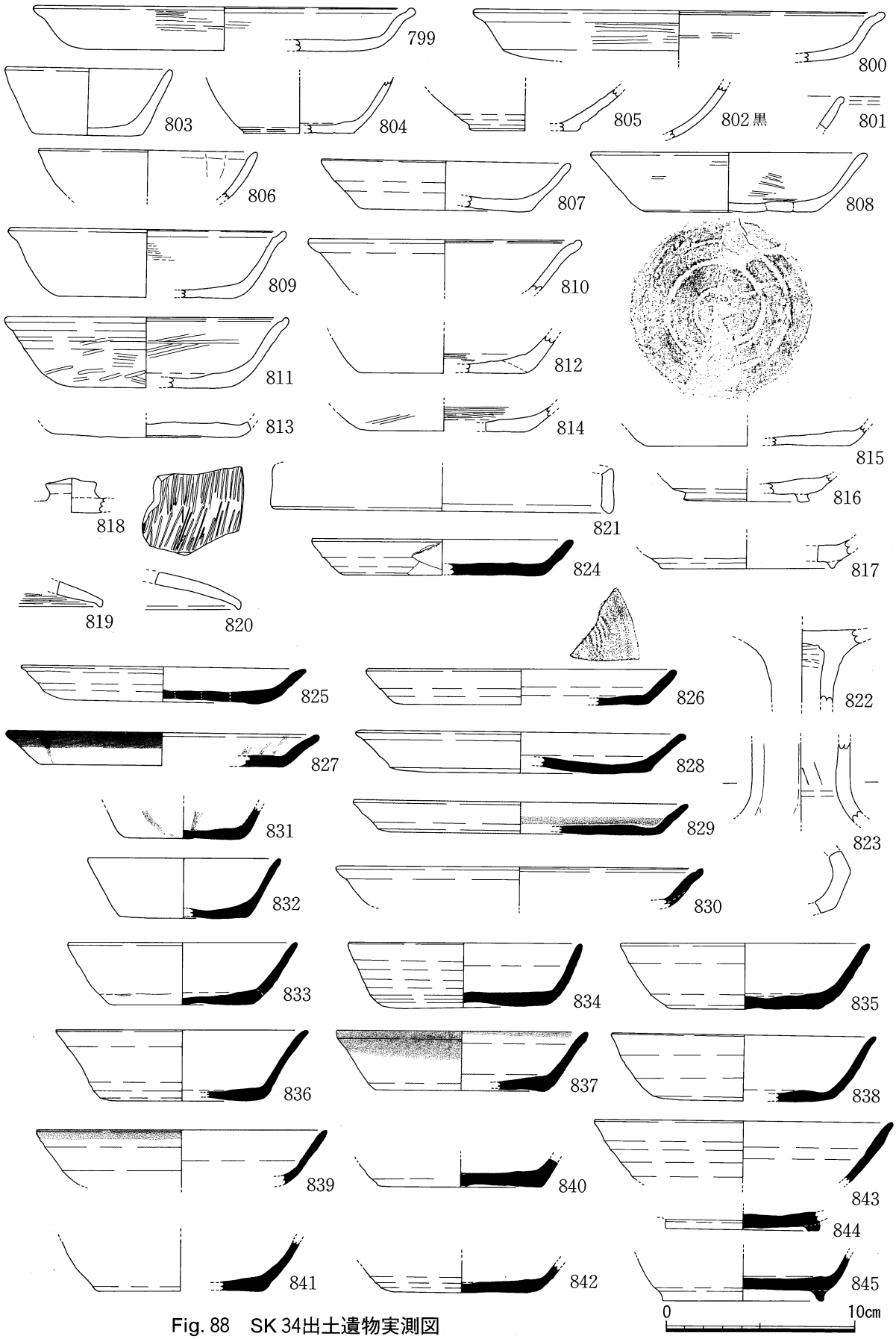


Fig. 88　SK 34出土遺物実測図

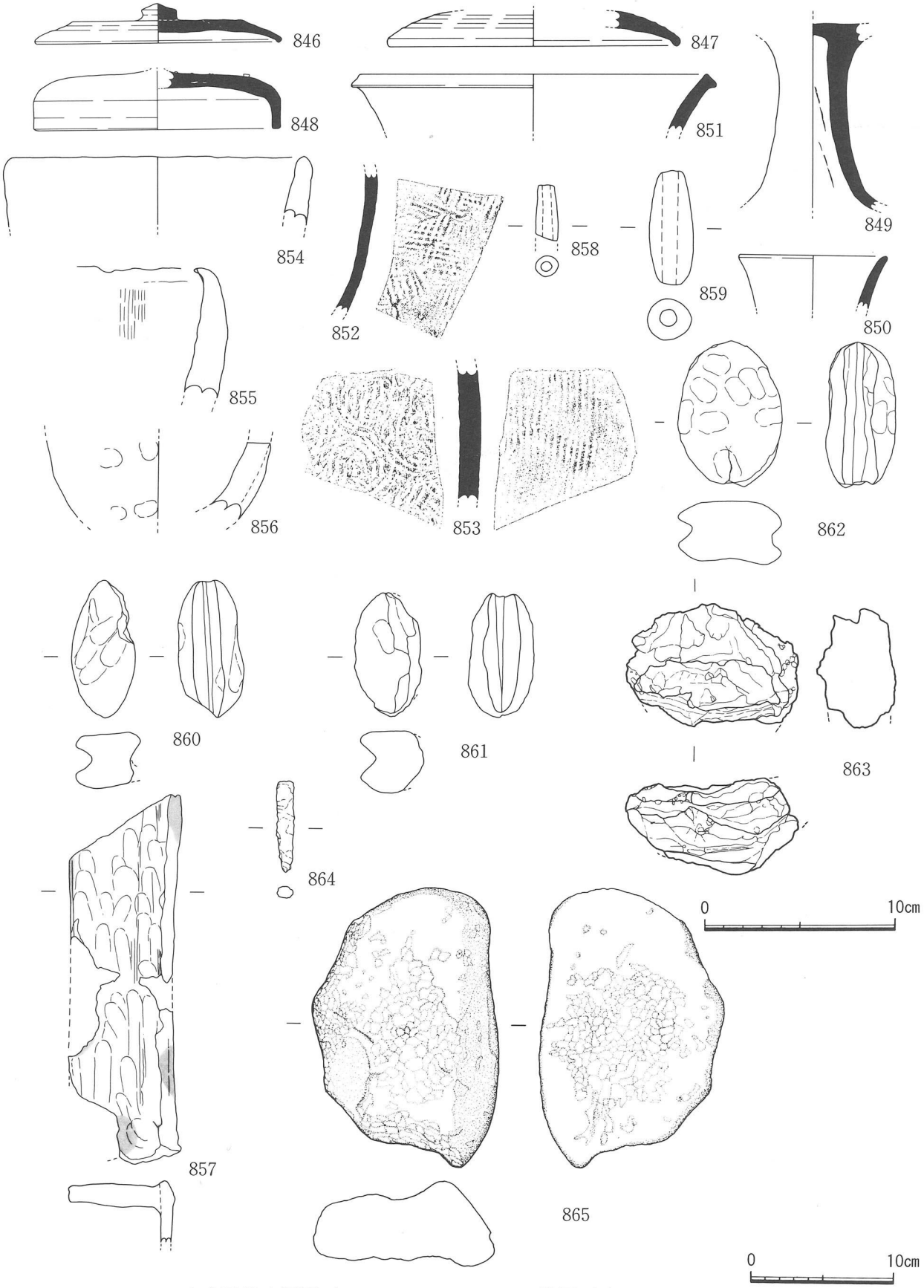


Fig. 89　SK 34出土遺物実測図（852・853・857・865は縮尺1/4）

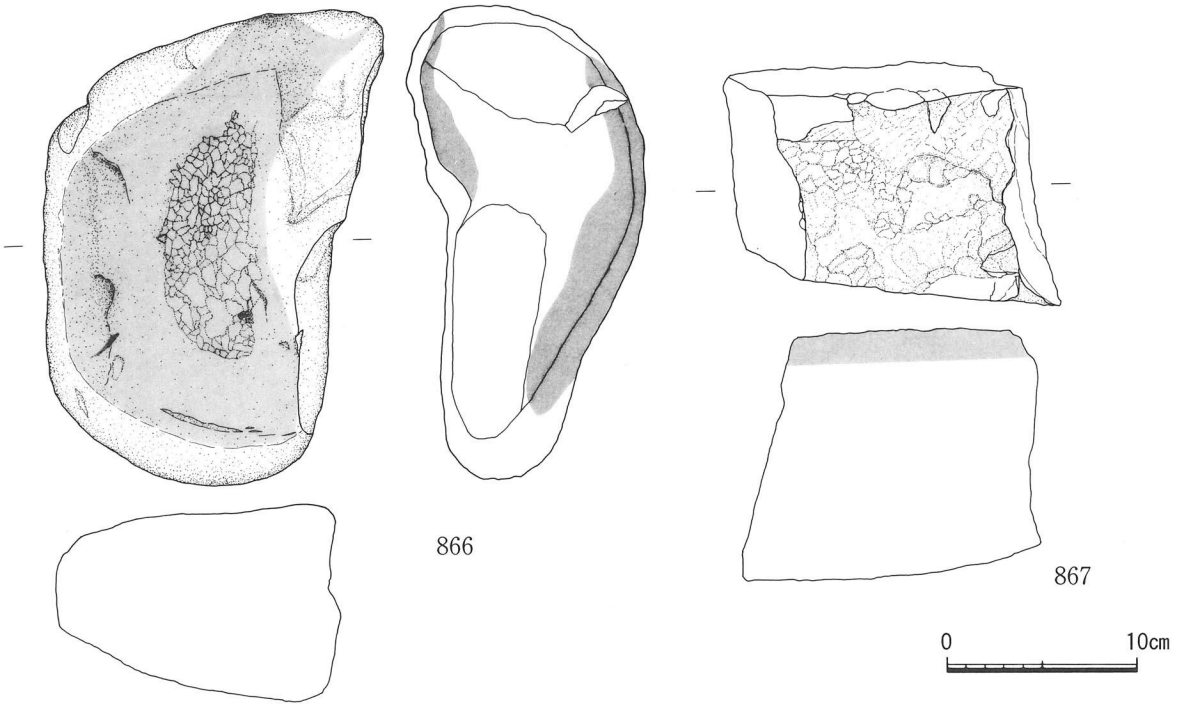


Fig. 90　SK 34出土遺物実測図

に製塩土器片塊、北側に炭化物が検出され、セクションでは各々Ⅲ層、Ⅳ層に相当する。層位別の出土製塩土器量はⅠ層72ｇ、Ⅱ層32ｇ、Ⅲ層5,123ｇ（A群3,603ｇ、B群70ｇ、その他1,450ｇ）、Ⅳ層10ｇ（1片）、Ⅴ層360ｇ、Ⅵ層32ｇ、Ⅶ層38ｇ（3片）、Ⅸ層250ｇ、Ⅹ層23ｇ（2片）、Ⅺ層840ｇ、層位不明だが上層1,710ｇ、下層1,000ｇ、計9,490ｇである。Ⅷ層以下は埋土層も厚く、一部被熱した大きな川原石が壁面に位置する。Ⅹ・Ⅹ′層の炭層は、薄いが全面に広がる。鉄滓は863の他に小片がそれぞれ製塩土器片塊A群、Ⅹ層、下層より少量出土している。またⅪ層より若干の小木片が出土している。

⑤　溝

SD 26（Fig. 91・92）

東部で検出した南北方向の溝跡で、北拡張区の検出分を合わせ長さ12ｍを確認した。方位N－20°－W、幅2.75～3.14ｍ、深さ76㎝を測る。基本層準Ⅳ-２層下にあり、SB 17、SA 10、SX 3に切られる。以下は完掘したH本区内の記述であるが、Ⅱ、Ⅱ′層がシルト、Ⅳ層が粘土質シルトに砂利、20㎝大の礫を含み、Ⅴ層が砂礫層である。南壁と北壁でほぼ同様の堆積が観察された。遺物はⅣ層の上層より出土したものが多いが、897、898はⅣ層とⅠ、Ⅱ層のものが接合している。基本層準Ⅳ-２層は本遺構上でやや落ち込み、南部では加熱、打割された石や、若干の炭を含む。また、遺構北部のⅢ層底には西側から落ち込んだように約15～25㎝の石があり、そのうちの約10個は加熱、打割されていた。出土遺物において特徴的なこととしては、製塩土器、土錘がほぼ認められないこと、土師器供膳具が僅少であることが挙げられる。製塩土器は摩耗した細片が５点のみ出土しているが、遺構規模に対する出土量の少なさは本調査区において特異である。また、南部のⅣ層上層より数十片の馬歯片が出土している。崩壊しているが、最長で7.4㎝のエナメル高を測る。

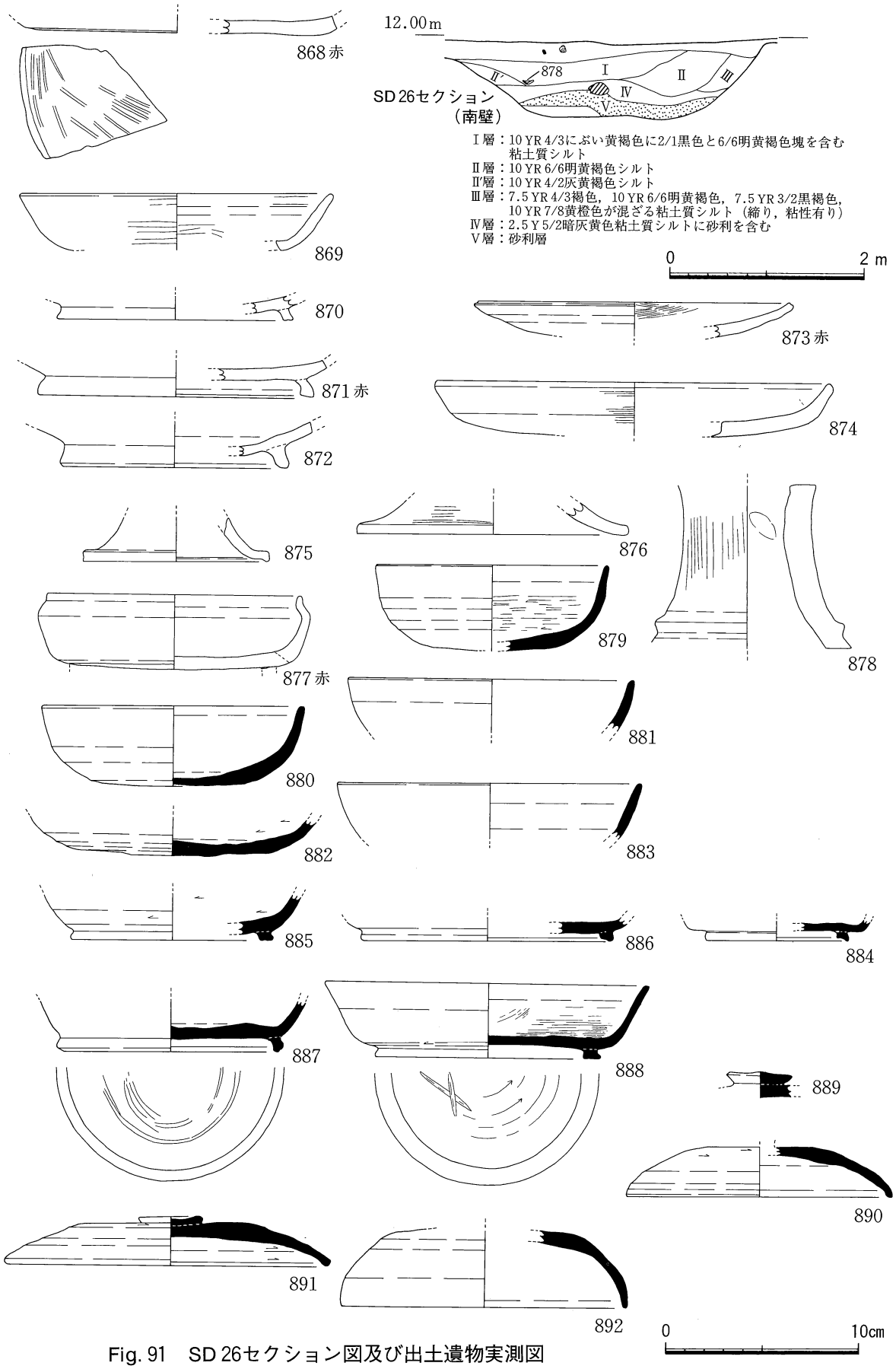


Fig. 91　SD 26セクション図及び出土遺物実測図

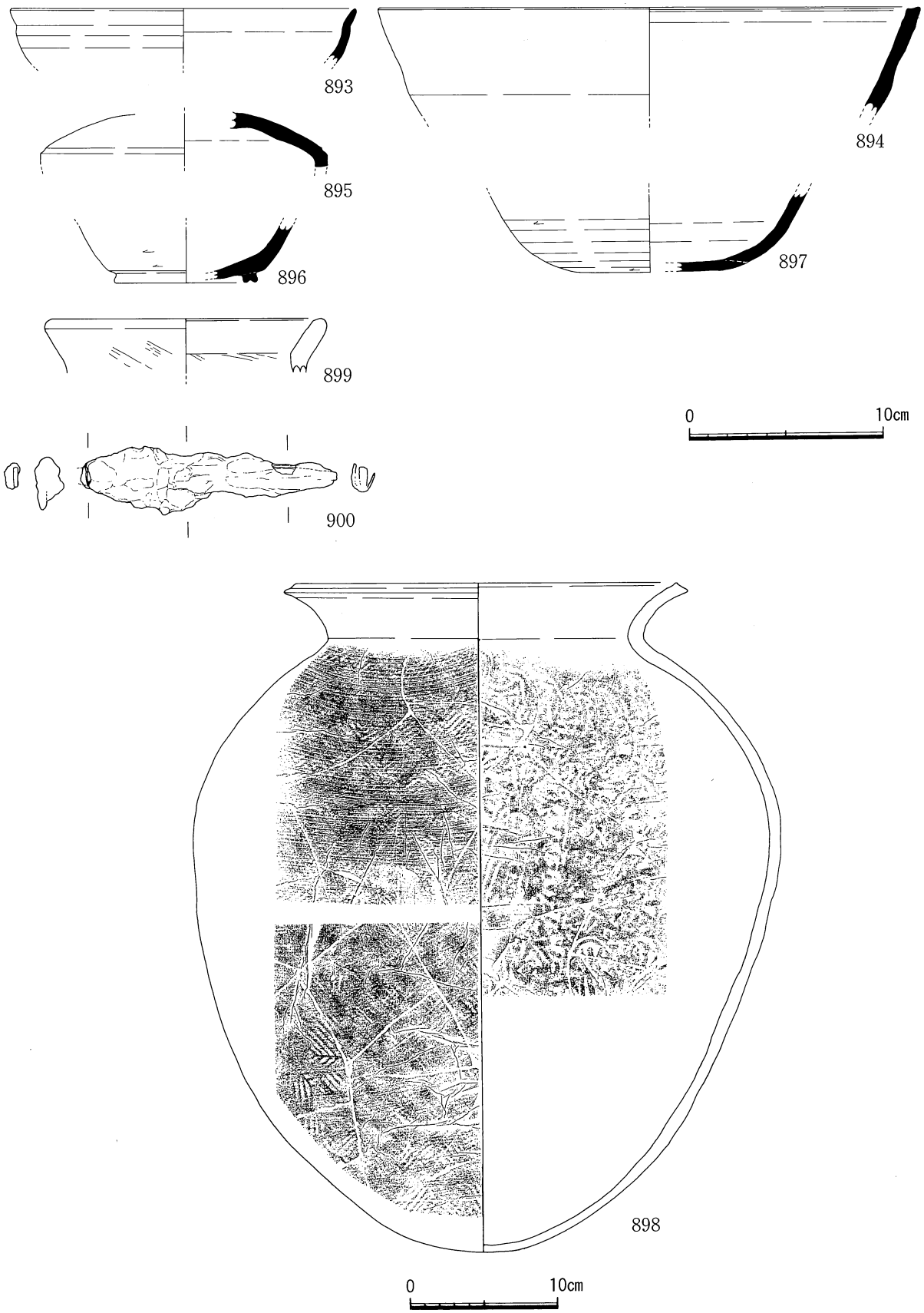


Fig. 92　SD 26出土遺物実測図（898は縮尺1/4）

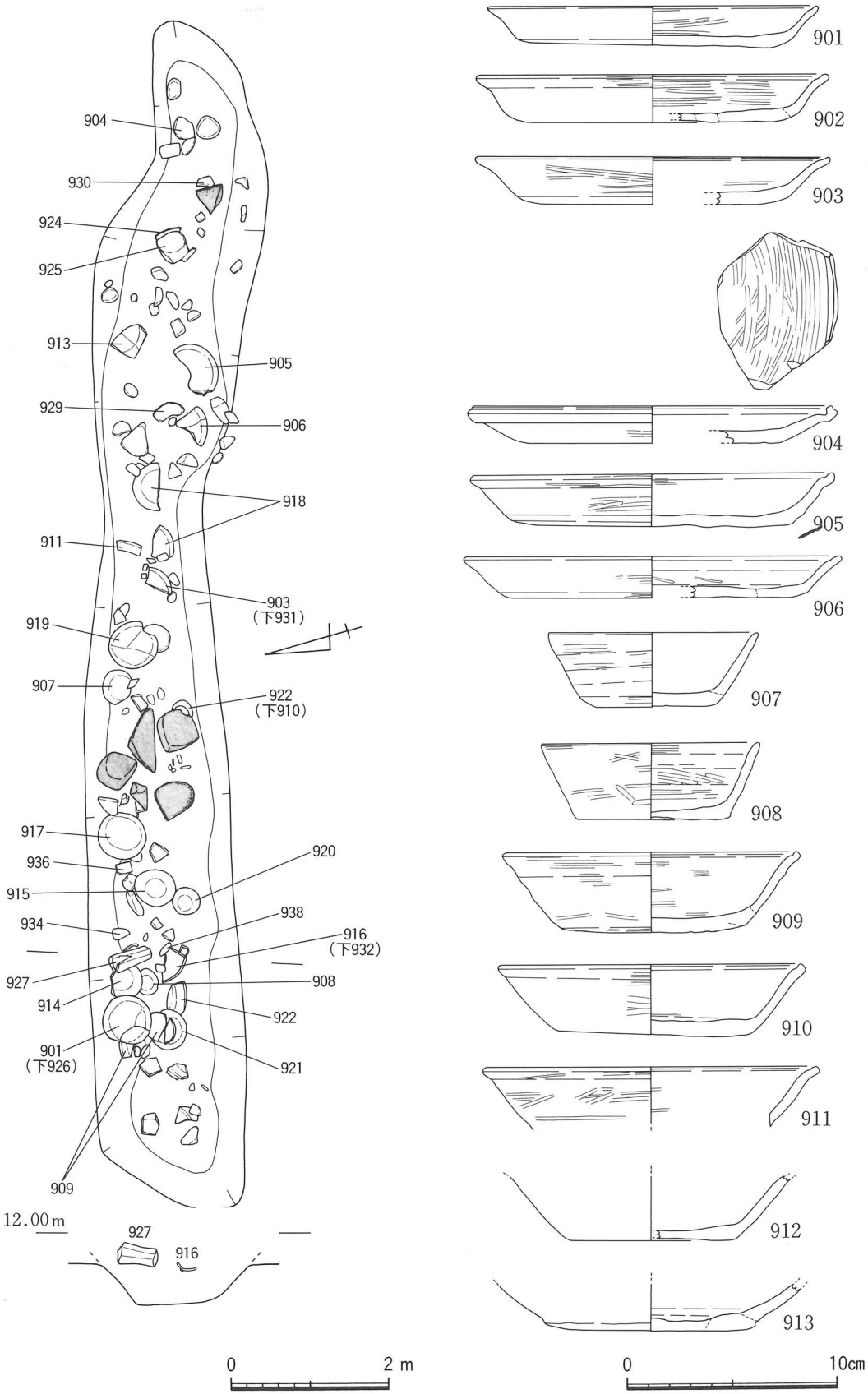


Fig. 93　SD 40遺物出土状況・エレベーション図及び出土遺物実測図

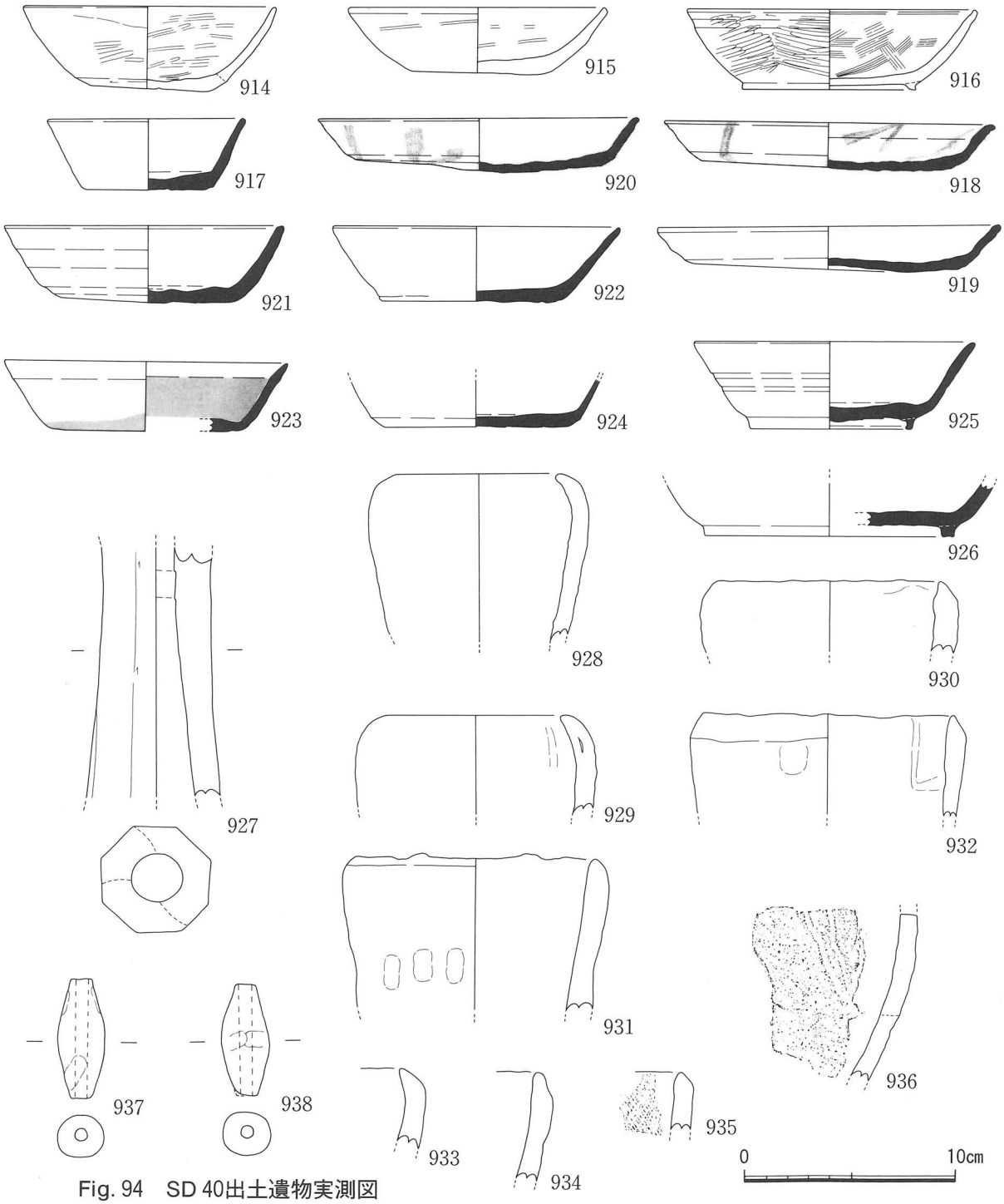


Fig. 94　SD 40出土遺物実測図

SD 40（Fig. 93・94）

H本区中央部で検出した東西方向の溝で幅0.49m、長さ3.88m、深さ16cmを測る。方向はN－73°－Wで大型建物群と同調しており、埋土は10 YR 3/3暗褐色粘土質シルトである。プラン確定が地山面付近であったのはH本区の他の遺構と同じであるが、その時点で遺構内の遺物の一部が検出されており、Ⅳ-1又はⅣ-2層上面より掘り込まれていた可能性が十分考えられる。また、SB 10を切る。一見して判るが、残存率の高い遺物が多い。911・916・927は搬入品である。出土した川原石には被熱したり、打割されているものがあった。

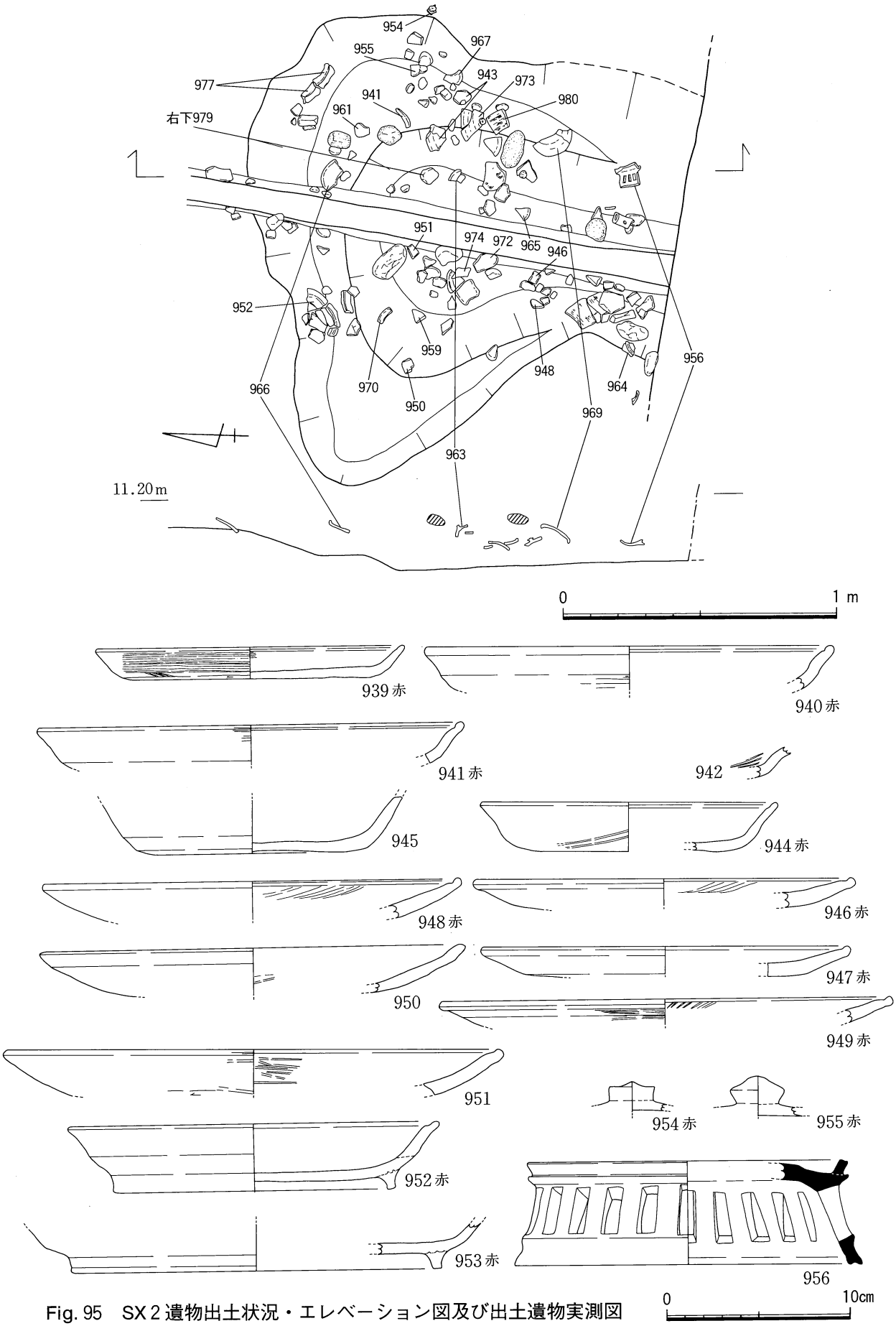


Fig. 95　SX 2 遺物出土状況・エレベーション図及び出土遺物実測図

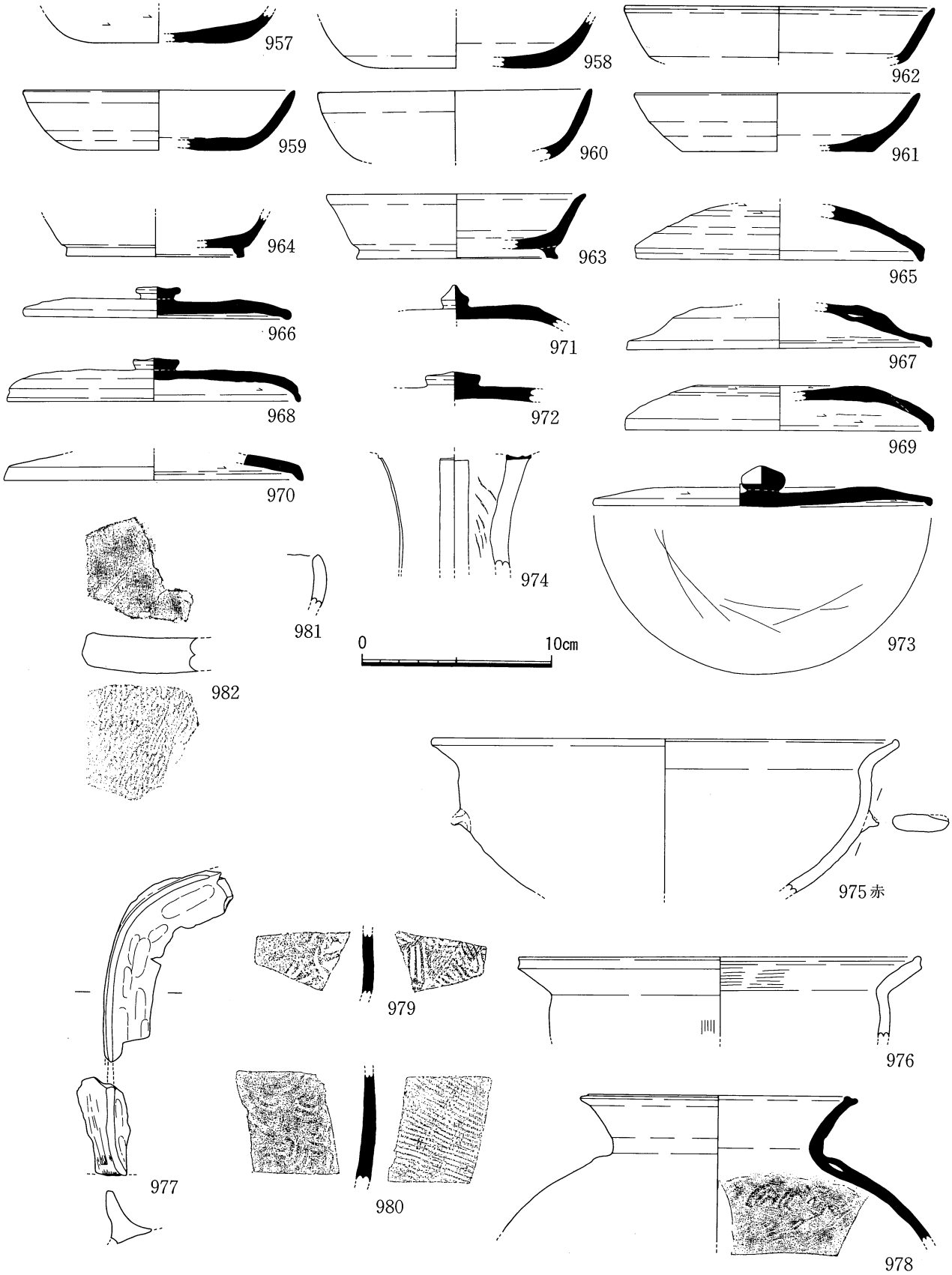


Fig. 96　SX 2 出土遺物実測図（975～980は縮尺1/4）

⑥　性格不明遺構

SX 2　(Fig. 95・96)

西部で検出した幅1.73mの不整形な遺構で、南部は調査区外である。Ⅵ層下に存在することが南壁で確認できる。残存度の比較的良好なものを含む遺物及び川原石が、床面より数cm～十数cm上方を中心に出土した。川原石は5～15cmを測り、出土位置は総じて土器より上方にあるとみられる。

⑦　ピット

P14、15 (Fig. 97・98)

北拡張区のSA 4のP 6とP 7間で検出した方形のピットでP14は1.34×1.08m、P15は1.28×1.20mを測り、各々深さ40cm、50cmまで掘削した。規模、形態、埋土、出土遺物について類似性が強いと考え、まとめて扱う。埋土は灰褐色粘土質シルトに炭化物・土師器細片を含むもので、礫を含まない点でSA 4等と異なる。出土した土師器杯、皿には残存度の良好なものがある。それに比して、少量出土している須恵器供膳具は1003・1004を含めて全て細片で、磨耗もみられる。

P16 (Fig. 99)

北拡張区のSB 22－P12の西辺を切る径41cmの円形のピットで、深さ40cmを測る。埋土は褐灰色粘土質シルトである。土師器杯 (1017) が出土した。

P17 (Fig. 99)

北拡張区のSA 4－P 7検出時にその北辺を切る状態で検出した。径約43cmの円形を呈するが完掘していない。埋土は褐灰色粘土質シルトである。検出時に直上より黒色土器A類杯口縁部 (1018) が出土した。

⑧　遺物集中

SF 1　(Fig. 100)

SB 15東側より3点の土師器杯が重なって出土した。様相はSB 16柱根部と類似する。しかし、付近を精査したにも関わらず遺構は検出できなかった。

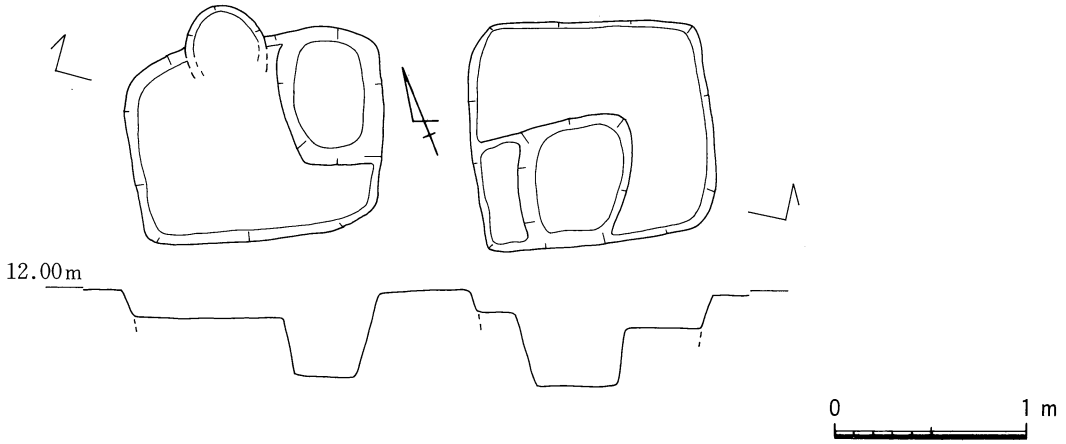


Fig. 97　P14、P15遺構平面・エレベーション図

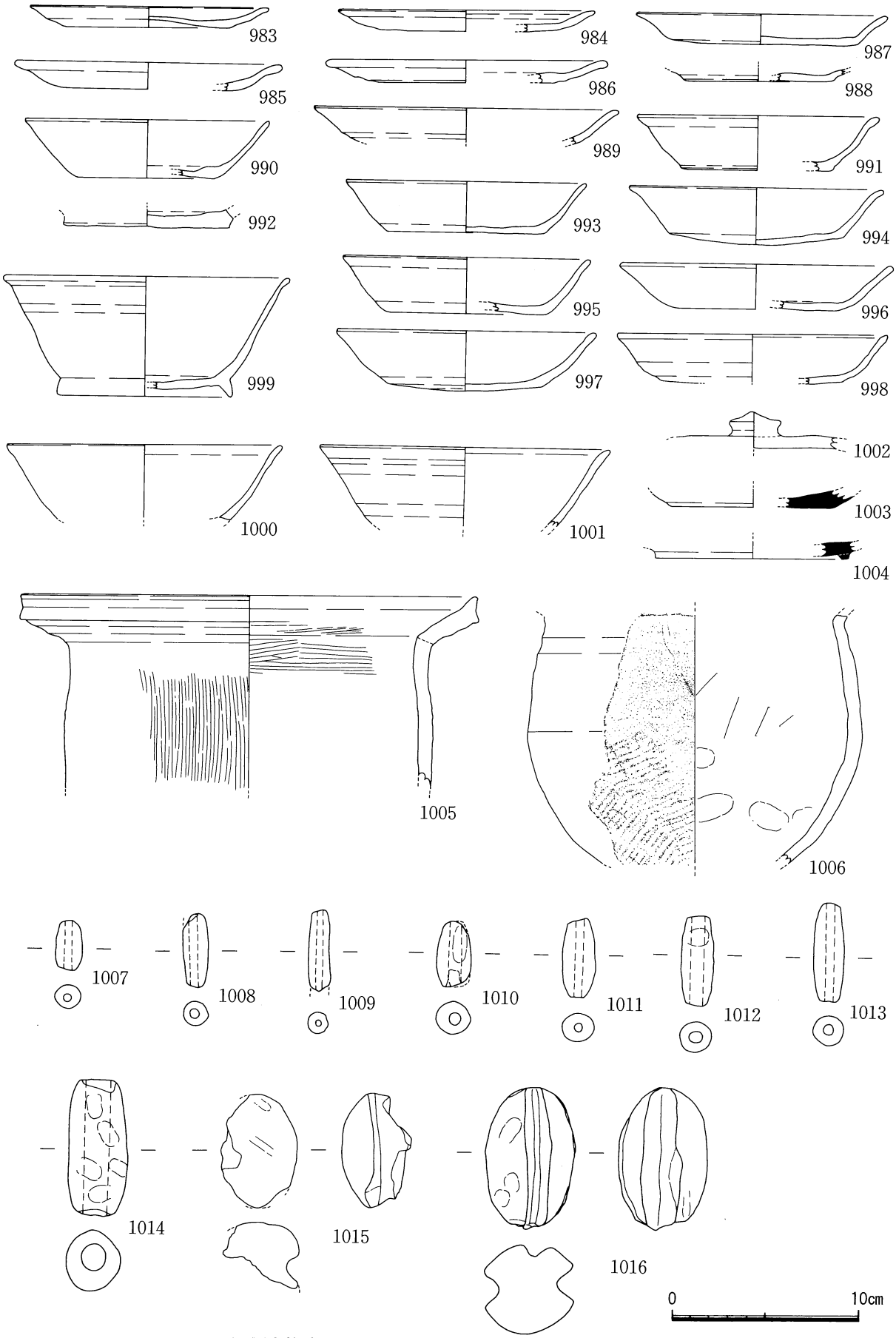


Fig. 98　P14、P15出土遺物実測図

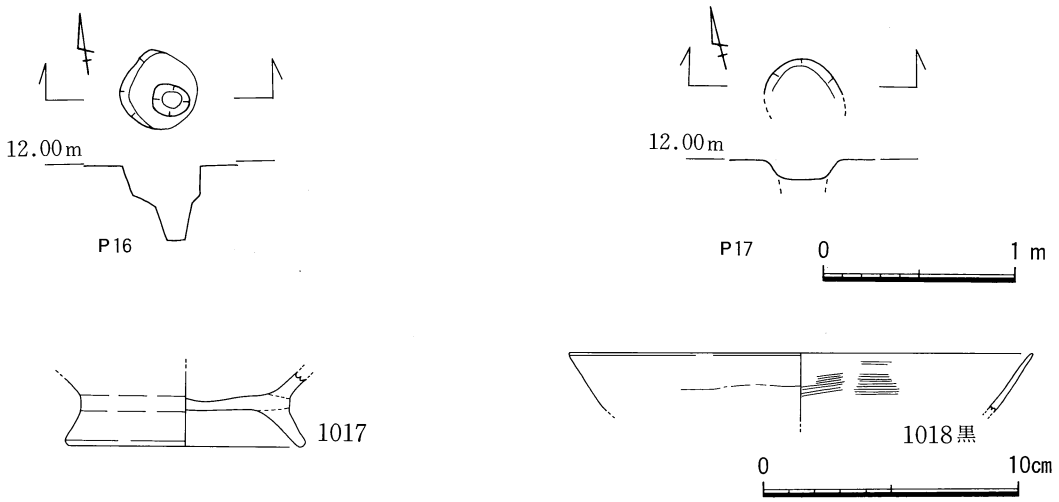


Fig. 99　P16、P17遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

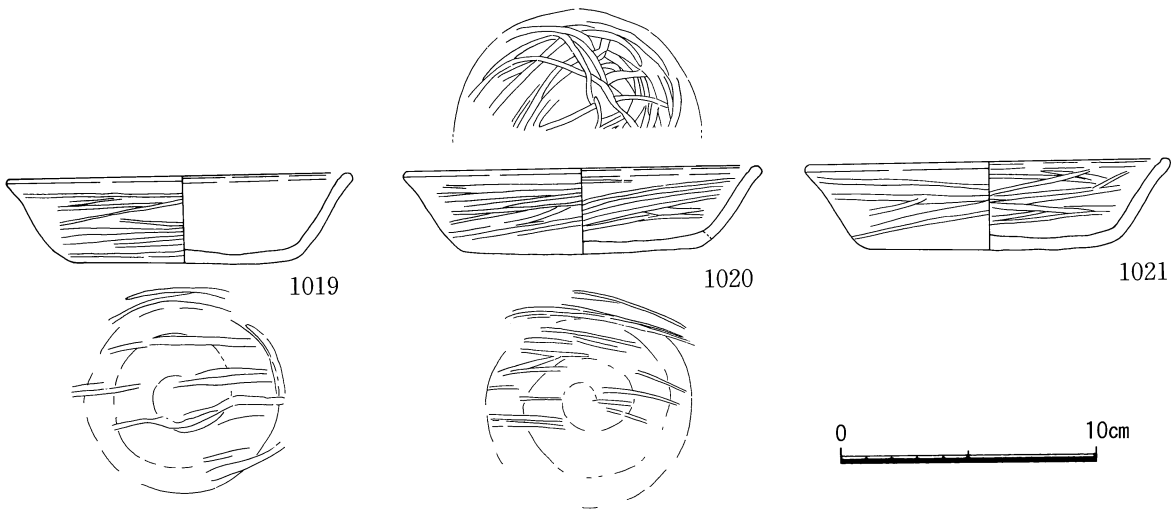


Fig. 100　SF1 出土遺物実測図

⑨　包含層出土遺物（Fig. 101）

各包含層より多量に出土している遺物から、抽出した一部を示す。

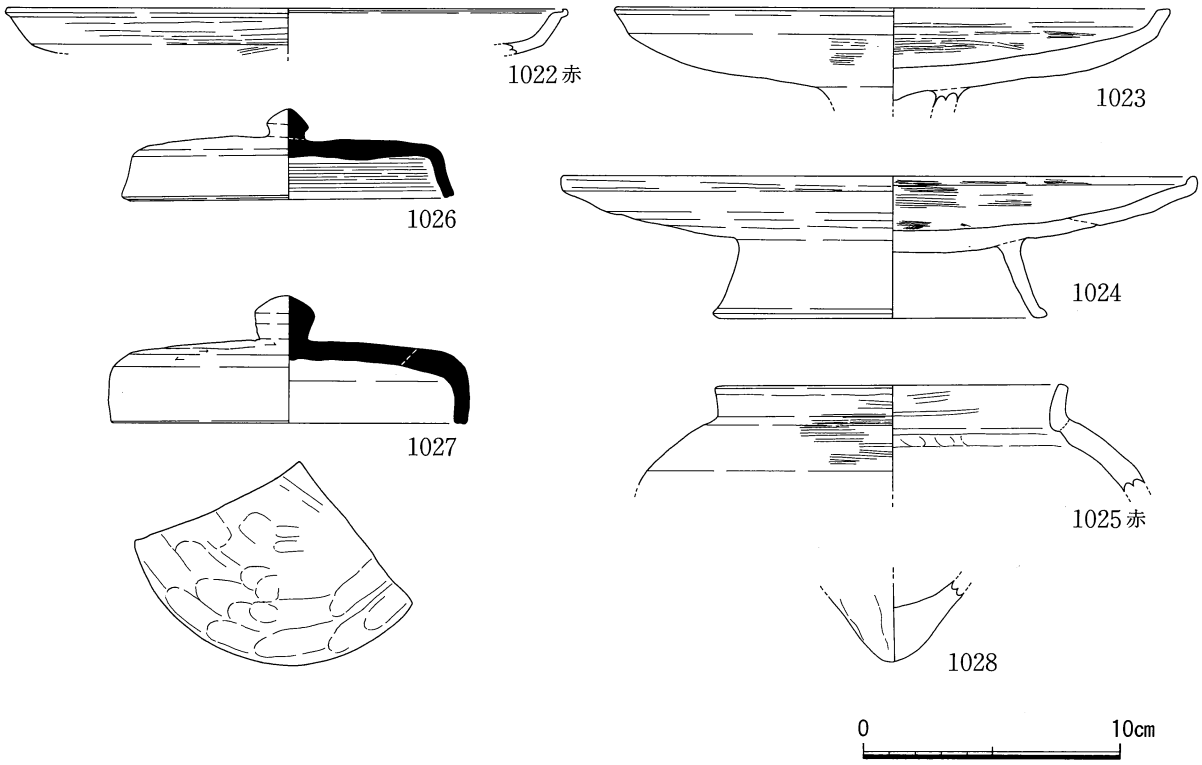
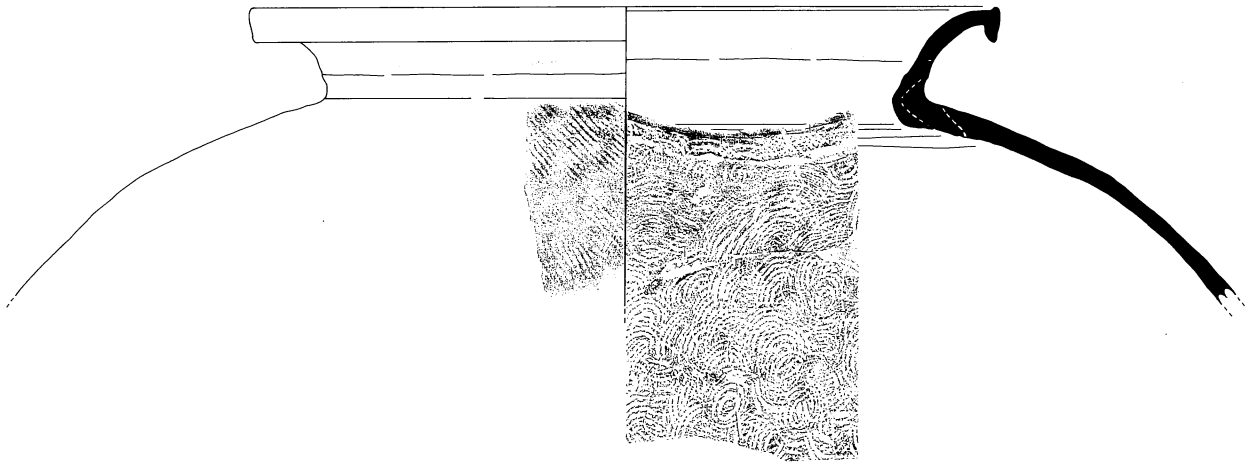
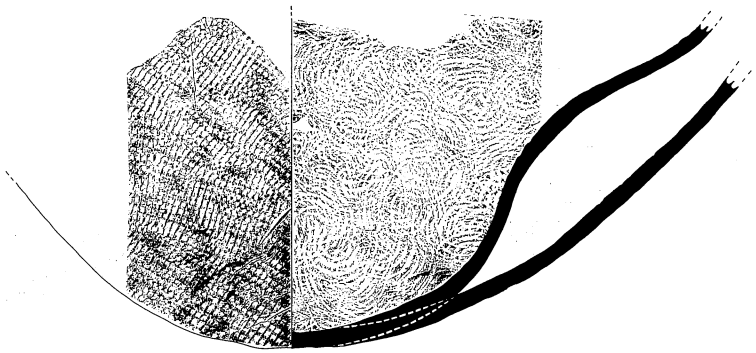
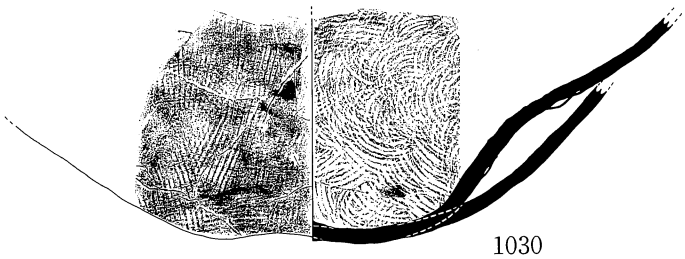


Fig. 101　包含層出土遺物実測図



1029





1030

0 20cm

Fig. 102　SB 22内出土遺物実測図

表4　古代建物規模一覧表

遺構名	規模		方向	柱間距離(m)		柱穴(cm)			
	形態	梁間×桁行(m)		梁間	桁行	平面形	規模	柱痕径	深さ
SB 8		4.2×4.7	N－4°－W	1.8	2.1	円形	48～60	18～21	36～54
SB 9		6.6×17.5	N－12°－E	1.8	2.4	方形	100～160	25～29	84～88
SB 10		5.4×8.2	N－14°－E	1.47	1.95	方～不整方形	66～120	21～24	54～60
SB 11		5.4×8.5	N－78°－W	2.25	2.25～2.7	方形	96～174	30～39	(12～24)
SB 12		5.6×10.2	N－75°－W	2.0～2.4	2.4	方形	80～120	24	(27)
SB 13		6.1×14.8	N－17°－E	1.8	2.2～2.6	方形	48～152	24～28	40～80
SB 14		5.1×(4.1)	N－15°－E	1.2～1.5	1	方形・円形	42～96	15～21	15～66
SB 15		4.6×(12.15)	N－18°－E	—	2.03	方形・隅丸方形	111～135	24	60～105
SB 16		(2.7×4.4)	N－75°－E	1.7	1.95～2.1	方形	126～135	21～30	60～75
SB 17		5.3×6.1	N－12°－E	1.3～1.5	1.65～1.8	方形	60～99	24～36	39～60
SB 18		6.2×10.7	N－12°－E	1.8	1.86～2.25	方形	75～123	21	21～60
SB 19		7.1×10.2	N－77°－W	2	2.2～2.4	方形	80～124	20～24	60～88
SB 20		6.6×18	N－13°－E	1.6～2.0	1.8～2.9	方形	108～172	24～44	(12～48)
SB 21		6.9×13.8	N－13°－E	2.8～2.9	2.4～2.8	方形	112～188	40	(8～32)
SB 22		6.3×12.4	N－76°－W	2.6	2.2	方形	120～140	24～40	(16～36)
SA 4		5.2×11.4	N－75°－W	SN－2	EW－1.2～1.4	方形	110～136	32～48	42～50
SA 9		4.9×5.9	N－82°－W	SN－2.2	EW－1.8	方形	88～104	26	30
SA 10		5.0	N－45°－W	—	1.3～2.0	円形	18～32	20～30	12～30
SA 11		5.0×12.3	N－10°－E	EW－2.2	SN－2.2～2.4	方形	80～110	16～18	60
集石遺構1		10.3	N－75°－W	—	EW－1.8～2.2	隅丸方形	96	—	—

表5　古代土坑等一覧表

遺構名	平面形態	規模			方向	埋土の特徴
		幅(m)	長さ(m)	深さ(cm)		
SK 16	円形	1.02	1.2	62	—	粘土を含む張り床
SK 18	楕円形	1.36	1.8	26	N－32°－E	—
SK 20	不明	2.08	1.9	66	—	焼土、炭層
SK 21	不整楕円形	1.38	2.8	42	N－7°－W	10 YR 3/2 粘土質シルト
SK 22	隅丸長方形	1.60	2.90	24	N－21°－E	10 YR 4/2に4/4塊を含む粘土質シルト
SK 27	不整楕円形	0.96	2.10	45	N－17°－E	—
SK 28	楕円形か	(0.60)	2.06	42	N－79°－W	焼土、製塩土器塊
SK 29	隅丸長方形	2.46	1.5	14	N－77°－W	床面の一部に炭層
SK 30	長方形	0.93	3.40	74	N－11°－E	粘土と若干の炭粒含む
SK 31	溝状	0.60	2.2	4	N－73°－W	7.5 YR 4/2粘土質シルト
SK 32	溝状	0.78	2.6	8	N－83°－W	7.5 YR 4/2粘土質シルト
SK 33	不整方形	1.90	1.90	28	N－0°－W	2.5Y5/1粘土質シルト
SK 34	不整隅丸方形	1.02	2.3	108	N－84°－W	炭層、製塩土器片塊
SX 2	—	1.7	(1.6)	17	—	10 YR 2/3黒褐色粘土質シルトに若干の炭を含む

表6　古代遺構出土遺物一覧表

遺構名	供膳具																				貯蔵具		煮炊具	製塩土器	漁労具		鍛冶関連	その他・備考
	土師器												黒色土器	須恵器							須恵器		土師器		土錘			
				(底部)					(赤彩土師器)							(底部)												
	皿	杯	椀	杯A	杯B	皿B	蓋	高杯	皿	杯椀	蓋	高杯	杯	皿	杯	杯A	杯B	杯C	蓋	高杯	壺	甕	甕	(g)	管状	有溝		
SB 8																												弥生土器細片
SB 9	7	15		1	2	1	6	2	1	4	1			6	22	2	6	3	10	2	1	2	7	1000				カマド1、砥石1
SB 10		1			1		2			1			1	1		2	1		1					80				緑釉陶器火舎1
SB 11				1			1								1	3	1			1				325		1		
SB 12	4			1	1	1		1							3	2	3		8	2			2	290	1			
SB 13	2	3						1	1							1			3		1	2	1	184				
SB 14	1	3		1	2	1	2	1					1		2	3	2		8	1	1	1		433	1		羽口片1	搬入蓋1。土師器供膳具片の約半数が赤彩。
SB 15	7	8		15	4		3	1			1			2	18	7	9		13	2	1	6	3	300	8			カマド2
SB 16※	1	5		4	2		1							1	3		5		3					700	1			搬入皿、甕
SB 17	2			1	1			1						2	1	1	1		5	1	1	1	4	110	1			カマド1
SB 18	5	12	2	6	2	1	6		1					6	6	10	3		7		1		4	1050		1	椀状滓2	粘板岩
SB 19	7	10	1	18	1		6							5	29	11	4		11	1			1	4250	1	1	羽口片1	釘2、讃岐産弥生土器
SB 20	10	16		35	7		6	3		1			2	3	17	16	6		19	3	2	4	12	3050	6	5	椀状滓1	八稜鏡1、搬入甕3・同土錘1、鉄斧1、讃岐産弥生土器片、粘板岩
SB 21	10	11		19	3	1	9	1					1	1	11	7	2		5				2	1250	10	16	椀状滓1	搬入皿2・蓋1、赤彩皆無
SB 22	4	10		18	1		7	3						3	9	7	4		13	1		1	2	500				被熱粘土塊片多数、小型砥石1、砥石1、赤彩皆無
SA 4	6	7		3			3							4	3				7		1	1	1	96				被熱粘土塊片3片、赤彩皆無
SA 9																			1									
SA 10		1		2			1																	67				
SA 11	2	2	1	2	4		2							4	2		7		21			2	3	500		1		
SK 16	1	1				1	2		1		1			2	7	4	5		3				1	780			羽口片1	砥石1、鉄砧石1
SK 18	1	1			1		3	1		1	1				6	3	3		11	1	1		2	200			羽口先片1	搬入皿1・甕
SK 20	2	4		1	3		4	2		1	3	1		2	3	4	6		13	4	1	4		240		1	羽口先片1	

遺構名	供膳具																					貯蔵具		煮炊具	製塩土器	漁労具		鍛冶関連	その他・備考
	土師器												黒色土器	須恵器								須恵器		土師器		土錘			
	皿	杯	椀	(底部)			蓋	高杯	(赤彩土師器)				杯	皿	杯	(底部)			蓋	高杯		壺	甕	甕	(g)	管状	有溝		
				杯A	杯B	皿B			皿	杯椀	蓋	高杯				杯A	杯B	杯C											
SK 21	14	13		15	7	1	9	1					1	15	25	24	4		23			2	2	5	2400		1	坩堝1、小鉄滓2	スラグ状物質付着製塩土器片1、赤彩皆無
SK 22	4	7		2	8		6	2			1			15	50	25	17		100	7		2	5	8	1450	5		鉄滓1	搬入供膳具1
SK 27	6	19		16	4		10	5					1	5	12	8	1		5						1800		1		赤彩皆無。搬入杯2。
SK 28														6	12	2	5		11					2	8750			鉄滓1	
SK 29	2	1		2			2						1		3	1			1					1	142			羽口先片1、鉄滓3	砥石1
SK 30	18	16		7			3	3	4	1				21	44	21	4		11	5	1	2	2	2	1550		1		残存率高い遺物多数。
SK 31					1																				64				
SK 32																								2	190				
SK 33	6	9		3			1	2		1				7	13	6	4		4	2	1		1	1	750	2		鉄滓少量	鉄釘。総じて土師器と須恵器はほぼ同量。
SK 34	13	19		19	5		8	2					1	17	26	17	2		15	3	1	1	2	2	9490	2	3	椀状滓1	搬入杯B1・蓋1、カマド1、砥石1、鉄砧石2、小木片
SD 26	4	1		1	3	2		2	3	1					18		5	10	29		1	3	4		36				カマド1、馬歯
SD 40	11	10	2	8	1		2	2						3	13	5	2		1						2300	2			残存率高い遺物目立つ。赤彩皆無。搬入杯2。
SX 2	13	3		2		1	3	4	12	3	3	4			11	9	2	2	12			1	3		210				円面硯1、カマド1、瓦1、搬入皿1
P 14	11	42		26	1		2						1						2				2		51	5	2		被熱粘土塊片5、赤彩皆無
P 15	6	25		13	1		1									1	2		2						13	9	1		赤彩皆無

※1．原則として口縁部でカウントした。
2．(底部)、(赤彩土師器)は独自のカウント数である。従って(赤彩土師器)は土師器の該当器種に、(底部)も口縁部まで残存する個体は該当器種に重複して数えている。
3．製塩土器は総重量で示した。
4．SB 16では原則的に実測図に示すことのできた遺物数を示した。
5．須恵器の搬入についての検討は行っていない。

H区　古代遺物観察表凡例

摩耗：△は摩耗があることを、×は摩耗が顕著で、器表の観察も著しく困難なことを示す。

手法的特徴：「内外」は内外面を示す。調整等の不明箇所により、「全面」と表現できない場合等にも使用した。「外底」は底部外面。

須恵器供膳具の回転ナデ痕や、処理されたヘラ切り痕は原則として省略した。特に触れたものは痕跡が顕著であったり、ナデなどによる処理が弱いことが看取できたものである。土師器については、これらの痕跡は観察できる限りにおいて記載した。

須恵器蓋等の内面について、「平ら」は丁寧な調整で平坦に仕上げられていることを、「平滑」はさらに滑らかな面に仕上げられていることを示す。

含有鉱物

粒度：「細」は細粒の意で、概ね0.4mm未満である。

種類：チ＝チャート、英＝石英、長＝長石、赤＝赤色風化礫、黒＝黒色粒、ガ＝火山ガラス、砂＝砂岩、泥＝泥岩、雲＝雲母（金雲＝金雲母、白雲＝白雲母、黒雲＝黒雲母）、閃＝角閃石。円＝ローリングを受けた粒、角＝ローリングを受けていない粒。砂岩・泥岩粒については記載がない場合は「円」、その他の砂粒について記載のない場合は「角」とする。またこれらの種類は、含有量の多い順に並べた。最も多く含まれる粒の粒度は、概ね「普遍」欄に示されていることになる。

焼成：空欄は平均的な焼成度にあることを示す。

残存率：復元全周に対する残存率を、可能な限り口径について示した。底部や天井部径によるものはその旨補足している。また「完」は完形、「準完」はほぼ完形と考えてよいもの、「半完」はそれにやや及ばないものを示す。

「製塩」土器：今次はこの名称で報告する。内面の最大径を、口径欄に記した。

※その他、第Ⅴ章の３に従う。

遺物観察表（土器）

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SB9	P10	153	ⅢA	19.6	2.7	16.5	△	内外赤彩、内面暗文、外面ミガキ。体部連続ナデ、外底断続ケズリ。	2.5YR5/6 明赤褐	やや粗	並	細	0.5	英チ赤	Ⅰ	素地2.5Y8/2		1/11
	〃		154	杯A	16.4	3.7	10.2	△	全面赤彩。内面放射暗文。口縁回転ナデ。外面下半断続ケズリ。外底平行圧痕。	2.5Y5/8 明赤褐	並	多	細	0.5	英チガ	Ⅰ	素地10YR8/2		1/15
	〃	P8Ⅳ層	155	杯A			8.4	△		7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗	やや多	細	1.0	チ赤				底 1/4
	〃	P8下層	156	杯				△	内外赤彩。外面ミガキ。その他不明。	5YR7/8橙	密	並	0.5	0.5	赤チ			軟	断片
	〃	P7上層	157	杯B			11.0	△	内外赤彩。内面ミガキ、外面擦痕。	2.5YR6/6 橙	やや粗	やや多	0.5	2.0	英チ赤	Ⅰ	素地10YR8/2	硬	底 1/9
	〃	P8柱痕	158	蓋	15.1			△	調整不明。	5YR7/8橙	並	並	細	1.5	赤チ			軟	1/9
	〃	P10	159	蓋	18.2				内外断続ミガキ。	5YR6/6橙	並	やや多	細	細	チ赤			やや硬	1/15
	〃	P1	160	高杯	23.6				内外断続ミガキ。	5YR6/6橙	密	並	細	細	チ赤		素地7.5YR7/6	やや硬	1/12
	〃	P8 Ⅴ層	161					△	内面ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	0.5	4.0	チ赤				
	〃	P8下層	162	高杯B				△	調整不明。	5YR6/8橙	密	少	1.0	1.5	チ赤泥	Ⅱ		軟	
	〃	P5上層 P8下層	163	高杯			9.0		連続ナデ。	2.5Y7/8橙	並	並	細	1.0	長チ赤			硬	1/4 強
須恵器	〃	P8	164	Ⅲ	19.2				外底回転ケズリ（回転台右回り）。	5Y7/2灰白	並	並	細	1.0	チ				1/10
	〃	P2上層	165	杯CⅡ	13.5	5.0		×		5Y7/2灰白	やや粗	並	0.5	1.2	チ黒泥			軟	1/8 強
	〃	P10	166	杯CⅡ	13.5	4.5	8.2		内・外底ナデ仕上。	2.5Y8/2 灰白	密	並	細	1.0	英長黒				1/4
	〃	P9 最下層	167	杯CⅠ	15.4					2.5Y8/2 灰白	並	多	0.5	1.0	英チ	Ⅰ		やや軟	1/10
	〃	P9 XXI層	168	杯BⅢ	13.6	4.1	8.8		高台接合部外面擦痕。	2.5Y7/2 灰黄	並	やや多	0.5	1.0	英長赤	Ⅰ			底 1/7
	〃	P2	169	杯	15.8			×		2.5Y7/2 灰黄	粗	やや多	0.5	5.5	チ黒			軟	1/7 弱
	〃	P2上層	170	蓋						5Y5/1灰	密	並	細	2.0	チ			硬	
	〃	P3	171	蓋	17.0	2.0		△	天井外面の3/4に回転ケズリ。	5Y8/1灰白	粗	多	0.5	1.0	英長	Ⅰ		軟	1/9
	〃	P7上層	172	蓋	16.9					5Y8/1灰白	密	少	0.5	2.0	チ黒				1/6
	〃	P9Ⅹ層	173	蓋					外面調整不明。	2.5Y7/1 灰白	並	多	1.0	2.0	英長		外面自然釉。	硬	
	〃	P8柱痕	174	蓋					調整不明。	N6/灰	並	多	0.5	3.0	チ			硬	
土師器	〃	P8Ⅴ、Ⅶ層	175	甕	16.0			△	口縁内面暗く変色。	5YR5/6 明赤褐	粗	多	0.6	3.5	英長チ			硬	1/10
	〃	P9Ⅰ層	176	甕					口縁内面ハケ。	7.5YR8/4 浅黄橙	やや粗	多	2.0	3.0	チ(円)砂ガ	Ⅰ			断片
	〃	P8柱痕	177	甕	24.4				口縁内面ハケ。	7.5YR5/6 明褐	やや粗	多	1.0	4.0	チ赤	Ⅱ		硬	
	〃	P8柱痕	178	カマド					外面ハケ。内面ナデ。	7.5YR6/4 にぶい橙	並	多	0.5	0.5	チ	Ⅱ		硬	
須恵器	〃	P3下層	179	甕	29.2				口縁端部は強い横ナデにより内外に拡張。	5Y7/1灰白	並	やや多	細	細	英長黒	Ⅰ		やや軟	
緑釉陶器	SB10	P12	180	火舎				△	外面１条又は２条の弱い凹線。内面連続ナデ。	2.5Y8/2 灰白	密	少	1.0	1.0	英雲赤		内面ススケ。搬入品。	軟	
黒色土器	〃	P12′	181	杯					内外、緻密な横位のミガキ。内面暗文。	10YR6/3 にぶい黄橙	並	並	細	1.0	閃金雲長		搬入品。	極硬	口縁断片
須恵器	〃	P9上層	182	杯BⅠ			13.2		体部下半回転ケズリ。	N5/1灰	密	やや少	細	0.5	長黒			硬	1/8 弱
	〃	P12 Ⅰ層	183	高杯						10YR8/4 浅黄橙	並	並	細	2.0	長黒			軟	
	〃	P6	184	甕					口縁外面、櫛描波状文・櫛状原体による圧痕文。	5Y5/1灰	密	やや少	細	1.0	長			硬	
須恵器	SB11	P4上層	186	杯BⅢ			9.0		外底回転ケズリか。	7.5Y7/1 灰白	並	並	細	1.0	チ黒				底 1/12
	〃	P5上層	187		14.6			△		N7/灰白	並	並	細	1.0	チ黒			やや軟	
	〃	P5上層	188	高杯			12.2	△		5Y8/2灰白	粗	多	細	1.0	英チ	Ⅰ		軟	

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SB12	P2上層	189	杯B			8.6		全面赤彩。ミガキ。	5YR6/6橙	やや密	やや少	細	細	英長ガ		素地7.5YR7/4高台と、それ以外の胎土異なる。		底1/4
	〃	P9	190		17.8			△	詳細不明。	7.5YR7/6橙	密	少	1.0	1.0	赤チ			軟	1/10
須恵器	〃	P8	191				12.7	△		5Y6/1灰	やや粗	並	0.5	1.0	チ赤			やや軟	1/7弱
	〃	P7	192	杯B	10.6	6.0	7.2			N7/0灰	並	並	細	3.0	長				1/4強
	〃	P8	193	杯B			10.0			N7/灰白	並	並	細	2.0	チ黒				底1/10
	〃	P9	194				16.2		内底ナデ。	7.5Y6/1灰白	並	やや少	細	2.0	長英			硬	底1/6
	〃	P9	195	蓋	14.0				天井、外面回転ケズリ後ナデ、内面ナデ。	N6/0灰	並	並	1.0	2.0	チ				1/4強
	〃	P2上層	196	高杯				△		2.5Y8/2灰白	粗	多	1.0	2.0	英長			軟	
	〃	P8	197	高杯			10.8			7.5Y6/1杯灰	並	少	細	1.0	長黒				1/4強
土師器	SB13	P10	198	皿A	12.8				内外ミガキ。	5YR6/8橙	やや粗	並	細	細	チ赤ガ			軟	1/12
	〃	P11掘方	199		18.0	2.0	13.8	△	全面赤彩。ミガキ。	5YR7/8橙	密	少	細	1.0	チ赤ガ	Ⅱ		軟	底1/7
	〃	P10柱痕	200	皿A			15.2	△	内外赤彩。内外底、密な断続ミガキ。	2.5YR5/6明赤褐	やや粗	多	細	6.0	英チ赤	Ⅰ	素地10YR8/2	硬	底1/7
	〃	P11	201	杯				△	内外ミガキ。外面下半擦痕か。	5YR6/6橙	並	やや少	細	0.8	チ赤ガ				断片
	〃	P11Ⅱ層	202				10.6	△	底部ケズリ、ハケ。	7.5YR7/6橙	やや粗	並	1.0	2.0	チ赤ガ				底1/4
	〃	P8	203	高杯脚			18.4	△	連続ナデ後、内外ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	0.5	1.5	チ赤ガ				
須恵器	〃	P4	204	杯A			7.4	△		7.5Y6/1灰	並	並	細	3.0	黒長			やや軟	底1/5
	〃	P10Ⅰ層柱痕	205	蓋	15.6				外面、回転ナデ後、逆方向の回転ケズリ。内面周縁部擦痕。	N7/0灰白	並	並	細	1.0	チ				1/12
	〃	P10Ⅱ層	206	蓋						N6/0灰	並	やや少	細	細	英黒			硬	
	〃	P6	207							2.5Y7/2灰黄	並	少	細	細	英長				断片
	〃	P10Ⅱ層	208	壺			10.9			2.5Y6/1黄灰	並	並	細	細	黒チ		内底に自然釉。外底に線刻。	硬	底1/6弱
土師器	SB14	P3	209	杯	13.7			△	連続ナデ後、内外ミガキ。	10YR8/4浅黄橙	並	並	細	細	チガ				1/9
	〃	P5	210	蓋						5YR6/6橙	密	並	細	0.7	長英赤		搬入品。	硬	
須恵器	〃		211	杯BⅡ			11.2			N7/0灰	密	並	細	細	チ黒			硬	底1/8
	〃	P7	212	蓋						N6/灰	やや密	並	細	0.5	黒英長			硬	
	〃	P3	213	蓋					外面回転ナデ、内面ナデ共に丁寧。特に内面中央は平滑。	N7/灰白	密	少	細	0.8	長黒			硬	
	〃	P6	214	高杯				△		5Y7/1灰白	やや粗	やや多	細	1.5	英長黒	Ⅰ		やや軟	
土師器	SB15	P4上層	215	皿A	15.6	2.2	11.5	底△	内面及体部外面ミガキ。	2.5YR5/8明赤褐	並	並	細	1.0	チ赤			硬	底1/7
	〃	P1	216	皿A	15.4			△	口縁部外面に回転ナデ痕残る。体部内外ミガキ。	5YR7/6橙	並	並	細	細	チ赤ガ				底1/9
	〃	P2上層	217		20.0			△	口縁部強い回転ナデ後、内外、連続と見られる粗いミガキ。	10YR7/4にぶい黄橙	並	並	細	細	チ赤ガ				1/10
	〃	P3下層	218	杯A			10.0	×		10YR8/4浅黄橙	並	少	細	細	チ赤				底1/7
	〃	P3	219	杯AⅣ	9.2	3.4	5.7	×	回転ナデ痕有り。	2.5YR5/6明赤褐	やや密	並	細	1.0	チ赤ガ		底部剥離。		半完
	〃	P3下層	220		15.6			外底△	内面及び口縁部外面ミガキ残る。	5YR5/6明赤褐	密	並	細	細	チ赤ガ				1/8弱
	〃	P2中層	221	高杯A			12.3	△	脚内面にシボリ目。	5YR6/6橙	密	やや少	細	2.0	チガ			軟	

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SB15	P2下層	222	ⅢA	15.4	1.0	12.3		外底ナデ。	10Y6/1灰	やや密	並	細	細	チ				1/10
	〃	P2下層	223	杯AⅢ	12.7	3.4	8.7	△	底部のみ還元色。	10YR6/4 にぶい黄橙	粗	やや多	0.5	2.0	チ赤			軟	底 1/2
	〃	P6上層	224	杯AⅡ	14.1	3.9	8.6	△		2.5Y7/2 灰黄	並	並	細	細	チ黒			軟	底 1/4
	〃	P2上層	225	杯	16.0				外面擦痕。	5Y7/1灰白	やや粗	多	細	2.0	チ				1/4 弱
	〃	P2下層	226	杯D			10.4		立上り外面に擦痕、内外底ナデ。	5Y7/1灰白	並	やや多	細	0.5	チ				底 1/5
	〃	P3上層	227	杯B			7.6		外底ナデ。外面接合痕。	5Y4/1灰	並	並	細	2.0	長黒		内外発色差。	硬	底 1/4
	〃	P3上層	228	杯B			11.9		内底ナデ。	7.5Y6/1灰	並	並	細	1.0	チ黒				底 1/8
	〃	P3中層	229	杯BⅢ			8.6		外底ナデ。	7.5Y7/1 灰白	並	並	細	細	英黒			硬	底 1/2
	〃	P1中・下層	230	蓋	15.6				天井内外面ナデ。	7.5Y6/1灰	並	並	0.5	3.0	長チ黒			硬	天井 1/4
	〃	P8	231	高杯				△		5Y8/2灰白	やや粗	多	0.5	2.0	英長チ	Ⅰ		軟	
	〃	P3上層	232	高杯			11.5	△	脚内面弱いシボリ目。	5Y7/1灰白	やや粗	多	0.5	2.0	チ黒			軟	
製塩土器	〃	P3下層	233		10.2					2.5Y7/2 灰黄	粗	多	2.0	6.0	チ砂		外面ススケ。		口縁下 1/7
土師器	〃	P3下層	234	甕	19.8				口縁内面ヨコハケ。	にぶい黄橙	並	多	1.0	3.0	砂チ赤ガ	Ⅰ			1/10
	〃	P3下層	235	甕	24.8				口縁・頸部内面粗いハケ。	5YR7/8橙	粗	多	1.5	5.0	砂チ	Ⅰ			1/11
	〃	P1上層	236	甕	28.6			△	詳細不明。	2.5Y6/2 灰黄	粗	多	1.0	10.0	チ			軟	1/9 弱
	〃	P2下層	237	カマド					ツバ部ナデ。内面及焚口端部オサエとナデ。	10YR5/2 褐灰	やや粗	多	1.0	3.0	チ砂ガ	Ⅰ			
土師器	SB16	Pロ2	246	ⅢAⅠ	20.4	2.4	17.3	△		7.5YR6/6 橙	並	並	細	1.0	チ赤ガ				1/6
	〃	Pロ1 下層	247						内面放射暗文。外底ケズリ。	5YR6/6橙	密	並	細	細	長チ		一定粒度の長石細粒を主に含む搬入品。	硬	断片
	〃	Pハ1 柱痕	248	杯AⅢ	13.6	3.1	8.6		回転ナデ後、全面粗いミガキ。外底ヘラ切痕僅かに残る。外面立上りに接合痕。	10YR8/6 黄橙	並	並	細	2.0	チガ		口縁部赤斑。		完
	〃	Pハ1 柱痕	249	杯AⅢ	13.6	3.4	8.9		体部回転ナデ後、全面粗い断続ミガキ。外底、ヘラ切→ナデ→ミガキ。	5YR7/6橙	並	やや多	細	2.0	チ赤ガ		内面重ね焼斑。		完
	〃	Pハ1 柱痕	250	杯AⅡ	14.6	3.3	10.0		全面粗いミガキ。内底回転ナデ痕。	5YR6/6橙	やや密	並	細	細	チ赤ガ		外面下半に重ね焼斑。		完
	〃	Pハ1 柱痕	251	杯AⅢ	13.6	3.3	8.5		回転ナデ後、全面粗いミガキ。外底ヘラ切痕、平行圧痕僅かに残る。	5YR6/6橙	並	並	細	細	チ赤ガ		内面・外底はにぶい黄橙色。		完
	〃	Pロ2	252	杯	14.6			△	外面ミガキ認む。内外回転ナデ痕。	5YR6/6橙	密	やや少	細	1.0	チ赤ガ				1/6
	〃	Pロ1	253	杯B			10.8	△		7.5YR8/6 浅黄橙	やや密	少	細	細	赤チ				底 1/10
	〃	Pハ2 上層	254	杯B			12.8			5YR6/6橙	やや密	並	細	1.5	赤チガ				底 1/4
	〃	Pロ1	255	蓋				△		7.5YR7/6 橙	並	やや少	細	細	チ赤ガ				
	〃	Pロ2	256		14.0			△	内外ミガキ。	7.5YR7/4 にぶい橙	密	並	細	細	チガ				1/7
	〃	Pハ1 上層	257	椀	19.6			△	内外赤彩。内面粗いミガキ。外面下半断続ケズリ。	2.5YR6/8 橙	並	並	0.5	1.0	チガ				1/7
須恵器	〃	Pロ2	258	ⅢA		2.3		△		7.5Y6/1灰	並	並	細	細	長チ黒			やや軟	
	〃	Pロ1	259	杯B			7.6		内底ナデ、外底ヘラ切痕残る。	N6/0灰	やや粗	並	細	1.5	長			硬	底 1/2 弱
	〃	Pハ2 上層	260	杯BⅢ	13.2	3.6	9.6		外底ナデ。	N6/灰	並	並	0.5	2.0	長チ黒				1/4 弱
	〃	Pロ2	261	杯BⅢ	13.2	3.8	10.0		内底丁寧なナデ。外底ヘラ切痕残る。	5Y7/1灰白	密	やや少	0.5	2.5	長黒			外底やや軟	底 1/4

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SB16	Pハ1	262	杯B	14.1	3.8	11.0		外底ナデ、内底丁寧なナデ。	N7/0灰白	並	並	細	0.7	長黒				底1/4強
	〃	Pロ1上層	263	杯B			12.0		内外底ナデ。	10YR7/4にぶい黄橙	粗	多	0.5	2.0	チ黒		内面還元色。	軟	底1/7
	〃	Pハ1上層	264	蓋	15.8					N7/灰白	密	少	0.4	2.5	チ黒				1/9
	〃	P1・P5上層	265	蓋	14.8	3.2			天井外面の2/3に回転ケズリ。内面、周縁部に回転板ナデ後、全面に断続板ナデ。	7.5Y7/1灰白	並	やや多	0.5	3.0	英長チ	Ⅰ			1/2強
	〃	Pロ1	266	蓋					天井外面回転ケズリ。内面ナデ。	2.5Y7/1灰白	並	多	細	2.0	長黒				
	〃	Pロ1上層柱痕横	267	蓋	18.0	2.0			内面ナデ。	10YR6/1褐灰	並	並	細	2.0	長黒チ		外面自然釉。	硬	1/3
土師器	SB17	P13	269		22.1			△	外面回転ナデ後の調整不明。	7.5YR6/4にぶい橙	並	並	細	1.0	チ赤ガ				1/11
	〃	P13	270			1.6		△	調整不明。	7.5YR7/6橙	やや粗	並	0.5	2.0	チ赤				断片
	〃	P1	271				12.2			2.5Y8/3淡黄	並	並	細	細	チ			硬	底1/5
須恵器	〃	P2	272	高杯			8.2			5Y7/1灰白	並	並	細	1.0	英長黒				1/6
	〃	P1	273	杯B			10.7		内底細目の断続ハケ。	5Y1/7灰	やや粗	多	細	1.0	英長				底1/7
	〃	P14	274	ⅢA	17.7	2.0	15.0	△		5Y8/1灰白	やや粗	並	細	2.5	チ			軟	底1/7
	〃	P1	275	蓋	17.5	1.6				N6/灰	密	並	細	4.0	チ黒		口縁外面が幅9㎜で暗色。		天井1/7
	〃	P6	276	蓋	18.2					5Y6/1灰	並	並	細	2.0	チ黒		外面自然釉。	硬	1/12
土師器	〃	P13	277	甕	29.2				口縁内面粗いハケ。	7.5YR6/4にぶい橙	やや粗	多	1.0	2.0	チ	Ⅱ		硬	1/14
	〃	P14	278	カマド					ツバ部ナデ。	2.5Y8/2灰白	並	やや多	0.6	2.2	チ砂(円・角)	Ⅰ′			
土師器	SB18	P9	280	ⅢAⅡ	17.1	2.0	12.0	△	内外ミガキ。	7.5YR7/6橙	並	並	細	1.0	チ赤ガ				1/4
	〃	P5	281	杯AⅢ	13.2	3.6	8.8		内外ミガキ。	10YR7/3にぶい黄橙	やや粗	やや多	細	1.0	チ赤ガ				1/5弱
	〃	P12	282	杯AⅢ	14.6	2.8	8.8	△	外面ミガキ。	7.5YR8/6浅黄橙	密	並	細	細	赤チガ				底1/4
	〃	P5	283	椀A	12.0	3.2	6.3	△	全面ミガキ。立上り外面擦痕、断続ケズリか。	5YR6/6橙	並	並	細	1.5	チ赤ガ				1/4
	〃	P4Ⅱ・上層	284	ⅢB-2	23.9	4.2	16.6	△	全面赤彩。Ⅲ部内外ミガキと思われる。	10YR8/4浅黄橙	並	並	細	細	チガ赤				底1/3
須恵器	〃	P4上層	285	ⅢAⅢ	16.6	2.0	13.8		外底ナデ。	7.5Y6/1灰	やや粗	多	細	1.5	チ黒			やや軟	1/7
	〃	P3	286	ⅢAⅢ	15.2	2.2	11.2	△		体部5Y8/1灰白・底部7.5Y6/1	並	やや少	細	1.0	長黒			軟	底1/2
	〃	P3	287	ⅢA	18.6	2.1	13.2	△		2.5Y7/3浅黄	やや密	並	1.0	1.0	赤			軟	1/12
	〃	P1	288	杯BⅢ			8.4		外底ナデ。	5Y7/1灰白	並	並	細	1.5	チ				底1/5
	〃	P8	289	杯BⅢ			8.6	△		7.5Y7/1灰白	やや粗	多	細	2.0	チ黒				底1/2弱
	〃	P12	290	杯BⅡ			9.0		内外底ナデ。	N7/灰白	並	並	細	細	チ黒			硬	底1/3
	〃	P12	291	蓋		1.4			天井内外ナデ。	N6/灰	並	多	1.0	3.0	チ黒				
	〃	P3	292	蓋	15.4					N7/灰白	並	並	細	細	チ		外面自然釉。	硬	1/10
土師器	〃	P3	293	甕	15.0					7.5YR5/4にぶい褐	粗	多	0.8	2.5	チ雲	Ⅲ	外面赤変。	硬	1/8
	〃	P5上層	294	甕				△	口縁内面ハケ。	5YR6/6橙	粗	多	1.5	3.0	チ砂	Ⅰ			断片
土師器	SB19	Pイ6上層	295	ⅢA		1.4		△	調整不明。	5YR6/8橙	並	並	細	0.5	チ赤				断片
	〃	Pイ2上層	296	杯AⅣ			6.4	△	内外ミガキ。	10YR7/4にぶい黄橙	やや密	やや少	細	1.0	チガ		内面暗色5Y4/1。		底1/4弱
	〃	Pハ2上層	297	ⅢA	17.0	2.7	12.2	△	全面ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	細	2.0	チガ			硬	底1/6
	〃	Pイ2上層	298		16.8		11.7		全面ミガキ。	5YR6/6橙	密	並	細	1.8	赤チガ				1/4
	〃	Pハ1上層	299	蓋				△	調整不明。	7.5YR7/6橙	やや粗	やや多	細	6.0	チ赤ガ			軟	

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SB19	Pロ5 上層	300	杯AⅡ	14.4	2.7	10.8	△		7.5Y7/1 灰白	並	多	0.8	2.5	長黒			やや軟	1/4
	〃	Pロ2	301	杯AⅠ	15.6	3.0	12.5	△		5Y6/1灰	密	やや少	細	1.0	チ黒			やや軟	1/7
	〃	Pハ3	302	杯BⅡ			10.0	△		2.5Y8/2 灰白	並	多	細	1.5	英チ	Ⅰ		軟	底 1/6
	〃	Pハ2 上層	303	蓋					内面ナデ。	N6/灰	密	やや少	細	3.0	チ黒			硬	
	〃	Pロ2 上層	304	蓋	19.6					外面5Y6/1 灰	並	並	細	1.5	チ黒		内面N8/0 灰白。	硬	1/9
	〃	Pハ1 上層	305	高杯			9.8	△	内外回転ナデ。	2.5Y7/1 灰白	並	多	0.5	1.0	チ黒				
製塩土器	〃	Pイ5 上層	306		7.4			△	口縁外面ソギ取り。内面圧痕。	7.5YR7/6 橙	並	多	1.0	5.0	泥赤チ (角・円)				1/6
弥生土器	〃	Pイ5 上層	308	甕	16.1				口唇部外面ハケ。	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	多	細	1.8	チ閃		搬入品。	硬	1/18
黒色土器	SB20	P26 上層	309	杯					内外緻密なミガキ、内面暗文。	10YR5/3 にぶい黄褐	密	少	細	細	雲英閃		外面口縁下15mmまで黒色。	極硬	断片
土師器	〃	P12	310	ⅢA		2.1		△	調整不明。	10YR7/2 にぶい黄橙	並	多	細	細	チガ		体部外面 5Y4/1灰。		
	〃	P12	311	ⅢA	17.3	1.2	14.4	△	調整不明。	5YR7/6橙	密	少	細	1.3	チ赤			軟	底 1/4
	〃	P10	312	ⅢA			11.2	△		7.5YR7/6 橙	並	やや少	細	細	チ赤		外底に線刻。		底 1/4
	〃	P25	313	Ⅲ				△	外面回転ナデ。	10YR7/3 にぶい黄橙	並	並	細	1.0	チ		底部が 2.5Y4/1。	硬	断片
	〃	P21	314	杯AⅣ	9.6	4.0	5.8	△	回転ナデ後、粗いミガキの可能性。	5Y7/8橙	並	並	細	1.0	赤長ガ			軟	1/4
	〃	P25	315	杯AⅢ	11.5	3.1	7.6	△	回転ナデ後、内外ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	細	2.0	チ赤ガ				1/2 弱
	〃	P16	316	杯AⅢ	12.8	3.1	6.6	△	内外回転ナデ、特に口縁外面に強い回転ナデ。その後の調整不明。	7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗	並	細	2.0	チ赤ガ		内外に黒斑。		1/3
	〃		317	杯AⅣ			6.4	×		5Y7/1灰白	並	並	細	0.9	チ赤				底 1/5
	〃	P10	318	杯B			9.4		調整不明。	5YR6/8橙	並	やや少	細	3.0	赤長ガ				底 1/8
	〃	P7	319	杯B			9.1	△	調整不明。	7.5YR7/8 黄橙	やや密	並	細	1.0	チ赤			軟	底 1/7
	〃	P20	320	杯B			12.2	△	全面赤彩。内面ミガキ。	5YR4/6 赤褐	並	並	細	細	英チ赤	Ⅰ′	素地10YR8/3。		底 1/4 強
須恵器	〃	P5	321	ⅢA	15.4	2.1	14.1		底部は平滑。特に外底は極平滑。体部強い回転ナデ。	5Y7/1灰白	極密	少	細	細	黒チ			硬	底 1/13
	〃	P22	322	ⅢA	16.9	1.8	14.2		体部に強めの回転ナデ。	5Y7/1灰白	並	並	細	1.0	チ黒			やや軟	底 1/6 弱
	〃	P23	323	杯AⅤ			4.8	△	外底ヘラ切未調整。	5Y6/1灰	やや粗	並	0.5	0.5	赤長			軟	底 1/4 強
	〃	P25 上層	324	杯AⅢ	12.8	3.5	6.8	△		2.5Y8/2 灰白	やや粗	並	0.5	2.0	チ赤			軟	1/6
	〃	P22	325	杯AⅢ	12.2	3.4	7.5	△		2.5Y7/1 灰白	並	やや多	0.5	5.0	黒チ		下半が暗色 (N5/0)	軟	1/6
	〃	P12 上層	326	杯AⅡ	13.6	3.4	10.2		内外底ナデ。	N7/灰白	やや粗	やや多	細	1.0	英チ	Ⅰ			底 1/2 弱
	〃	P3	327	杯BⅢ	12.3	4.0	8.6		内底ナデ、外底ヘラ切痕。	5Y6/1灰	密	やや少	0.8	0.8	黒長			硬	1/6
	〃	P13	328	杯BⅡ			10.7			5Y7/1灰白	並	並	細	0.8	チ黒				底 1/8
	〃	P12 上層	329	杯	14.5	3.1	10.7	△	内底ハケ。	10Y8/1 灰白	並	並	細	1.5	英チ	Ⅰ		軟	2/3
	〃	P19	330	蓋	14.3				天井外面断続ケズリ。	5Y7/1灰白	並	並	細	1.0	チ			やや軟	1/4
	〃	P23 上層	331	蓋	16.7	2.0			天井外面接合・ヘラ切痕残る。内面、周縁部擦痕、他はナデ。	7.5Y5/1灰	並	多	細	3.0	長チ				完
	〃	P13 掘方	332	長頸壺					内面、接合痕、ナデ痕あり。	7.5Y5/1灰	並	やや多	0.6	1.0	チ黒		外面の一側方に自然釉。		

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SB20	P12 上層	333	壺			10.2		内底中央ナデ。	N8/灰白	並	並	0.4	1.5	長チ			やや硬	底 1/1
	〃	P12	334	壺					内面、接合痕と横ナデ。耳はケズリ。	N5/0灰白	並	並	0.5	0.8	チ黒			硬	
土師器	〃	P12	335	甕					口縁内面粗めのハケ。体部外面横ハケ。	7.5YR6/4 にぶい橙	並	並	0.8	2.5	チ砂赤	I			
	〃	P19	336	甕				△	体部外面粗めの縦ハケ。	7.5YR7/4 にぶい橙	並	多	2.0	3.0	チ(円) 砂ガ	I			断片
	〃	P12	337	甕					口縁上端面が凹。	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	多	1.0	4.0	長英チ			硬	断片
製塩土器	〃		338		8.6					7.5YR7/6 橙	やや粗	多	1.0	8.0	泥赤				1/7
土師器	SB21	Pイ4 底	350	Ⅲ A Ⅱ	15.0	1.6		△	口縁下、強い回転ナデ。外底ヘラ切痕。	10YR7/4 にぶい黄橙	並	多	細	0.7	チ赤ガ		黒斑。		1/4
	〃	Pイ4	351	Ⅲ A Ⅱ	15.8	2.3	12.0	△	全面ミガキ（内面磨耗か）。体部連続ミガキ。外底ヘラ切痕残る。	5YR6/6橙	並	並	細	0.5	赤チガ			軟	1/4 弱
	〃	Pハ2	352	杯 A Ⅰ	17.4	3.0	14.6	△		5YR6/8	並	多	0.5	2.0	チ赤			軟	底 1/6
	〃	Pイ4	353	Ⅲ A	18.0				口縁連続ナデ、外面ケズリ。	7.5YR8/6 黄橙	やや密	やや少	細	細	赤ガチ		搬入品。	硬	1/8
	〃	Pハ6	354	Ⅲ A					口縁連続ナデ、外面下半ケズリ。	7.5YR7/6 橙	密	少	細	1.0	赤チ雲		搬入品。	硬	断片
	〃	Pロ3	355		13.7	3.2	7.7		回転ナデ後、粗い連続ミガキ。内外立上り部に弱い段。	7.5YR7/6 橙	密	並	細	細	チ赤ガ				1/4
	〃	Pイ4	356	杯 A Ⅳ			6.2		全面ミガキ（外底含む。）	10YR8/4 浅黄橙	並	並	0.6	6.0	チガ				底 9/10
	〃	Pロ3	357		14.5	2.7	8.8	やや△	回転ナデ痕残す。内外粗い連続ミガキ。外面中位幅広の連続ミガキ。	7.5YR7/6 橙	並	少	細	細	赤チガ		断面10YR8/4 浅黄橙。		1/4
	〃	Pハ5	358	杯 A Ⅱ	15.0	3.5	9.7	×	磨耗・剝離により、調整不明。	2.5YR6/8 橙	密	やや少	細	0.8	チ長赤ガ				1/6
	〃	Pロ1	359	杯 A Ⅱ	15.0	2.9	9.4	△	外底ヘラ切痕。	7.5YR7/6 橙	やや密	並	細	1.0	チ赤ガ				底 1/7 弱
	〃	Pハ3	360	杯 B			8.2	△	内面ミガキ。	7.5YR7/6 橙	やや密	並	細	細	チ赤ガ			硬	底 5/6 強
	〃	Pハ3	361	Ⅲ B		1.8		△		5YR6/6橙	密	並	細	細	赤チガ				断片
	〃	Pロ5	362	Ⅲ B-2	19.1	3.0	12.0	×		5YR7/8橙	密	並	細	1.5	赤チガ			軟	底 1/7
	〃	Pハ6	363	蓋	22.5			△	天井外面回転ケズリ。内外ミガキ。	5YR6/6橙	密	並	細	1.0	チ赤ガ			硬	1/9
	〃	Pハ3	364	蓋	28.6				外面ケズリ後、分割ミガキ。	5YR7/6橙	密	並	細	1.2	チ雲赤		搬入品。	硬	1/10
須恵器	〃		365	Ⅲ A Ⅰ	19.2	2.0			外底ナデ。	2.5Y7/1 灰白	並	並	細	1.0	チ赤				底 1/9
	〃	Pハ6	366	杯 A Ⅲ	11.9	3.1	10.0		内底中央ナデ。外底ナデ、平行圧痕。	7.5Y6/1灰	並	並	細	1.2	長チ黒		内外火襷。		底 1/2 弱
	〃	Pイ4	367	杯 A Ⅱ	14.0	3.6	8.7	△	内底回転ナデ痕、外底ヘラ切痕。	5Y7/2灰白	並	やや多	細	1.1	チ赤			軟	1/3
	〃	Pイ4	368	杯 A Ⅱ	14.4	3.2	10.4	△		2.5Y6/3 にぶい黄	並	多	細	1.0	チ赤			軟	底 1/12
	〃	Pイ4	369	杯 B Ⅱ			10.0		外底ナデ。	N6/0灰	並	やや多	細	4.5	長黒				底 1/4
	〃	Pハ5 掘方床	370	蓋					天井外面回転ケズリ。内面ナデ。	N7/0灰白	並	並	0.7	1.2	チ黒				
	〃	Pハ5	371	蓋	18.6					N7/0灰白	密	並	細	細	チ黒				1/13
	〃	Pイ5	372	鉢	28.0			△	外面回転カキ目残る。口縁端部強い回転ナデ。	2.5Y8/1 灰白	並	多	細	1.5	チ			軟	1/6 強
土師器	〃	Pヘ3	373	甕					口縁内面粗い横ハケ。	10YR7/4 にぶい黄橙	密	多	0.5	1.1	英チ			硬	断片
土師器	SB22	P9	378	杯 A Ⅳ	9.6	4.0	5.2	△	内外回転ナデ後、ミガキ。	5YR6/6橙	並	多	0.5	1.5	チガ赤			硬	1/4
	〃	P9	379	杯 A Ⅲ	12.8	3.7	10.1	×	内外ミガキ。	7.5YR7/6 橙	並	多	細	3.0	チ赤ガ				底 1/5
	〃	P9	380	杯 A Ⅱ	14.2	3.0	10.1	△		10YR8/4 浅黄橙	並	並	0.8	2.0	チ赤ガ				1/6
	〃	P8	381		14.8					10YR7/3 にぶい黄橙	密	多	細	細	チガ		外面と口縁内面黒変。		1/4

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SB22	P9	382	高杯A				×	脚部面取り。	7.5YR7/6 橙	密	やや少	0.6	1.5	チ赤			やや軟	
	〃	P12	383	高杯B				△	杯部内面ミガキ。	7.5YR6/6 橙	並	多	細	1.2	チ赤ガ				
	〃	P8	384	Ⅲ A Ⅱ	14.9	1.6	10.5		体部回転ナデ。外底ナデ。	10YR7/2 にぶい黄橙	密	並	細	1.0	チ赤				底 1/6
	〃	P5	385	杯A	13.2	2.5	10.0	×	外底ヘラ切痕。	7.5YR7/6 橙	密	少	細	細	チ赤				底 1/5
	〃	P11	386	Ⅲ A	15.8	1.8	13.1		体部外面ミガキ。	5YR6/6橙	密	並	細	0.7	チ赤ガ		内面10YR7/4。	硬	1/10 強
	〃	P9柱痕	387	Ⅲ A	19.3			△		5YR7/8橙	密	少	細	細	チ赤			軟	1/10
	〃	P9	388	蓋	17.0	2.4				5YR6/6橙	並	多	0.5	5.0	チ赤				1/2
	〃	P12	389	蓋				×		10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗	多	細	細	チガ赤				
須恵器	〃	P13	390	Ⅲ A	17.2	2.2		△		2.5Y7/3 浅黄	やや粗	並	0.5	2.2	チ赤			軟	1/12
	〃	P13	391	Ⅲ A	17.5				外底ナデ。	7.5Y灰白	並	やや多	細	0.8	チ				1/8 強
	〃	P12	392	杯B Ⅲ			9.4	△	内外底ナデ。	7.5Y6/1 灰白	やや粗	並	細	1.0	長				底 1/3
	〃	P9	393	蓋	14.1	2.1			外面粘土紐痕。内面は、周縁部回転板ナデ、他はナデにより平ら。	N7/灰白	並	並	細	2.0	長黒		外面降灰。		完
	〃	P9	394	蓋	19.8	1.8			内面周縁部擦痕。	7.5Y7/1 灰白	並	多	細	5.0	チ黒				1/2
土師器	〃	P11	395	甕	19.5				外面胴部タタキ、頸部に細かい横ハケ。内面胴部圧痕、口縁～頸部細かい横ハケ。	2.5Y7/4 浅黄	並	やや多	1.0	5.0	泥砂チ(円)ガ	Ⅰ	被熱、外面剝離。		1/6
土師器	SA4	P7	397	Ⅲ A	16.1			×		7.5YR7/8 黄橙	密	並	細	1.1	チ赤			軟	1/3
	〃	P4	398	Ⅲ A	18.2	1.2	15.0	△	口縁部と内底に回転ナデ痕。	5YR7/6橙	密	並	細	2.1	チ赤ガ				底 1/6 弱
	〃	P4	399	杯A	12.3	2.8	8.2	△	体部回転ナデ痕。	5YR7/6橙	密	やや少	細	1.0	チ赤				底 1/2
	〃	P4	400	杯A	13.6	2.8	8.2	△	外底ヘラ切痕。	7.5YR6/6 橙	並	やや多	細	2.0	チ赤ガ				半完
	〃	P4	401	杯A	12.5	2.5	7.6	△	体部回転ナデ痕。	5YR7/6橙	密	並	細	細	チ赤				底 1/5
	〃	P4	402	杯A			8.8		外底ナデ。	10YR7/4 にぶい黄橙	並	並	細	0.5	チ赤ガ				底 1/6 弱
	〃	P4	403	蓋	16.4			△		10YR8/4 浅黄橙	並	並	細	0.5	チガ				1/8
須恵器	〃	P4	404	Ⅲ A	16.4	1.7	13.4	△		10YR8/4 浅黄橙	粗	多	0.8	3.0	チ赤			軟	1/7
	〃	P4	405	杯	12.0					5Y6/1灰	並	並	細	細	チ		外面自然釉。		1/7
	〃	P7	406	杯	12.4			×		7.5YR8/6 浅黄橙	並	多	細	1.2	長チ赤		底部はやや還元色。	軟	
	〃	P4	407	蓋	17.4				天井内面ナデ。	N6/灰	並	多	細	8.0	長英チ		やや歪み。内面は口縁部のみ濃色。	硬	1/7
	〃	P4柱痕	408	壺	5.8	7.2	7.0	外面△		N7/灰白	並	多	0.5	5.0	長英黒チ		内面にも降灰。		1/2
土師器	〃	P4	409	甕	14.4				体部外面粗目の縦ハケ。口縁部横ナデ。頸部内面に上方への擦痕。	10YR6/4 にぶい黄橙	並	多	0.7	1.5	チ	Ⅱ		硬	1/7
製塩土器	〃	P4	410							5YR7/4 にぶい橙	やや粗	極多	1.0	10.0	泥砂チ		外面変色。		
須恵器	〃	P4	411	甕	34.0				口縁部外面に片刃彫状の文様。	N7/灰白	並	並	細	0.5	長チ				1/15
須恵器	SA9	P3	412	蓋	14.8				外面の1/2強に回転ケズリ。内面、周縁部回転板ナデ、天井部ナデ。	5Y7/1灰白	粗	多	0.5	0.9	英長	Ⅰ			1/5
土師器	SA10	P2	413	杯A	15.0	3.7	11.0	△	内外回転ナデ仕上。外底ヘラ切痕。	7.5YR8/6 黄橙	密	並	細	1.3	チ赤ガ				1/2
土師器	SA11	P7	414	Ⅲ A	16.8	2.3	12.1	×	全面ミガキとみられる。	7.5YR6/6 橙	並	やや多	細	1.0	チガ				1/8
	〃	P6下層	415	碗A	12.2	3.4	6.7	×	内外回転ナデ。ミガキの可能性。	7.5YR6/4 にぶい橙	並	多	細	2.0	チガ赤				1/7

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SA11	P5	416	杯B	15.4	4.0	11.2	×	内外ミガキ。	5YR7/6橙	密	並	細	1.0	チ赤ガ				底1/9
	〃	P5	417	杯A	14.4	3.7	9.2	×	全面赤彩。内底指頭圧痕。体部外面、連続ナデ、下方接合痕。	2.5YR6/8橙	粗	多	0.4	2.0	英長チ	Ⅰ	素地10YR7/4。		1/5
	〃	P2	418	杯	17.0			△	内外赤彩、ミガキ。外面下部ケズリ。	2.5YR5/6明赤褐	並	並	細	0.8	英長	Ⅰ	素地10YR8/3。	硬	1/7
	〃	P2	419	杯C	19.0			△	内外赤彩、ミガキ。外面下半断続ケズリ。	5YR6/6橙	並	やや多	0.4	1.8	英長チガ	Ⅰ	素地10YR7/4。	やや硬	1/13
	〃	P2	420	杯C	22.2			△	内外赤彩、ミガキ。外面下半断続ケズリ。	2.5YR5/6明赤褐	並	並	細	1.5	英チ	Ⅰ	素地10YR8/1。	硬	1/18
	〃	P2	421	杯	16.4			△	内外赤彩、ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	細	1.7	英チ赤	Ⅰ	素地10YR8/2。	硬	1/12
	〃	P2	422	Ⅲ B-2	22.0	4.2	12.7	×	内外赤彩。杯部内面ミガキ。杯部外底回転ケズリ。	10YR7/3にぶい黄橙	並	並	細	0.8	英長ガ	Ⅰ	素地10YR8/2。		底1/4強
	〃	P2	423	高杯				×	全面赤彩(脚内面上方除く)。	2.5YR5/8明赤褐	やや粗	やや多	細	4.0	英長チガ	Ⅰ	素地10YR8/2。		
須恵器	〃	P6	424	Ⅲ A	18.4	2.8	14.8		内外底ナデ。外底繊維圧痕。	7.5Y6/1灰	並	やや多	細	1.0	チ赤		内面やや酸化色。全体に歪み。		底1/2
	〃	P6	425	杯B			10.3	△		5Y6/1灰	やや粗	やや多	細	1.0	長チ赤				底1/7
	〃	P1	426	蓋	21.8				内面周縁部回転ケズリ。	5Y6/1灰	並	並	細	細	チ黒		外面自然釉。	硬	1/7
土師器	SK16		427	杯C	14.8				全面赤彩。内面に放射暗文。外面断続ケズリ。体部外面に接合痕。	2.5YR4/6赤褐	やや粗	やや多	0.4	2.0	英長ガ	Ⅰ	素地10YR8/2。	硬	1/9
	〃	下層	428	Ⅲ B-1			15.0		全面赤彩。	2.5YR5/6明赤褐	やや粗	やや多	細	1.5	英長ガ	Ⅰ	素地10YR8/2。	硬	底1/8弱
	〃		429	高杯A					外面ケズリ痕。	10YR7/3にぶい黄橙	並	並	細	1.5	赤チガ				
須恵器	〃		430	Ⅲ A	17.0	2.1	15.0		外底ナデ。	7.5Y6/1灰	並	並	細	2.0	長チ黒				1/10
	〃		431	杯A Ⅳ	9.8	3.6	6.2	△		7.5Y6/1灰	やや粗	多	0.5	4.0	黒チ				口縁1/7 底1/3
	〃		432	杯B Ⅲ			9.0			N7/灰白	粗	多	細	0.8	英長黒	Ⅰ		硬	底1/4
	〃	下層	433	杯B Ⅰ	18.4	4.9	13.7		内底板ナデ後、ナデ。外底ケズリか。	5Y8/2灰白	並	並	0.5	1.0	チ黒				底1/8
	〃		434	蓋	14.0					10Y5/1灰	粗	多	0.5	0.5	英長黒		外面自然釉。	硬	
	〃		435	蓋	14.9			△		5Y6/1灰	やや粗	やや多	0.5	0.8	チ			軟	
	〃		436	蓋	15.4	2.6			天井外面2/3弱に回転ケズリ。内面、周縁部擦痕、天井ナデ。	7.5Y7/1灰白	並	やや多	0.5	1.5	英チ	Ⅰ			1/4
	〃		437	蓋					内面ナデ。	7.5Y7/1灰白	密	並	0.5	2.0	長黒			硬	
土師器	〃		438	甕					内面ケズリ後ハケ。	7.5YR6/4にぶい橙	粗	多	1.0	2.0	チ		外面赤変、ス。	硬	
製塩土器	〃		439		14.4			△	外面指頭圧痕。	10YR7/2にぶい黄橙	粗	多	1.5	4.0	泥チ(円)				1/9
須恵器	〃		440	甕					内面、同心円痕をナデ消す。	N6/灰	並	並	細	5.0	長				
土師器	SK18		444	Ⅲ				△	内外赤彩。	5YR6/6橙	並	やや多	0.5	1.0	英チ赤	Ⅰ	素地7.5YR8/2。		断片
	〃	上層	445	杯B					全面赤彩。	5YR6/6橙	並	並	細	細	英チ	Ⅰ	素地10YR8/2。	硬	断片
	〃		446	杯			9.8		外面立ち上りに擦痕。内外底ナデ。	N7/灰白	並	多	0.5	1.0	英チ赤	Ⅰ		やや軟	底1/3
	〃		447	杯	12.4					5Y7/1灰白	やや密	やや少	細	2.0	チ			硬	1/9強
	〃		448	杯B Ⅲ			8.4		外底ナデ。	5Y7/1灰白	並	並	細	5.0	チ黒				底1/2弱
	〃		449	杯B Ⅱ			11.0			2.5Y7/1灰白	並	やや多	細	2.0	チ				底1/10
	〃		450	杯B Ⅰ			13.2		外底ナデ。	7.5Y6/1灰	並	並	0.5	0.5	チ			硬	底1/5
	〃		451	蓋	15.2					5Y7/2灰白	やや粗	多	細	1.0	英チ	Ⅰ			1/13
	〃		452	蓋	18.6			△		5Y8/1灰白	並	少	細	1.0	チ			軟	1/16

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SK18		453	甕				△		10YR8/3 浅黄橙	並	多	細	4.0	英(角)砂・チ(円)	Ⅰ			断片
	〃	上層	454	甕	23.6			△		10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗	多	1.0	5.0	英チ雲	Ⅲ	搬入品。	硬	
製塩土器	〃		455					△		7.5YR7/6 橙	並	多	1.0	2.0	チ砂赤				断片
須恵器	〃		456	甕					外面タタキ後、一部回転カキ目。内面当具痕をナデ消す。	5Y7/1灰白	やや粗	並	細	1.0	英長チ				破片
	〃		457	甕					外面平行タタキ後、弱いナデ。	N6/灰	密	並	細	2.0	長チ			硬	破片
土師器	SK20		458	ⅢA	19.4	1.9	17.1	△		5YR7/6橙	密	少	細	1.5	チ赤			硬	底 1/11
	〃		459	杯A			12.7	△	全面ミガキ。	2.5Y8/3 淡黄	並	多	細	細	チ赤				底 1/3
	〃		460	杯	20.1				内外赤彩、幅広のミガキ。	2.5YR6/6 橙	並	多	0.5	1.0	チガ		素地10YR8/2 灰白。	硬	
	〃	Ⅰ層	461	杯B				△	内面赤彩、ミガキ残る。	5YR5/6 明赤褐	並	並	細	0.8	チ		素地5YR7/8。	軟	
	〃	Ⅱ層下	462	蓋	18.0			△	内外赤彩。外面ミガキ残る。	2.5YR6/6 橙	並	多	0.5	2.0	チ	Ⅰ	素地10YR8/2。		1/8
須恵器	〃		463	Ⅲ	20.0	2.0		△		5Y8/1灰白	やや密	並	細	1.0	英チ			軟	1/9
	〃		464	杯A			7.6	△		5Y7/1灰白	密	やや少	細	1.0	チ黒			軟	底 1/6
	〃		465	杯BⅣ			8.2			5Y8/1灰白	並	やや多	細	細	英チ	Ⅰ		やや軟	底 1/4 弱
	〃		466	杯BⅢ	12.9	4.0	9.2		外底断続ケズリ後、ナデ。体部外面接合痕。	N6/灰	並	並	細	1.5	長英黒		外面暗色、光沢。	硬	1/4 強
	〃	Ⅱ層下	467	杯BⅢ			8.7		内外底ナデ。	7.5Y6/1灰	密	並	細	細	英長			硬	底 1/11
	〃		468	杯B			9.0		外底ナデ。	7.5Y6/1灰	極密	少	細	細	チ黒			硬	底 1/8
	〃		469	杯BⅡ	15.6	5.5	10.6	△		5Y6/1灰	やや密	並	細	2.0	赤長英		内面5YR5/4 にぶい赤褐		1/4
	〃		470	杯BⅡ			10.0		接地面に繊維圧痕。	5Y6/1灰	並	並	細	1.5	チ			硬	底 1/8
	〃		471	蓋	13.0				天井外面1/2に回転ケズリ。内面、周縁部擦痕、天井部ナデ。	N7/灰白	並	多	0.5	2.0	黒チ			硬	1/3
	〃		472	蓋	14.4			△	内面、周縁部擦痕、天井部平坦。	7.5Y7/1 灰白	やや粗	多	細	1.0	英チ	Ⅰ		やや軟	1/4 強
	〃		473	蓋	14.0	3.2			天井外面回転ケズリ、内面ナデ。調整丁寧。	N6/灰	密	並	0.5	1.0	長英				1/5
	〃	上層	474	蓋	15.0				天井外周外面に断続ケズリ。カエリは貼付。	5Y8/1灰白	密	並	0.7	0.7	英長				1/8
	〃		475	蓋	17.3				内外丁寧な回転ナデ仕上。	N7/灰白	密	並	細	0.5	英長			硬	1/9
	〃		476	蓋					内面平滑。	7.5Y7/1 灰白	密	並	細	1.0	黒長			硬	
	〃		477	蓋					天井外面回転ケズリ。内面周縁部擦痕。	7.5Y7/1 灰白	並	やや多	細	1.0	英チ	Ⅰ			
	〃	下層	478	蓋	20.4				天井内面ナデ。	N6/灰	並	並	細	細	チ黒			硬	1/9
	〃		479	蓋					天井外面ケズリ。	2.5Y6/1 黄灰	密	少	細	細	英長		内外自然釉。	硬	1/4
	〃		480		24.6			△		5Y8/1灰白	並	並	細	1.5	チ赤			軟	
	〃		481	高杯			13.0		裾端部に強い回転ナデ。	2.5Y8/3 淡黄	密	やや多	細	1.0	英チ	Ⅰ			底 1/7
	〃	上層	482	高杯			14.0			5Y7/1灰白	密	多	細	1.0	英チ	Ⅰ			底 1/4
	〃		483				10.6	△		5Y8/1灰白	並	多	0.5	0.5	英	Ⅰ		やや軟	底 1/8
	〃		484						上胴部に凹線。	N7/灰白	密	少	細	細	黒長		胴径12.0cm。	硬	胴 1/4
	〃		485	壺						N8/灰白	並	並	細	1.5	チ黒		胴径18.4cm。		
	〃		486	壺	16.1				内外とも整美な回転ナデ。	N7/灰白	並	並	細	2.5	チ黒		肩部内面銀色化。肩部接合部で剥離。		
	〃		487	甕	22.8				上胴部外面細目のタタキ痕。	2.5Y7/1 灰白	並	並	細	細	黒チ		全ての上面に自然釉。		

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SK20		488	甕					外面タタキ→ナデ→連続横ハケ。内面、当具痕をナデ消す。	N7/灰白	密	並	細	4.0	チ				
	〃	Ⅱ層・下層	489	甕	23.6				外面タタキ→連続横ハケ。内面当具痕→弱いナデ。	7.5Y6/1灰	密	やや少	細	4.0	チ		胴径40.2cm。		頸2/3
製塩土器	〃	Ⅱ層・下層	490					△		5Y8/1灰白	並	多	1.0	2.5	砂チ				断片
黒色土器	SK21		494					△	内面ミガキ。	10YR8/4 浅黄橙	並	並	細	細	チ赤ガ		内面黒色。断面褐灰色。		
	〃		495	Ⅲ A	17.6	2.0	15.0	△	全面ミガキ。	7.5YR7/6 橙	並	並	細	細	チ赤				底1/9
	〃		496	Ⅲ A	19.7	1.3	16.8	△		7.5YR8/6 浅黄橙	並	並	細	細	赤チ				1/11
	〃		497	Ⅲ A		1.4		△		10YR7/4 明黄褐	並	少	細	細	赤チガ			軟	断片
	〃		498	Ⅲ A				△		7.5YR7/8 黄橙	密	少	細	細	長赤			軟	断片
	〃		499	Ⅲ A				△		2.5YR6/6 橙	密	少	細	細	赤チ			軟	断片
	〃		500	杯A	13.4			△	内面ミガキ残る。	5YR6/6橙	並	並	細	1.0	チ赤				1/12
	〃		501	杯	13.4			△		5YR7/6橙	密	並	細	0.8	チ赤		口縁部のみ明色。	軟	1/9
	〃		502	杯	12.8			△	外面回転ナデ。	10YR7/3 にぶい黄橙	並	並	細	1.0	チ赤ガ				1/8強
	〃		503	杯	15.2				内外粗いミガキ。	10YR7/4 にぶい黄橙	密	並	細	細	チ				1/9
	〃		504	杯A			9.6	△		10YR8/4 浅黄橙	並	並	細	細	チ赤				底1/8
	〃		505	杯A			9.8	△		7.5YR8/4 浅黄橙	並	並	細	1.0	赤チ				底1/6
	〃		506	杯A			11.5	△	全面ミガキ。	10YR8/3 浅黄橙	並	並	細	3.0	チ赤ガ				底1/8
	〃		507	杯B			12.4			7.5YR7/6 橙	並	並	細	0.5	チ				底1/8
	〃		508	杯B						7.5YR7/6 橙	密	少	細	細	赤チガ				底1/8
	〃		509	蓋	16.9			△		2.5YR6/8 橙	密	並	細	1.0	チ赤ガ			軟	1/9
	〃		510	Ⅲ B			13.5	△		10YR8/3 浅黄橙	密	少	細	細	チ赤ガ			軟	底1/11
	〃		511	壺	9.1			△	外面ミガキ。	10YR7/3 にぶい黄橙	並	やや多	細	細	チガ		黒斑。	硬	1/9
須恵器	〃		512	Ⅲ A						N6/灰	並	並	細	0.5	チ黒			硬	断片
	〃		513	Ⅲ A				△		2.5Y8/2 灰白	並	並	細	1.0	チ赤			軟	断片
	〃		514	Ⅲ A	16.5	1.9	14.0			2.5Y7/4 浅黄	密	並	細	細	チ		口縁端部が焼成不良。		1/14
	〃		515	Ⅲ A	18.0			△		2.5Y8/2 灰白	やや粗	並	細	細	チ			軟	1/9
	〃		516	杯AⅣ	10.2	3.6	6.4	△		10YR7/4 にぶい黄橙	並	並	細	3.0	チ赤			特に上方軟	底1/1
	〃		517	杯	13.7			△		2.5Y7/2 灰黄	並	少	細	細	チ赤			軟	1/11
	〃		518	杯	13.6					N6/灰	密	並	細	細	チ黒		口縁のみセピア色。	硬	1/9
	〃		519	杯	13.7			△		5Y7/1灰白	密	やや少	細	細	チ黒		口縁部内面がやや暗色。	軟	1/9
	〃		520	杯	13.0					5Y7/1灰白	密	少	細	細	チ黒		口縁のみ濃色。		1/11
	〃		521	杯	16.8				口縁部の回転ナデが強い。	10YR7/4 にぶい黄橙	密	少	細	細	チ赤			特に口縁軟	1/8弱
	〃		522	杯AⅢ			8.7	△		2.5Y7/1 灰白	密	少	細	細	チ赤			軟	底1/8
	〃		523	杯A			9.2	△		7.5Y6/1灰	並	並	細	2.0	チガ			軟	底1/4
	〃		524	杯AⅢ			8.2		内外底ナデ。	2.5Y7/1 灰白	並	やや多	0.5	2.0	英チ黒	Ⅰ		やや軟	底1/7
	〃		525	杯AⅢ			7.0		外底ナデ。	N5/灰	密	やや少	細	1.0	チ黒		518と同様の胎土・焼成。	硬	底1/2弱

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SK21		526	杯AⅡ			11.0		内外底ナデ。内底平滑。	7.5Y6/1灰	極密	極少	細	細	長黒			硬	底1/7
	〃		527	杯BⅢ			8.7		内外底ナデ。	N6/灰	並	並	細	2.0	チ赤			硬	底1/8
	〃		528	杯B			9.2		内外底ナデ。	N6/灰	並	やや多	0.5	3.0	英チ黒	Ⅰ			底1/5
	〃		529	杯BⅢ			8.4		外底ナデ。	10Y6/1灰	やや密	並	細	4.0	長チ		内外発色差あり。	硬	底1/2弱
	〃		530	蓋	15.6				天井外面ナデ、内面周縁部擦痕。	N5/灰白	やや密	並	細	2.0	長黒				1/7
	〃		531	蓋	17.1				天井外面は幅広の回転ケズリ。内面ナデ。	7.5Y7/1灰白	密	並	細	4.0	チ				天井1/9
	〃		532	壺					下胴部外面回転ケズリ。	10Y4/灰	並	やや多	0.7	4.0	チ			硬	底1/4
土師器	〃		533	甕				外面△	内面、体部外面に粗く強い横ハケ。	10YR7/4にぶい黄橙	並	やや多	1.0	3.5	チ砂ガ	Ⅰ			断片
	〃		534	甕	25.2				口縁内面横ハケ。	10YR6/4にぶい黄橙	やや粗	多	0.5	1.5	チ	Ⅱ		硬	断片
製塩土器	〃		535							5Y7/1灰白	並	多	1.0	3.0	砂チ(円・角)				断片
	〃		537	坩堝	10.2				外面指頭圧痕、内面比較的平滑。胎土にスサ混入。		粗	多	1.0	2.0	英長チ		口縁部内面及び外面の一部に黒～黄色のカラミが付着。注口部付近はにぶい赤色。カラミに気泡。内面と口縁部は熱により硬化、灰白色。外面下半は脆弱化、黄灰色。断面暗灰色。		1/2
須恵器	〃		538	甕	19.4				外面平行タタキ、内面当具痕をナデ消す。	10Y4/1灰	密	並	細	5.0	チ赤		外面自然釉。	硬	1/5
土師器	SK22		539	杯	15.0			△		7.5YR7/6橙	やや粗	やや多	細	1.0	チ赤				1/12
	〃		540	杯B			11.4	△		7.5YR7/4にぶい橙	やや密	やや少	細	細	チ赤			軟	底1/7
	〃		541		19.2				内外ミガキ。	5YR6/6橙	やや密	やや少	細	細	チ赤				1/13
須恵器	〃		542	ⅢAⅡ	16.5	2.1	12.0	△		10YR6/3にぶい黄橙	密	やや多	細	1.0	チ赤			軟	1/4
	〃		543	ⅢAⅠ	18.7		16.0	△		5Y7/1灰白	並	並	細	1.0	チ			軟	1/14
	〃		544	ⅢAⅠ	19.5		16.3	△		7.5Y8/1灰白	並	やや多	細	細	チ黒			軟	1/10
	〃		545	ⅢAⅠ			15.6			2.5Y7/2灰黄	やや粗	多	0.5	1.0	英長チ	Ⅰ		やや軟	底1/3
	〃		546	ⅢA			18.3	△		5Y7/1灰白	やや粗	並	細	4.0	チ黒			軟	底1/2
	〃		547	杯A			6.9	△		5Y6/1灰	密	並	細	0.6	チ黒			軟	底1/5
	〃		548	欠番															
	〃		549	杯A			9.2		外底ヘラ切未調整。	10Y7/1灰白	並	並	細	細	チ黒		底部が円盤状に剝離。		底3/4
	〃		550	杯AⅡ	14.8	4.0	10.8	△	口縁部に強い回転ナデ。外底ナデ。体部接合痕。	5Y5/1灰	並	多	細	2.0	チ		口縁外面暗色。	軟	1/4弱
	〃		551	杯BⅢ	12.8					2.5Y6/2灰黄	やや粗	並	細	2.0	英チ	Ⅰ			1/5
	〃		552	杯BⅢ	14.0				内面回転板ナデ風。	5Y7/1灰白	やや粗	多	0.5	1.5	英長チ	Ⅰ			底1/8
	〃		553	杯B			8.4	△		2.5Y8/3灰白	やや粗	やや多	細	0.5	英チ黒	Ⅰ		軟	底1/5
	〃		554	杯BⅢ			8.8		内外底ナデ。	2.5Y7/1灰白	やや密	並	細	細	チ黒				底1/4
	〃		555	杯BⅢ			8.7		内外底ナデ。低いが整美な高台。調整丁寧。	N7/灰白	並	並	細	細	英黒		胎土はややガラス化。	硬	底3/4
	〃		556	杯BⅢ			9.0		外底弱いナデ。	10Y6/1灰	密	少	細	0.5	チ黒				底1/3強
	〃		557	杯BⅢ			9.0	△		2.5Y8/1灰白	やや粗	並	細	1.0	英	Ⅰ		軟	底1/7

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SK22		558	杯BⅢ			9.4		外底回転ケズリ。	7.5Y7/1 灰白	並	多	細	0.5	英チ	Ⅰ			底 1/4 強
	〃		559	杯B			9.8	△		5Y7/1灰白	やや粗	多	0.5	2.0	英長	Ⅰ		やや軟	底 1/4
	〃		560	杯BⅡ			10.1	△		2.5Y7/2 灰黄	やや粗	並	0.5	0.5	チ赤		内面生焼け。	軟	底 1/7
	〃		561	杯BⅡ			10.2	△		5Y7/1灰白	並	並	細	1.0	チ赤			軟	底 1/9
	〃		562	杯BⅠ			12.4	△	内底極めて丁寧なナデにより平滑。	2.5Y8/2 灰白	並	並	細	3.0	チ赤			軟	底 1/1
	〃		563	蓋Ⅲ	13.0			△	天井外面ヘラ切痕、外面の1/2強に回転ケズリ。	5Y7/1灰白	並	並	細	3.2	チ黒			軟	1/10
	〃		564	蓋Ⅲ	13.0				外面の4/5に回転ケズリ。	N7/灰白	並	やや多	0.5	2.0	英チ黒	Ⅰ			1/8
	〃		565	蓋Ⅲ	13.0				内面周縁部に擦痕。	2.5Y7/1 灰白	粗	多	0.5	1.0	英チ			硬	1/8
	〃		566	蓋Ⅲ	13.0			×	天井外面回転ケズリ。	2.5Y7/2 灰黄	並	並	細	1.0	チ			軟	1/5
	〃		567	蓋Ⅲ	13.5	2.5			天井内外面ナデ。	N7/灰白	並	やや多	0.5	5.0	長黒チ				半完
	〃		568	蓋Ⅲ	13.3				外面の3/4に回転ケズリ。	5Y6/1灰	並	並	0.5	1.8	チ黒			内面のみ軟	1/5
	〃		569	蓋Ⅲ	13.3	2.6			天井内外粘土紐痕。外面の1/2に回転ケズリ。	2.5Y6/1灰	やや粗	並	0.5	4.0	チ黒				半完
	〃		570	蓋Ⅲ	13.4			×		2.5Y7/2 灰黄	並	並	0.6	2.0	チ赤			極軟	1/8
	〃		571	蓋Ⅲ	13.6			△	天井外面ヘラ切後、2/3に回転ケズリ。天井内面ナデ。	5Y7/1灰白	並	並	細	1.4	チ黒			やや軟	1/7
	〃		572	蓋Ⅲ	13.6			△		2.5Y7/1 灰白	並	並	細	1.2	長チ黒				1/8 弱
	〃		573	蓋Ⅲ	13.7				天井外面ヘラ切後、回転ケズリ。	2.5Y7/2 灰黄	密	並	細	1.5	チ			軟	1/7
	〃		574	蓋Ⅲ	14.0			△		2.5Y8/2 灰白	並	並	細	1.4	チ		内面中央のみ円形に暗色。	軟	1/2
	〃		575	蓋Ⅲ	14.5				外面1/2弱及び内面に回転ケズリ。	N6/灰	並	並	細	0.8	長英黒				1/2
	〃		576	蓋Ⅲ	14.8	1.5			天井外面ヘラ切痕。	N6/灰	並	並	細	1.5	チ黒				1/6
	〃		577	蓋	15.6				外面の1/2に回転ケズリ。天井内面ナデ。	N7/灰白	並	並	細	1.2	チ黒		外面若干の降灰。		1/4
	〃		578	蓋	15.8			△		2.5Y6/1 黄灰	並	並	細	1.0	チ黒			やや軟	1/9
	〃		579	蓋Ⅱ	16.8				天井部、外面回転ケズリ、内面ナデ。	N7/灰白	やや粗	並	細	0.6	黒英チ				1/9
	〃		580	蓋	19.0			△		7.5Y8/1 灰白	粗	多	0.6	1.0	英チ黒	Ⅰ		軟	1/10
	〃		581	蓋Ⅰ	20.9				外面の2/3に回転ケズリ。天井内面平滑。	2.5Y7/2 灰黄	並	並	細	1.0	チ黒			やや軟 特に天井内面	1/9
	〃		582	蓋Ⅰ	21.0				外面の3/4に回転ケズリ。	2.5Y8/2 灰白	並	やや多	細	細	チ赤			軟	1/5
	〃		583	蓋Ⅰ	21.0			△	外面の3/4に回転ケズリ。内面周縁部擦痕。	N6/灰	並	多	0.5	2.1	英長チ黒	Ⅰ	一部胎土が異なる。		1/9
	〃		584	蓋	23.0			△	天井外面回転ケズリ。	5Y7/1灰白	やや粗	多	0.8	1.4	英チ	Ⅰ			1/14
	〃		585	蓋	23.6			△	内面周縁部回転ケズリ。	5Y7/1灰白	やや粗	多	0.4	0.8	英チ黒	Ⅰ		やや軟	1/9
	〃		586	蓋	25.4			×		2.5Y7/2 灰黄	並	やや多	0.5	2.0	英チ			軟	1/9
	〃		587	蓋	28.4			×		5Y7/2灰白	並	多	0.6	3.5	英チ	Ⅰ		軟	1/7
	〃		588	蓋					天井外面回転ケズリ。内面周縁部擦痕、中央部ナデ。	2.5Y7/1 灰白	並	多	0.5	1.5	チ		外面若干自然釉。	やや硬	
	〃		589	蓋				△	天井、外面回転ケズリ、内面ナデ。	5Y7/1灰白	粗	多	0.6	2.0	英チ	Ⅰ		軟	
	〃		590	蓋					天井、外面回転ケズリ、内面ナデにより平ら。	5Y7/1灰白	並	やや多	0.4	1.2	英チ		内面中央ヘラ記号。	やや軟	
	〃		591	蓋	13.4					2.5Y6/1 黄灰	並	並	細	細	英チ			硬	1/10

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SK22		592	高杯				△		2.5Y8/3 淡黄	密	やや少	細	細	チ			軟	
	〃		593	高杯			11.0	△		2.5Y8/1 灰白	粗	多	0.5	2.1	英チ	Ⅰ		やや軟	底 1/8
	〃		594	鉢	27.0				内面及び口縁部、整美な仕上げ。	5Y6/1灰	並	並	細	2.0	チ黒				1/8
	〃		595	壺	4.4					N6/灰	並	並	0.5	1.0	長チ		頸部接合部で剝離。		頸 2/3
土師器	〃		600	甕	20.2			△	上胴部外面、口縁部内面に粗いハケ痕。	7.5YR7/4 にぶい橙	並	多	0.7	4.0	チ(円・角)赤ガ	Ⅰ′	外面と上胴部の一部にススケ。		1/7
	〃		601	甕	27.2			×	上胴部、口縁内面に粗いハケ痕。	5YR6/4 にぶい橙	やや粗	多	0.5	2.0	チ(角・円)赤	Ⅰ′	口縁内面赤変。		頸 1/7
	〃		602	甕	22.2				上胴部外面、頸部内面に非常に粗く強いハケ目。口縁部内面から頸部外面まで横ナデ。	7.5YR5/4 にぶい褐	粗	多	細～1	7.0	英長チ金雲	Ⅲ	搬入品。	硬	1/7
須恵器	〃		603	甕	24.2			△		5Y7/2灰白	並	多	細	1.5	チ			軟	1/15
	〃		604	甕				△	外面タタキ、内面同心円当具痕を消す。	5Y8/1灰白	並	並	細	0.6	チ黒			軟	
土師器	SK27	上層	605	Ⅲ A	17.6				全面連続ミガキ。	5YR6/6橙	密	やや少	細	0.7	チ赤ガ				1/16
	〃	下層	606	Ⅲ B			18.0		内底、中心からほぼ放射状と周縁に沿う断続ミガキ。	5YR7/6橙	並	並	細	1.1	チ赤ガ		断面10YR7/3。		底 1/5
	〃	上層	607	杯	10.0			△	回転ナデ後、幅広の粗い連続ミガキ。	7.5YR8/6 黄橙	並	並	細	1.2	チ赤ガ				1/7
	〃	上層	608	杯A Ⅳ			5.5	△	全面ミガキ、体部連続ミガキ。	7.5YR8/4 浅黄橙	並	並	細	1.0	チ赤ガ				底 1/1
	〃	下層	609		13.8			外面△	内外、回転ナデ後、粗い連続ミガキ。	7.5YR6/6 橙	やや密	並	細	細	チ赤ガ				1/9
	〃	上層	610	杯A			10.5	△	内面ミガキ認む。	5YR6/6橙	並	並	細	1.2	チ赤ガ		化粧土か(一部剝離)。素地10YR8/4。		底 1/5
	〃	下層	611	杯A			8.4		体部、粗い連続ミガキ。外底ヘラ切痕。	7.5YR7/6 橙	やや密	並	細	1.3	チ赤ガ				底 1/8
	〃	上層	612	壺			6.8	×	外底ヘラ切痕。外面擦痕。	10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗	やや多	細	1.0	チ赤ガ				底 1/3
	〃	下層	613	杯B			8.8	△	内底ミガキ。	10YR7/4 にぶい黄橙	並	並	細	細	チ赤ガ				底 1/8
	〃	下層	614	杯B	17.4				体部外面分割ミガキ、内面ハケ痕残る。	5YR7/6橙	密	並	細	1.0	チ金雲赤		搬入品。		1/9
	〃	上層	615	杯B	20.2	6.9	11.4	×	体部外面、回転ナデ後ミガキ。	7.5YR7/6 橙	並	並	0.5	2.7	チ赤ガ				底 1/3
	〃	下層	616	杯B			13.4		内底周縁に押圧痕。内面僅かにハケ痕残る。	7.5YR7/6 橙	密	並	細	0.7	チ金雲閃赤		搬入品。	硬	底 1/6
	〃	上層	617	蓋	17.1			△	内外ミガキ。	7.5YR6/6 橙	並	並	細	細	チガ赤				1/15
	〃	上層	618	蓋				△		7.5YR6/6 橙	並	並	細	1.2	チ赤				
	〃	下層	619	高杯	20.2			△	杯部内外幅広の連続ミガキ。	7.5YR7/6 橙	並	やや多	細	1.0	チ赤ガ				1/8
	〃	上層	620	高杯			18.3		裾部ミガキ。	10YR7/4 にぶい黄橙	並	並	細	1.0	チ赤ガ				1/8
	〃	上層	621	高杯A				△	脚部外面面取り。	10YR7/4 にぶい黄橙	密	並	細	細	チ赤ガ				
	〃	上層	622	高杯A					脚部外面上方へのケズリ、内面シボリ目。	10YR7/4 にぶい黄橙	やや密	並	細	2.5	チ赤ガ				
須恵器	〃	上層	623	Ⅲ A Ⅱ	15.9	2.2	13.0		内外回転ナデ痕顕著。内外底ナデ。	5Y6/1灰	並	並	0.4	4.0	チ黒		口縁外面のみ焼成良好。	やや軟	1/3
	〃	上層	624	Ⅲ A Ⅱ	16.0				外底ナデ。口縁は一度屈曲して開く。端部内面に弱い沈線。	N6/灰	並	並	細	1.0	チ黒				1/11
	〃	上層	625	Ⅲ A Ⅱ	16.7	1.9	14.2	△		5Y7/2灰白	並	やや多	細	1.0	チ赤			軟	1/8
	〃	下層	626	杯A Ⅲ	13.3	3.7	8.4	×	外底ヘラ切痕。	5Y8/1灰白	やや粗	多	細	3.0	チ			軟	半完
	〃	下層	627	杯A	14.4	3.0	9.5	×		5Y8/1灰白	やや粗	並	細	1.9	チ黒		底部暗色。	軟	1/9
	〃	上層	628	杯A Ⅲ			8.2	×		10YR7/3 にぶい黄橙	密	並	細	1.0	チ赤		体部は酸化色。	軟	底 1/6
	〃	下層	629	杯B Ⅱ			10.0	△		10YR6/2灰黄褐	粗	多	0.4	1.0	チ赤			軟	底 1/5
	〃	上層	630	蓋					内面、周縁部擦痕、天井ナデ、滑らか。	N6/灰	密	少	細	1.1	チ黒		外面降灰。		天井 2/3

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
製塩土器	SK27	上層	631							7.5YR7/6 橙	やや粗	多	1.0	3.5	砂泥				口縁片
須恵器	SK28		633	ⅢＡⅠ	18.8			×		5Y7/2灰白	並	多	細	細	チ黒			軟	1/9
	〃		634	ⅢＡⅠ	18.9	2.6	16.2	×	外底ヘラ切痕。	7.5Y7/1 灰白	やや粗	並	細	1.1	チ黒			軟	準完
	〃		635	杯ＡⅢ			8.8	×		7.5Y6/1灰	並	多	細	1.0	チ赤			軟	底1/1
	〃		636	杯ＡⅡ	14.8	4.5		×		5Y7/2灰白	粗	やや多	細	1.0	チ		口縁外面のみ酸化色強し。	軟	1/4
	〃		637	杯	12.7			×		2.5Y8/2 灰白	並	並	0.4	1.5	チ赤			軟	1/9
	〃		638	杯	13.2			×		2.5Y4/1 黄灰	密	並	細	2.0	チ赤		口縁部内外が酸化色。		1/4
	〃		639	杯	15.4			△		5Y8/2灰白	並	やや多	0.4	1.1	チ			軟	1/4
	〃		640	杯ＢⅣ	10.2	4.0	7.6		内外底ナデ。各調整は、丁寧で、仕上がりは整美。	N7/灰白	やや粗	多	細	1.0	チ黒		外面の一部に降灰。		半完
	〃		641	杯ＢⅠ	17.8	5.8	13.0	×		5Y8/2灰白	やや粗	多	細	1.5	英チ黒	Ⅰ		軟	1/2
	〃		642	蓋Ⅲ	12.8			△	外面の2/3に回転ケズリ。内面周縁部擦痕。	5Y7/1灰白	やや粗	多	細	1,3	英チ黒	Ⅰ		軟	1/5
	〃		643	蓋Ⅲ	13.0	1.4			外面の2/3に回転ケズリ。天井内面ナデ、滑らか。	N6/灰	並	並	細	1.0	長チ黒				半完
	〃		644	蓋Ⅲ	14.3	3.2			内面回転板ナデ、天井内外ナデ、内面平滑。	7.5Y6/1灰	並	並	細	1.0	チ黒				1/2
	〃		645	蓋	16.0					N7/灰白	並	多	細	2.0	英チ		外面降灰。	硬	1/8
製塩土器	〃		646		7.2				口縁内面圧痕。	2.5Y8/2 灰白	やや粗	多	1.0	3.5	チ砂(円・角)				1/4
	〃		647		8.0					5Y5/1灰	やや粗	多	0.8	3.0	チ砂(円・角)赤ガ		外面変色。		1/6
	〃		648		8.1				内面口縁より16mm下に凹み。	2.5Y7/4 浅黄	やや粗	多	1.5	4.5	チ砂(円・角)赤				1/5
	〃		649		8.0				口縁端より16mm以下は内面平滑。	2.5Y7/2 灰黄	粗	多	1.0	4.0	チ砂(円・角)赤		内外に植物繊維痕。		1/7
	〃		650		8.2					7.5Y6/1灰	粗	多	1.0	4.0	チ砂(円・角)赤				1/6
	〃		651		8.2					10YR8/3 浅黄橙	やや粗	多	1.0	2.5	チ砂赤		外面ススケ。		1/7
	〃		652		8.1				内面圧痕。	10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗	多	0.9	3.5	チ砂(円・角)				1/6
	〃		653		8.4				内面、溝状圧痕、口縁端より16mm以下は平滑。	2.5Y8/2 灰白	並	多	0.8	4.0	チ砂(円・角)黒				1/7
	〃		654		9.2				内面布目。	7.5YR6/4 にぶい橙	粗	多	1.0	12.0	砂チ(円・角)		外面変色。		1/4
	〃		655		9.4				内面圧痕、外面繊維痕。	2.5Y7/2 灰黄	やや粗	多	1.2	3.0	チ砂(円・角)赤				1/5
	〃		656		9.8				内面布目。	10YR7/3 にぶい黄橙	粗	多	0.7	3.5	チ砂(円・角)赤		外面黒斑。		1/5
	〃		657		10.5					10YR8/4 浅黄橙	やや粗	多	1.0	2.5	チ砂(円・角)赤				1/9
	〃		658		10.8					10YR8/3 浅黄橙	やや粗	多	1.2	2.2	チ砂(円・角)		外面一部変色。		1/6
	〃		659		11.2				内面布目。	10YR8/3 浅黄橙	やや粗	多	0.5	3.5	チ砂(円・角)赤		外面変色あり。		1/5
	〃		660		11.5				内面圧痕、口縁端より16mm以下は平滑。	2.5Y7/3 浅黄	並	多	0.9	4.0	チ砂赤ガ				1/8
	〃		661		15.2				接合痕。	10YR7/6 明黄褐	粗	多	0.7	4.0	チ砂(円・角)赤ガ		外面一部赤変。		1/6
土師器	〃		662	甕	17.1				内外、粗目のハケ。	7.5YR4/3 褐	やや粗	多	1.0	7.0	英チ		外面、赤変、一部ススケ。内面頸部黒色付着物。	硬	1/11

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SK28		663	甕	22.7				口縁内面粗目のハケ。	5YR5/6 明赤褐	並	多	0.5	1.5	英チ赤	Ⅱ		硬	1/21
黒色土器	SK29	床	665	杯					内黒。内面ミガキ。	10YR6/3 にぶい黄橙	やや密	並	細	細	チ金雲閃赤		搬入品。	硬	断片
土師器	〃	〃	666	ⅢA	16.8	1.8	14.0	△	内外連続ミガキ。	7.5YR7/6 橙	やや密	並	細	1.0	赤チ				底 1/10
	〃	〃	667	杯				△	内外回転ナデ後、内面連続ミガキ。	10YR8/3 浅黄橙	やや密	やや少	細	細	チガ			硬	断片
須恵器	〃	〃	668	皿						7.5YR6/3 にぶい褐	並	やや多	細	細	長チ赤			やや軟	断片
	〃	〃	669	杯AⅣ	9.6	3.3	6.5			2.5Y8/4 浅黄	並	やや多	細	1.5	チ			軟	1/6
	〃	〃	670				10.5	×		2.5Y7/2 灰黄	密	並	細	細	赤長			軟	底 1/8
	〃	〃	671	蓋				△		2.5Y8/3 淡黄	密	やや少	細	細	赤チ			軟	断片
	〃	〃	672	蓋	16.9	4.8			天井内面、同心円当具痕をナデ消す、周縁部回転ケズリ。外面に接合痕。	5Y7/1灰白	並	並	細	1.0	チ黒		外面降灰。		半完
土師器	SK30		675	ⅢA	15.8		12.8		全面赤彩。体部回転ナデ後、粗い連続ミガキ。	2.5YR5/8 明赤褐	並	並	細	細	チガ		素地10YR8/4。		1/3
	〃		676	ⅢAⅠ	18.4	2.1	16.1	△	全面赤彩。回転ナデ。体部外面、密な連続ミガキ。内外底断続ミガキ。内外底、僅かな接合痕又は回転ナデ・ヘラ切痕観察可能。	2.5YR6/8 橙	密	並	細	1.2	英チガ		一部黒斑。素地10YR8/3。		半完
	〃		677	ⅢAⅡ	17.7	2.7	15.1	△	全面ミガキ。体部回転ナデ後、連続ミガキ。	5YR7/8橙	並	並	細	1.5	チ赤		素地10YR7/4。		準完
	〃		678	ⅢAⅡ	16.8	2.3	14.6	△	内面連続ミガキ。内底中央断続ミガキ。	7.5YR7/6 橙	やや密	並	細	1.1	チガ赤		素地2.5Y8/3。		完
	〃	中層	679	ⅢAⅡ	16.7	2.3	14.0	×	全面ミガキ。体部連続ミガキ。外底ヘラ切痕。	7.5YR7/6 橙	やや粗	多	細	2.0	チ赤ガ				1/3
	〃		680	ⅢAⅡ	17.0	3.0	14.7	△	器表は平滑で、ミガキと思われる。外底約4回転のヘラ切痕残す。	5YR6/8橙	密	並	細	2.0	チ赤ガ		螺旋状の粘土紐接合部で剥離。		準完
	〃		681	ⅢAⅡ	18.0	2.3	15.1	×	体部回転ナデ、内面連続ミガキ。外底平行圧痕。	5YR7/6橙	並	並	細	細	チガ		表面は外面と同色化。断面2.5Y8/3。	硬	1/4
	〃		682	ⅢAⅡ	17.7	2.0	14.0	△	全面ミガキ。体部回転ナデ後、粗い連続ミガキ。外底ヘラ切、粘土紐接合痕。	7.5YR7/6 橙	並	多	細	2.0	チ赤ガ			硬	1/3
	〃		683	ⅢAⅡ	17.2	2.7	15.5	△	全面化粧土(又は赤彩)。回転ナデ、外底ヘラ切後、全面ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	細	細	チ赤		素地2.5Y8/3。部分的に化粧土(赤色風化礫の微細粒含む)垂れる。		完
	〃		684	ⅢAⅡ	16.9	2.3	14.6	×		2.5YR5/8 明赤褐	並	やや多	細	1.5	チ赤ガ		化粧土(石英の揃った微細粒含む)残る。素地7.5YR7/6。	軟	半完
	〃	上層	685	杯AⅢ	13.5	3.0	8.8	△	全面ミガキ。	7.5YR7/4 にぶい橙	並	並	細	2.0	チ赤			やや硬	底 1/4
	〃	上層	686	杯AⅢ	14.0	3.3	9.0	△	体部内外面、連続ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	細	4.0	チガ		器表のみ橙色化。	硬	1/3
	〃		687	杯AⅡ	15.1	3.7	10.2	△	全面ミガキ。回転ナデ。体部、内底連続ミガキ。外底僅かなヘラ切痕残す。	5YR6/6橙	並	やや多	細	1.2	チ赤				完
	〃	上層	688	杯AⅠ	17.0	3.6	13.7	△	全面ミガキ。体部、内底連続ミガキ。	5YR6/6橙	やや密	並	0.5	1.6	チ赤				1/11
	〃		689	杯A	16.0	3.3	12.2	△	体部回転ナデ。非ミガキ。外底、接合部に押圧、ナデ。	10YR8/4 浅黄橙	並	やや多	0.5	3.0	チ赤		赤斑。黒斑。	硬	準完
	〃		690		16.0			△	杯部内外、連続ミガキ。杯部底ヘラ切。	7.5YR6/4 にぶい橙	やや密	並	0.5	2.5	チ赤ガ		脚接合部より剥離。		1/3
	〃		691	高杯B				×	杯部内面ミガキ、若干ハケ目残る。	7.5YR6/6 橙	粗	並	0.5	4.0	チガ			やや軟	
	〃		692	蓋	19.0	3.1		×	内面連続ミガキ。	10YR7/4 にぶい黄橙	やや密	並	細	2.9	チガ		剥離顕著。黒色、赤色の変色部あり。		1/3
	〃		693	高杯B	20.9			△	杯部内面ミガキ。脚部シボリ目。	10YR8/4 浅黄橙	密	並	細	2.5	赤チガ				1/10

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SK30	中層	694	ⅢAⅢ	13.6	2.0	11.8		内底押圧痕、外底ナデ、平行圧痕。	N5/灰	並	やや多	0.5	3.0	長チ黒		内外火襷。	硬	1/5
	〃		695	ⅢAⅢ	14.5	2.2	11.2	×	外底ヘラ切痕。	5Y8/2灰白	粗	並	0.6	3.5	チ赤			軟	完
	〃		696	ⅢAⅢ	14.6	2.1	12.5		外底ヘラ切痕、平行圧痕、周縁ナデ。	N4/灰	並	並	細	1.8	長チ		内外火襷。	硬	準完
	〃		697	ⅢAⅢ	14.2	2.2	12.6	×		7.5Y7/1 灰白	密	並	細	2.0	長黒		底部中央暗色。	軟	1/2
	〃		698	ⅢAⅢ	14.2	1.9	12.5		体部内面回転横ハケ状痕、内底ナデ。外底ヘラ切→ナデ→平行圧痕。	N6/灰	並	並	細	1.7	長黒				準完
	〃		699	ⅢAⅡ	16.0	2.0	13.8	×	外底ヘラ切痕。	7.5Y6/1灰	やや粗	多	0.7	3.5	長チ赤			軟	1/2
	〃	中層	700	ⅢAⅡ	15.8	2.1	13.5	△	内底ナデ。	7.5Y6/1灰	やや粗	並	細	1.0	長黒		内外火襷。	軟	準完
	〃		701	ⅢAⅡ	15.2	2.5	12.8		外底、ナデ、平行圧痕。	N6/灰	並	やや多	0.5	6.0	長黒				準完
	〃		702	ⅢAⅡ	15.4	2.5	13.0		外底、ヘラ切、平行圧痕。内底粘土紐接合痕。	N4/灰	並	やや多	細	2.0	チ		内外火襷。	硬	準完
	〃		703	ⅢAⅡ	16.1	2.5	14.4		内外底ナデ。	7.5Y5/1灰	並	やや多	細	1.2	長チ黒				準完
	〃		704	ⅢAⅡ	16.0	2.0	14.2	×		7.5Y6/1灰	やや密	並	細	1.0	黒長		内外火襷。	軟	1/7
	〃		705	ⅢAⅡ	16.2	2.6	14.0	×		5Y4/1灰	粗	多	細	1.5	チ		口縁部のみ灰色。内外火襷。	軟	完
	〃		706	ⅢAⅡ	16.7	2.4	13.5	×		5Y7/1灰白	やや粗	並	細	3.0	チガ		外底火襷。	軟	準完
	〃		707	ⅢA	17.4	2.7	12.8	×		7.5Y8/1 灰白	粗	やや多	細	3.0	チ		底部暗色、火襷。	軟	完
	〃		708	杯AⅥ	7.9	3.4	4.9		外底ヘラ切後ナデ、平行圧痕。	10Y5/1灰	並	多	細	3.0	長チ			硬	準完
	〃	中層	709	杯AⅤ	8.6	3.9	5.4		外底中央ヘラ切未調整。回転ナデが口縁上方へ逃げる(回転台右回り)。	N6/灰	密	並	細	1.0	チ黒		口縁外面のみ暗色。		1/2
	〃	上層	710	杯AⅣ	10.4	3.6	6.6		内外底ナデ。	N6/灰	並	やや多	細	1.2	長チ黒			硬	半完
	〃	下層	711	杯AⅣ	10.1	3.5	6.6		内底ナデ、外底中央ヘラ切未調整。	N6/灰	並	多	0.5	3.0	長チ		口縁外面のみ濃色。		1/2
	〃	中層	712	杯AⅢ	11.8	3.8	8.0		内底ナデ、外底ヘラ切後ナデ、口縁内面に接合痕。	N6/灰	並	やや少	細	1.0	黒長		口縁端部外面のみ暗色。		1/2
	〃	中層	713	杯AⅢ	12.2	3.5	8.4		内外底ナデ。	N6/灰	やや密	少	細	2.5	黒長				準完
	〃		714	杯AⅢ	12.8	3.8	8.0	×		N6/灰	並	やや少	細	2.0	黒長			下半のみ軟	準完
	〃		715	杯AⅢ	12.5	4.4	8.8	△	外底ヘラ切後ナデ。	N6/灰	やや粗	多	細	3.0	長チ黒		口縁外面のみ暗色。火襷顕著。	軟	準完
	〃		716	杯AⅢ	12.9	3.6	8.6		底部平坦、外面ヘラ切後丁寧なナデ、平行圧痕。	N5/灰	並	多	細	2.0	長黒チ		火襷。口縁外面のみ暗色。	硬	1/3
	〃		717	杯AⅢ	12.5	3.3	8.4	△	外底中央ヘラ切未調整。	5Y7/1灰白	並	並	細	細	長黒			軟	準完
	〃	上層	718	杯AⅢ	13.0	3.0	8.0	△		7.5Y7/1 灰白	やや粗	多	細	1.5	チ黒			軟	底1/1
	〃	上層	719	杯AⅢ	12.9	3.4	8.9	△	外底ヘラ切後ナデ。	5Y6/2灰オリーブ	やや粗	多	0.5	1.1	長赤チ		外面火襷。	やや軟	1/2
	〃		720	杯AⅢ	12.6	3.9	8.6		内底ナデ。外底ヘラ切後弱いナデ。内面に接合痕。回転ナデが口縁上方へ逃げる(回転台右回り)。	5Y6/1灰	並	並	細	0.9	黒長		口縁のみ暗色。		1/2
	〃	上層	721	杯AⅡ	13.6	3.3	9.4	△		7.5Y6/1灰	並	並	0.5	2.0	長黒		特に下半が暗色、軟質。	軟	1/3
	〃	中層	722	杯AⅡ	13.4	4.1	9.0		外底ヘラ切後ナデ。	N6/灰	並	並	細	0.5	長黒		口縁外面のみ暗色。		1/2
	〃	中層	723	杯AⅡ	13.4	3.4	9.0	×		10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗	多	0.5	2.0	長チ赤		下半のみ還元色。	軟	完
	〃		724	杯AⅡ	13.4	3.7	8.0	×		2.5Y7/2 灰黄	粗	多	0.8	2.5	チ赤		下半はやや還元色。	軟	準完
	〃		725	杯AⅡ	13.6	3.8	8.5	×		7.5Y7/1 灰白	並	並	0.5	1.0	黒長			軟	完
	〃		726	杯AⅡ	14.2	3.8	8.8	×		7.5Y6/1灰	並	並	0.5	1.6	黒長			軟	準完
	〃		727	杯AⅡ	14.2	4.2	7.0	×		10Y6/1灰	密	並	細	1.0	黒長チ			軟	半完

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SK30		728	杯AⅡ	15.0	3.6	9.7	×		5Y6/1灰	並	並	細	1.2	黒長チ			軟	1/4
	〃		729	欠番															
	〃	上層	730	杯	13.0			△		7.5Y6/1灰	粗	多	0.4	5.0	長赤		体部上半は生焼け。	軟	1/6
	〃		731	杯BⅣ	10.7	4.5	7.0		外面下部に調整に伴う一条の凹線。外底中央にヘラ切痕残す。	N6/灰	密	少	細	1.5	長			やや硬	準完
	〃		732	杯BⅢ			8.8	△	外底中央にヘラ切痕残す。	2.5Y7/2 灰黄	並	多	0.6	1.1	チ赤			軟	底 1/1
	〃		733	杯BⅡ	15.5	7.3	9.2	やや△	外底中央にヘラ切痕残す。	5Y6/1灰	やや粗	多	0.4	2.0	長英チ赤		内面生焼け。		半完
	〃		734	杯BⅡ	16.2	6.9	10.4			5Y7/1灰白	やや粗	多	0.6	3.5	チ黒		特に内面が生焼け。	軟	1/3
	〃		735	杯AⅠ	18.0	4.4	14.6	×		5Y7/1灰	並	並	0.9	2.1	長チ			軟	半完
	〃		736		21.0			×		2.5Y8/2 灰白	並	やや多	細	1.5	赤長チ		外面一部剝離。	軟	1/5
	〃		737	蓋Ⅲ	12.7	2.2			天井外面接合痕、ナデ。内面、極めて平滑、墨痕なし、周縁部回転ケズリ。	N7/灰白	密	少	細	1.5	長黒		内面ヘラ記号。		完
	〃		738	蓋Ⅲ	14.0	2.5			内面、板ナデ・丁寧な断続ナデ後、周縁に回転ケズリ。中央は特に平滑。	N6/灰	並	やや多	0.8	3.0	黒長チ		外面降灰。		半完
	〃	上層	739	蓋	12.4				天井外面ナデ。	7.5Y7/1 灰白	並	極少	細	細	黒長				1/4
	〃		740	蓋Ⅲ	14.0				天井外面粗いナデ。内面、周縁部回転ケズリ、他は丁寧なナデ。	N6/灰	密	やや多	細	2.2	黒チ長		内外で発色差。	やや硬	完
	〃	上層	741	蓋Ⅲ	14.0				内面、周縁部回転ケズリ、他はナデ。	N7/灰白	並	やや多	0.5	1.7	長黒		外面自然釉。		1/3
	〃		742	蓋Ⅲ	14.4				外面、ナデ、平行圧痕。内面、周縁部2～3段の回転ケズリ、中央部平滑。	10Y5/1灰	並	やや多	0.4	4.5	長		一部酸化色。		完
	〃		743	蓋Ⅱ	17.8				天井内面中央は平滑。	N6/灰	密	少	0.5	1.2	長				1/2
	〃	上層	744	蓋Ⅱ	18.0					7.5Y6/1灰	並	多	細	3.2	長		外面、口縁部より13mm以内は明色でやや軟質。	やや軟	1/5
	〃		745	高杯	20.0	10.5	12.6	×	脚部内面746と同様か。	2.5Y7/1 灰白	並	やや多	細	1.2	チ黒			軟	口 1/7 脚完
	〃		746	高杯	21.5	10.1	11.2	×	脚部内面上方横方向ケズリ。	2.5Y7/2 灰黄	並	並	細	1.1	チ赤			軟	半完
	〃		747	鉢	23.6	20.2	16.6		外面、下胴部回転ケズリ、底部、外底断続ケズリ。内底押圧。	5Y5/1灰	並	多	0.6	4.0	チ		外面の3/4のみ還元、他は酸化色、軟・磨耗顕著。	一部軟	半完
土師器	〃		748	甕	23.1				口縁～頸部内面、胴部外面ハケ。胴部内面、ナデ、接合痕。	10YR6/4 にぶい黄橙	粗	多	0.9	6.0	チ砂	Ⅰ	外面下半、若干ススケ、変色。胴径21.8cm。	やや硬	1/7
製塩土器	〃	上層	749		8.6					2.5Y6/2 灰黄	粗	多	0.9	8.0	チ泥			硬	1/7
	〃	上層	750		9.0				内面布目。	10YR7/4 にぶい黄橙	並	やや多	1.2	4.5	チ(円)泥			やや軟	1/8
	〃		751		9.0					10YR7/3 にぶい黄橙	並	並	1.1	7.5	泥砂チガ			軟	1/13
	〃	上層	752		9.0				内面布目。	10YR7/4 にぶい黄橙	粗	多	細	6.5	チ赤泥			硬	1/6
	〃	上層	753		10.8					10YR7/4 にぶい黄橙	粗	多	1.0	4.0	チ(円・角)泥				1/7
	〃	上層	754		12.0					10YR7/3 にぶい黄橙	粗	多	0.9	3.5	砂チ(円・角)			やや軟	1/5
	〃	中層	755		12.0					10YR8/2 灰白	粗	極多	0.6	6.0	チ赤			硬	1/9
	〃		756		13.2				内面布目。	5Y4/1灰	粗	多	0.7	5.0	赤チ			硬	1/7
	〃		757		13.4					7.5YR7/6 橙	やや粗	多	1.1	10.0	泥チ(円)		口縁外面のみやや磨耗度が低く、暗色。	やや軟	1/5
	〃		759						内面布目、外面、指頭圧痕。	7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗	多	細	4.5	チ赤泥			硬	断片

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SK31	上層	760	杯B			10.0	△		10YR7/3 にぶい黄橙	やや密	並	0.5	1.5	チ赤ガ		高台２次被熱。		底 1/9
土師器	SK32	上層	761	甕	22.8				口縁内面粗目の横ハケ。頸部外面に、ハケ状工具の先端による規則的圧痕。	10YR7/4 にぶい黄橙	粗	多	0.7	1.1	英チ	Ⅱ		硬	1/16
土師器	SK33	下層	762	ⅢAⅡ	16.4	2.8	12.8	×	体部外面ミガキ残る。	7.5YR6/6 橙	やや密	並	細	2.0	チ赤ガ			軟	1/7
	〃	Ⅱ層	763	杯AⅠ	18.4			×		5YR6/6橙	並	並	細	3.0	英長チ赤ガ			軟	1/8
	〃	上層	764	杯AⅢ	13.8	3.3	9.0	×	体部内外にミガキ残る。	2.5YR6/6 橙	並	並	細	2.0	チ赤			軟	1/2
	〃		765	杯AⅢ	14.2	3.4	9.0	△	回転ナデ。外面に粗いミガキ残る。	10YR7/4 にぶい黄橙	並	並	細	1.5	英チ赤ガ				底 2/3
	〃		766	欠番															
	〃	上層	767	Ⅲ				△	内外赤彩。内面、粗いミガキ残る。	5YR6/6橙	並	並	細	0.6	英チ赤	Ⅰ	素地10YR8/2。	硬	断片
	〃		768						回転ナデ、粗い連続ミガキ。	5YR6/6橙	密	極少	細	0.9	チ赤ガ			硬	断片
	〃		769	高杯			16.9	×		7.5YR6/6 橙	並	並	細	4.0	チ赤ガ閃			硬	裾 1/3
	〃		770	高杯B				△	脚外面連続ナデ、杯部内面断続ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	細	5.0	長チ赤ガ				
須恵器	〃		771	ⅢA	14.2	1.5	11.5			2.5Y7/1 灰白	密	やや少	細	0.8	長				1/14
	〃		772	ⅢAⅢ	14.4	1.7	11.4		外底ナデ。	N5/灰	並	多	細	1.1	長黒				1/4
	〃		773	ⅢAⅡ	15.4	2.6	11.6	△		5Y7/1灰白	並	やや多	細	1.5	長黒			軟	1/3
	〃		774	ⅢAⅡ	15.0	2.4				2.5Y7/1 灰白	やや密	並	細	0.8	英黒チ				1/8
	〃		775	杯AⅢ	12.9	3.4	9.0	△		7.5Y7/1 灰白	並	やや多	細	3.0	長黒		外面火襷。		底 1/4
	〃	上層	776	杯AⅢ	13.4	3.3	8.2		内外底ナデ。	5Y5/1灰	密	少	細	1.0	長黒				底 1/8
	〃		777	杯AⅢ	12.8	4.3	8.0	×		2.5Y7/1 灰白	並	並	細	3.0	長		底部のみ暗色。	軟	底 1/4
	〃		778	杯	13.6			×		7.5YR7/6 橙	並	並	細	1.2	長チ赤			軟	1/9
	〃		779	杯A			8.0		外底ナデ。	N5/灰	並	多	細	2.0	長黒		内外火襷。		底 2/3
	〃	Ⅱ層	780	杯AⅢ			8.8	×	内底断続ハケ痕。	10YR8/2 灰白	粗	多	細	細	長赤ガ			軟	底 1/5
	〃		781	杯BⅢ			7.4		内外底ナデ。	N5/灰	密	並	細	1.0	長			硬	底 1/3
	〃		782	杯BⅡ			10.4		内外底ナデ。	5Y5/1灰	並	やや多	細	5.5	長チ			硬	底 1/2
	〃		783	杯BⅡ	16.1	6.3	10.8		体部回転ナデ痕顕著、内底ハケ目をナデ消す。	2.5Y7/1 灰白	並	多	細	0.8	英長黒		外底ヘラ記号。	やや軟	底 1/5
	〃	Ⅱ層	784	蓋	14.0					2.5Y7/1 灰白	並	やや多	細	1.2	長英		外面降灰。	やや硬	1/5
	〃		785	蓋	17.6					N5/灰	密	極少	細	細	長黒				1/9
	〃		786	蓋Ⅱ	17.7				外面の2/5と、内面周縁部に回転ケズリ。	N7/灰白	やや粗	多	細	7.0	長チ				1/5
製塩土器	〃		787						内面布目。	7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗	多	1.0	6.0	英(円)赤チガ		外面一部ススケ。	硬	断片
須恵器	〃		789	甕					外面、太目の平行タタキ。内面、当具痕未調整。	N7/灰白	密	並	細	3.0	長		外面自然釉。	硬	破片
	〃		790	甕					内面、同心円当具痕をナデ消す。	N5/灰	密	少	細	0.9	長黒			硬	破片
土師器	〃		793	甕				△		10YR8/4 浅黄橙	並	並	1.5	6.0	チ(円)砂	Ⅰ			断片
土師器	SK34	上層	794	ⅢAⅢ	13.6	1.4	9.0	×		7.5YR6/6 橙	密	極少	細	1.5	チ赤ガ			軟	1/9
	〃	Ⅸ層	795				8.0	△	全面ミガキ。	10Y7/4 にぶい黄橙	密	少	細	細	英チ赤ガ				底 1/9
	〃	Ⅸ層	796	杯A	14.8	2.3	11.6		全面幅広の連続ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	細	0.8	チ赤ガ		内底中央が黒色化。	硬	底 1/5
	〃	Ⅺ層	797	ⅢA	18.0	2.3	15.4	×		5YR7/8橙	密	並	細	0.6	チ長赤ガ			軟	1/16

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SK34	Ⅸ層	798	ⅢA			13.6		内底連続、外底断続ミガキ。	7.5YR6/6 橙	並	並	細	細	長チ赤ガ		内底中央が黒色化。	硬	底 1/5
	〃	Ⅳ層	799	ⅢA	19.5	2.3	14.4	×	体部内外、連続ミガキ。	5YR6/6橙	やや密	並	細	3.0	長チ赤ガ				1/8
	〃	上層	800	ⅢA	21.4			△	内外連続ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	細	2.0	チ赤ガ			軟	底 1/9
	〃	Ⅺ層	801					△		5YR6/6橙	やや密	並	細	0.9	英チ赤			硬	断片
黒色土器	〃	上層	802	杯				×		7.5YR6/4 にぶい橙	並	並	細	0.5	白・金雲英長		内面黒色。搬入品。		断片
土師器	〃	Ⅸ層	803	杯AⅣ	8.5	3.6	5.7	×		5YR7/8橙	並	並	細	4.0	チ赤ガ			軟	2/3
	〃	Ⅸ層	804	杯AⅣ			5.7	△		7.5YR6/4 にぶい橙	やや密	並	細	1.0	英赤ガチ		黒斑。		底 2/3
	〃	下層	805	杯A			5.7	×	回転ナデ顕著。	7.5YR7/6 橙	並	やや少	細	1.0	チガ			軟	底 1/4 弱
	〃	Ⅸ層	806		11.4			△		7.5YR8/6 黄橙	密	並	細	1.2	チ赤ガ			軟	1/8 強
	〃		807	杯AⅢ	12.8	2.6	8.8	△	回転ナデ。ミガキ痕認めず。	10YR7/6 明黄褐	並	多	細	1.5	英長チガ			やや硬	底 1/4
	〃		808	杯AⅡ	14.2	3.2	9.0	×	全面ミガキ。内面連続ミガキ、内底中央断続ミガキ。	5YR6/8橙	密	やや少	細	細	長チ赤ガ			軟	1/3
	〃		809	杯AⅡ	14.2	3.6	9.2	×	内面ミガキ残る。	7.5YR7/6 橙	密	並	細	1.2	チ赤ガ			軟	底 1/4
	〃	Ⅹ層	810	杯AⅡ	14.0			△		10YR7/4 にぶい黄橙	並	並	細	1.0	チ赤ガ				1/8
	〃		811	杯AⅡ	14.6	3.7	9.0	△	体部内面ミガキ、外面断続ミガキ。	10YR8/4 浅黄橙	並	並	細	細	チ赤ガ				1/7
	〃	Ⅸ層	812	杯A			8.6	外面△	内面ミガキ。	5YR7/6橙	やや密	並	細	1.6	チ赤ガ				底 1/4
	〃	Ⅹ層	813	杯A			9.8	△		10YR7/4 にぶい黄橙	やや密	並	細	2.5	チガ			やや硬	底 1/1
	〃	Ⅸ層	814	杯A			8.8		全面ミガキ。	7.5YR7/4 にぶい橙	密	少	細	細	長赤ガ			硬	底 1/4
	〃	Ⅸ層	815	杯A			10.4	×		5YR7/8橙	並	並	細	2.0	チ赤ガ			軟	底 1/4
	〃	Ⅺ層	816	杯B			6.5	△		5YR5/6 明赤褐	並	並	細	3.5	チ赤ガ				底 1/8
	〃	Ⅸ層	817	杯B			9.0	×		7.5YR8/6 浅黄橙	並	並	細	1.2	チ赤ガ			軟	底 1/8
	〃		818	蓋				△		7.5YR7/6 橙	密	並	細	細	赤ガ長			硬	
	〃	Ⅵ層	819	蓋					内外ミガキ。	10YR7/4 にぶい黄橙	密	並	細	細	チ赤ガ				断片
	〃	Ⅳ層	820	蓋					外面分割ミガキ。内面連続ナデ。	5YR6/6橙	並	並	細	0.9	金・白雲英チ赤		搬入品。	硬	断片
	〃		821	蓋	17.4			×		7.5YR8/6 浅黄橙	並	並	細	2.5	英長チ赤				1/7
	〃		822	高杯B				×		5YR6/6橙	並	並	0.4	5.0	英チ赤ガ				
	〃		823	高杯A				×	内面弱いシボリ目。	7.5YR6/6 橙	並	並	細	1.3	英長チガ				
須恵器	〃	Ⅷ層	824	ⅢAⅢ	13.6	1.9	10.4		内外底ナデ。外面の一部削り取り。	7.5Y6/1灰	並	多	細	2.0	長チ黒				1/4 強
	〃	Ⅸ層	825	ⅢAⅡ	15.0	1.9	10.2	△		7.5YR6/6 橙	並	やや多	細	2.0	赤長英チ		底部還元色。	軟	半完
	〃	Ⅸ層	826	ⅢA	16.2	1.9	13.2		内面同心円当具痕。外底ナデ。	5Y6/1灰	並	やや少	細	0.6	長チ黒				1/11
	〃	Ⅸ層	827	ⅢA	16.1	1.8	12.8		内外底ナデ。	N5/灰	並	やや多	0.6	2.0	長黒		内外火襷。口縁外面が暗色。	硬	1/8
	〃		828	ⅢA	17.2	2.2	13.5	△		5Y6/1灰	並	多	細	2.5	長黒チ			軟	底 1/4
	〃	上層	829	ⅢA	17.3	1.7	14.9	×		5Y7/1灰白	並	並	細	0.6	長英赤		口縁内面と外面は酸化色。	軟	底 1/6
	〃	Ⅶ層	830	ⅢA	19.0			△		5Y8/2灰白	並	並	細	3.0	長英チ			軟	1/13
	〃		831	杯AⅣ			6.0		外底周縁部ナデ。	N5/灰	やや密	やや多	細	2.0	長チ黒		内外火襷。	硬	底 1/3
	〃		832	杯AⅣ	10.0	3.2	6.6	×		5Y8/1灰白	並	並	0.4	1.0	長英赤			軟	1/7
	〃	Ⅷ層	833	杯AⅢ	11.9	3.3	7.5		外面に、底部と体部の接合痕。	2.5Y6/1 黄灰	やや粗	やや多	細	2.0	長チ赤			やや軟	底 1/4

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SK34	Ⅵ層	834	杯AⅢ	12.1	5.5	8.6		内外底比較的丁寧なナデ。	オリーブ灰	密	密	細	1.0	長黒		歪みあり。外底酸化色。		2/3
	〃	Ⅸ層	835	杯AⅢ	12.8	3.6	7.9		外底ナデ。	N6/灰	密	並	細	5.0	長チ黒			口縁のみ硬	底1/2
	〃	Ⅷ層	836	杯AⅢ	13.0	3.8	8.5		外底は丁寧なナデ。	7.5Y6/1灰	並	やや多	0.4	2.0	長チ黒		口縁部は暗色。		1/7
	〃	Ⅸ層	837	杯AⅢ	13.0	3.2	8.8	△		5Y7/1灰白	並	多	細	0.9	長チ赤		口縁酸化色。	軟	1/4弱
	〃	上層・Ⅺ層	838	杯AⅡ	13.8	3.5	9.5	×		5Y7/1灰白	やや粗	多	細	2.0	英長黒			軟	1/2
	〃	Ⅸ層	839	杯	15.2					5Y5/1灰	並	やや多	細	1.0	長チ黒		口縁部のみ暗色。		1/8
	〃		840	杯AⅢ			8.6	×	外底ヘラ切痕明瞭。	5Y6/1灰	密	やや多	細	4.0	長チ黒			軟	底1/1
	〃	下層	841	杯AⅢ			8.6	×		7.5Y7/1灰白	密	少	細	細	長黒ガ			軟	底1/6
	〃	Ⅸ層	842	杯AⅢ			8.0		内外底ナデ。外底平行圧痕。	N6/灰	密	やや少	細	0.6	長黒				底1/2
	〃		843	杯	15.4			×		7.5Y7/1灰白	密	並	細	細	黒長			軟	1/11
	〃	Ⅺ層	844	杯BⅢ			8.0			5Y7/1灰白	粗	多	細	1.0	英長チ	Ⅰ			底1/7
	〃		845	杯BⅢ			8.4	△		5Y7/1灰白	やや粗	多	細	2.0	英長黒	Ⅰ		軟	底1/4弱
	〃	Ⅸ層	846	蓋	12.9	2.1			天井内外ナデ。	N7/灰白	やや粗	やや多	細	4.0	長黒チ				1/2
	〃		847	蓋	15.0					N6/灰	並	並	細	8.0	長チ				1/11
	〃		848	蓋	12.9				天井内面ナデ。	7.5Y5/1灰	密	少	細	0.6	長		外面降灰顕著。火膨れ。	硬	1/2
	〃	Ⅸ層	849	高杯				△	内面シボリ目。	5Y7/1灰白	並	並	細	細	長チ			軟	
	〃	Ⅸ層	850	壺	7.6					N7/灰白	並	やや多	細	1.5	英長黒				1/3
	〃	Ⅸ層	851	甕	18.0					2.5Y7/1灰白	並	多	0.5	1.0	英長チ		外面自然釉。	硬	1/9
	〃	Ⅰ層	852	甕					外面タタキ、内面同心円当具痕にナデ。	N5/灰	並	やや多	細	4.0	チ長		内面はやや明色。	硬	破片
	〃	Ⅷ層	853	甕					外面平行タタキ後、細目のハケ、内面同心円当具痕未調整。	N5/灰	並	やや多	細	3.0	長チ黒		内面はやや明色。	硬	破片
製塩土器	〃		854		14.4				内面布目。	2.5Y8/3淡黄	並	やや多	0.7	3.0	砂チ			やや硬	
	〃	Ⅲ層	855							2.5Y8/3淡黄	並	多	1.1	3.0	砂泥チ(円)赤		一部灰色に変色。		
	〃		856						外面、指頭圧痕。	2.5Y8/1灰白	並	多	1.0	3.5	砂泥チ		外面一部黒色。	やや硬	
土師器	〃	Ⅸ層	857	カマド	(26.3)	(8.1)	(4.5)		鍔部は、指頭圧痕、粗めの縦ハケ後ナデ。焚口端部は面取り。体部粗めの縦ハケ。	7.5YR7/6橙	粗	多	0.8	2.0	英チ金雲閃		被熱、変色あり。搬入品。	硬	
土師器	SD26	Ⅳ層上	868	ⅢA			15.6	△	内外赤彩。丁寧なミガキ。立上り外面は稜をなして屈曲。	2.5YR5/8明赤褐	密	並	細	2.5	チ英赤	Ⅱ	素地7.5YR8/4。	やや軟	底1/9
	〃	Ⅳ層	869	杯A	16.0				内外ミガキ。	5YR7/6橙	やや密	並	細	細	英長チ赤			硬	底1/9
	〃	Ⅳ層	870				12.2			7.5YR7/4にぶい橙	密	やや少	細	1.0	赤英長			硬	底1/12
	〃	Ⅳ層上	871				14.2	△	全面赤彩。内底ミガキ。	5YR7/6橙	密	少	細	1.6	チ(円・角)赤		素地10YR8/3。	硬	底1/7
	〃	Ⅰ層	872				11.6	×		10YR8/6黄橙	粗	多	細	0.6	英チ				底1/8
	〃	Ⅰ層	873		16.0			△	内外赤彩。内面ミガキ。	2.5YR5/6明赤褐	並	やや多	細	0.9	英長赤	Ⅰ	素地10YR8/2。塗膜より微量の赤鉄鉱検出。	硬	1/18
	〃	Ⅳ層上	874	Ⅲ	20.2			△	外面ミガキ残る。	5YR7/6橙	密	やや少	細	0.7	赤チ	Ⅱ		やや軟	1/17
	〃	Ⅱ層	875	高杯			9.6		裾端部、強い回転ナデ。	2.5YR6/6橙	並	やや多	細	1.5	英チ赤ガ		素地10YR8/3。		裾1/7
	〃	Ⅳ層上	876	高杯			14.0	△	外面ミガキ残る。	5YR7/6橙	密	やや少	細	細	赤長チガ	Ⅱ		やや軟	裾1/8
	〃	Ⅳ層上	877	壺	13.0			×	内外赤彩。	2.5YR5/8明赤褐	密	並	0.5	3.0	赤チガ	Ⅱ	素地7.5YR7/6。高台剥離。	やや軟	1/2強
	〃	Ⅳ層上	878					△	外面タテ方向ミガキ、内面上方指頭圧痕。	5YR6/6橙	並	多	0.5	1.0	英チ赤ガ			硬	

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
須恵器	SD26	Ⅳ層上	879	杯C	12.0	4.5			内面体部下半回転ハケ、内底丁寧なナデ。	N7/灰白	並	並	0.4	3.0	英長チ				1/2
	〃	Ⅳ層上	880	杯C	13.4	4.2	8.6		内外底ナデ、外底平行圧痕。	N7/灰白	並	やや少	0.4	1.0	英長黒				1/3
	〃		881	杯	14.6			△		2.5Y8/2灰白	やや粗	やや多	細	1.0	英チ黒	Ⅰ			1/8
	〃	Ⅳ層	882				10.2		内面下方回転板ナデ。内底ナデ。	N7/灰白	並	並	細	0.8	英長黒				底1/3
	〃	Ⅱ層	883	杯	15.6				丁寧な回転ナデ。外面接合痕。	N7/灰白	やや密	極少	細	細	黒長				1/6
	〃	Ⅳ層	884	杯BⅣ			7.2		内外底ナデ。調整丁寧。	N7/灰白	密	少	細	0.4	黒チ				底1/3
	〃	Ⅱ層	885	杯BⅢ			10.4	△	外面下部回転ケズリ。	5Y7/1灰白	粗	多	0.4	2.2	英長黒	Ⅰ		やや軟	底1/5
	〃	Ⅳ層	886	杯BⅡ			12.8		内底周縁部は弧状の断続ナデ、外底ナデ。調整丁寧。	N7/灰白	密	極少	細	細	黒長				底1/8
	〃	Ⅳ層上	887	杯B			11.0		内底、弧状の断続ナデ、中央は一定方向ナデ。外底連続ミガキ。	N7/灰白	密	やや少	0.5	4.0	英長黒				1/2
	〃	Ⅰ・Ⅳ層	888	杯BⅡ	16.7	3.7	11.5		体部内面、回転ヨコハケ後、回転ナデ。内底、周縁に弧状の断続ナデ、中央は一定方向ナデ。外底回転ケズリ(ロクロ右回り)。調整丁寧。	N7/灰白	密	極少	細	0.9	黒長		外面の一部に自然釉。外底ヘラ記号。		半完
	〃	Ⅳ層上	889	蓋				×		5Y8/1灰白	やや粗	多	細	1.0	英長黒	Ⅰ		軟	
	〃	Ⅰ層	890	蓋	13.6			やや△	外面の3/5に回転ケズリ。天井内面ナデ。調整丁寧。	N6/灰	粗	多	細	1.2	英長黒	Ⅰ			1/7
	〃	Ⅳ層上	891	蓋	16.6	2.6			外面の2/3に回転ケズリ、口縁内面回転板ナデ。	10YR6/1褐灰	並	やや多	0.4	2.2	チ		内面7.5YR5/2。		1/2
	〃	Ⅳ層	892	蓋	14.7				天井内外面ナデ。	7.5Y7/1灰白	密	並	細	3.5	黒長英				天井1/4
	〃	Ⅳ層上	893		17.6					N7/灰白	並	少	細	細	黒英				1/15
	〃	Ⅳ層上	894		27.4			×		5Y8/1灰白	並	やや多	0.4	0.9	英長黒			軟	1/14
	〃	Ⅳ層上	895							5Y8/1灰白	密	並	細	2.0	長黒				肩1/6
	〃	Ⅳ層	896	壺			7.3		外面下部回転ケズリ、内底、雑なナデ。	5Y5/1灰	密	やや多	細	1.5	英黒長		内面2.5Y7/1。	硬	底1/3
	〃	Ⅰ・Ⅳ層	897	壺			9.0		外底回転ケズリ、内底ナデ。	5Y8/1灰白	並	並	細	1.0	黒長英チ				底1/4
	〃	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ層	898	甕	26.0	46.2		△	外面タタキ後、粗目の回転横ハケ。内面当具痕を弱くナデ消す。	7.5Y6/1灰	並	並	細	1.1	長チ黒		胴径40.0cm。		
土師器	〃	Ⅳ層	899	甕	13.8				口縁～頸部、粗目のハケ。	5YR6/4にぶい橙	並	多	0.5	1.5	英長赤		内面、黒色付着物。	硬	1/6
土師器	SD40		901	ⅢAⅢ	15.5	1.9	12.3	×	内面、ミガキ残る。	5YR6/8橙	やや粗	並	細	2.5	チ赤			軟	準完
	〃		902	ⅢAⅡ	16.4	2.3	12.3	△	体部連続ミガキ。	7.5YR7/6橙	並	並	細	1.0	英チ赤ガ				1/2
	〃		903	ⅢAⅡ	16.6	2.3	12.8	△	体部内外面連続ミガキ。化粧土か。	5YR6/6橙	やや粗	並	細	1.0	チ赤ガ				1/4
	〃		904		17.0	1.8		外面×	内面密な連続ミガキ。	2.5YR6/8橙	並	やや多	細	1.0	チ赤			硬	1/14
	〃		905	ⅢAⅡ	17.0	2.5	13.0	×	内外連続ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	0.5	1.5	英チ赤ガ				口・底1/2強
	〃		906	ⅢAⅡ	17.6	2.0	13.4	×	内外ミガキ残る。	5YR7/6橙	並	並	細	1.0	英チ赤ガ				1/4
	〃		907	杯AⅣ	9.8	3.6	5.6	△	回転ナデ、外面に粗い連続ミガキ残る。	5YR6/6橙	並	やや多	細	4.5	英チ赤ガ				半完底1/1
	〃		908	杯AⅣ	10.2	3.7	7.0	△	回転ナデ後、ミガキ。外底ヘラ切、平行圧痕。	5YR7/6橙	並	並	細	1.1	チ赤ガ				半完
	〃		909	杯AⅢ	13.6	3.9	9.0	△	全面ミガキ。外底平行圧痕→ミガキ。	10YR8/4浅黄橙	やや密	やや多	細	3.0	英チガ		内底暗色。	やや硬	底1/1
	〃		910	杯AⅢ	14.2	3.7	9.2	×	全面ミガキ。外底ヘラ切痕残す。	5YR6/6橙	並	並	細	2.5	チ赤ガ				半完

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SD40		911	杯	15.6			△	内外ミガキ。	7.5YR7/6 橙	並	やや多	細	2.0	白雲英チ赤ガ		接合部で剥離。搬入品。	やや硬	1/6
	〃		912	杯A			7.6	×		7.5YR7/6 橙	並	並	0.7	1.1	チ赤ガ				底 1/6
	〃		913				10.0	△	内面回転ナデ。立上り部外面に粘土はみ出す。外底は丁寧。	5YR6/6橙	並	並	細	2.5	英チ赤				底 1/2
	〃		914	椀A	11.6	4.0	5.7	△	外底及び立上り部外面回転ケズリ(回転台右回り)、全面ミガキ。体部断続ミガキ。	7.5YR7/4 にぶい橙	並	並	細	1.5	チ赤ガ				準完
	〃		915	椀A	11.8	3.1	5.6	×	内外ミガキ。	5YR5/8 明赤褐	並	並	0.5	2.0	長英チ赤ガ				準完
	〃		916	杯B	13.4	3.8	8.0		体部外面、左上りケズリ後、5分割ミガキ。内面ハケ痕をナデ消す。	5YR7/6橙	密	並	細	1.9	英チ赤ガ金雲		搬入品。	硬	半完
須恵器	〃		917	杯AV	9.0	3.4	6.0		外底弱いナデ。	5Y6/1灰	並	やや多	1.0	2.5	長黒チ			底軟	完
	〃		918	ⅢAⅡ	15.4	2.2	12.5	△		5Y6/1灰	やや密	やや多	0.5	2.0	長赤		内外火襷。	一部を除き軟	完
	〃		919	ⅢAⅡ	15.8	2.3	12.0	△		5Y6/1灰	並	やや多	細	2.5	長黒			一部軟	半完
	〃		920	ⅢAⅡ	15.0	2.6			内底ナデ。外底ナデ、平行圧痕。	5Y6/1灰	密	並	細	2.0	長チ黒		外面火襷。	硬	完
	〃		921	杯AⅢ	13.0	3.8	8.5	△		7.5Y7/1 灰白	並	やや多	0.5	2.0	英長黒		厚手。	軟	完
	〃		922	杯AⅢ	13.3	3.6	8.2	△		N7/灰白	やや粗	多	細	3.0	長チ黒			軟	半完
	〃		923	杯AⅢ	13.0	3.3	9.0	×		5Y4/1灰	やや密	やや多	細	1.1	赤長チ		口縁部のみ2.5Y7/3。	軟	1/3
	〃		924	杯AⅢ			8.5	×		2.5Y7/4 浅黄	並	多	細	3.0	長チ赤		内面暗色。	軟	底 1/1
	〃		925	杯BⅢ	12.9	4.2	7.5	△	外底ヘラ切未調整。	5Y8/2灰白	やや密	並	0.4	3.5	英長チ黒			軟	底 1/1
	〃		926	杯B			11.6		内底ナデ。	N6/灰	並	並	細	1.1	長チ赤		内底、一条の線刻。	硬	底 1/3
土師器	〃		927	高杯A					心棒成形。外面、上方へのケズリ、表面は平滑。	5YR7/6橙	密	少	細	1.0	白金雲赤チ		搬入品。	極硬	
製塩土器	〃		928		8.6				内面布目。	10YR8/3 浅黄橙	やや密	多	0.8	3.5	チ(円)英砂赤			硬	1/6
	〃		929		9.2				内面布圧痕。	10YR8/3 浅黄橙	やや粗	多	1.0	3.5	泥砂英長(円)		外面一部ススケ。	硬	1/5
	〃		930		10.2					10YR7/4 にぶい黄橙	密	多	1.0	2.2	チ(円)泥赤ガ				1/6
	〃		931		10.6					10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗	多	細	4.5	泥砂長英赤			硬	1/6
	〃		932		11.7					7.5YR7/6 橙	粗	多	1.0	5.0	泥砂チ赤ガ			硬	1/6
	〃		933							2.5Y7/3 浅黄	並	並	1.0	5.5	砂泥チ赤				断片
	〃		934							10YR7/4 にぶい黄橙	密	多	1.1	2.5	チ(円)砂泥赤ガ			軟	断片
	〃		935						内面布目。	5Y7/1灰白	並	並	1.1	3.0	砂泥				断片
	〃		936						内面布圧痕。	7.5Y8/6橙	並	多	1.5	10.0	泥砂英赤ガ		外面一部ススケ。		断片
土師器	SX2		939	ⅢA	17.0	1.7	14.4	△	全面赤彩、ミガキ。外底、断続ケズリ後、不定方向ミガキ。	2.5YR5/8 明赤褐	やや粗	多	0.4	1.3	英長チ	Ⅰ	素地10YR8/2。塗膜より微量の赤鉄鉱検出。		1/4
	〃	中・上層	940	Ⅲ	22.0			×	内外赤彩。外面連続ミガキか。	2.5YR5/8 明赤褐	やや粗	多	細	0.9	英チガ	Ⅰ	素地2.5Y8/2。		1/8 弱
	〃		941	Ⅲ	22.9			×	内外赤彩。外面連続ミガキか。	2.5YR5/8 明赤褐	並	多	細	1.0	英チガ	Ⅰ	素地2.5Y8/2。		1/8
	〃		942	Ⅲ					内面暗文。	5YR6/6橙	密	並	細	2.0	長チ赤		搬入品。	硬	断片
	〃		943	欠番															
	〃		944	杯A	16.3	2.7	11.3	×	全面赤彩、ミガキ残る。外底回転ケズリ後、丁寧なミガキ。	2.5YR4/8 赤褐	粗	多	細	1.0	英チガ	Ⅰ	素地10YR8/2。	やや硬	1/10
	〃	中・上層	945	杯A			12.5	×		7.5YR7/6 橙	粗	多	細	1.5	英チ赤				底 1/5
	〃		946	高杯	20.5			△	内外赤彩。杯部内面、放射状暗文(細幅)。	2.5YR5/6 明赤褐	やや粗	多	0.4	1.1	英チガ	Ⅰ	素地10YR8/2。	硬	1/12

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SX2	中・上層	947	高杯	20.2			×	内外赤彩。	2.5YR5/6 明赤褐	粗	多	0.6	1.1	英チガ	Ⅰ	素地10YR8/2。		1/10
	〃	中・上層	948	高杯	22.5			△	内外赤彩。杯部内面、放射状暗文(細幅)。	2.5YR5/6 明赤褐	粗	多	細	1.0	英チ	Ⅰ	素地10YR8/2。		1/8
	〃		949	高杯	24.8			×	内外赤彩。内面放射状暗文(細幅)、外面ミガキ。	10YR8/3 浅黄橙	やや粗	やや多	細	1.0	英チ	Ⅰ	素地10YR8/2。塗膜より微量の赤鉄鉱検出。		1/6
	〃		950		22.4			×	内面ミガキ。外面下半擦痕。	5YR5/6 明赤褐	並	並	細	細	英チ赤			硬	1/19
	〃		951		26.6			外面△	杯部、内外ミガキ、外面下半回転ケズリ。	5YR5/6 明赤褐	並	並	細	0.9	英チ赤ガ			硬	1/18
	〃		952	皿B-1	20.4	3.7	15.6	×	全面赤彩。内面及び体部はミガキ。下半外面(外底含む)、断続ケズリ。高台接合部に2条の溝を切って接合。	2.5YR4/6 赤褐	並	やや多	0.4	2.5	チ(角・円) 英赤		胎土非Ⅰ群。素地10YR8/3。塗膜より微量の赤鉄鉱検出。		1/5
	〃	中・上層	953	皿B-1			20.1	×	全面赤彩。外底断続ケズリ。高台接合部体部側に3条の溝を切る。	2.5YR5/6 明赤褐	並	並	0.5	1.5	チ英砂ガ赤	Ⅰ	素地10YR8/2。外底2次被熱、赤変。		底1/10
	〃		954	蓋				×	赤彩。	10YR5/6 明赤褐	やや粗	やや多	0.6	1.5	英チ	Ⅰ	素地10YR8/2。		
	〃		955	蓋				×	赤彩。	2.5YR5/8 明赤褐	並	並	0.5	0.7	英チガ	Ⅰ	素地2.5Y8/2。		
須恵器	〃		956	円面硯	17.0	5.7	19.0		陸部と海部の境で屈曲、上面の外堤より内側は平滑。外堤と圏台の各端部は凹面をなす。	5Y6/1灰	密	やや少	細	1.0	英長黒		陸部以外の上面に降灰。陸部の一部に赤色付着物。		1/6
	〃	中・上層	957	杯C					体部外面下方回転ケズリ、内外底、丁寧なナデ。	5Y7/1灰白	並	多	細	0.6	英チ	Ⅰ			底1/5
	〃		958	杯C				×		5Y7/1灰白	並	やや多	0.4	1.3	英長チ赤			軟	底1/5
	〃		959	杯	14.0	3.2	9.0	×		N6/灰	並	やや多	0.5	1.5	チ赤ガ			軟	1/10
	〃	中・上層	960	杯C	14.2			×		2.5Y7/1 灰白	やや粗	多	細	1.0	チ			軟	1/3
	〃		961	杯A	14.6	3.1	9.8	×		2.5Y7/3 浅黄	粗	やや多	0.5	1.1	英チ赤			軟	底1/6
	〃		962	杯	16.1				外底ナデ。調整丁寧。	N7/灰白	密	やや少	細	0.5	長黒				1/8
	〃		963	杯B	13.5	3.4	10.5	△	調整丁寧。	5Y6/1灰	並	やや多	細	0.8	長赤英チ		特に外底、内面は酸化色。		1/7
	〃		964	杯B			9.2		外面、底部及び体部下方擦痕。内外底ナデ。各調整丁寧。	N7/灰白	密	並	細	1.5	長			やや硬	底1/4
	〃		965	蓋	14.6				外面の1/2強に回転ケズリ。	7.5Y7/1 灰白	密	少	細	0.5	長黒				1/9
	〃		966	蓋	13.8	1.6			内面ナデ。	5Y4/1灰	密	少	細	0.9	黒チ		外面降灰、内面明色。		1/2
	〃		967	蓋	15.8				内面ナデ。	5Y6/1灰	並	並	細	3.5	長黒英チ		外面自然釉。火膨れ。	やや硬	1/8
	〃		968	蓋	15.2	2.3			外面、断続ケズリ後、回転ケズリ。内面、周縁擦痕、周縁以外ナデ。調整丁寧。	5Y5/1灰	並	やや多	細	1.3	長黒英チ				1/2
	〃		969	蓋	16.0				外面の2/3と内面周縁部回転ケズリ。内面天井部丁寧なナデ。	7.5YR6/3 にぶい褐	並	多	細	3.0	英長チ	Ⅰ	断面灰色。		1/2弱
	〃		970	蓋	15.5				内面周縁回転ケズリ、後ナデ。	5Y5/1灰	やや粗	多	細	0.5	チ長				1/7
	〃		971	蓋					調整丁寧。内面中央部は極めて平滑。	N7/灰白	極密	やや少	細	0.6	長黒		胎土がガラス化。	硬	
	〃		972	蓋					内面中央部は極めて平滑。	5Y5/1灰	やや粗	やや多	細	1.1	英チ黒	Ⅰ	外面降灰。		
	〃		973	蓋	17.5	2.2			外面の6/7に回転ケズリ。内面、周縁部に擦痕、天井部板ナデ痕。各調整丁寧。	N8/灰白	密	並	細	1.0	長黒チ				半完
	〃		974	高杯					四方に長方形の透かし。内面シボリ目。	5Y6/1灰	並	多	細	1.8	英長チ				
土師器	〃		975	把手付鍋	32.2			×	全面赤彩。	2.5YR5/6 明赤褐	やや粗	多	0.4	1.3	英チガ	Ⅰ	素地10YR8/2。口縁2次被熱、赤変。	やや硬	頸1/3
	〃	中・上層	976	甕	28.0			×	口縁内面と体部外面に粗目のハケ。	10YR8/2 灰白	並	多	細	4.0	英チ砂チ(円) 赤	Ⅰ			1/14

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SX2		977	カマド				×	鍔部にナデ、押圧、裾外側に強い粗目のハケ。	10YR7/2 にぶい黄橙	並	多	細	3.5	英チ砂チ(円)赤	Ⅰ	剝離した鍔部。		
須恵器	〃	中・上層	978	甕	18.2				肩部外面回転ヨコハケ。胴部内面、当具痕をナデ消す。	N7/灰白	密	やや少	細	0.8	黒長		上面自然釉。内面灰白色。	硬	1/8
	〃		979	甕					外面、タタキ後弱い細目のハケ。内面、当具痕を弱く消す。	N7/灰白	並	やや多	細	細	チ黒			硬	断片
	〃		980	甕					外面、格子タタキ、部分的にハケ。内面、同心円当具痕を弱く消す。	7.5Y6/1灰	並	並	細	細	チ黒		外面若干の自然釉。	硬	断片
製塩土器	〃		981							10YR8/4 浅黄橙	並	多	1.0	5.0	泥砂チ				断片
土師器	P14		983	Ⅲ A	12.5	1.1	8.8	△	内外回転ナデ痕。	10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗	多	0.5	2.0	チ赤				完
	P15		984	Ⅲ A	13.4	1.2	9.5	△	口縁回転ナデ、屈曲外反させる。	7.5YR7/6 橙	粗	やや多	細	1.0	チ赤				1/4 強
	P14		985	Ⅲ A	13.8	1.4	10.2	△		10YR8/3 浅黄橙	やや粗	多	細	2.5	チ赤			やや硬	底 1/5
	〃		986	Ⅲ A	14.8	1.2	9.2	△	外底ヘラ切痕。	7.5YR7/6 橙	やや粗	やや多	細	1.2	チ赤ガ				1/9
	〃		987	Ⅲ A	13.1	1.7	10.0	△	外底ヘラ切痕、ナデ。	7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗	多	細	1.0	チ赤ガ				半完
	〃		988				7.9	△	外底ヘラ切痕。	10YR7/3 にぶい黄橙	並	多	細	細	チ赤				底 1/6
	〃		989	Ⅲ A	16.0			△	体部回転ナデ。	7.5YR7/4 にぶい橙	粗	やや多	細	1.2	チ			やや硬	1/10
	P15		990	杯 A	12.8	3.1	7.2	△	外底ヘラ切痕。	7.5YR7/6 橙	並	並	細	細	チガ赤				1/8
	P14		991	杯 A	12.6	2.9	8.0	△	体部回転ナデ。	10YR8/4 浅黄橙	並	やや多	細	2.5	チ赤				底 1/3
	〃		992	杯 A			8.6	△	内底回転ナデ、外底ヘラ切痕。	7.5YR6/4 にぶい橙	並	やや多	細	2.0	チ赤		接合部より剝離。		底 1/1
	〃		993	杯 A	12.6	2.8	8.3	×	外底ヘラ切痕。	7.5YR7/6 橙	やや粗	やや多	細	2.0	チ赤		多画一部が黒色。		半完
	P15		994	杯 A	13.3	3.1	9.1	△	体部回転ナデ。外底ヘラ切後ナデ。	10YR7/3 にぶい黄橙	並	並	細	細	チ赤ガ				半完
	〃		995	杯 A	13.2	3.0	8.6	△	体部回転ナデ。外底ヘラ切後ナデ。	7.5YR6/6 橙	やや密	並	細	2.0	チ赤				1/4
	P14		996	杯 A	14.0	2.4	8.6	△	内底、回転ナデ痕。	10YR8/4 浅黄橙	並	やや多	細	0.6	チ赤				底 1/3 強
	〃		997	杯 A	13.4	3.2	8.0	×	外底ヘラ切痕。	2.5Y8/4 淡黄	粗	やや多	細	1.3	チガ			やや硬	半完
	〃		998	杯 A	14.2	2.6	9.5	△	体部回転ナデ、特に口縁部に2段の強い回転ナデ。外底ナデ。	10YR8/4 浅黄橙	並	やや多	細	0.5	チ赤ガ			やや硬	1/8
	〃		999	杯 B	15.0	6.4	9.2	×		7.5YR7/6 橙	やや粗	やや多	細	0.5	チガ			軟	1/7
	P15		1000	杯	14.4			△		5YR6/6橙	並	並	細	1.5	チ		底部は接合部で剝離。	軟	1/5
	〃		1001	杯	15.2			△	体部外面回転ナデ痕。	7.5YR7/4 にぶい橙	並	多	細	1.1	チ赤		外面黒褐色。		1/4
	〃		1002	蓋				△	内面ミガキ。	7.5YR6/4 にぶい橙	密	並	細	1.8	チ赤ガ				
須恵器	〃		1003	杯 A			8.5	×		5Y8/2灰白	やや粗	並	0.5	1.8	チ赤			軟	底 1/6
	〃		1004	杯 B			10.2	×		5Y7/1灰白	粗	やや多	細	1.2	チ			やや軟	底 1/10
土師器	P14		1005	甕	23.8				胴部外面、内面口縁～頸部粗目のハケ。口縁部横ナデ。	10YR5/2 灰黄褐	並	多	0.6	3.5	チ	Ⅱ	胴径19.3cm。	硬	1/6
	〃		1006	甕				△	外面下半格子タタキ。内面下半指頭圧痕。	10YR7/2 にぶい黄橙	やや粗	やや多	1.5	4.0	チ泥(角・円)	Ⅰ	外面上半赤変、底部ススケ。胴径17.6cm。		
土師器	P16		1017				9.0		内底ヘラ切痕。	10YR7/3 にぶい黄橙	並	やや多	細	1.5	チ赤				底 1/1
黒色土器	P 17		1018	杯	18.0				内面、緻密な横位のミガキと見られる。	10YR5/3 にぶい黄褐	並	並	細	0.8	金雲英長		搬入品。	極硬	1/14

種類	出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 量	粒度 普遍	最大	種類	群	備考	焼成	残存率
土師器	SF1		1019	杯AⅢ	13.4	3.6	9.0	特に内面△	内外面連続ミガキ。外底ヘラ切→丁寧なナデ→粗い断続ミガキ。	5YR7/6橙	並	やや多	細	7.0	チ赤ガ			やや硬	準完
土師器	〃		1020	杯AⅢ	13.7	3.3	9.4		全面ミガキ。外底、粗い断続ミガキ、ヘラ切、粘土紐痕残す。	5YR7/6橙	並	やや多	細	1.0	チ赤ガ		底部と体部は接合部で剝離。	やや硬	完
土師器	〃		1021	杯AⅢ	14.0	3.7	9.5		内外面連続ミガキ。外底、粗い断続ミガキ、粘土紐痕残す。	5YR7/6橙	並	並	細	1.0	チ赤ガ		全体を2分して、一方が橙、他方が浅黄橙色。	硬	完
土師器	包含層	北拡張区	1022	ⅢA	21.8			△	全面赤彩。外底断続ケズリ、体部外面ミガキ。	2.5YR5/8明赤褐	並	並	細	細	英長ガ赤	Ⅰ	素地10YR8/2。	やや硬	1/10
土師器	〃	Z8	1023	高杯B	21.7				杯部内外ミガキ。	5YR6/6橙	並	並	細	1.5	英チ赤				1/5
土師器	〃	A28	1024	ⅢB-3	24.9	5.6	13.0	△	内面ミガキ、口縁部外面連続ナデ痕。杯部外面接合痕。連続ナデ。	5YR6/6橙	やや密	並	細	3.0	赤長チ				1/2
土師器	〃	B7 Ⅳ-1層	1025	壺	13.8				外面と口縁内面に赤彩、ミガキ。	2.5YR5/6明赤褐	並	並	0.5	3.0	チ英ガ		素地10YR8/2。	やや硬	1/9
須恵器	〃	北拡張区	1026	蓋	13.0	3.6			内面回転ハケ。	5Y7/1灰白	並	並	細	0.9	英長黒		外面自然釉。		2/3
須恵器	〃	北拡張区 Ⅳ-1層	1027	蓋	13.9	5.0			天井外面全面回転ケズリ。天井内面ナデ痕。	7.5Y6/1灰	並	やや多	細	5.0	長黒チ				1/2
製塩土器	〃	北拡張区 Ⅳ-1層	1028					×	縦位の接合痕。	10YR8/2灰白	やや粗	並	0.7	3.0	泥英チ赤		底部。		断片
須恵器		北拡張区 Z16 甕1	1029	大甕	58.4				胴部、外面格子タタキ、内面同心円当具痕未調整。口縁部ヨコナデ。内面、断面に接合痕。	N5/灰	並	やや多	細	3.0	チ長		底部焼成不良。底部は焼成時に窯内安置具接触部分が凹み、同部に径約10cmの不整円形の痕跡が並ぶ。底1/1。	底軟	頸1/2
須恵器		北拡張区 Z15 甕2	1030	大甕					外面タタキ。内面同心円当具痕未調整。	N4/灰	やや密	並	細	2.5	チ長		底部は焼成時に窯内安置具接触部分が凹み、同部に径14～17cmの不整円形の痕跡が並ぶ。断面セピア色。	硬	底1/1

遺物観察表（土錘）

出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 全長	全幅	全厚	孔径	重量(g)	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 種類	量	粒度 普遍	最大	群	備考	焼成	残存率
SB15	P8	238	管状土錘	5.8	2.2		0.7	23.0	△		10YR7/3にぶい黄橙	やや粗	チ赤砂ガ	多	細	細		欠損。		
〃	P3下層	239	管状土錘	4.3	2.0		0.7	12.9	△		7.5YR7/6橙	粗	チ赤ガ	多	細	1.0				完
〃	P3下層	240	管状土錘	5.8	1.9		0.6	17.4	△		7.5YR7/6橙	並	チ赤ガ	並	細	細				完
〃	P5	241	管状土錘	4.6	2.9		0.9	36.4	△	両端面取。	10YR7/2にぶい黄橙	密	チ赤ガ	並	細	細		大黒斑。		完
〃	P3下層	242	管状土錘	4.6	2.9		1.0	33.2	△	両端面取。	10YR6/2灰黄褐	密	チ赤ガ	やや少	細	細			硬	完
〃	P5	243	管状土錘	4.4	2.8		0.9	33.1		両端面取。	2.5Y3/1黒褐	密	チガ	少	細	細				完
〃	P5	244	管状土錘	4.2	2.7		0.9	32.8	△	両端面取。	2.5Y6/1黄灰	密	チ赤ガ	少	細	細		約2/3が黒色。	硬	完
〃	P9上層	245	管状土錘	4.6	3.1		0.9	41.0	△	両端面取、条痕。	10YR5/2灰黄褐	密	長ガ	少	細	細			硬	完
SB16	Pロ2	268	管状土錘	5.2	2.0		0.6	18.7	△	両端面取。	7.5YR6/6橙	やや密	チガ赤	並	細	0.5				
SB17	P1	279	管状土錘	6.5	2.1		0.8	26.1	△		2.5Y8/3淡黄	やや粗	チ(円・角)	多	0.5	4.0				完
SB20	P26	339	管状土錘				2.3	〈46.0〉		ハケ状痕残る。指頭圧痕。	5YR5/6明赤褐	やや粗	英チ雲閃	多	0.4	3.0		搬入品。		約1/3
〃	P25	340	管状土錘	4.3	2.0		0.6	13.3	△	端部面取り。	7.5YR6/4にぶい橙	密	チ赤	並	細	1.5				準完

出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 全長	全幅	全厚	孔径	重量(g)	磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 種類	量	粒度 普遍	最大	群	備考	焼成	残存率
SB20	P23	341	管状土錘	4.9	2.0		0.6	14.4	△	両端面取り。	7.5YR7/0 橙	密	チ赤	並	細	1.1				完
〃	P13	342	管状土錘	7.3	2.2		0.9	34.6	両端×	端部付近指オサエ。	10YR8/4 浅黄橙	やや粗	チ砂赤ガ	多	細	4.5	Ⅲ	欠け。		完
〃	P27	343	管状土錘					〈37.0〉		胎土中に籾痕。	10YR8/3 浅黄橙	並	チ赤砂ガ	並	細	2.0			硬	約1/4
〃	P23	344	有溝土錘	6.5	4.2	3.4		87.0	△		10YR8/3 浅黄橙	並	英チ赤	並	細	2.0		籾圧痕。	硬	完
〃	P23	345	有溝土錘	8.0	4.8	4.0		141.7	△		2.5Y8/3 淡黄	並	英チ赤	並	細	3.0		若干欠け。	硬	完
〃		346	有溝土錘	8.3	4.2	3.2		92.3	△	3方に溝。	7.5YR7/6 橙	並	チ赤ガ	並	0.5	5.0		若干欠け。		準完
SB21	Pロ1	374	管状土錘	4.7	1.7		0.6	9.0	△		7.5YR6/6 橙	密	チガ赤	少	細	0.8	Ⅰ		軟	完
〃	Pハ2	375	有溝土錘	7.4	3.1	2.8		57.9	×		7.5YR7/4 にぶい橙	粗	チ砂赤	多	0.5	8.0		若干欠け。		準完
〃	Pイ2	376	有溝土錘	8.1	5.0	4.2		159.9	△		2.5Y4/1 黄灰	並	英チガ	やや多	0.4	2.0		若干欠け。	硬	完
SK20		491	有溝土錘						△		10YR7/4 にぶい黄橙	並	赤チ砂	多	0.5	2.5		欠け。		
SK21		536	有溝土錘			3.5					10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗	チ	やや多	1.0	5.0		欠け。		
SK22		596	管状土錘	7.1	3.2		0.9	62.7	△	両端面取。	10YR4/1 褐灰	密	チ	少	細	0.6		一端、若干欠損。		完
〃		597	管状土錘		3.1		1.0		△		2.5Y8/3 淡黄	密	チ	少	細	1.0			硬	約1/4
SK27	上層	632	有溝土錘			3.4					7.5YR7/4 にぶい橙	粗	チ砂(角・円)	多	1.0	5.0				
SK30	上層	758	有溝土錘	7.5	4.2	3.7		110.3		一端にシボリ目。	2.5Y8/2 灰白	やや粗	チ赤ガ	多	0.6	4.2		若干欠け。黒斑。	硬	準完
SK33	上層	788	管状土錘	4.9	2.1		0.5	20.3		両端面取。	10YR8/2 灰白	やや粗	英チ赤ガ	やや多	細	細			硬	完
SK34	Ⅺ層	858	管状土錘	3.0	1.2		0.5	2.8	△		2.5Y7/3 浅黄	並	英チ	並	細	3.0		欠損。		
〃	Ⅵ層	859	管状土錘	6.1	2.3		0.8	23.9			2.5Y8/4 淡黄	並	長英チ	並	細	1.0			やや硬	完
〃		860	有溝土錘	7.3	3.3	2.8		〈66.0〉	△		7.5YR6/6 橙	密	チ赤ガ	多	0.5	1.5			硬	3/4
〃		861	有溝土錘	6.6		3.3		〈66.0〉	△		10YR6/3 にぶい黄橙	並	チ赤ガ	並	0.5	2.0		1/3は欠損。	硬	約2/3
〃	Ⅹ層直上	862	有溝土錘	7.8	5.4	3.2		142.4	△	一端にシボリ目、大きな指頭圧痕。	2.5Y6/3 にぶい黄	並	ガチ赤砂	並	0.5	2.0			硬	完
SD40		937	管状土錘	5.7	2.2		0.5	19.7		両端面取。	10YR7/3 にぶい黄橙	やや密	英チガ	並	細	2.0			硬	完
〃		938	管状土錘	5.3	2.2		0.6	19.0		両端面取。	5Y2/1黒	やや密	長チガ	並	細	細		一端、若干の欠け。	硬	完
P15		1007	管状土錘	2.7	1.9		0.4	4.1	△		7.5YR8/6 浅黄橙	密	チ赤ガ	並	細	細				完
〃		1008	管状土錘	3.9	1.3		0.5	5.4	△		7.5YR8/6 浅黄橙	並	チ砂ガ	やや多	細	1.5		欠損。	やや硬	
〃		1009	管状土錘	4.3	1.2		0.3	4.3	△		2.5Y7/3 浅黄	粗	チ砂	多	細	1.8		欠損。黒斑。		
〃		1010	管状土錘	3.5	1.8		0.6	8.5	△		7.5YR8/6 浅黄橙	並	英チ(円)ガ	並	細	2.0		欠け。黒斑。	やや硬	半完
P14		1011	管状土錘	4.2	1.7		0.4	9.4			5YR7/6橙	並	チガ	並	細	0.5		一端、若干欠損。	硬	準完
〃		1012	管状土錘	4.8	1.7		0.7	10.0	△		5YR6/8橙	密	チ赤	やや少	0.5	1.4			軟	完
P15		1013	管状土錘	5.3	1.6		0.5	12.4	△		7.5YR7/6 橙	やや密	チガ	並	細	細		端部、若干の欠け。	やや硬	完
〃		1014	管状土錘	7.2	3.0		1.3	65.3	△		2.5Y7/3 浅黄	粗	チガ	多	0.5	4.0		黒斑。		完
〃		1015	有溝土錘	6.1	4.0			〈53.9〉	△		7.5YR7/6 橙	並	チ赤	やや多	0.6	7.0		欠け。		1/2強
P14		1016	有溝土錘	7.6	4.7	4.7		154.3		3方に溝。	10YR6/2 灰黄褐	並	チ	やや多	0.4	1.1		若干の欠損、半面は暗色。	硬	完

遺物観察表（金属製品・石器）

出土地点		挿図番号	器種	法量(cm) 全長	全幅	全厚	重量(g)	特徴
SB 10	P 1	185	鉄釘	5.7	1.2	0.6	9.7	断面矩形。
SB 19	Pハ4	307	鉄釘	8.8	2.3	0.4	16.3	
SB 20	P 12	347	鉄斧	5.2	4.8	1.2	101.9	
〃	P 20	348	鉄滓	5.3	6.7	3.6	121.1	
〃		349	青銅鏡	〈11.4〉		1.0	〈102.7〉	約1/3。
SB 21	Pイ4	377	鉄滓	6.0	11.2	3.6	222.4	
SB 22	P 9	396	小型砥石	10.4	3.1	2.0	99.6	粘板岩。全面使用。両主面、両側面は平滑、細かい擦痕あり。両主面には斜方向の切込み状使用痕。両端面にも切込み状使用痕。
SK 16		442	砥石	9.4	9.5	8.1	750.0	砂岩。磨耗あり。使用面は3面で、平滑。微かな凹線状の使用痕も見られる。
〃		443	台石	41.0	35.4	19.6	35.0kg	チャートの川原石。打滅部が赤変。
SK 20		492	砥石	19.5	12.1	9.9	3.0kg	砂岩。一主面に平滑な使用痕、黒～赤褐色に変色。各端部に敲打痕。両主面と稜部に切込み状使用痕。大きく欠損。
〃		493	台石	19.2	12.1	8.8	2.5kg	砂岩。一面に敲打痕。3ヶ所欠損。
SK 22		598	鉄釘		1.2	1.1		欠損。
〃		599	鉄滓	6.8	6.4	3.8	148.0	
SK 28		664	鉄滓	3.6	4.6	2.6	32.2	底部に炉壁又は器肉の一部が付着。
SK 29	床	674	鉄滓	3.2	2.4	2.1	8.5	
SK 33		791	鉄釘	〈 6.3〉	0.8	0.7	〈 19.8〉	やや曲がる。欠損。
〃		792	鉄滓	4.1	3.0	2.6	29.4	
SK 34	Ⅶ層	863	鉄滓	9.1	6.5	4.2	262.8	
〃	Ⅹ層	864	鉄製品	4.8	0.9	0.6	3.2	
〃		865	台石	19.9	13.0	6.0	1.5kg	
〃		866	台石	25.1	18.0	12.5	6.0kg	
〃		867	台石	17.2	13.0	13.3	4.2kg	砂岩。使用面は打滅、剝離。四方を打割。
SD 26		900	鉄製品	13.0	3.5	0.4	66.5	

遺物観察表（瓦）

出土地点		挿図番号	器種	磨耗	特徴	表面色調	胎土 素地	含有鉱物 種類	量	粒度 普遍	最大	焼成	残存率
SX 2	中層	982	瓦	やや△	厚さ1.9cm。凸面に縄目、凹面は平滑、端面ケズリ。	N7/灰白	やや粗	黒英長チ	並	細	1.5	やや軟	断片

遺物観察表（羽口）

出土地点		挿図番号	法量(cm) 外径	孔径	残存長	特徴	色調	胎土 素地	含有鉱物 種類	量	粒度 普遍	最大	残存率
SK 16		441	〈 7.6〉	〈 3.3〉	3.1	胎土中に繊維痕。断面5YR6/6。表面被熱変色。一部硬化。先端に近い部分か。	2.5Y7/3 にぶい黄橙	並	英チ砂	多	細	4.0	断片
SK 29	床	673	〈 7.2〉		3.2	先端は溶融或いは欠損していると思われるが、被熱、付着物の状態から見て、先端付近。素地5YR6/6。	2.5Y6/1 黄灰	やや密	チ	並	0.5	3.2	断片

4．J区

(1) 調査区の概要と基本層準

① 調査区の概要（Fig. 103）

J区は、調査対象地の中央南寄りで南から3本目の調査区である。東西方向に長い調査区で延長約116m、幅4～4.3m、面積552m²を測り、長軸の方向はN－258°1′27″である。現地表面の標高は東端で12.2m、西端で11.9m前後を測る。調査にあたっては、東端から4m毎にJ1、J2、J3とJ30までグリッドを設定し、遺物の取り上げや層準観察の目安とした。ただしJ1、J2は溝の中であり後のK区の調査区に組み入れた。J区からは竪穴住居1棟を中心に、溝、土坑、ピット等弥生時代後期に属する遺構を検出した。また少数ではあるが古代の遺構も検出することができた。

② 基本層準（Fig. 104）

J2～J8

Ⅰ層：現在の耕作土である。

Ⅱ層：旧耕作土と考えられる。

Ⅲ層：灰赤色（2.5YR 6/2）に極暗赤褐色（5YR 2/4）粒を含む粘土質シルト層。層厚10～26cmを測る。西方に寄るにしたがいにぶい黄褐色（10YR 4/3）に近くなる。中央付近でⅢ層、西方ではⅣ層に相当するもので、J区に普遍的に存在する層。少量の土器片を含む。

Ⅳ層：暗褐色（10YR 3/3）粘土質シルト層。層厚8～20cmを測る。

Ⅴ層：褐灰色（10YR 5/1）と褐色（7.5YR 4/4）が混ざる。層厚0～17cmを測る。ST 11の上方にのみ認められる。

Ⅵ層：褐灰色（10YR 4/1）に褐色（7.5YR 4/6）粘土質シルトに砂と数mm～数cm大の礫を多量に含む。層厚0～26cmを測る。K区のSRの最上層に相当するものでSRの末期的な層であると考えられる。J2付近にしか見られない。

Ⅵ′層：灰色砂礫層。

Ⅶ層：にぶい黄褐色（10YR 4/3）粘土質シルトに砂礫を多量に含む。層厚0～16cmを測る。

Ⅷ層：砂礫に黒褐色（10YR 2/2）粘土質シルトを含む。層厚0～6cmを測る。ST 11の上で浅い落ちこみとして検出される。

J13～J16

Ⅰ層：耕作土。

Ⅱ層：旧耕作土。

Ⅲ層：にぶい黄褐色（10YR 4/3）に褐色（10YR 4/6）が混ざり黒褐色（7.5YR 2/2）粒を若干含む粘土質シルト層。層厚7～36cmを測る。J区を貫く層で、西のⅣ層、東のⅢ層に相当するものである。

Ⅳ層：暗褐色（10YR 3/4）に灰色を含む粘土質シルト層。層厚0～34cmを測る。中央トレンチ固有で、東西にはない。褐灰色粘質土。

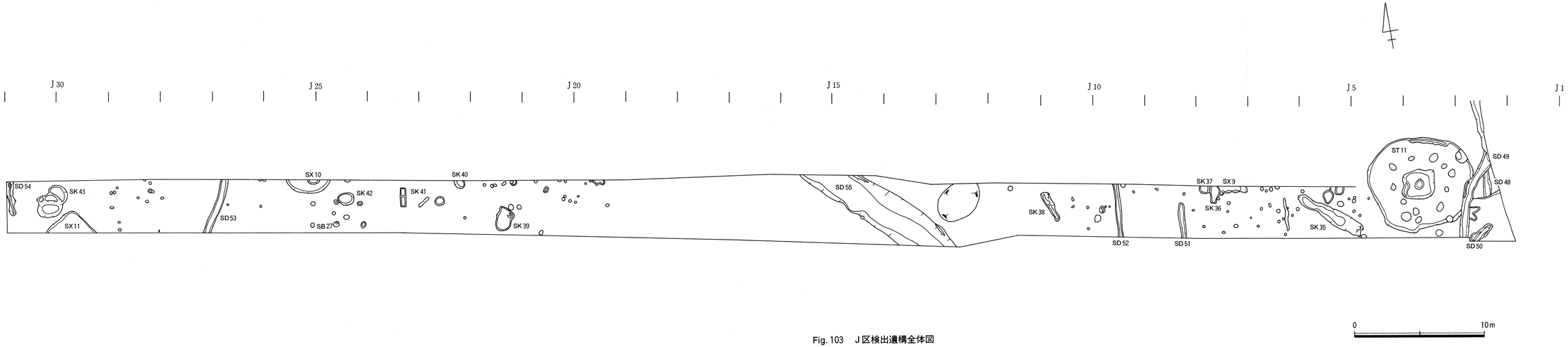


Fig. 103　J区検出遺構全体図

Ｊ24～Ｊ26

Ⅰ層：耕作土。

Ⅱ層：旧耕作土。下層に床土がある。

Ⅲ層：黒褐色（2.5Ｙ3/2）粘土質シルト層。層厚４～10cmを測る。Ⅲ′層とともに旧耕作土か。

Ⅲ′層：オリーブ褐色（2.5Ｙ4/6）粘土質シルト層。層厚４～８cmを測る。

Ⅳ層：暗褐色（10YR3/4）に黒褐色（7.5YR2/2）が小さくブロック状に含まれる粘土質シルト層。層厚６～14cmを測る。

Ｊ29～調査区終点

Ⅰ層：耕作土。

Ⅱ層：旧耕作土。

Ⅱ′層：オリーブ褐色（2.5Ｙ4/6）粘土質シルト層。

Ⅲ層：にぶい黄褐色（10YR5/4）に黒褐色（7.5YR2/2）粒を含む粘土質シルト層。

Ⅳ層：にぶい黄褐色（10YR4/3）と少量の褐色（10YR4/6）が混ざり黒褐色（7.5YR2/2）粒を含む粘土質シルト層。東方のⅢ層に相当する。

Ⅴ層：にぶい黄褐色（10YR4/3）に多量の褐色（10YR4/6）を含む粘土質シルトに若干の黒褐色（7.5YR2/2）粒を含む粘土質シルト層。Ｊ27付近で消滅している。

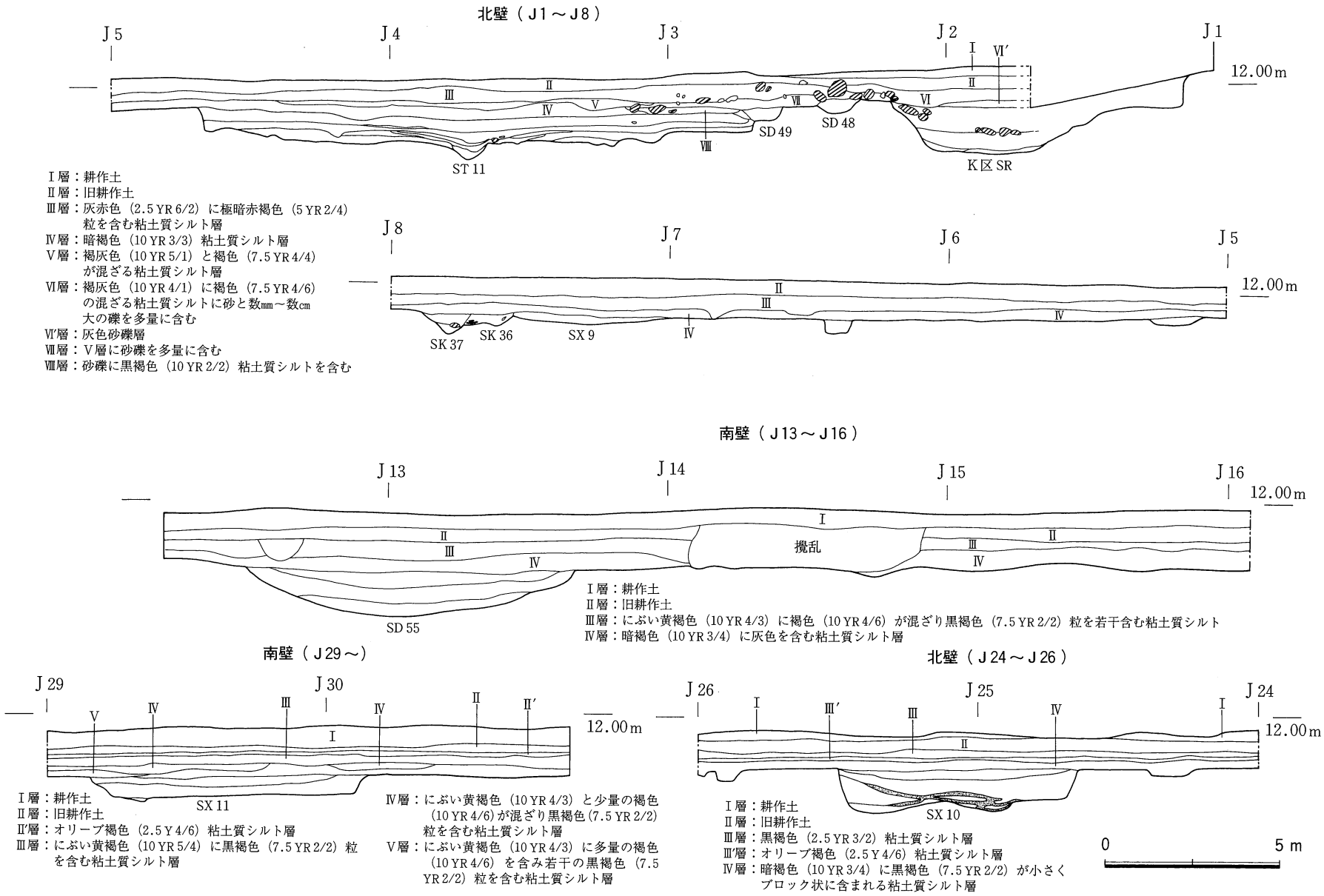


Fig. 104　J区北壁及び南壁基本層準

(2) 検出遺構と遺物

① 竪穴住居

ST 11（Fig. 105～108）

調査区東端に位置している。住居の東部はSD 49に切られている。遺構は基本層準のⅣ層を除去したところで検出した。

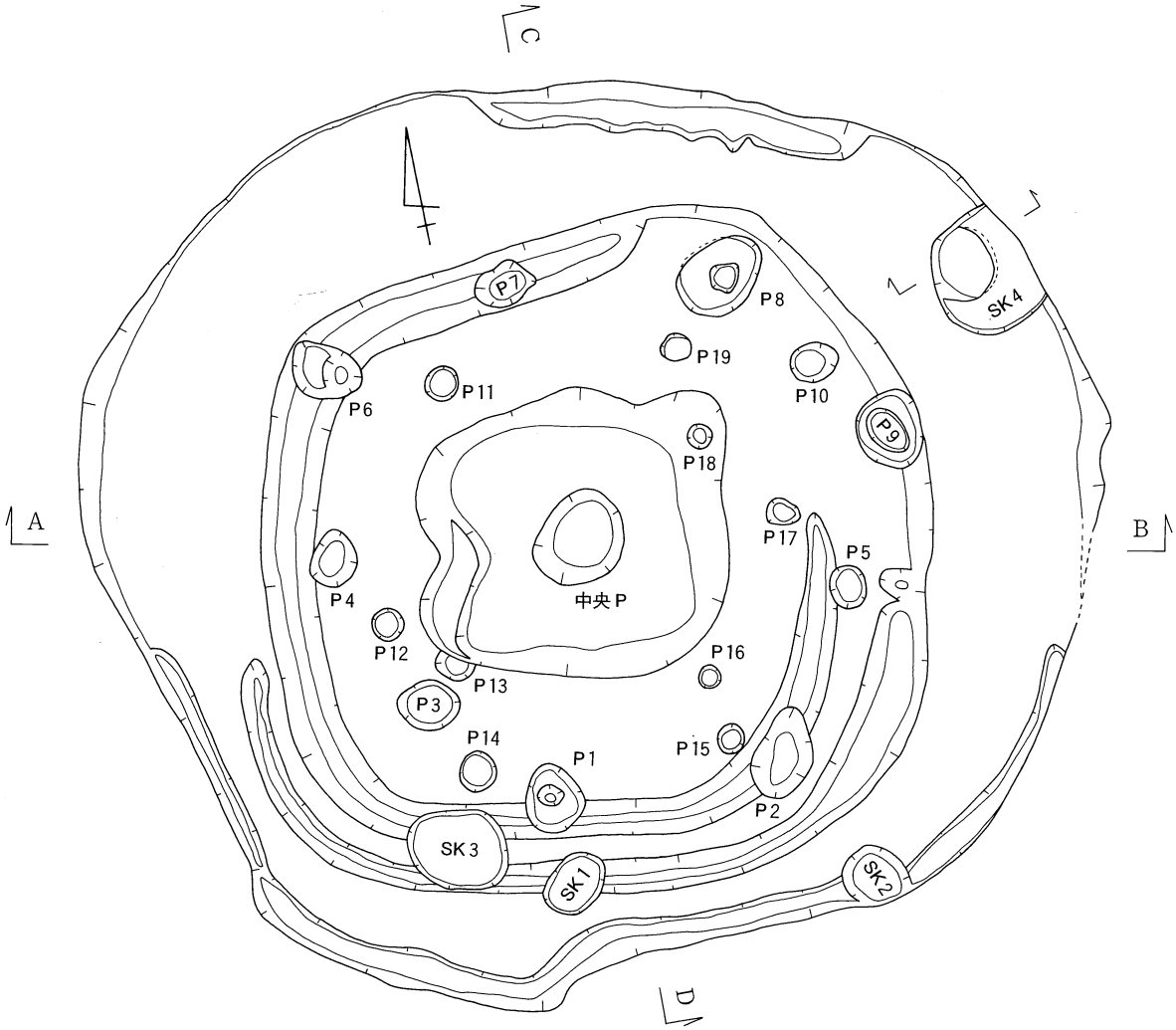
この住居は、２度以上建てかえられたものであると思われ、Ⅱ層及びⅢ′層を除去すると古い柱穴を確認することができた。その古い住居から述べると、新しい住居跡の検出面から約40㎝の深さで検出できた。東西約5.4ｍ、南北約5.3ｍを測る不整な円形の竪穴住居である。１回目と２回目の住居のレベルはほぼ同じであったと思われ、それぞれのプランは明確には出なかったが、２つの住居の壁溝が重なるような形で、渦巻状に検出された。埋土はⅢ層で地山土が多く含まれ、新しい住居の床面となっている。床面はほぼ水平であったと思われ、中央ピットは新しい住居の中央ピットに破壊されている。

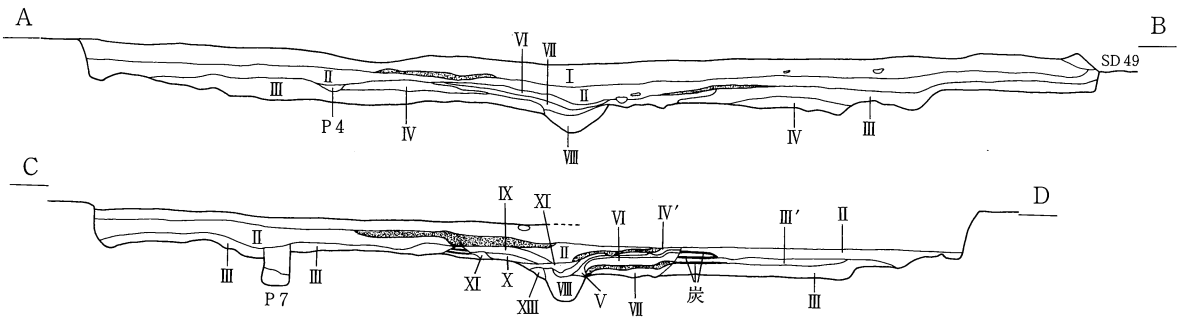
柱穴はＰ11～Ｐ19の９個が確認でき、最も古い住居の主柱穴がＰ13、Ｐ16、Ｐ18で、柱間距離はＰ13～Ｐ16が2.04ｍ、Ｐ16～Ｐ18が1.9ｍである。その他の柱穴は２回目の住居の主柱穴で、その柱間距離はＰ11～Ｐ12が1.96ｍ、Ｐ12～Ｐ14が1.36ｍ、Ｐ14～Ｐ15が2.04ｍ、Ｐ15～Ｐ17が1.84ｍ、Ｐ17～P19が1.44ｍ、Ｐ19～Ｐ11が1.88ｍである。（後の住居の建て換え時の削平によるものか）遺物はほとんど認められなかった。

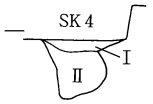
一番新しい住居は、短軸が南北７ｍ、長軸は確認できるところで東西7.8ｍを測るが、その東端をSD 49に切られていることを考慮すると８ｍを超えるものと思われる。南南西には40㎝の張出しがあり、その部分を含める南半分弱と、北北東に壁溝の跡がある。埋土はⅠ、Ⅱ′層の暗褐色（10 YR 3/4）粘土質シルトが主であり、中央北西部は炭化物が多く含まれていた。床面はほぼ水平で、中央ピット周辺には炭が広がり、その炭の上に朱が認められる範囲があった。（Fig. 105・106）中央ピットは住居のほぼ中央に配され、ピットの内部には一段のテラス状の落ち込みが認められる。東西約2.4ｍ、南北2.28ｍの隅丸方形で床面からの深さ82㎝前後を測り、炭化物がテラス状上部から中央部に落ち込むように堆積している。ピットはＰ１～Ｐ10とSK１～SK４までが確認できた。主柱穴はＰ１、Ｐ２、Ｐ９、Ｐ８、Ｐ７、Ｐ６、Ｐ４であると考えられ、Ｐ５、Ｐ10、Ｐ３は補助柱と思われる。また、SK４は貯蔵穴で、一段のテラス状になっており、その南部には10㎝と15～20㎝大の石が置かれており蓋をしていた可能性がある。柱間距離はＰ１～Ｐ２が1.88ｍ、Ｐ２～Ｐ９が2.76ｍ、Ｐ９～Ｐ８が1.8ｍ、Ｐ８～Ｐ７が1.72ｍ、Ｐ７～Ｐ６が1.5ｍ、Ｐ６～Ｐ４が1.48ｍ、Ｐ４～Ｐ１が2.56ｍである。

遺物は、埋土及び床面より壺（１～13、15、16）、甕（14、17～25）、高杯（26～42）、鉢（43、44）、石鏃（54～56）、鉄鏃（58－a）、鉋（57）、鉄斧（59）、銅鏃の基部（58－b）、ガラス小玉である。口縁部の出土点数は壺52、甕59、高杯15、鉢３である。ガラス小玉は80点出土しており、その分布状況（Fig. 106）に示すように床面より不規則に出土している。ただし３点古い住居より出土している。

ST 11は後期Ⅱ期に属する。







SK4
Ⅰ層：にぶい黄褐色（10YR4/3）に若干の褐色（10YR4/4）と黒褐色（10YR2/3）を含む粘土質シルト
Ⅱ層：褐色（10YR4/4）とにぶい黄褐色（10YR4/3）と黒褐色（10YR2/3）が混ざる粘土質シルト

炭化物　0　2 m

Ⅰ層：暗褐色（10YR3/4）粘土質シルト
Ⅱ層：暗褐色（10YR3/4）粘土質シルト（暗め）
Ⅲ層：黄褐色（10YR5/6）と暗褐色（10YR3/3）と褐色（10YR4/6）がブロック状に混ざる粘土質シルト
Ⅲ′層：褐色（10YR4/4）に暗褐色（10YR3/4）がブロック状に混ざる粘土質シルト
Ⅳ層：Ⅲ層に黄褐色（10YR5/6）を多く含む粘土質シルト
Ⅳ′層：暗褐色（10YR3/3）と褐色（10YR4/4）がブロック状に混ざる粘土質シルト
Ⅴ層：褐色（10YR4/4）粘土質シルトに炭化物が混ざる
Ⅵ層：褐色（10YR4/4）粘土質シルト
Ⅶ層：Ⅵ層に多量の炭化物が混ざり若干の焼土を含む
Ⅷ層：炭化物に褐色（10YR4/4）粘土質シルトがブロック状に混ざる
Ⅸ層：暗褐色（10YR3/3）粘土質シルトに炭化物と焼土を含む
Ⅹ層：暗褐色（10YR3/4）粘土質シルトに若干の炭化物を含む
Ⅺ層：暗褐色（10YR3/4）粘土質シルトに焼土を含む
Ⅻ層：暗褐色（10YR3/3）粘土質シルトと炭化物が混ざる
XIII層：暗褐色（10YR3/4）粘土質シルトに若干の炭化物と焼土を含む

Fig. 105　ST 11平面図及びセクション図

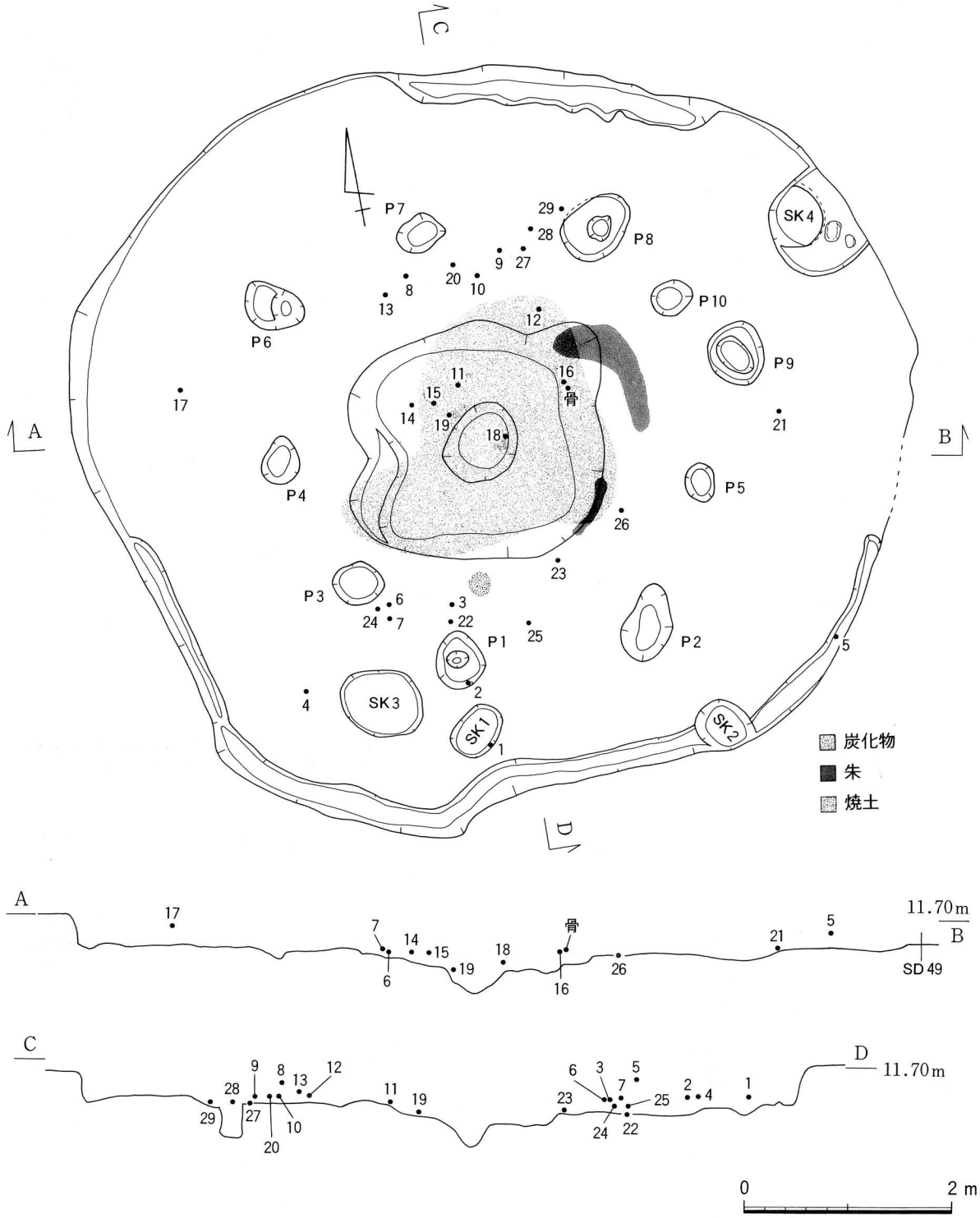


Fig. 106　ST 11平面・エレベーション図及びガラス小玉・朱・炭・焼土出土状況図